

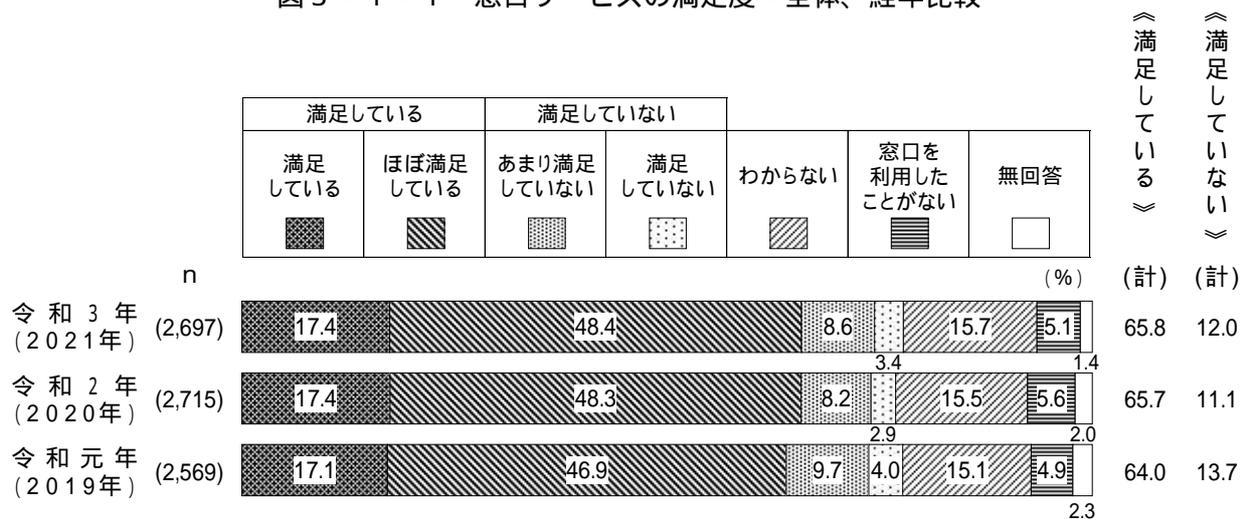
### 3. 「八王子ビジョン2022」の施策指標に関する調査

#### (1) 窓口サービスの満足度

満足している が6割台半ば

問17 あなたは、市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足していますか。（ は1つだけ）

図3 - 1 - 1 窓口サービスの満足度 - 全体、経年比較

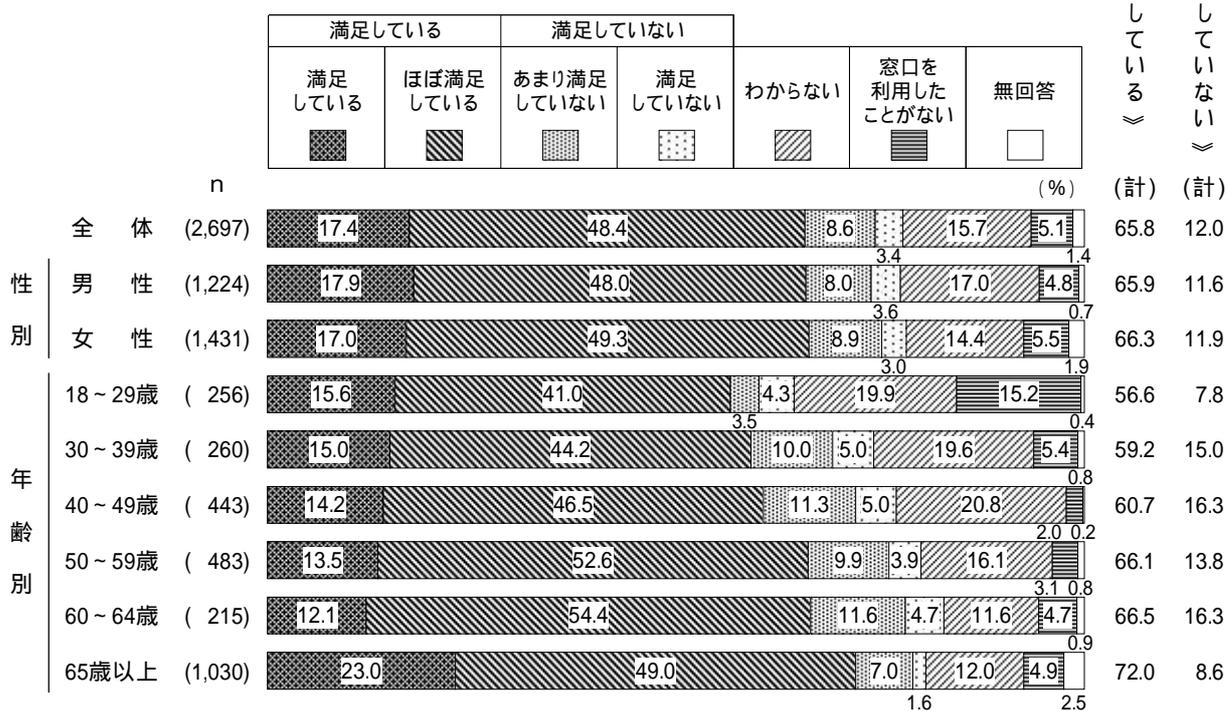


市の窓口サービス（職員の対応や提供内容、処理時間など）に満足しているか聞いたところ、「満足している」（17.4%）と「ほぼ満足している」（48.4%）を合わせた 満足している（65.8%）は6割台半ばとなっている。一方、「あまり満足していない」（8.6%）と「満足していない」（3.4%）を合わせた 満足していない（12.0%）は1割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年（2020年）と大きな傾向の違いはみられない。

（図3 - 1 - 1）

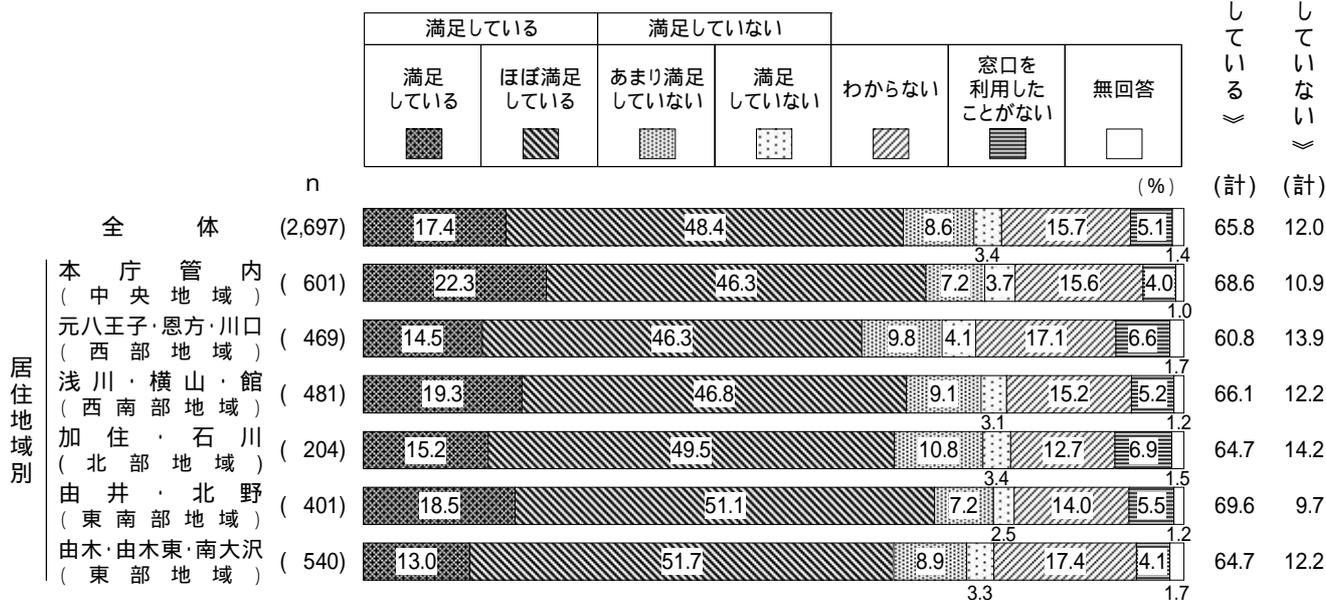
図3 - 1 - 2 窓口サービスの満足度 - 性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、満足しているは年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上(72.0%)で7割強と多くなっている。(図3 - 1 - 2)

図3 - 1 - 3 窓口サービスの満足度 - 居住地域別



居住地域別にみると、満足しているは由井・北野(東南部地域)(69.6%)で7割弱と多くなっている。(図3 - 1 - 3)

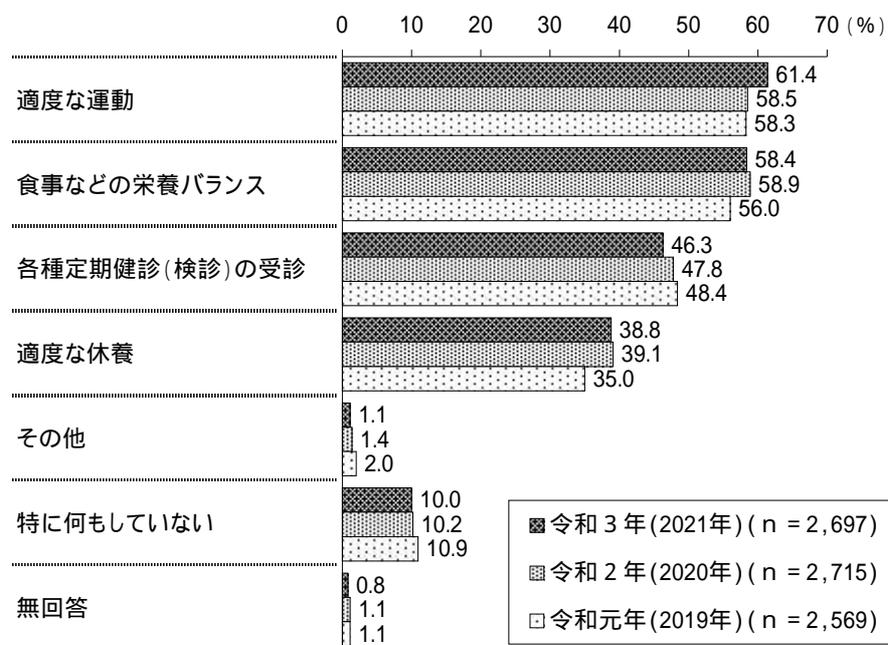
## (2) 健康のために心がけていること

「適度な運動」が6割強

問18 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけていることはどれですか。

(はいいくつでも)

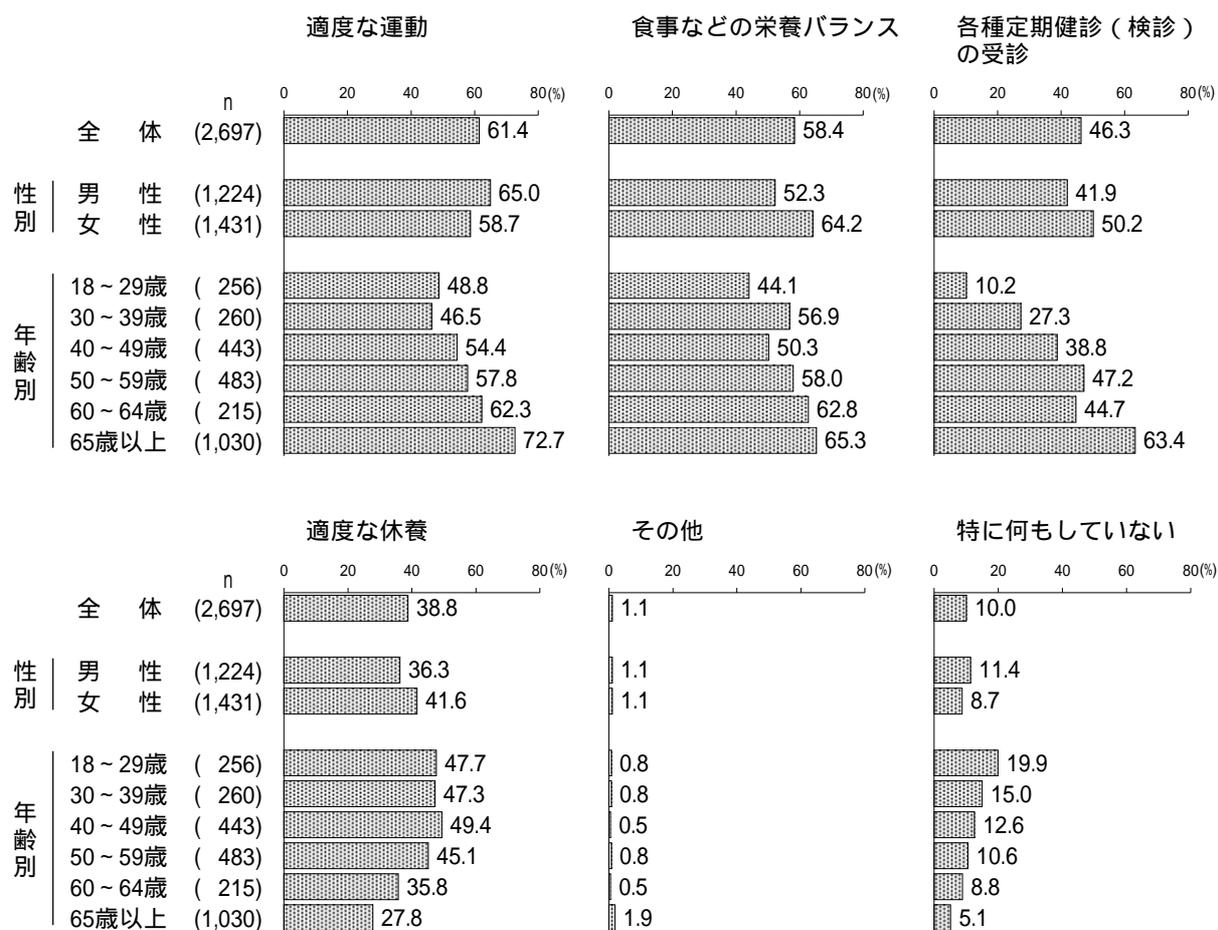
図3-2-1 健康のために心がけていること - 全体、経年比較



健康の維持・増進のために、自ら心がけていることを聞いたところ、「適度な運動」(61.4%)が6割強で最も多くなっている。次いで「食事などの栄養バランス」(58.4%)、「各種定期健診(検診)の受診」(46.3%)、「適度な休養」(38.8%)の順となっている。一方、「特に何もしていない」(10.0%)は1割となっている。

前回までの調査と比較すると、「適度な運動」は令和2年(2020年)(58.5%)より2.9ポイント増加している。(図3-2-1)

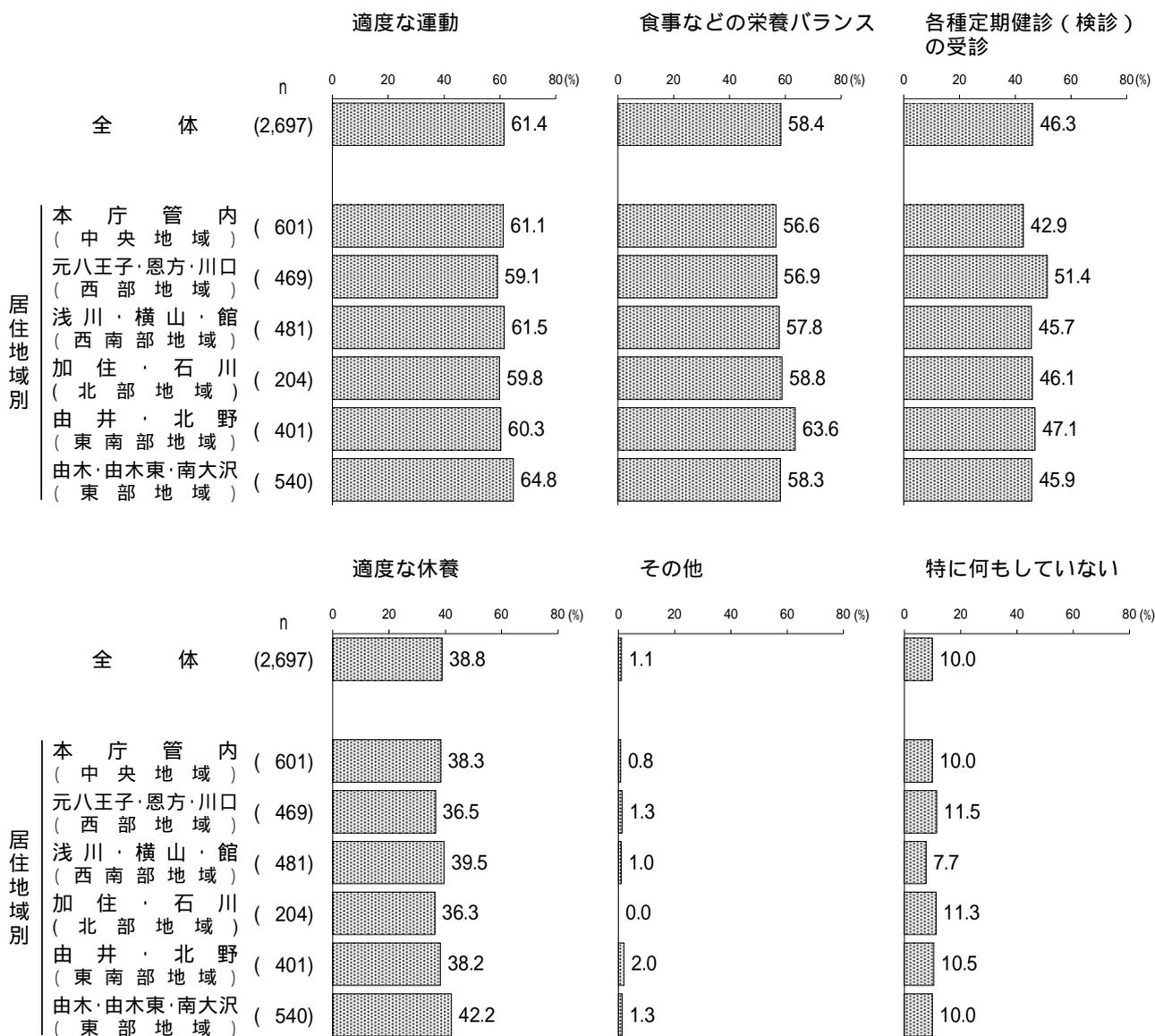
図3 - 2 - 2 健康のために心がけていること - 性別、年齢別



性別にみると、「食事などの栄養バランス」は女性（64.2%）が男性（52.3%）より11.9ポイント、「各種定期健診（検診）の受診」は女性（50.2%）が男性（41.9%）より8.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「適度な運動」は男性（65.0%）が女性（58.7%）より6.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「適度な運動」は65歳以上（72.7%）で7割強と多くなっている。「食事などの栄養バランス」は65歳以上（65.3%）で6割台半ばと多くなっている。「各種定期健診（検診）の受診」は65歳以上（63.4%）で6割強と多くなっている。（図3 - 2 - 2）

図3 - 2 - 3 健康のために心がけていること - 居住地域別



居住地域別にみると、「適度な運動」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（64.8%）で6割台半ばと多くなっている。「食事などの栄養バランス」は由井・北野（東南部地域）（63.6%）で6割強と多くなっている。「各種定期健診（検診）の受診」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（51.4%）で5割強と多くなっている。（図3 - 2 - 3）

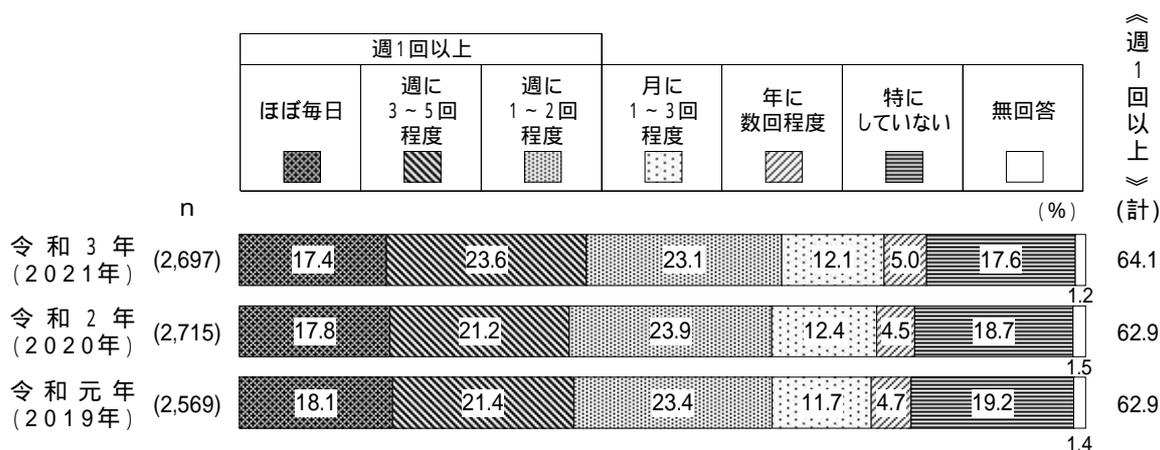
### (3) この1年間の運動頻度

週1回以上 が6割台半ば

問19 あなたは、この1年間に、どのくらいの頻度で運動をしましたか。複数の運動を行っている場合は、その合計回数をお答えください。( は1つだけ)

運動には、野外活動(登山やハイキングなど)や健康の維持・増進のために通勤時の自転車・徒歩、散歩(散策、ペットの散歩を含む)などで1日合計30分以上行うものも含めます。

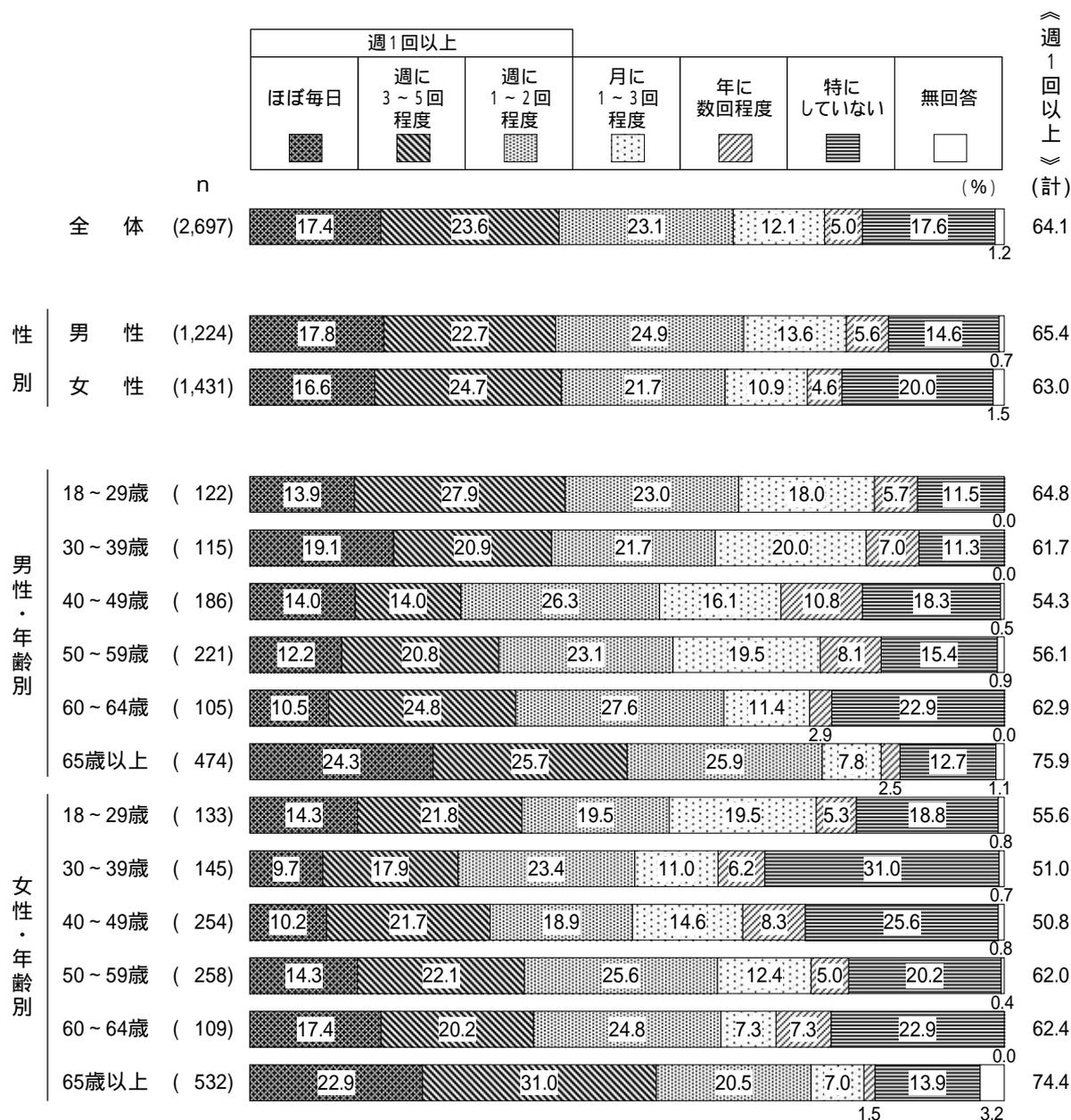
図3-3-1 この1年間の運動頻度 - 全体、経年比較



この1年間にどれくらいの頻度で運動をしたか聞いたところ、「ほぼ毎日」(17.4%)、「週に3~5回程度」(23.6%)、「週に1~2回程度」(23.1%)の3つを合わせた週1回以上(64.1%)は6割台半ばとなっている。また、「月に1~3回程度」(12.1%)は1割強、「年に数回程度」(5.0%)は1割未満となっている。一方、「特にしていない」(17.6%)は2割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「週に3~5回程度」は令和2年(2020年)(21.2%)より2.4ポイント増加している。(図3-3-1)

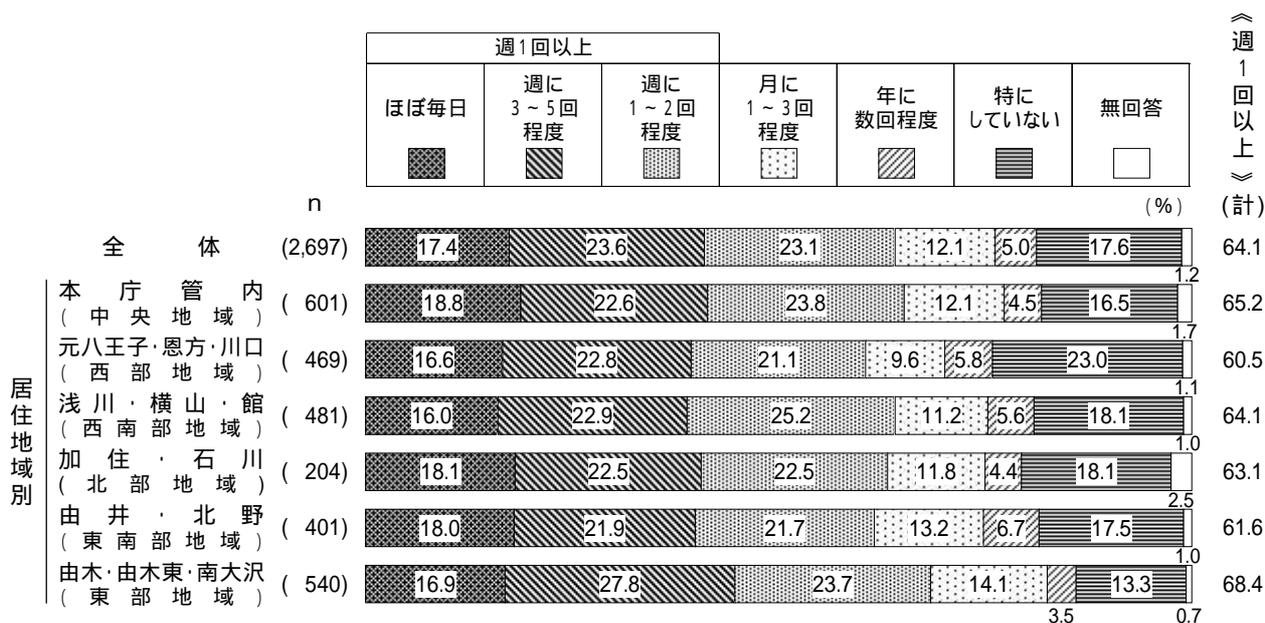
図3 - 3 - 2 この1年間の運動頻度 - 性別、性・年齢別



性別にみると、週1回以上は男性（65.4%）が女性（63.0%）より2.4ポイント高くなっている。

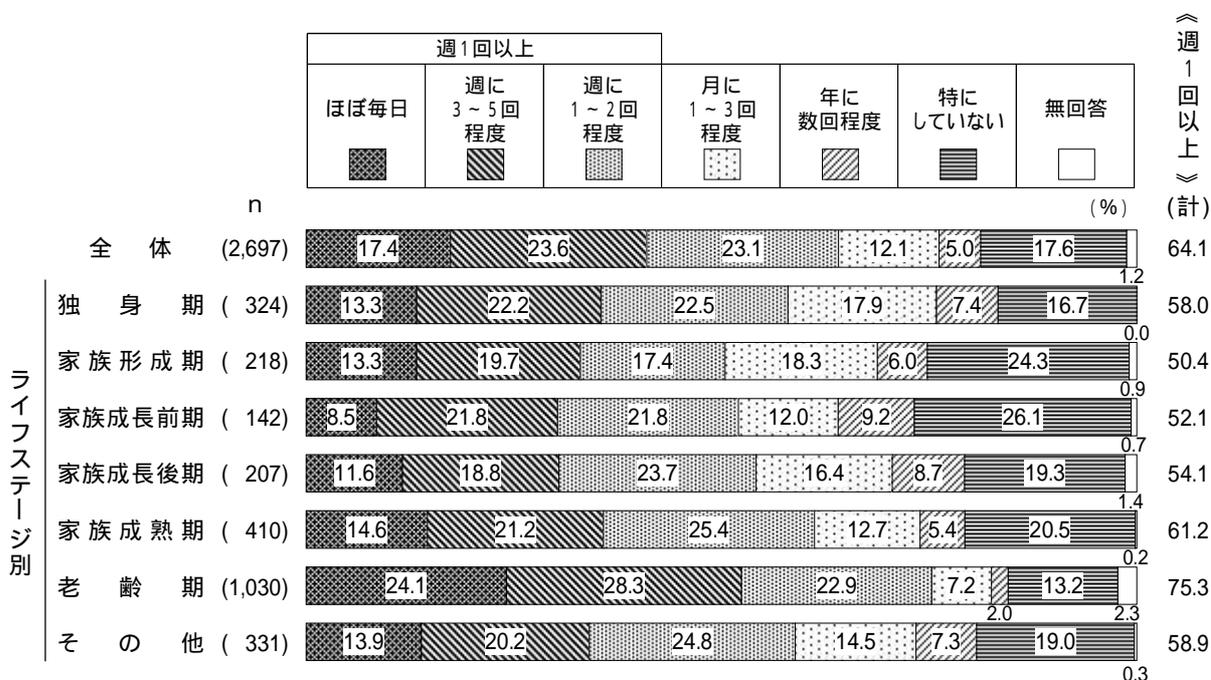
性・年齢別にみると、週1回以上は男性65歳以上（75.9%）と女性65歳以上（74.4%）で7割台半ばと多くなっている。一方、「特にしていない」は女性30~39歳（31.0%）で3割強と多くなっている。（図3 - 3 - 2）

図3-3-3 この1年間の運動頻度 - 居住地域別



居住地域別にみると、週1回以上は由木・由木東・南大沢(東部地域)(68.4%)で7割近くと多くなっている。一方、「特にしていない」は元八王子・恩方・川口(西部地域)(23.0%)で2割強と多くなっている。(図3-3-3)

図3-3-4 この1年間の運動頻度 - ライフステージ別



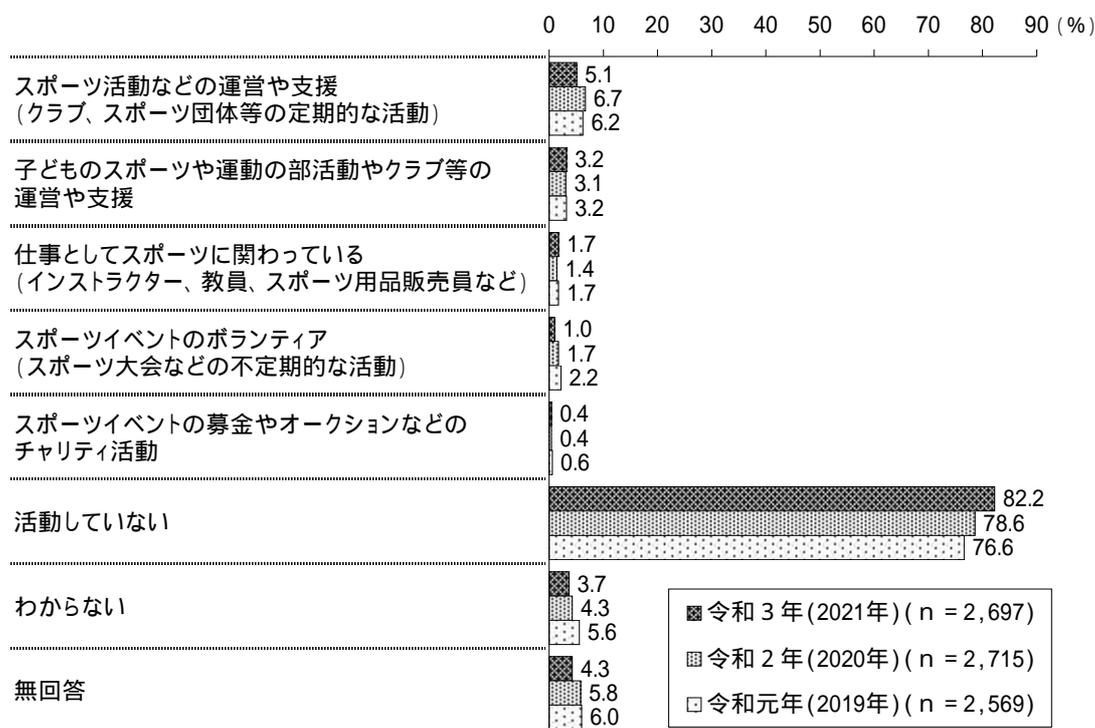
ライフステージ別にみると、週1回以上は老齢期(75.3%)で7割台半ば、家族成熟期(61.2%)で6割強と多くなっている。一方、「特にしていない」は家族成長前期(26.1%)で3割近くと多くなっている。(図3-3-4)

## (4) この1年間に関わったスポーツを支える活動

「活動していない」が8割強

問20 この中に、あなたがこの1年間に関わったスポーツを支える活動がありますか。  
あてはまるものに をつけてください。( はいいくつでも )

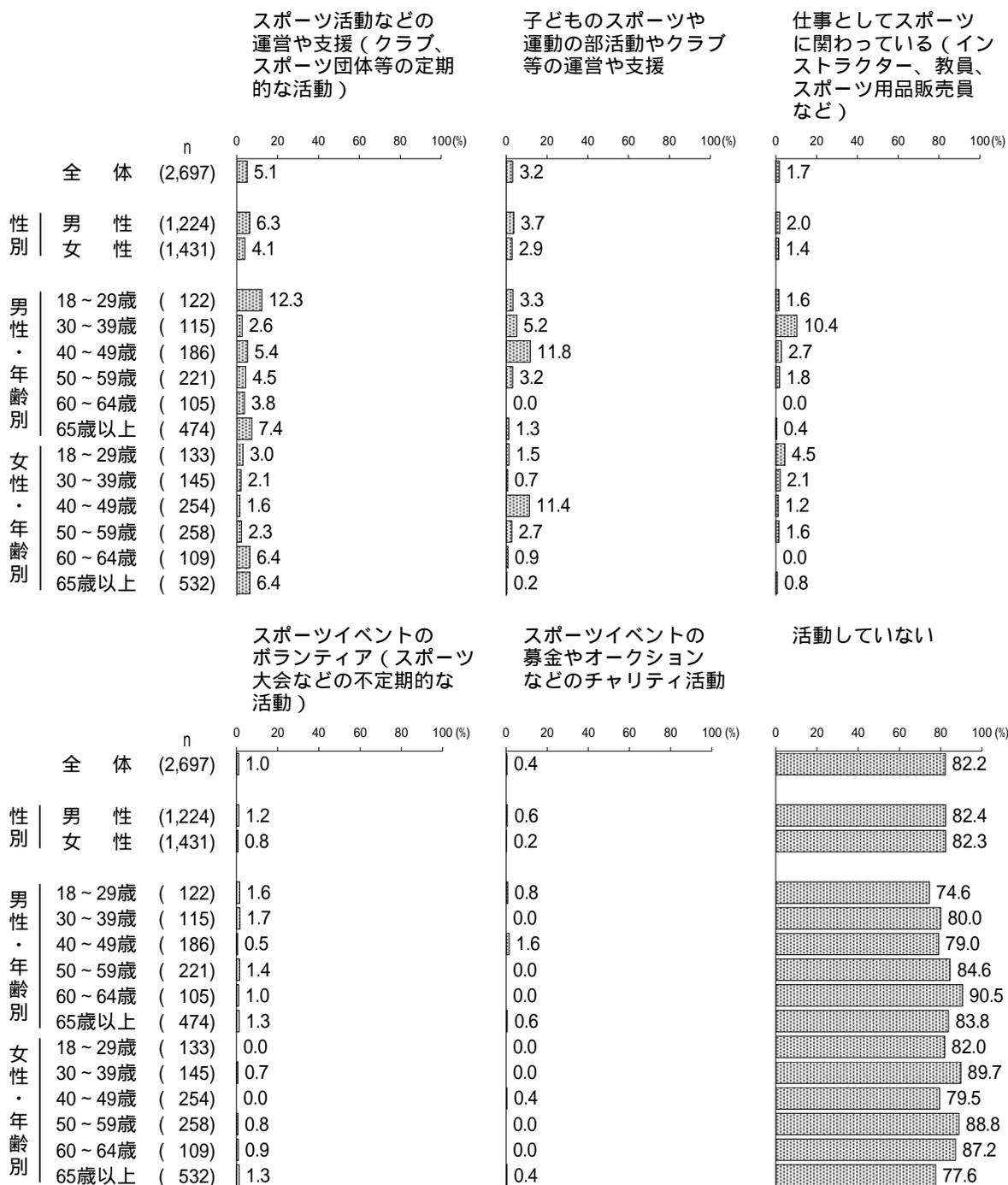
図3 - 4 - 1 この1年間に関わったスポーツを支える活動 - 全体、経年比較



この1年間に関わったスポーツを支える活動を聞いたところ、「活動していない」(82.2%)が8割強となっている。活動した中では、「スポーツ活動などの運営や支援(クラブ、スポーツ団体等の定期的な活動)」(5.1%)、「子どものスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援」(3.2%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「活動していない」は令和2年(2020年)(78.6%)より3.6ポイント増加している。(図3 - 4 - 1)

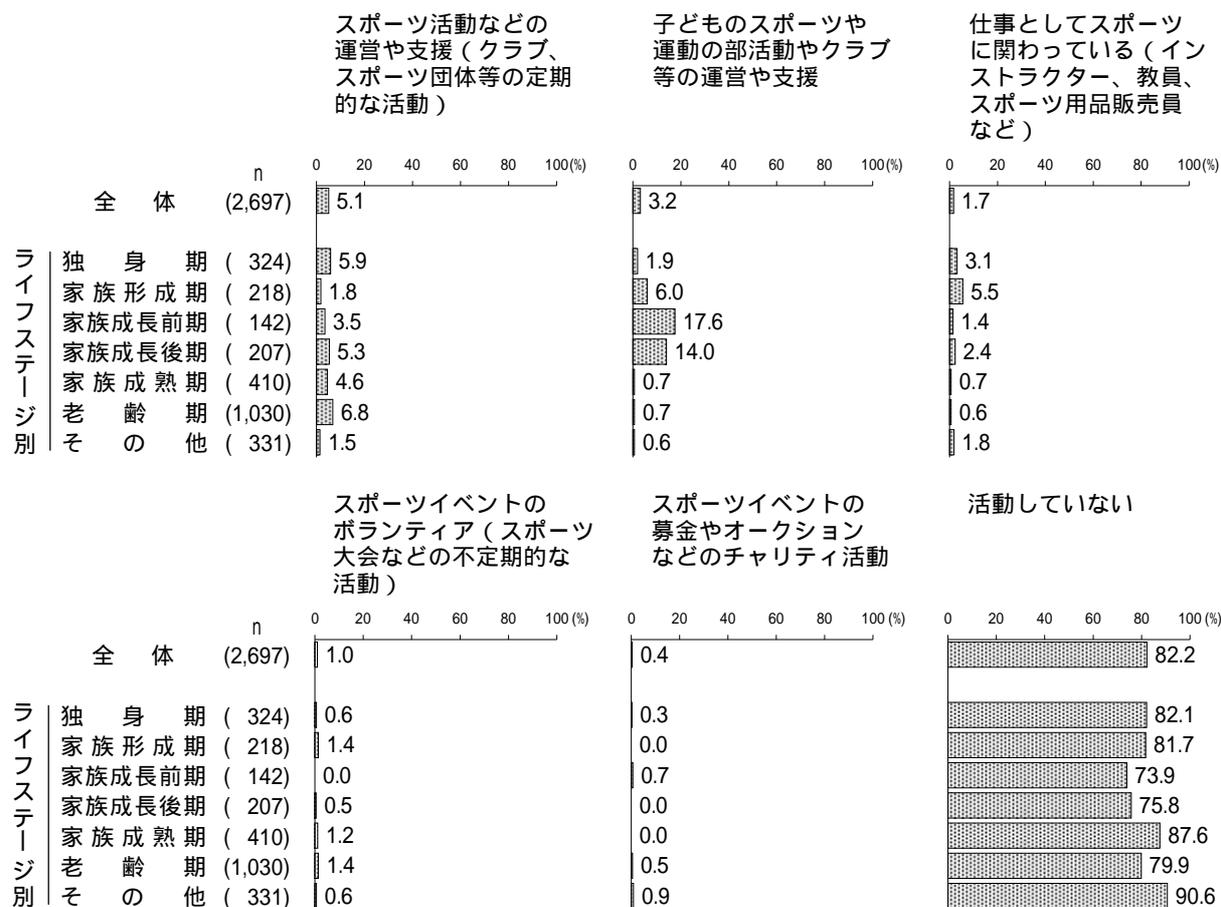
図3 - 4 - 2 この1年間に関わったスポーツを支える活動 - 性別、性・年齢別  
 (「わからない」を除く)



性別にみると、「スポーツ活動などの運営や支援(クラブ、スポーツ団体等の定期的な活動)」は男性(6.3%)が女性(4.1%)より2.2ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「スポーツ活動などの運営や支援(クラブ、スポーツ団体等の定期的な活動)」は男性18~29歳(12.3%)で1割強となっている。一方、「活動していない」は男性60~64歳(90.5%)で約9割と多くなっている。(図3 - 4 - 2)

図3 - 4 - 3 この1年間に関わったスポーツを支える活動 - ライフステージ別  
 (「わからない」を除く)



ライフステージ別にみると、「子どものスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援」は家族成長前期 (17.6%) で2割近く、家族成長後期 (14.0%) で1割台半ばとなっている。一方、「活動していない」はその他 (90.6%) で約9割と多くなっている。(図3 - 4 - 3)

## (5) パラ（障害者）スポーツへの関心

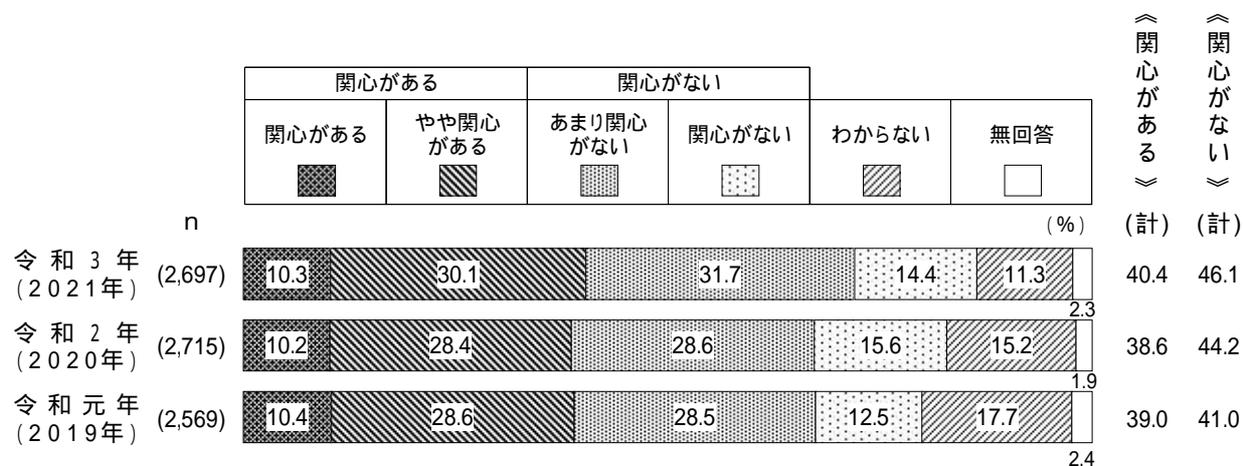
関心がある が約4割

問21 あなたは、パラ（障害者）スポーツに関心がありますか。（ は1つだけ）

「パラ（障害者）スポーツ」とは・・・

障害があってもスポーツ活動ができるよう、障害に応じ競技規則や実施方法を変更したり、用具等を用いて障害を補ったりする工夫・適合・開発がされたスポーツのことです。

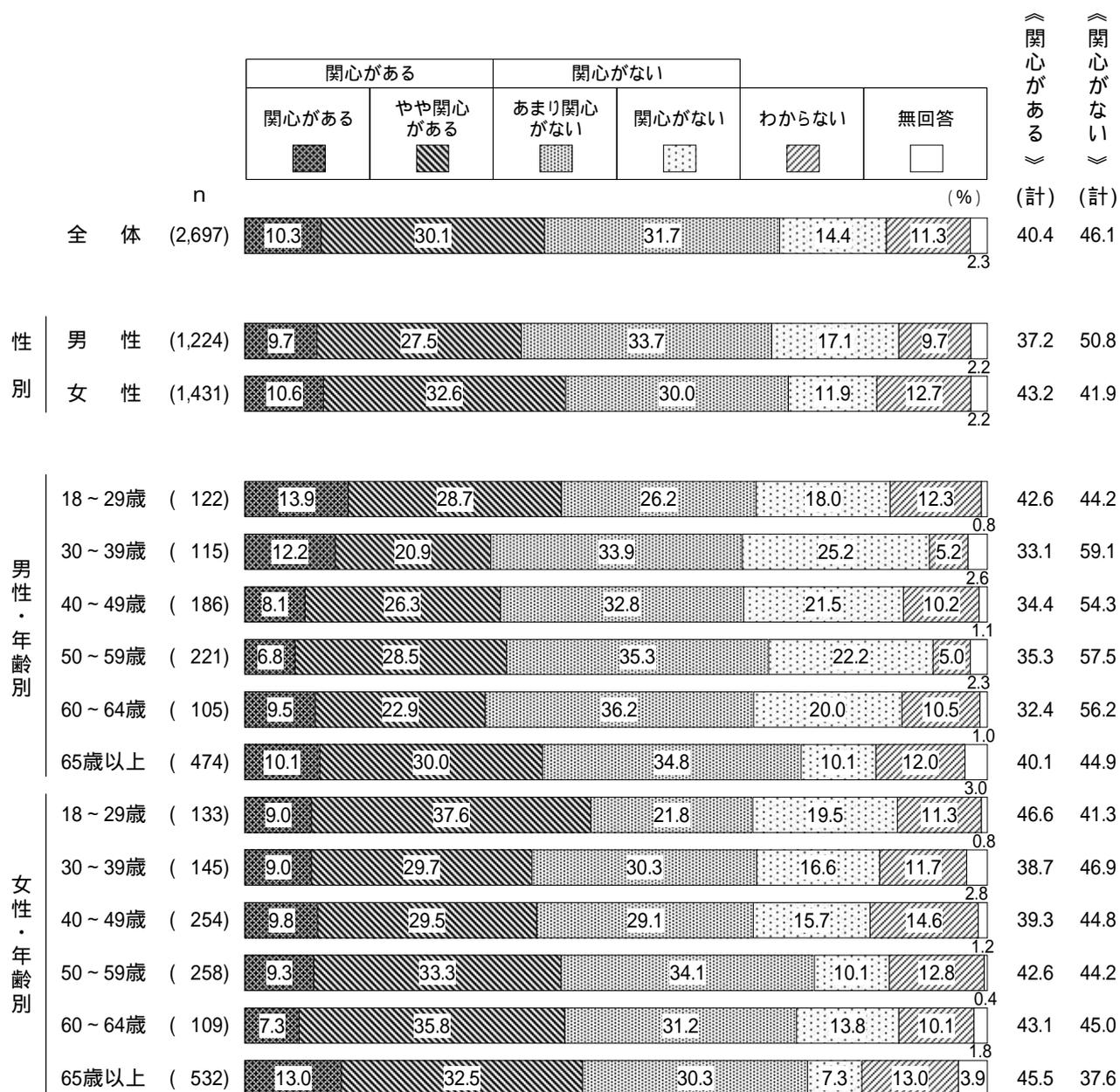
図3-5-1 パラ（障害者）スポーツへの関心 - 全体、経年比較



パラ（障害者）スポーツへの関心を聞いたところ、「関心がある」（10.3%）と「やや関心がある」（30.1%）を合わせた 関心がある （40.4%）は約4割となっている。一方、「あまり関心がない」（31.7%）と「関心がない」（14.4%）を合わせた 関心がない （46.1%）は5割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「あまり関心がない」は令和2年（2020年）（28.6%）より3.1ポイント増加している。（図3-5-1）

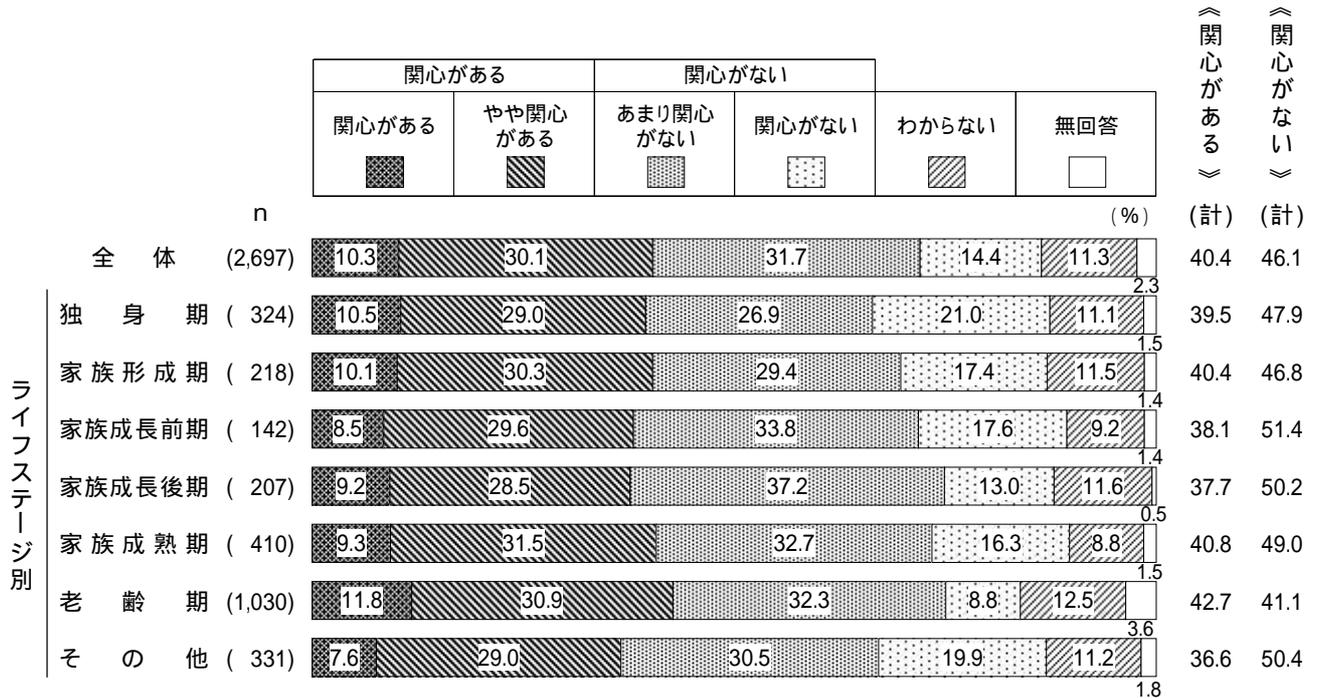
図3 - 5 - 2 パラ（障害者）スポーツへの関心 - 性別、性・年齢別



性別にみると、関心があるは女性（43.2%）が男性（37.2%）より6.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、関心があるは女性18～29歳（46.6%）で5割近くと多くなっている。一方、関心がないは男性30～39歳（59.1%）で6割弱と多くなっている。（図3 - 5 - 2）

図3 - 5 - 3 パラ（障害者）スポーツへの関心 - ライフステージ別



ライフステージ別にみると、関心があるは老齢期（42.7%）で4割強と多くなっている。一方、関心がないは家族成長前期（51.4%）で5割強と多くなっている。（図3 - 5 - 3）

## (6) かかりつけの医療機関の有無

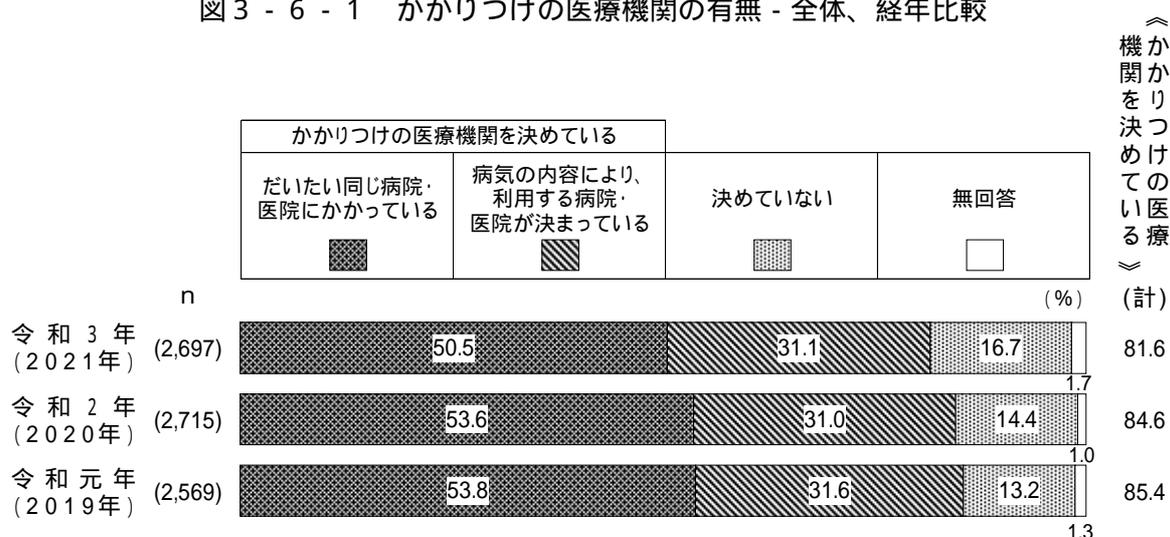
かかりつけの医療機関を決めている が8割強

問22 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。( は1つだけ)

「かかりつけの医療機関」とは・・・

日常的な診療や健康管理等を行ってくれる身近な医療機関のことで、ふだんの健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

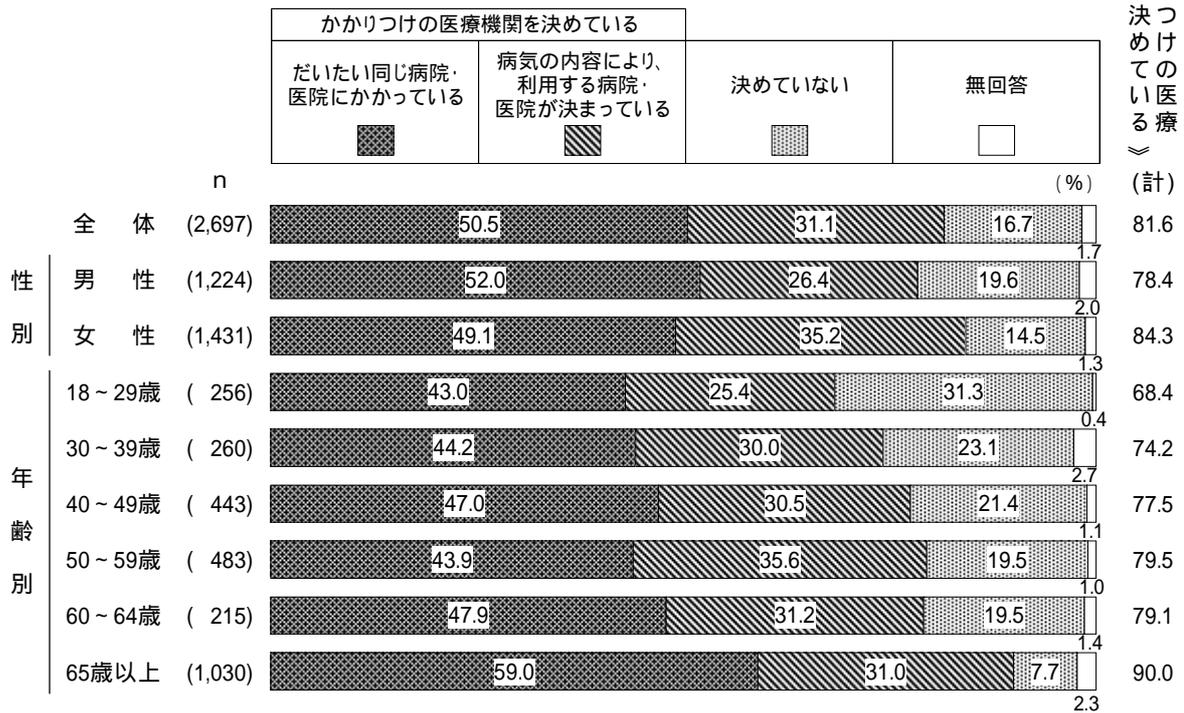
図3-6-1 かかりつけの医療機関の有無 - 全体、経年比較



かかりつけの医療機関を決めているか聞いたところ、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」(50.5%)と「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」(31.1%)を合わせたかかりつけの医療機関を決めている (81.6%)は8割強となっている。一方、「決めていない」(16.7%)は2割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、かかりつけの医療機関を決めている は令和2年(2020年)(84.6%)より3.0ポイント減少している。(図3-6-1)

図3 - 6 - 2 かかりつけの医療機関の有無 - 性別、年齢別

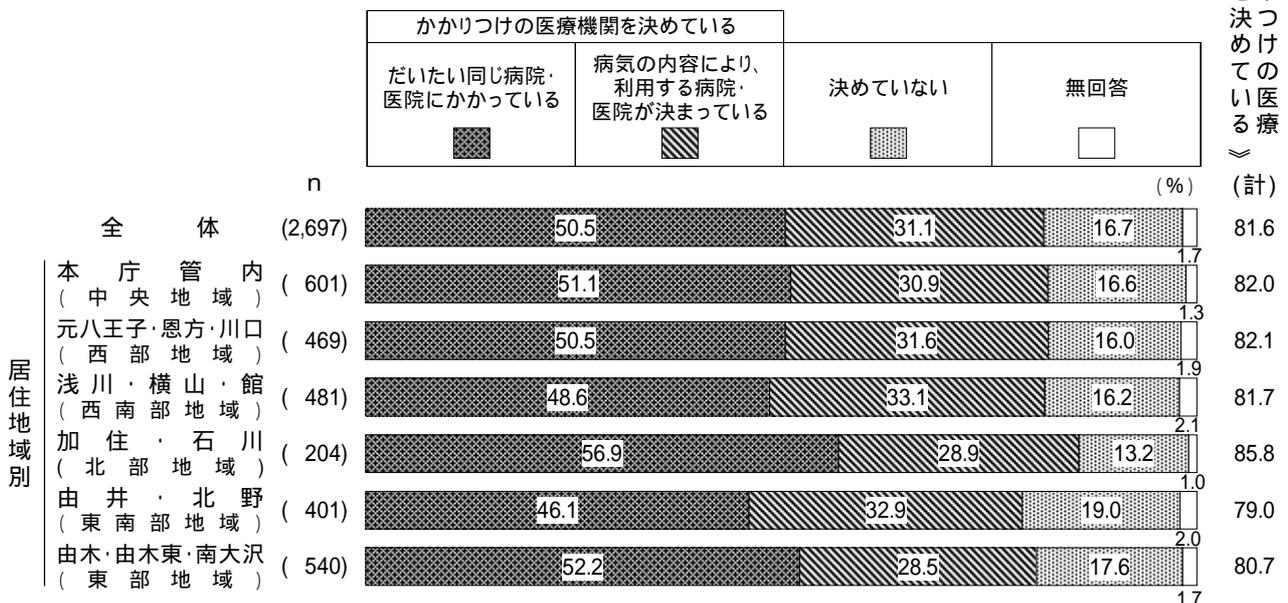


性別にみると、かかりつけの医療機関を決めているは女性（84.3%）が男性（78.4%）より5.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、かかりつけの医療機関を決めているは65歳以上（90.0%）で9割と多くなっている。一方、「決めていない」は18～29歳（31.3%）で3割強と多くなっている。

(図3 - 6 - 2)

図3 - 6 - 3 かかりつけの医療機関の有無 - 居住地域別



居住地域別にみると、かかりつけの医療機関を決めているは加住・石川(北部地域)(85.8%)で8割台半ばと多くなっている。(図3 - 6 - 3)

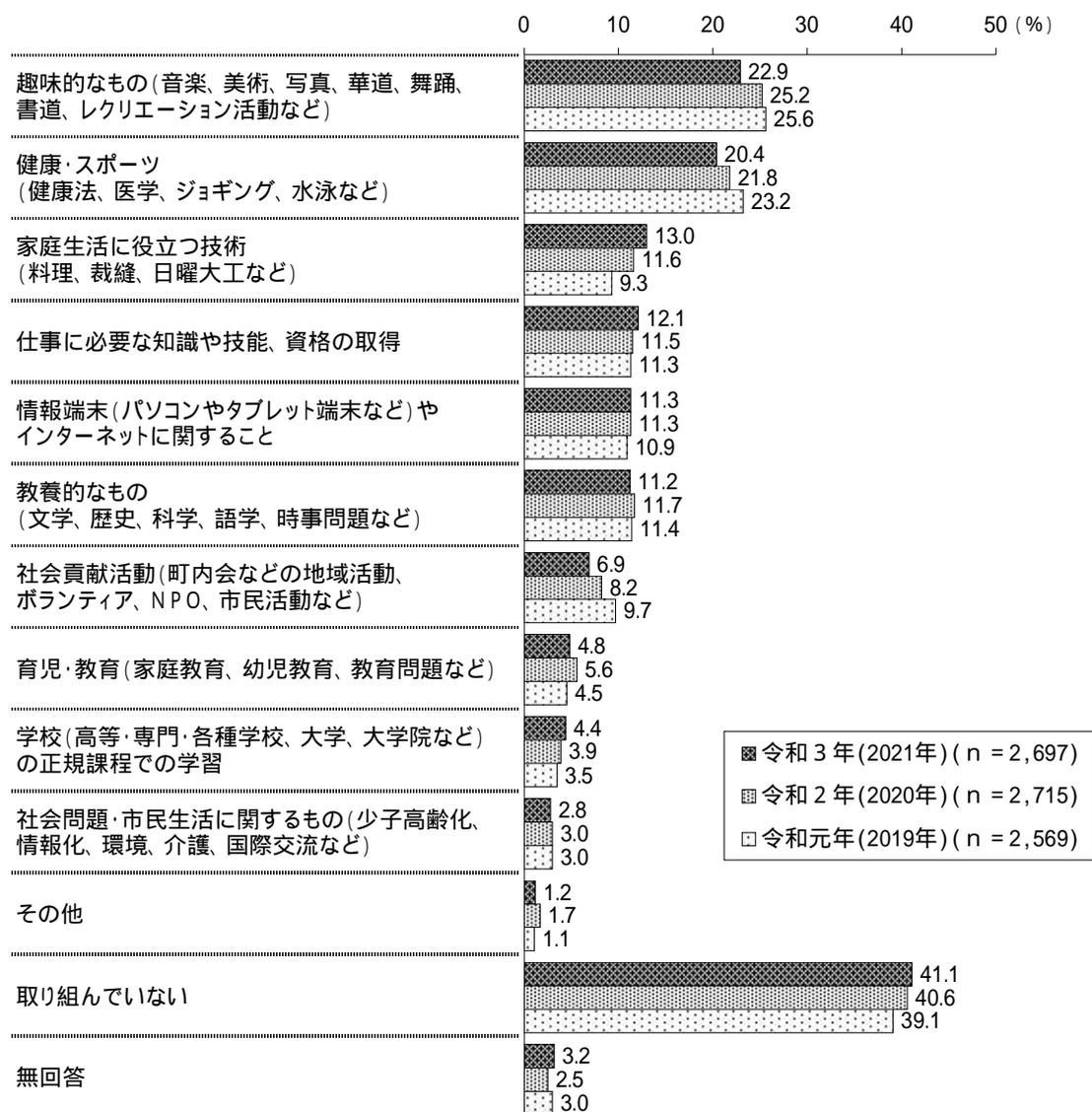
## (7) この1年間に取り組んだ生涯学習活動

「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」が2割強

問23 あなたは、この1年間に、次のうちどのような生涯学習活動に取り組みましたか。

(はいくつでも)

図3-7-1 この1年間に取り組んだ生涯学習活動 - 全体、経年比較

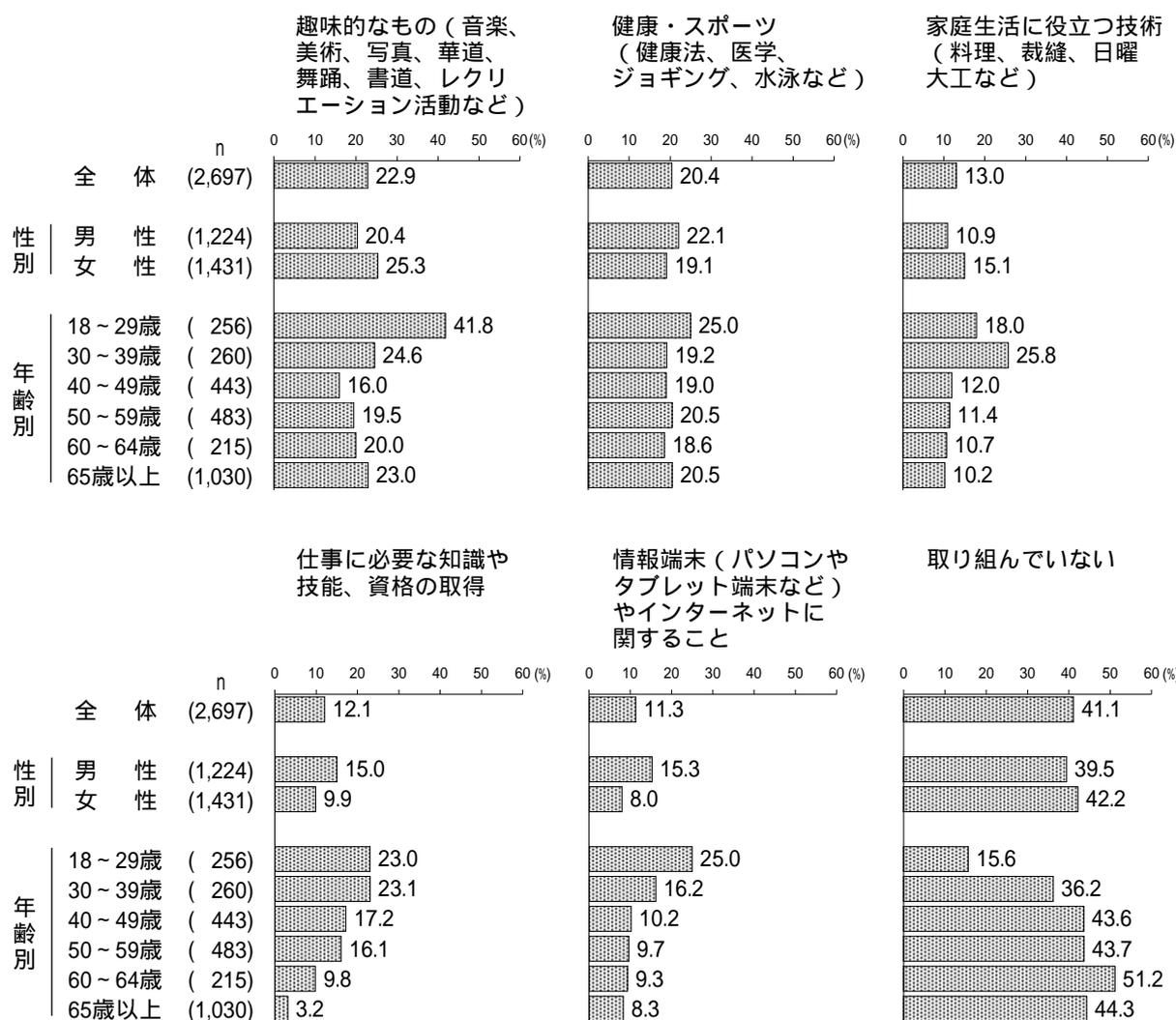


この1年間に取り組んだ生涯学習活動を聞いたところ、「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」(22.9%)が2割強で最も多くなっている。次いで「健康・スポーツ(健康法、医学、ジョギング、水泳など)」(20.4%)、「家庭生活に役立つ技術(料理、裁縫、日曜大工など)」(13.0%)などの順となっている。一方、「取り組んでいない」(41.1%)は4割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」は令和2年(2020年)(25.2%)より2.3ポイント減少している。

(図3-7-1)

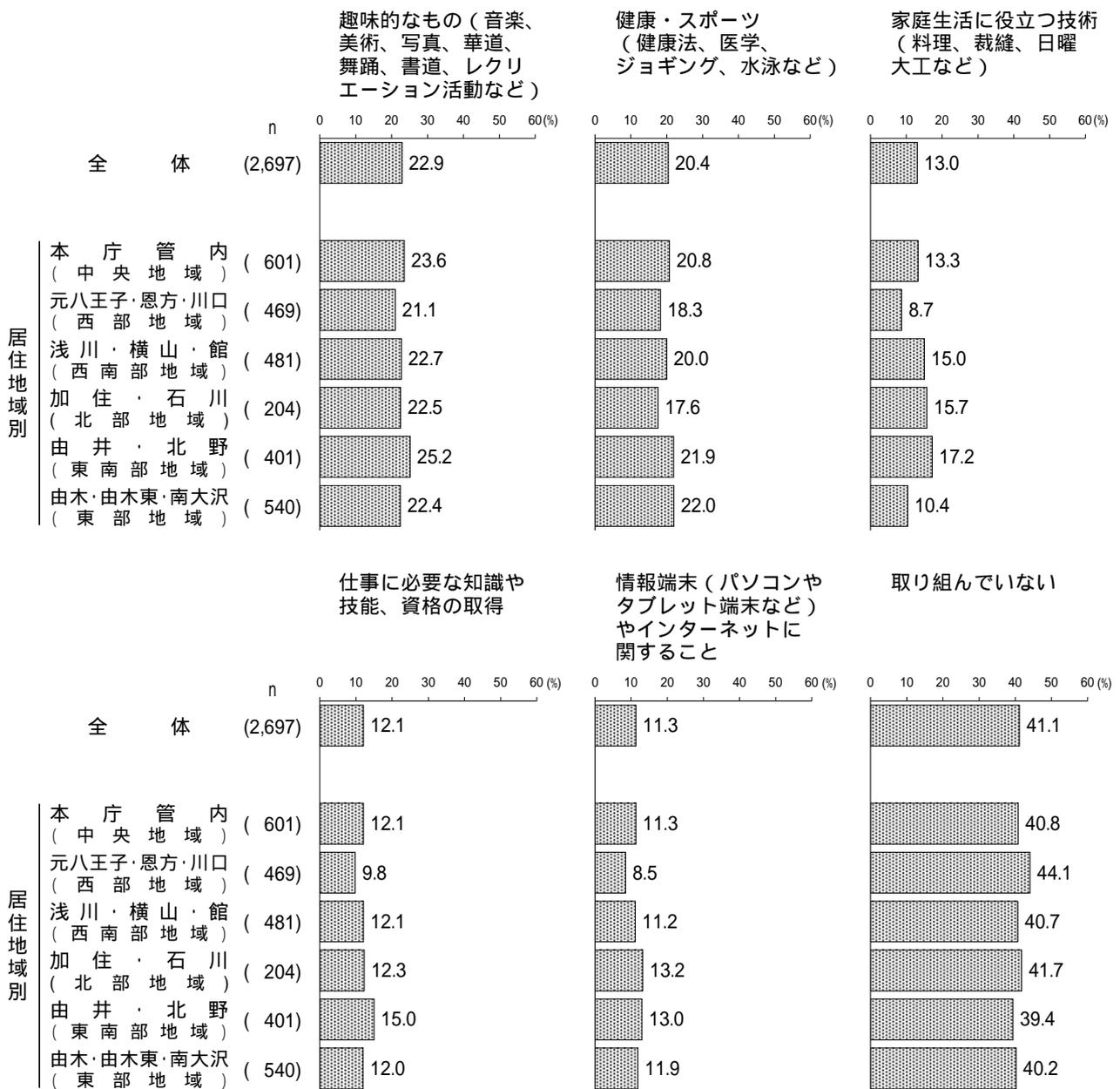
図3 - 7 - 2 この1年間に取り組んだ生涯学習活動 - 性別、年齢別(上位5位+「取り組んでいない」)



性別にみると、「情報端末(パソコンやタブレット端末など)やインターネットに関すること」は男性(15.3%)が女性(8.0%)より7.3ポイント、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」は男性(15.0%)が女性(9.9%)より5.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」は女性(25.3%)が男性(20.4%)より4.9ポイント、「家庭生活に役立つ技術(料理、裁縫、日曜大工など)」は女性(15.1%)が男性(10.9%)より4.2ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」は18~29歳(41.8%)で4割強と多くなっている。「家庭生活に役立つ技術(料理、裁縫、日曜大工など)」は30~39歳(25.8%)で2割台半ばと多くなっている。一方、「取り組んでいない」は60~64歳(51.2%)で5割強と多くなっている。(図3 - 7 - 2)

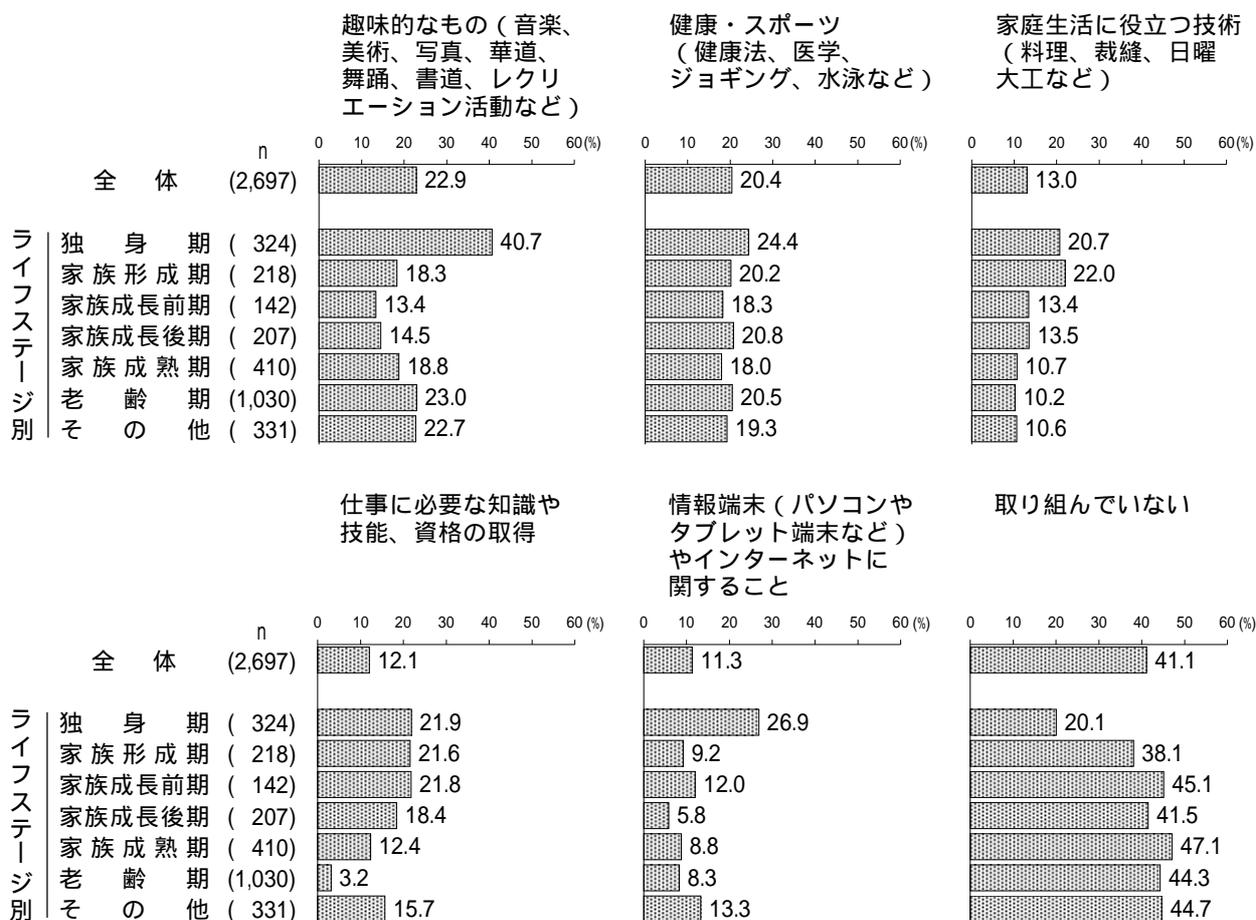
図3 - 7 - 3 この1年間に取り組んだ生涯学習活動 - 居住地域別(上位5位 + 「取り組んでいない」)



居住地域別にみると、「趣味的なもの(音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」は由井・北野(東南部地域)(25.2%)で2割台半ばと多くなっている。一方、「取り組んでいない」は元八王子・恩方・川口(西部地域)(44.1%)で4割台半ばと多くなっている。

(図3 - 7 - 3)

図3 - 7 - 4 この1年間に取り組んだ生涯学習活動 - ライフステージ別  
(上位5位 + 「取り組んでいない」)



ライフステージ別にみると、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」は独身期（40.7%）で約4割と多くなっている。「情報端末（パソコンやタブレット端末など）やインターネットに関すること」は独身期（26.9%）で3割近くと多くなっている。一方、「取り組んでいない」は家族成熟期（47.1%）で5割近くと多くなっている。

(図3 - 7 - 4)

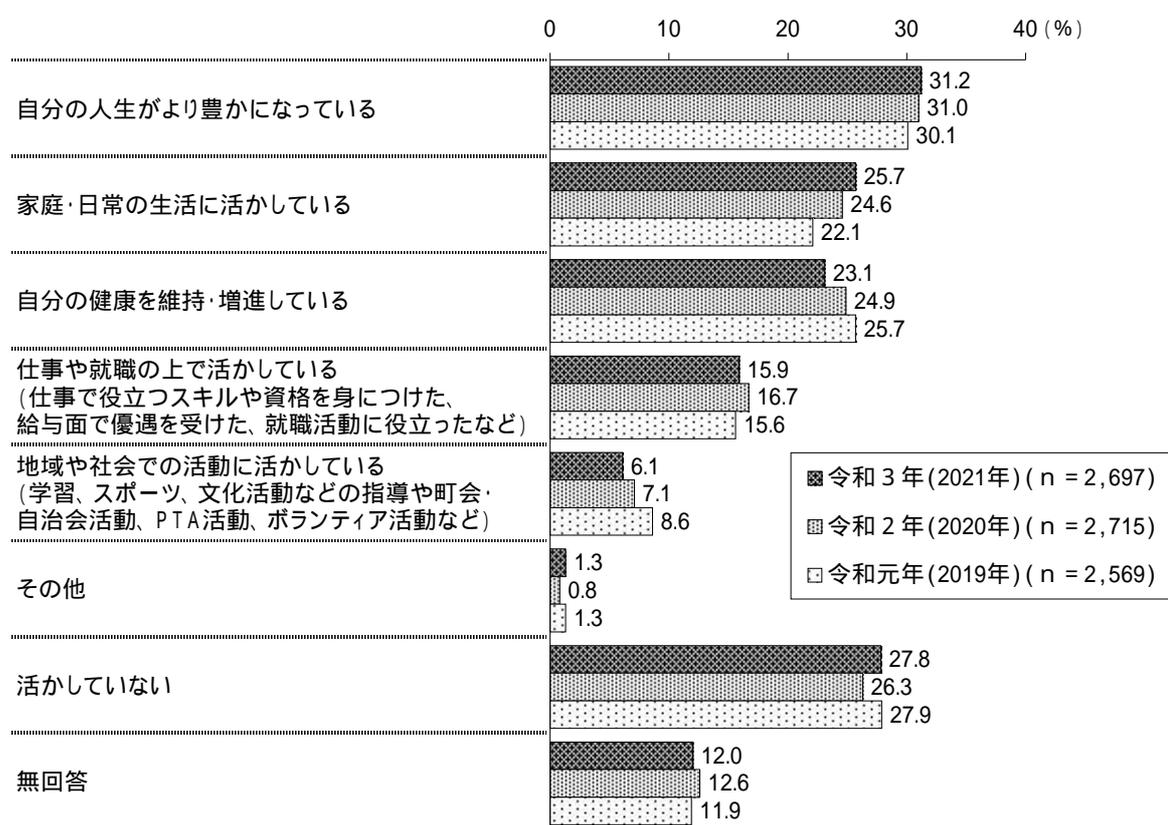
## ( 8 ) 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法

「自分の人生がより豊かになっている」が3割強

問24 あなたは、生涯学習で得た知識や技能、経験をどのように活かしていますか。

( はいくつでも )

図3 - 8 - 1 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法 - 全体、経年比較

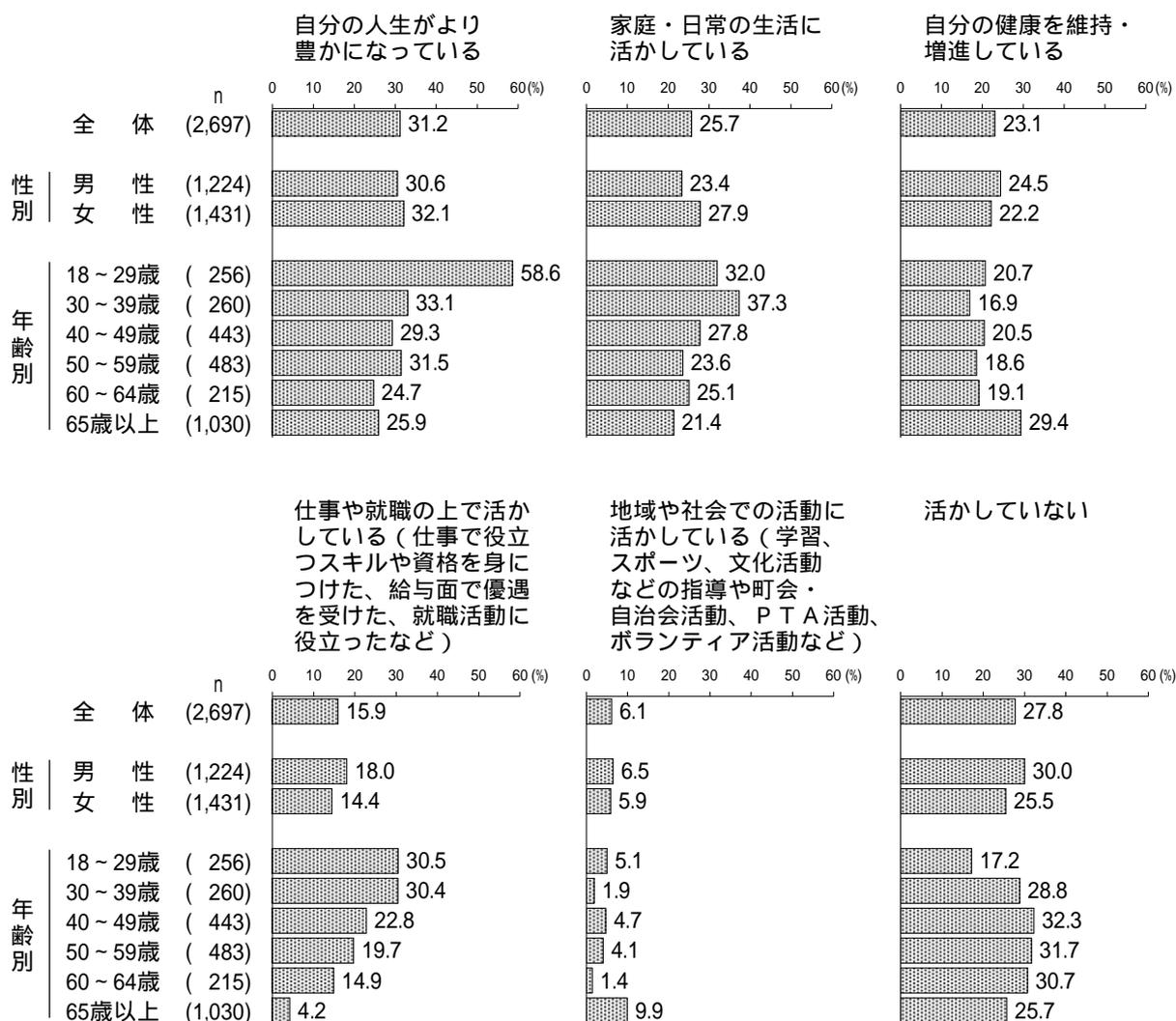


生涯学習で得た知識や技能、経験をどのように活かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」(31.2%)が3割強で最も多くなっている。次いで「家庭・日常の生活に活かしている」(25.7%)、「自分の健康を維持・増進している」(23.1%)、「仕事や就職の上で活かしている(仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど)」(15.9%)などの順となっている。一方、「活かしていない」(27.8%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

( 図3 - 8 - 1 )

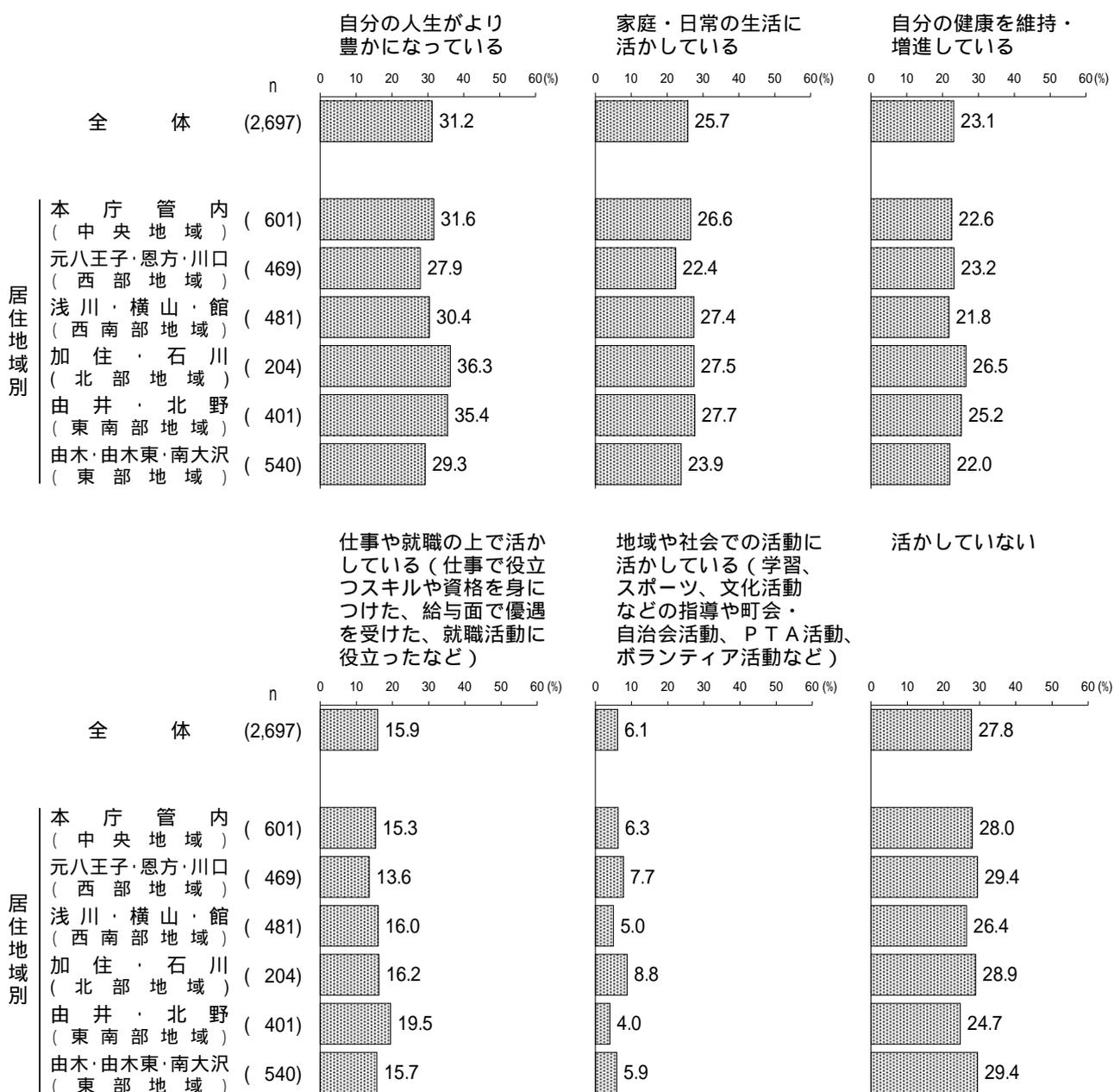
図3 - 8 - 2 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法 - 性別、年齢別  
(上位5位 + 「活かしていない」)



性別にみると、「活かしていない」は男性（30.0%）が女性（25.5%）より4.5ポイント高くなっている。一方、「家庭・日常の生活に活かしている」は女性（27.9%）が男性（23.4%）より4.5ポイント高くなっている。

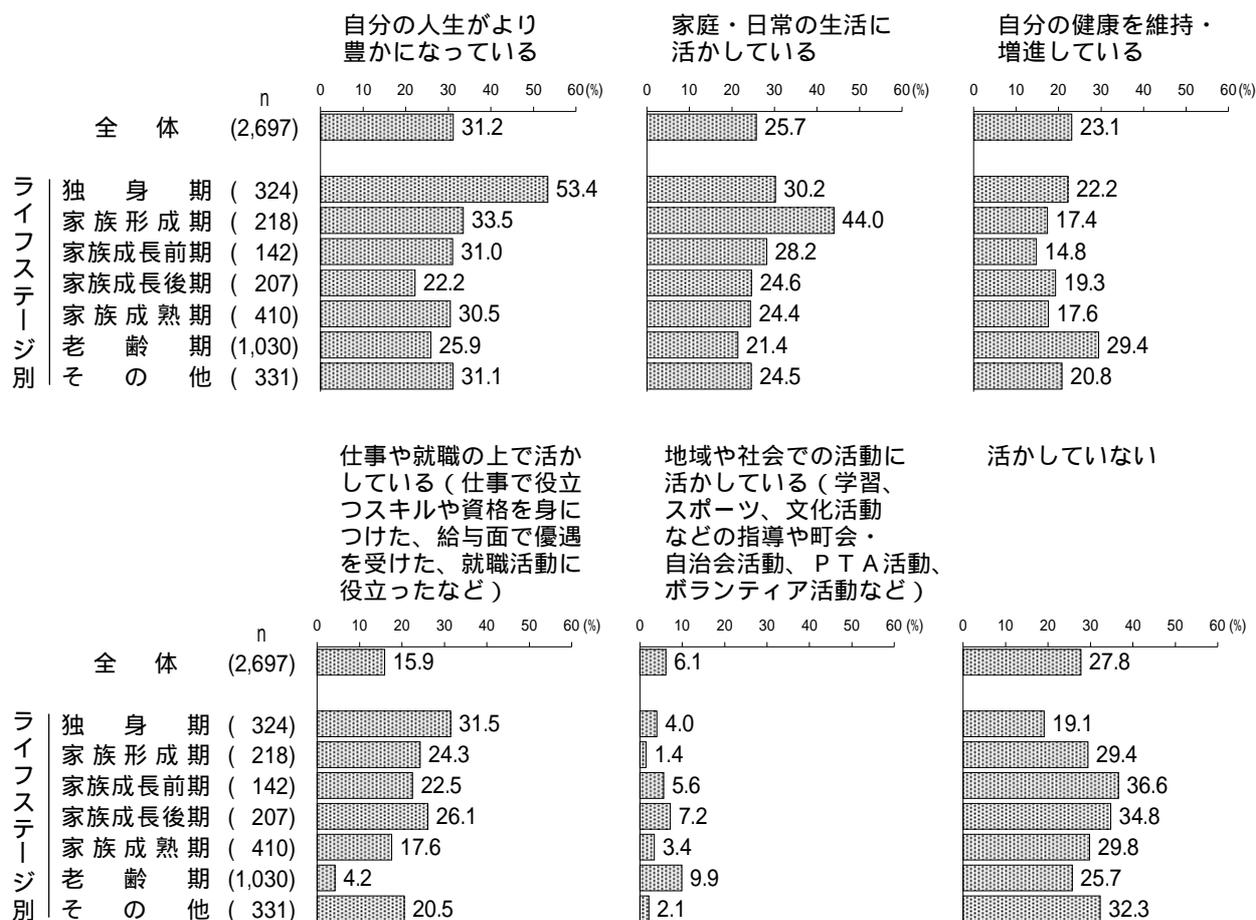
年齢別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は18~29歳（58.6%）で6割近くと多くなっている。「家庭・日常の生活に活かしている」は30~39歳（37.3%）で4割近くと多くなっている。「仕事や就職の上で活かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど）」は年代が低くなるほど割合が高く、18~29歳（30.5%）と30~39歳（30.4%）で約3割と多くなっている。（図3 - 8 - 2）

図3 - 8 - 3 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法 - 居住地域別  
(上位5位+「活かしていない」)



居住地域別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は加住・石川(北部地域)(36.3%)で4割近くと多くなっている。「自分の健康を維持・増進している」は加住・石川(北部地域)(26.5%)で3割近くと多くなっている。(図3 - 8 - 3)

図3 - 8 - 4 生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法 - ライフステージ別  
(上位5位+「活かしていない」)



ライフステージ別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は独身期（53.4%）で5割強と多くなっている。「家庭・日常の生活に活かしている」は家族形成期（44.0%）で4割台半ばと多くなっている。一方、「活かしていない」は家族成長前期（36.6%）で4割近くと多くなっている。（図3 - 8 - 4）

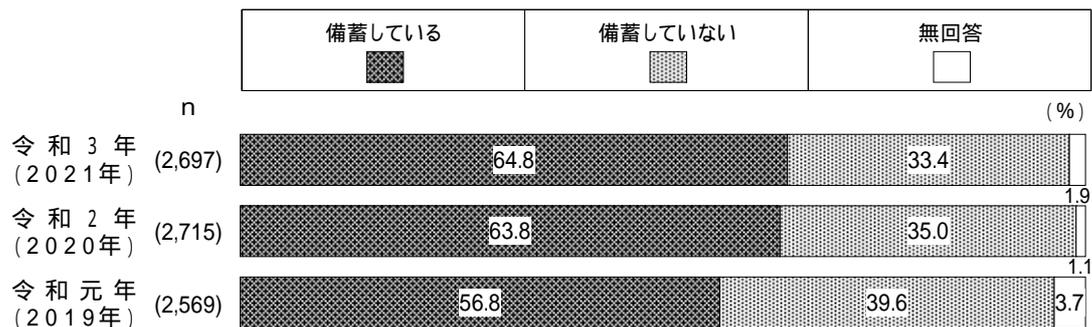
## (9) 食料の備蓄の有無

「備蓄している」が6割台半ば

問25 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して、食料、飲料水を備蓄していますか。

【1. 食料について】( は1つだけ)

図3 - 9 - 1 食料の備蓄の有無 - 全体、経年比較

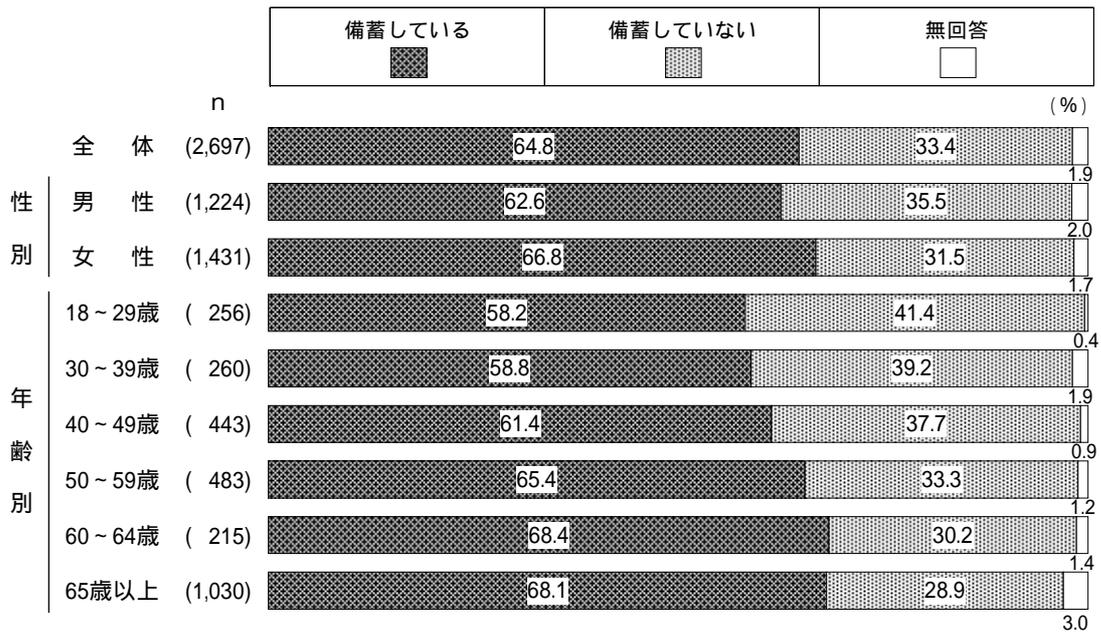


災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(64.8%)が6割台半ばとなっている。一方、「備蓄していない」(33.4%)は3割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 9 - 1)

図3 - 9 - 2 食料の備蓄の有無 - 性別、年齢別

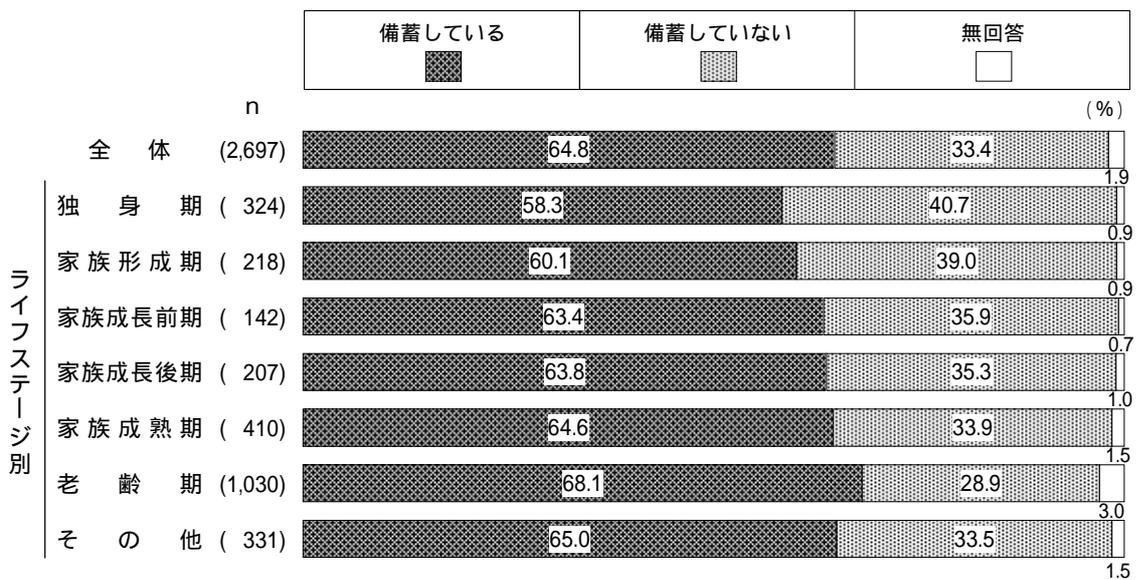


性別にみると、「備蓄している」は女性（66.8%）が男性（62.6%）より4.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は60～64歳（68.4%）と65歳以上（68.1%）で7割近くと多くなっている。一方、「備蓄していない」は18～29歳（41.4%）で4割強と多くなっている。

（図3 - 9 - 2）

図3 - 9 - 3 食料の備蓄の有無 - ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は老齢期（68.1%）で7割近くと多くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期（40.7%）で約4割と多くなっている。（図3 - 9 - 3）

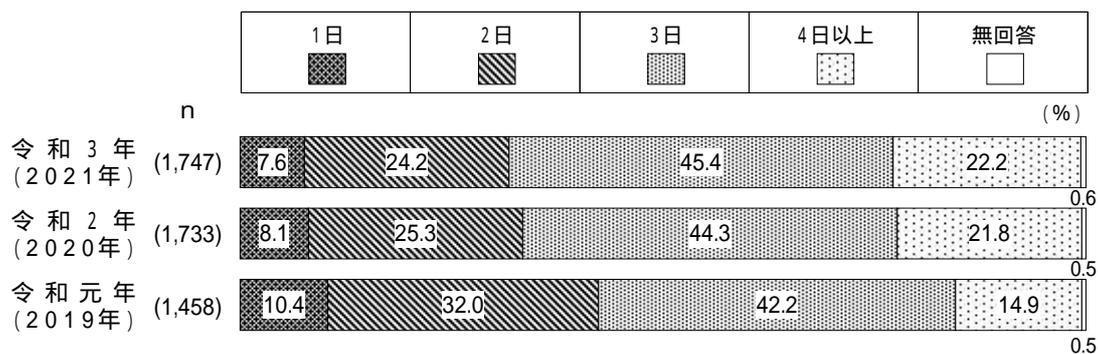
## (10) 食料の備蓄量

「3日」が4割台半ば

(食料を「備蓄している」とお答えの方へ)

問25 - 1 - 1 家族が何日間過ごせる分の食料を備蓄していますか。( は1つだけ)

図3 - 10 - 1 食料の備蓄量 - 全体、経年比較

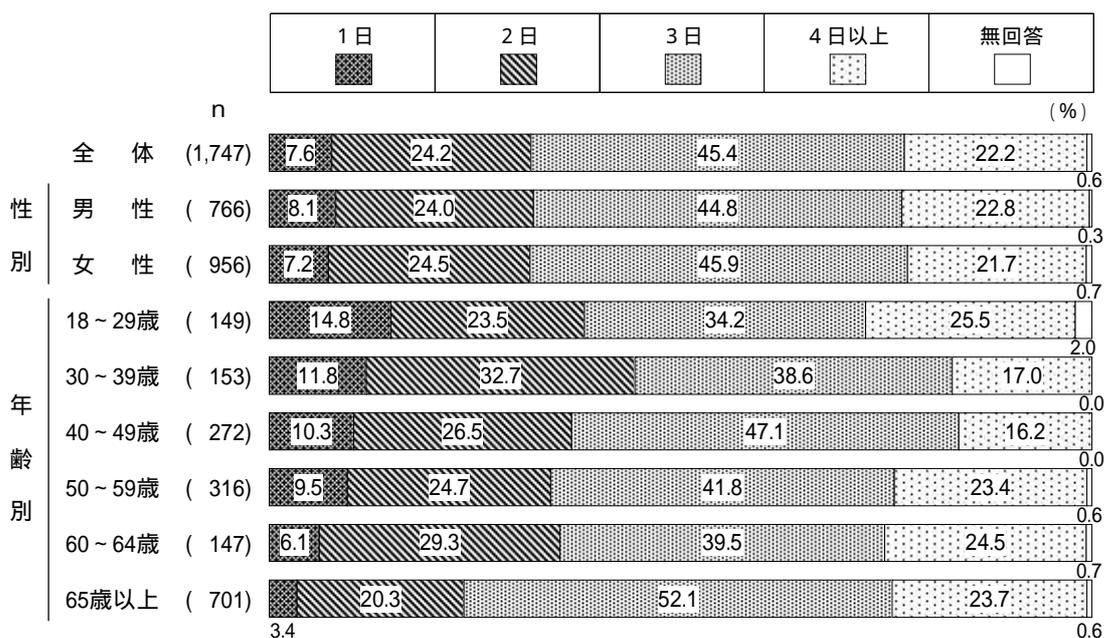


食料を「備蓄している」と回答した1,747人に、家族が何日間過ごせる分の食料を備蓄しているか聞いたところ、「3日」(45.4%)が4割台半ばで最も多くなっている。次いで「2日」(24.2%)、「4日以上」(22.2%)、「1日」(7.6%)の順となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 10 - 1)

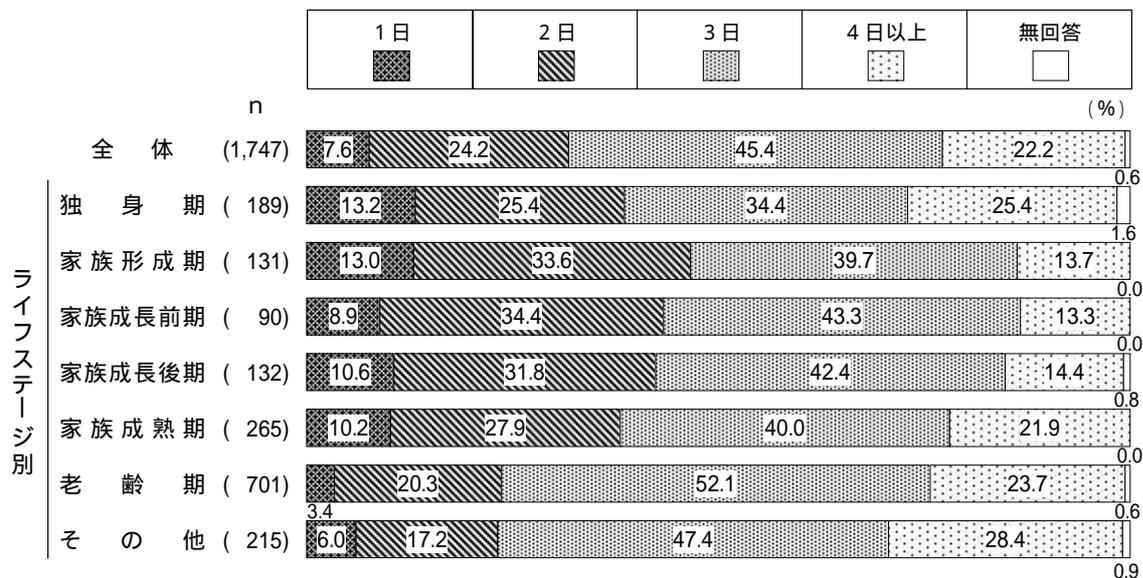
図3 - 10 - 2 食料の備蓄量 - 性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「3日」は65歳以上（52.1%）で5割強と多くなっている。（図3 - 10 - 2）

図3 - 10 - 3 食料の備蓄量 - ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「3日」は老齢期（52.1%）で5割強と多くなっている。「4日以上」はその他（28.4%）で3割近くと多くなっている。（図3 - 10 - 3）

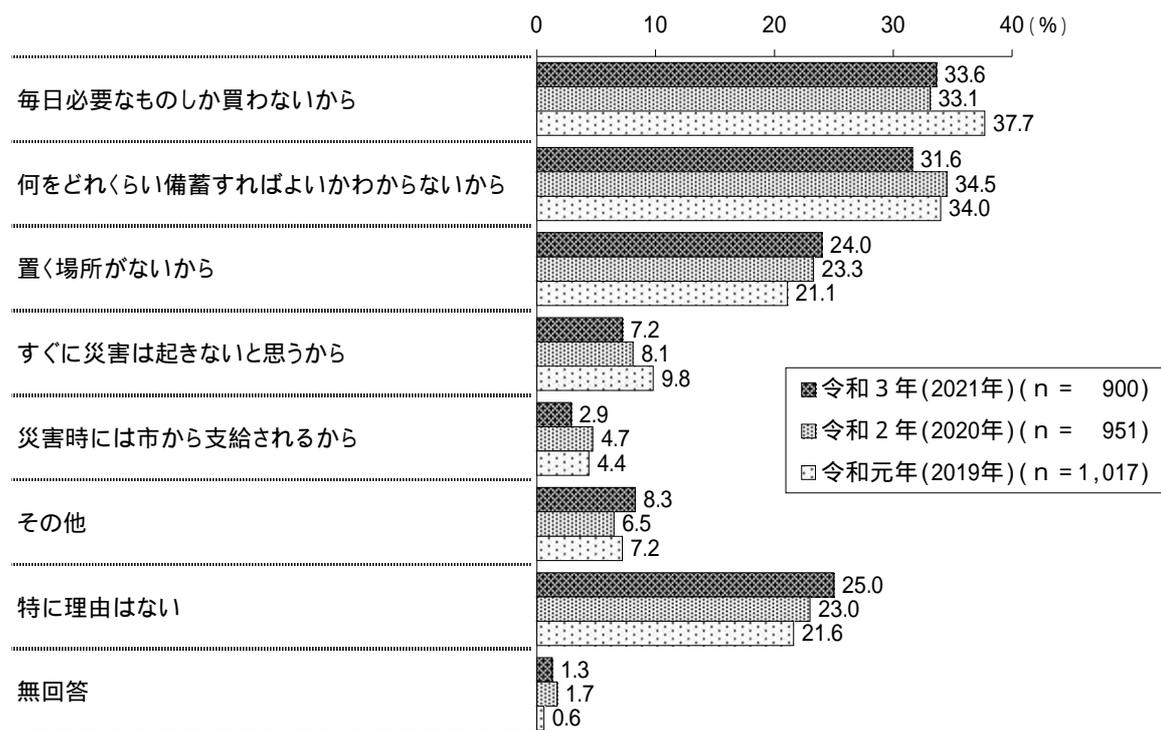
## (11) 食料を備蓄していない理由

「毎日必要なものしか買わないから」と「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」がともに3割強

(食料を「備蓄していない」とお答えの方へ)

問25 - 1 - 2 食料を備蓄していない理由は何ですか。(はいくつでも)

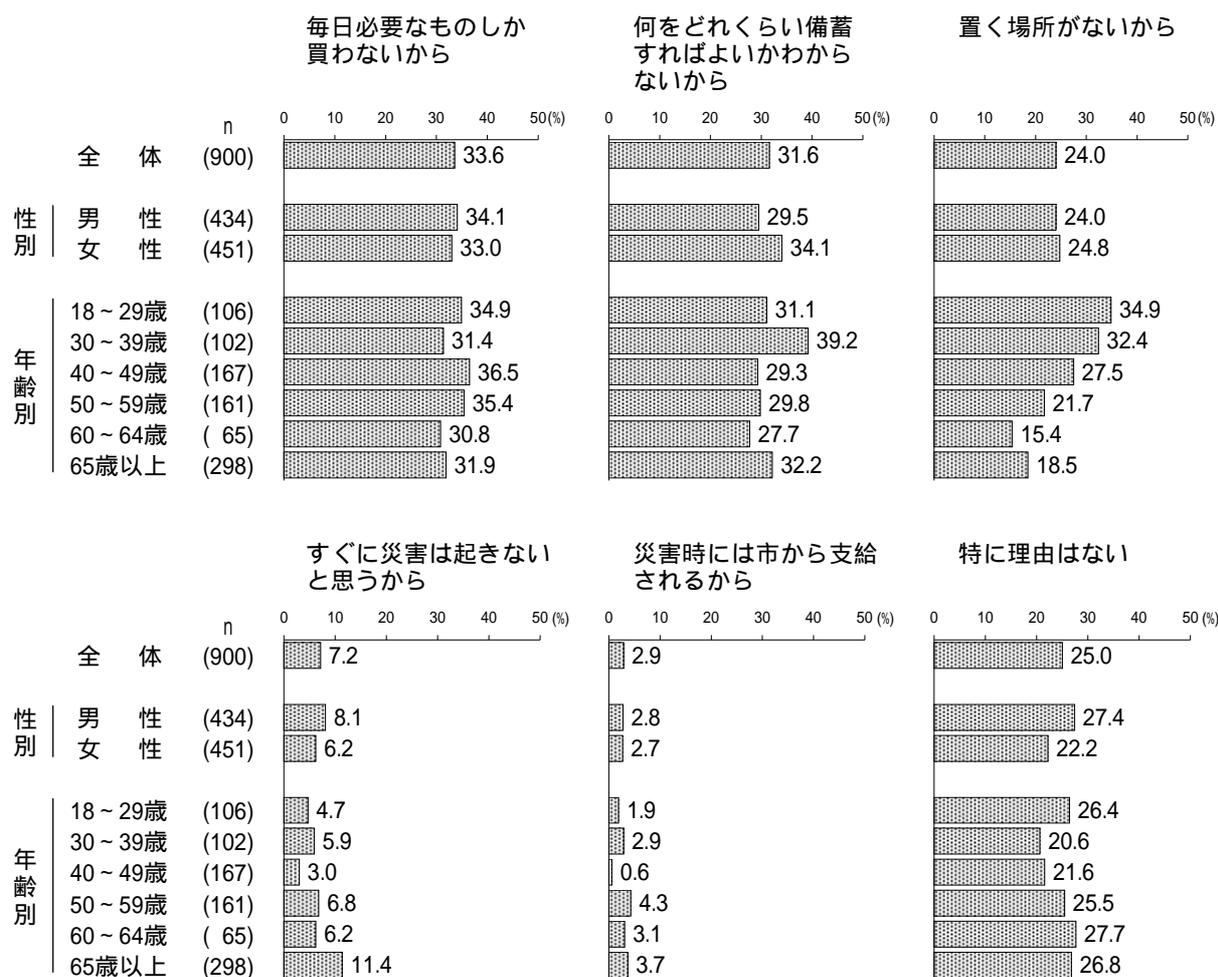
図3 - 11 - 1 食料を備蓄していない理由 - 全体、経年比較



食料を「備蓄していない」と回答した900人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」(33.6%)と「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(31.6%)がともに3割強で多くなっている。次いで「置く場所がないから」(24.0%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は令和2年(2020年)(34.5%)より2.9ポイント減少している。(図3 - 11 - 1)

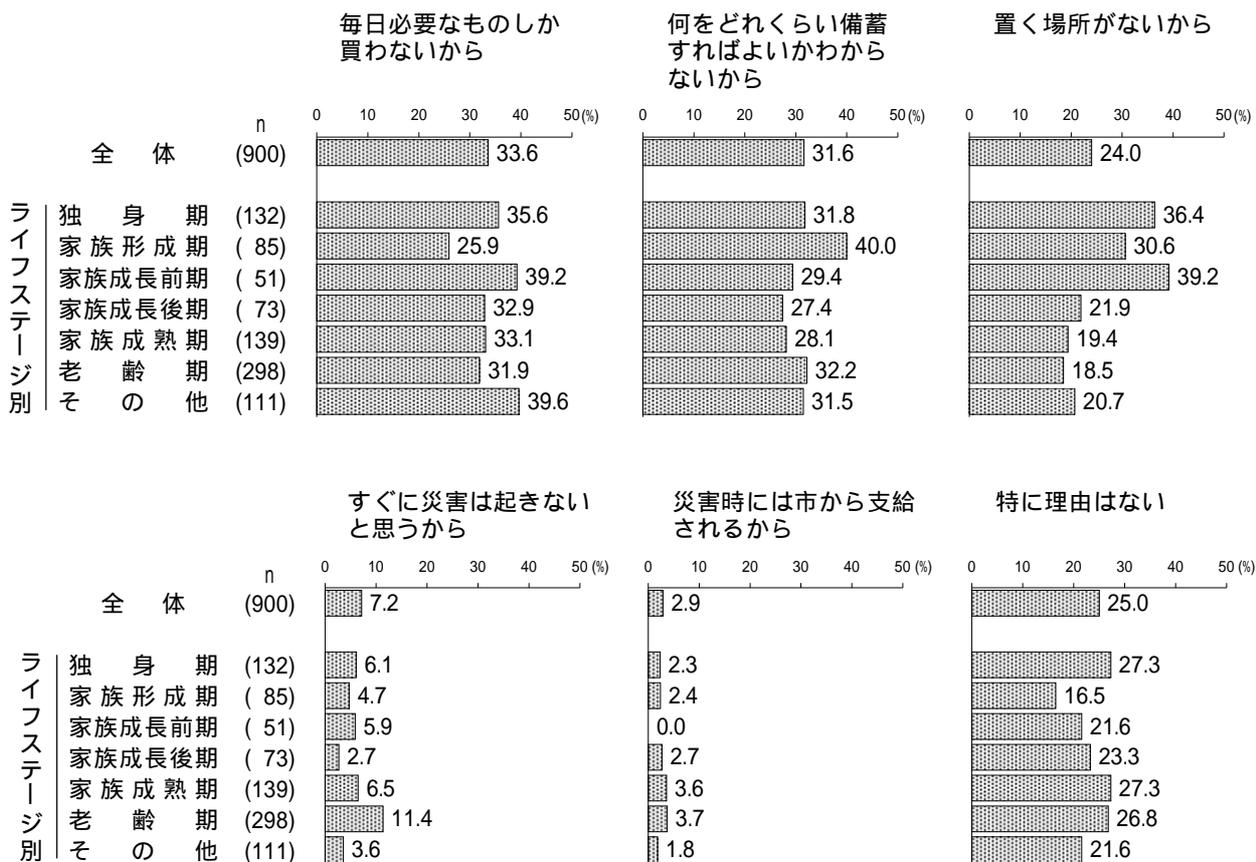
図3 - 11 - 2 食料を備蓄していない理由 - 性別、年齢別（「その他」を除く）



性別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は女性（34.1%）が男性（29.5%）より4.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は30～39歳（39.2%）で4割弱と多くなっている。「置く場所がないから」は18～29歳（34.9%）で3割台半ばと多くなっている。（図3 - 11 - 2）

図3 - 11 - 3 食料を備蓄していない理由 - ライフステージ別（「その他」を除く）



ライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」はその他（39.6%）と家族成長前期（39.2%）で4割弱と多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族形成期（40.0%）で4割と多くなっている。「置く場所がないから」は家族成長前期（39.2%）で4割弱と多くなっている。（図3 - 11 - 3）

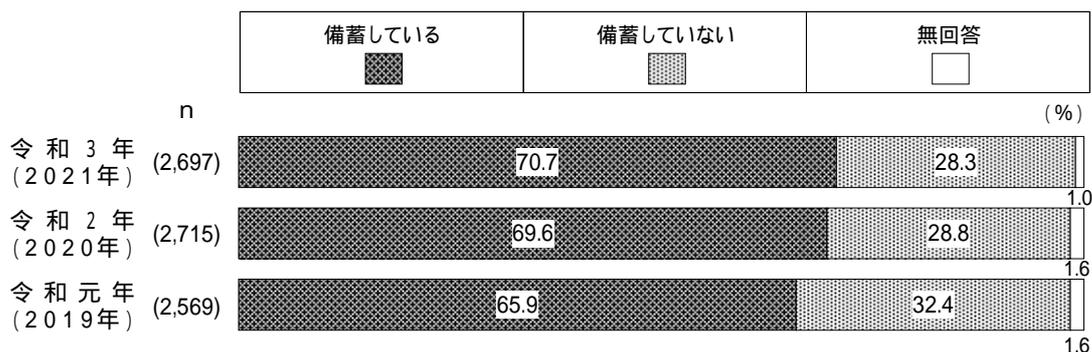
## (12) 飲料水の備蓄の有無

「備蓄している」が約7割

問25 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して、食料、飲料水を備蓄していますか。

【2. 飲料水について】( は1つだけ)

図3 - 12 - 1 飲料水の備蓄の有無 - 全体、経年比較

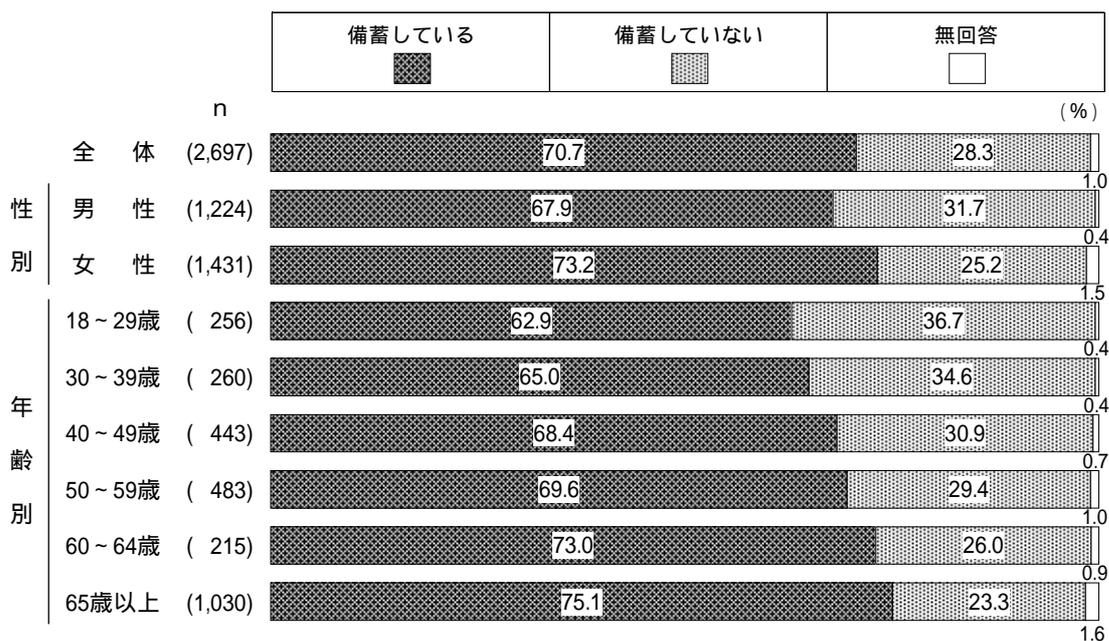


災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄している」(70.7%)が約7割となっている。一方、「備蓄していない」(28.3%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 12 - 1)

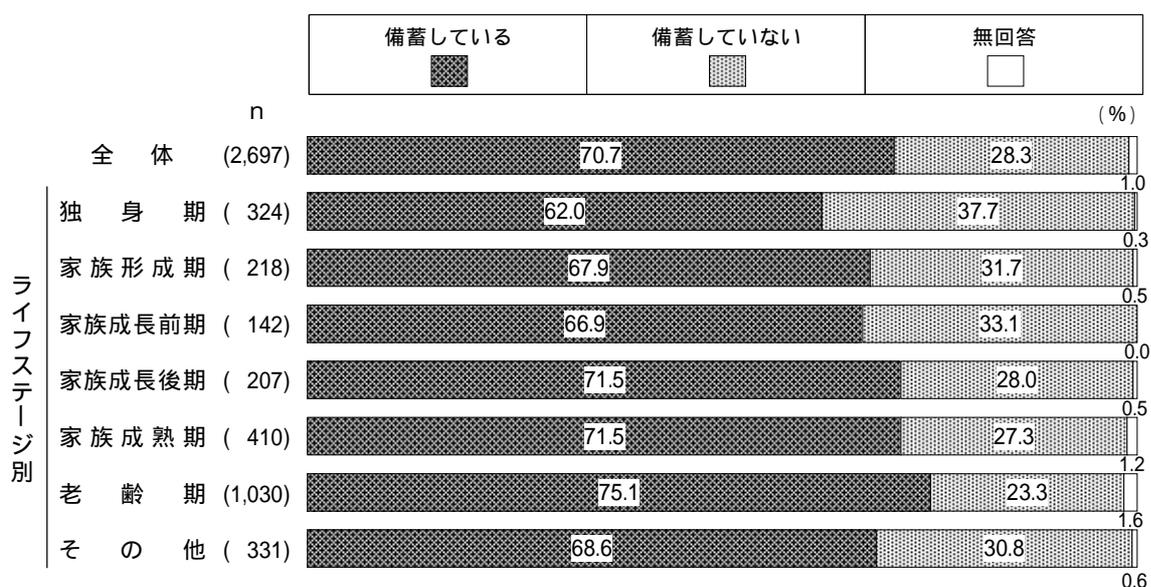
図3 - 12 - 2 飲料水の備蓄の有無 - 性別、年齢別



性別にみると、「備蓄している」は女性（73.2%）が男性（67.9%）より5.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「備蓄している」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（75.1%）で7割台半ばと多くなっている。一方、「備蓄していない」は18～29歳（36.7%）で4割近くと多くなっている。（図3 - 12 - 2）

図3 - 12 - 3 飲料水の備蓄の有無 - ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「備蓄している」は老齢期（75.1%）で7割台半ばと多くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期（37.7%）で4割近くと多くなっている。（図3 - 12 - 3）

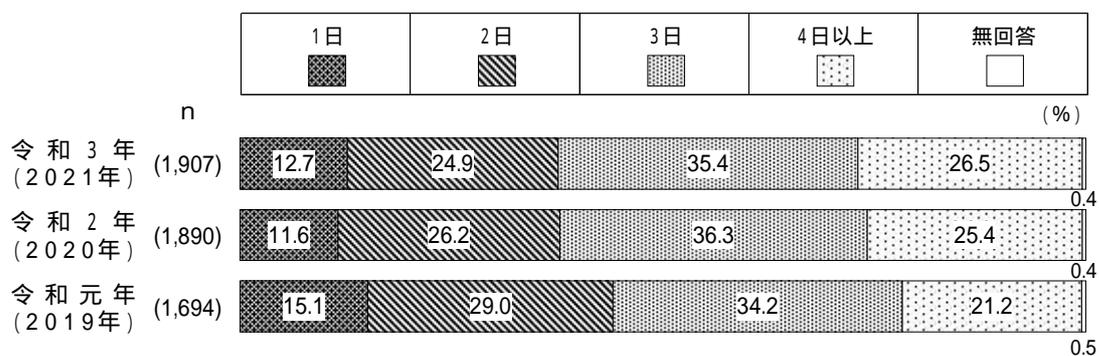
### (13) 飲料水の備蓄量

「3日」が3割台半ば

(飲料水を「備蓄している」とお答えの方へ)

問25 - 2 - 1 家族が何日間過ごせる分の飲料水を備蓄していますか。( は1つだけ)

図3 - 13 - 1 飲料水の備蓄量 - 全体、経年比較



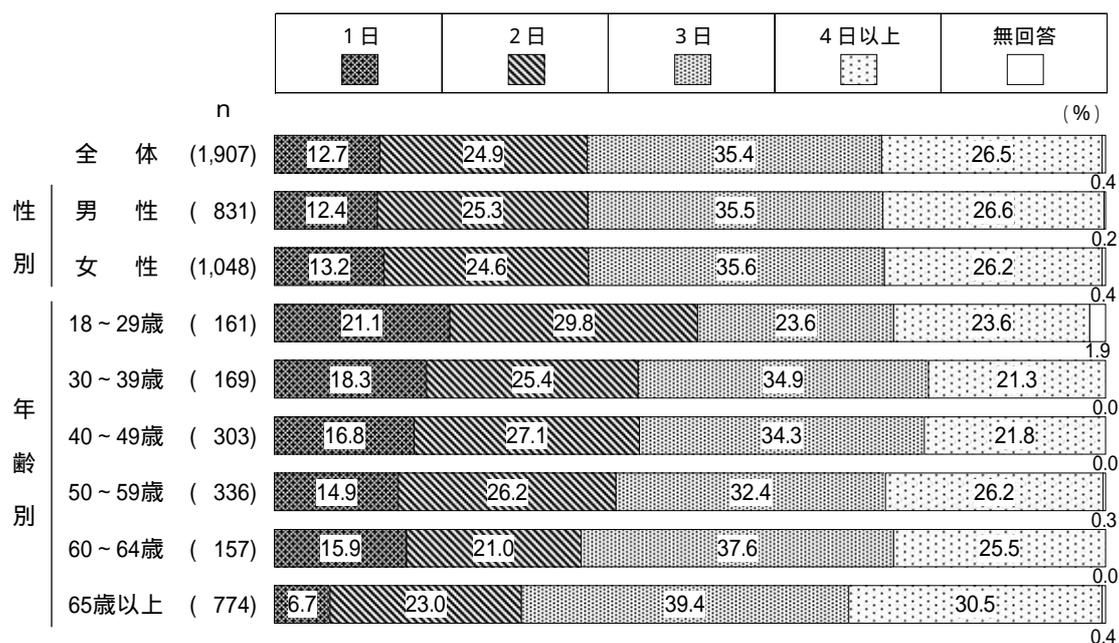
(注) 飲料水は大人1人1日3リットルで計算

飲料水を「備蓄している」と回答した1,907人に、家族が何日間過ごせる分の飲料水を備蓄しているか聞いたところ、「3日」(35.4%)が3割台半ばで最も多くなっている。次いで「4日以上」(26.5%)、「2日」(24.9%)、「1日」(12.7%)の順となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 13 - 1)

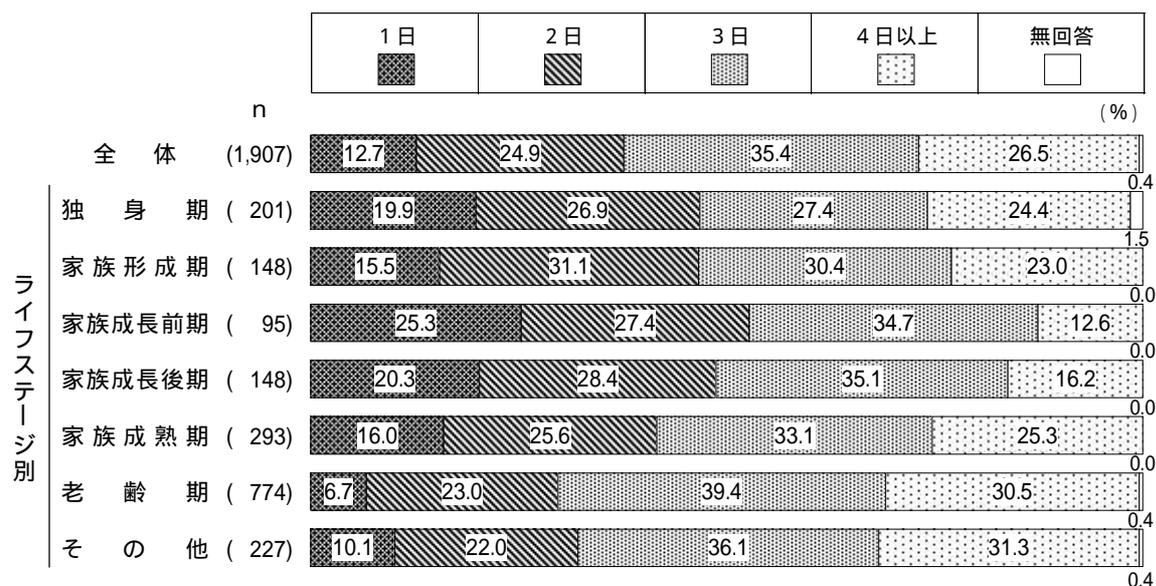
図3 - 13 - 2 飲料水の備蓄量 - 性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

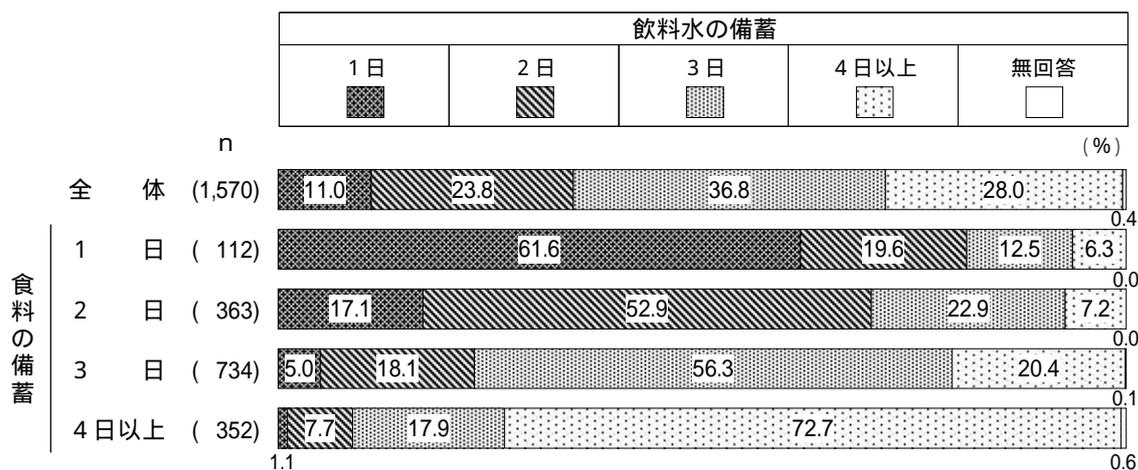
年齢別にみると、「3日」は65歳以上（39.4%）で4割弱と多くなっている。「4日以上」は65歳以上（30.5%）で約3割と多くなっている。（図3 - 13 - 2）

図3 - 13 - 3 飲料水の備蓄量 - ライフステージ別



ライフステージ別にみると「3日」は老齢期（39.4%）で4割弱と多くなっている。「4日以上」はその他（31.3%）と老齢期（30.5%）で3割台と多くなっている。（図3 - 13 - 3）

図3 - 13 - 4 飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量



飲料水の備蓄量と食料の備蓄量の関係を捉える上で、飲料水及び食料の備蓄量をみると、飲料水の備蓄日数と食料の備蓄日数はほぼ相関関係にあり、「飲料水、食料ともに4日分以上」(72.7%)が7割強で最も多くなっている。(図3 - 13 - 4)

図3 - 13 - 5 飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量 (全体に占める人数及び構成比)

上段：件数  
下段：%

		飲料水の備蓄量							
		4日以上	3日	2日	1日	日数不明	備蓄無し	不備蓄有無	
(n = 2,697)		506	676	474	243	8	762	28	
		18.8	25.1	17.6	9.0	0.3	28.3	1.0	
食料の備蓄量	4日以上	388	256	63	27	4	2	36	-
		14.4	9.5	2.3	1.0	0.1	0.1	1.3	-
	3日	794	150	413	133	37	1	53	7
		29.4	5.6	15.3	4.9	1.4	0.0	2.0	0.3
	2日	423	26	83	192	62	-	58	2
		15.7	1.0	3.1	7.1	2.3	-	2.2	0.1
	1日	132	7	14	22	69	-	19	1
		4.9	0.3	0.5	0.8	2.6	-	0.7	0.0
日数不明	10	1	4	-	1	3	1	-	
	0.4	0.0	0.1	-	0.0	0.1	0.0	-	
備蓄無し	900	58	87	93	68	2	583	9	
	33.4	2.2	3.2	3.4	2.5	0.1	21.6	0.3	
備蓄有無不明	50	8	12	7	2	-	12	9	
	1.9	0.3	0.4	0.3	0.1	-	0.4	0.3	

飲料水の備蓄量と食料の備蓄量の関係を捉える上で、飲料水及び食料の備蓄の有無とその備蓄量 (全体に占める人数及び構成比) をみると、「飲料水、食料ともに備蓄無し」(n=583、21.6%)が全体の2割強と最も多くなっている。次いで「飲料水、食料ともに3日分」(n=413、15.3%)、「飲料水、食料ともに4日分以上」(n=256、9.5%)、「飲料水、食料ともに2日分」(n=192、7.1%)などの順となっている。なお、飲料水、食料ともに3日以上備蓄 (グレー網掛け部分)(n=882、32.7%)している人は全体の3割強となっている。(図3 - 13 - 5)

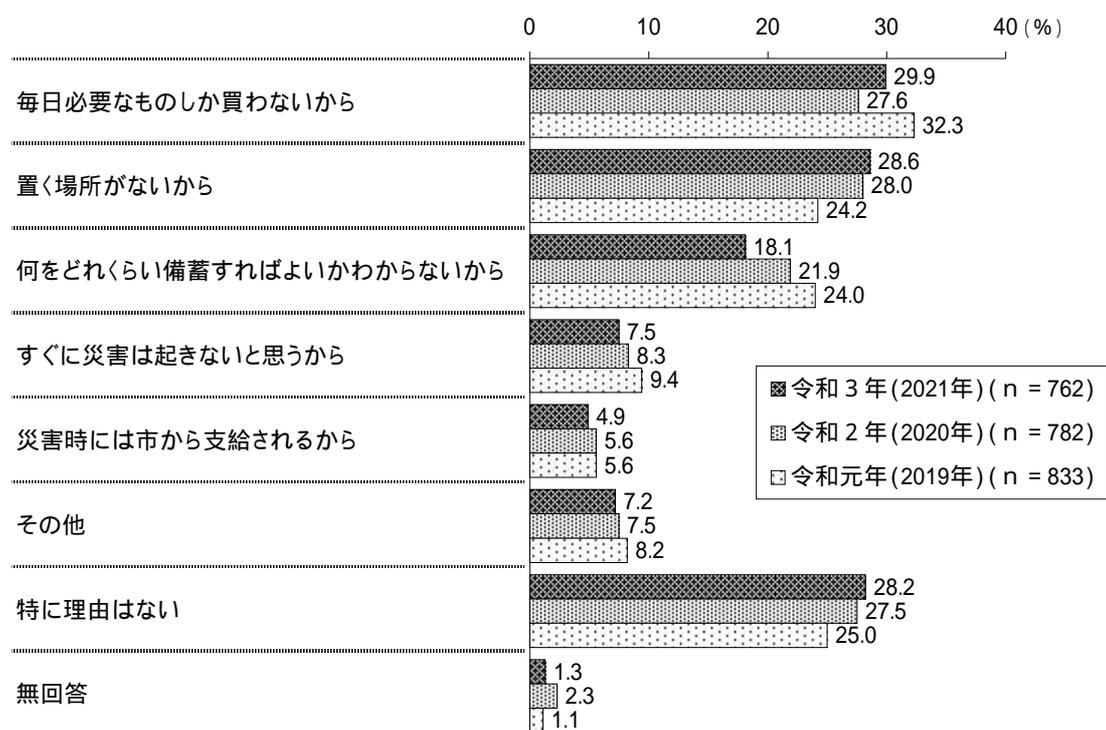
## (14) 飲料水を備蓄していない理由

「毎日必要なものしか買わないから」が3割弱

(飲料水を「備蓄していない」とお答えの方へ)

問25 - 2 - 2 飲料水を備蓄していない理由は何ですか。(はいいくつでも)

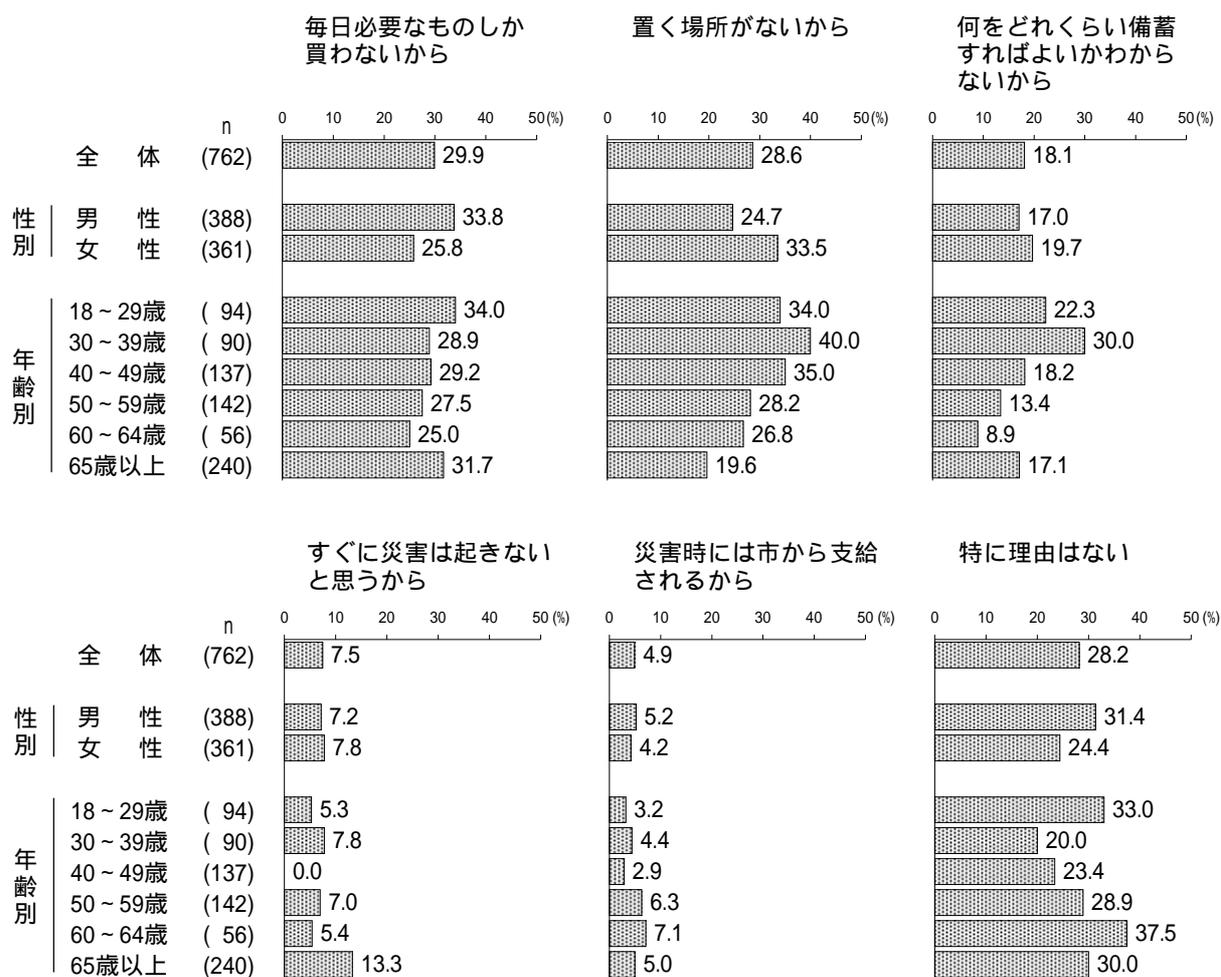
図3 - 14 - 1 飲料水を備蓄していない理由 - 全体、経年比較



飲料水を「備蓄していない」と回答した762人に、その理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」(29.9%)が3割弱で最も多くなっている。次いで「置く場所がないから」(28.6%)、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」(18.1%)などの順となっている。一方、「特に理由はない」(28.2%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「毎日必要なものしか買わないから」は令和2年(2020年) (27.6%)より2.3ポイント増加している。一方、「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は令和2年(2020年) (21.9%)より3.8ポイント減少している。(図3 - 14 - 1)

図3 - 14 - 2 飲料水を備蓄していない理由 - 性別、年齢別（「その他」を除く）

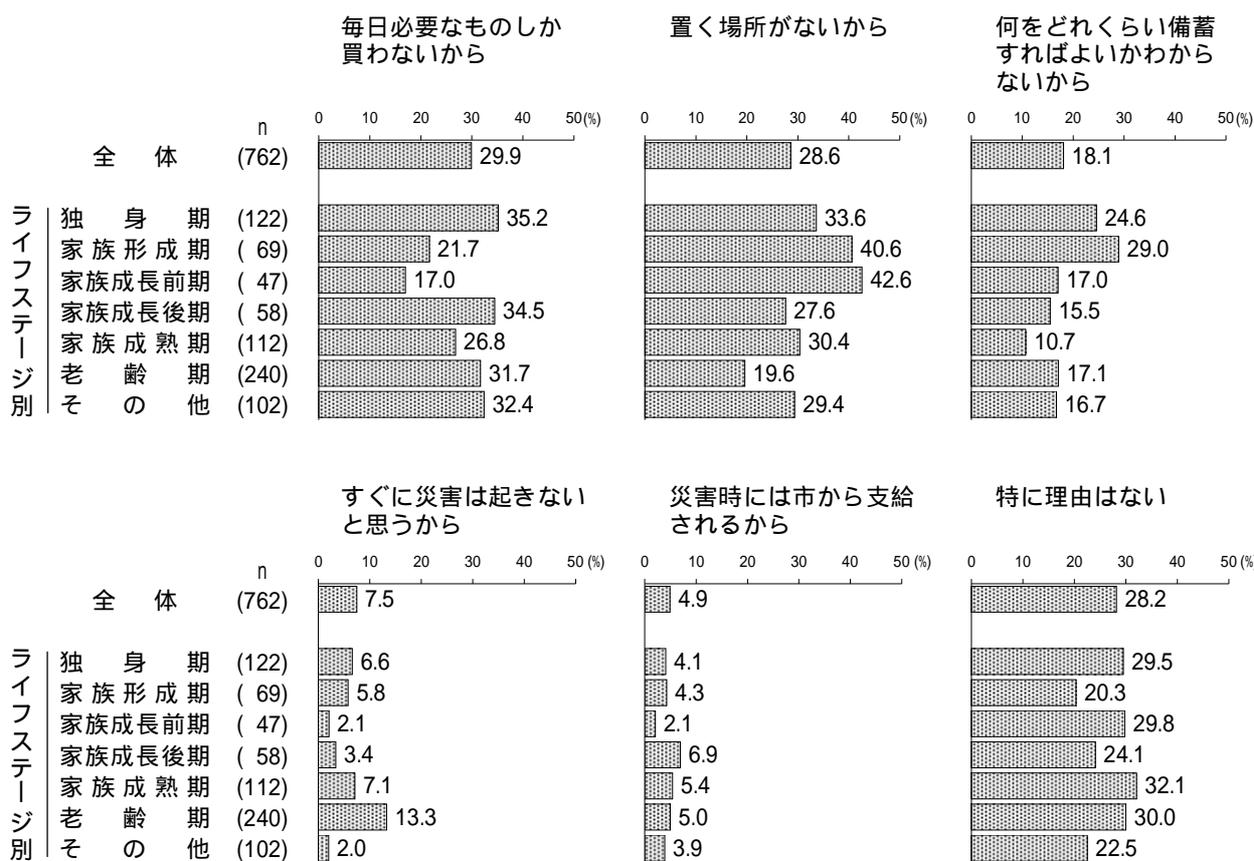


性別にみると、「置く場所がないから」は女性（33.5%）が男性（24.7%）より8.8ポイント高くなっている。一方、「毎日必要なものしか買わないから」は男性（33.8%）が女性（25.8%）より8.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は18~29歳（34.0%）で3割台半ばと多くなっている。「置く場所がないから」は30~39歳（40.0%）で4割と多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は30~39歳（30.0%）で3割と多くなっている。

（図3 - 14 - 2）

図3 - 14 - 3 飲料水を備蓄していない理由 - ライフステージ別（「その他」を除く）



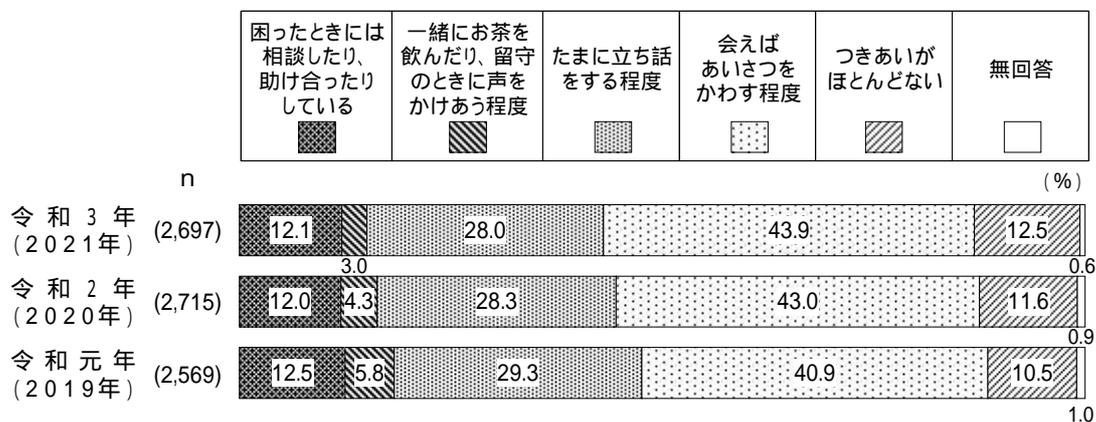
ライフステージ別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は独身期（35.2%）と家族成長後期（34.5%）で3割台半ばと多くなっている。「置く場所がないから」は家族成長前期（42.6%）と家族形成期（40.6%）で4割台と多くなっている。「何をどれくらい備蓄すればよいかわからないから」は家族形成期（29.0%）で3割弱と多くなっている。（図3 - 14 - 3）

## (15) 隣近所とのつきあい方

「会えばあいさつをかわす程度」が4割強

問26 あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。( は1つだけ)

図3 - 15 - 1 隣近所とのつきあい方 - 全体、経年比較

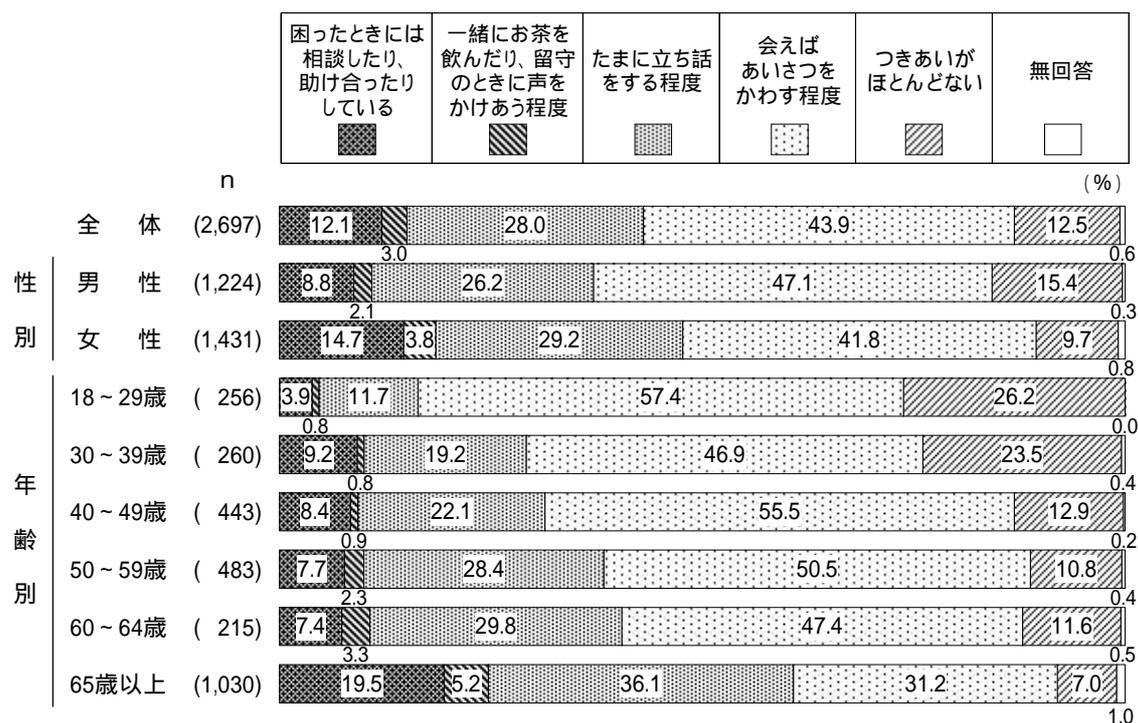


日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしているか聞いたところ、「会えばあいさつをかわす程度」(43.9%)が4割強で最も多くなっている。次いで「たまに立ち話をする程度」(28.0%)、「つきあいがほとんどない」(12.5%)、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」(12.1%)、「一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあう程度」(3.0%)の順となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 15 - 1)

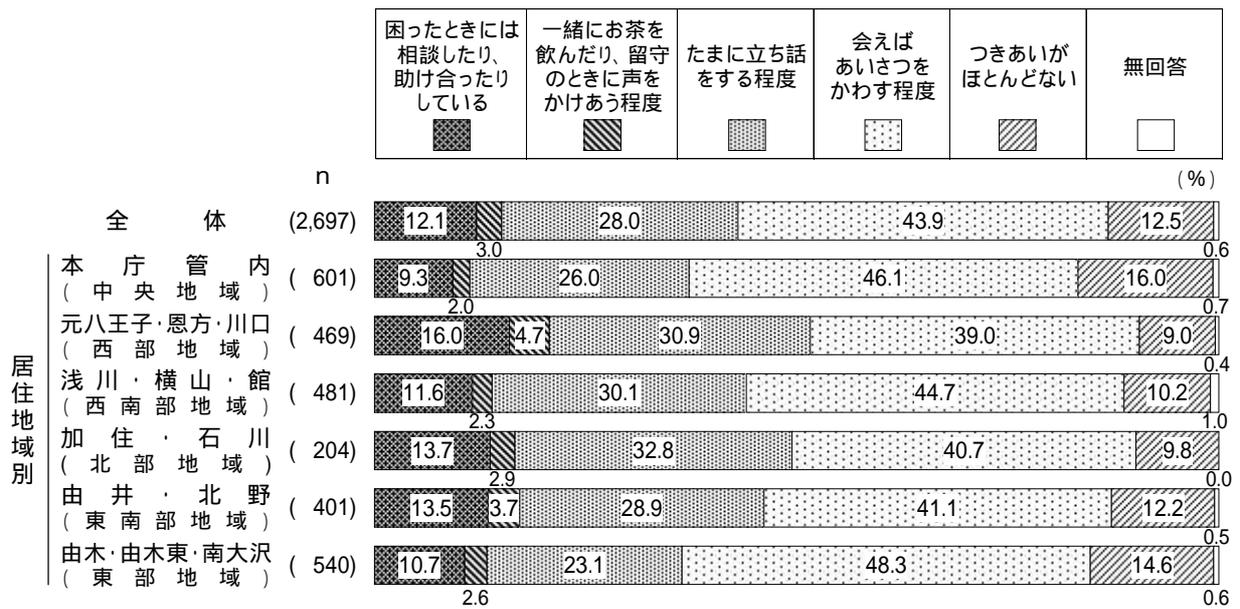
図3 - 15 - 2 隣近所とのつきあい方 - 性別、年齢別



性別にみると、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は女性（14.7%）が男性（8.8%）より5.9ポイント、「たまに立ち話をする程度」は女性（29.2%）が男性（26.2%）より3.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「つきあいがほとんどない」は男性（15.4%）が女性（9.7%）より5.7ポイント、「会えばあいさつをかわす程度」は男性（47.1%）が女性（41.8%）より5.3ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「たまに立ち話をする程度」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（36.1%）で4割近くと多くなっている。「会えばあいさつをかわす程度」は18～29歳（57.4%）で6割近くと多くなっている。「つきあいがほとんどない」は18～29歳（26.2%）で3割近くと多くなっている。（図3 - 15 - 2）

図3 - 15 - 3 隣近所とのつきあい方 - 居住地域別



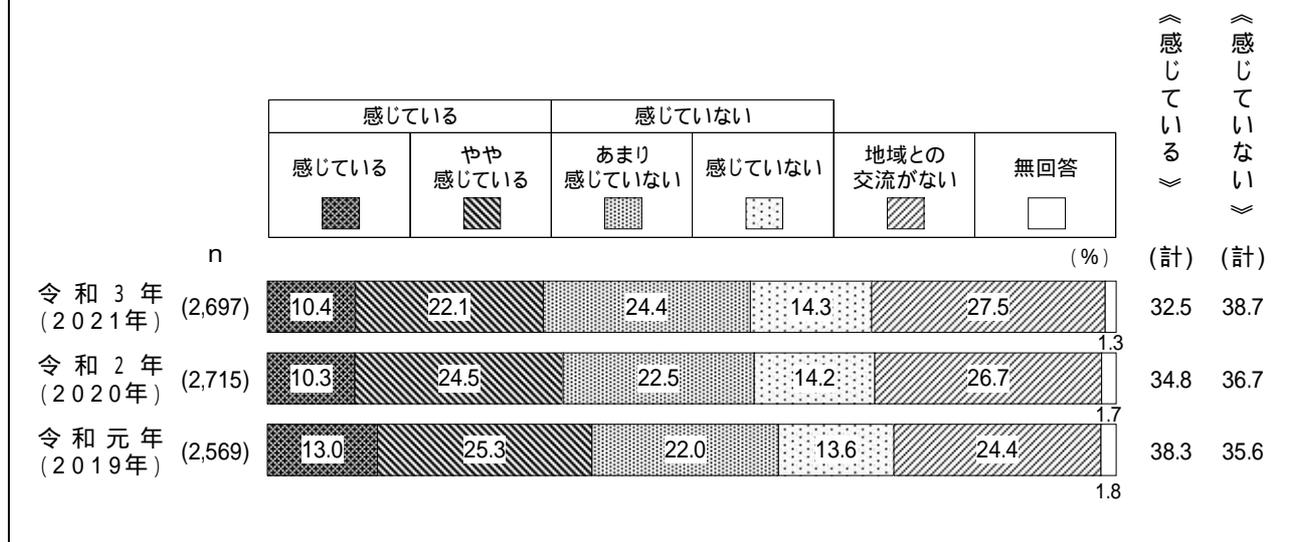
居住地域別にみると、「たまに立ち話をする程度」は加住・石川(北部地域) (32.8%) で3割強と多くなっている。「会えばあいさつをかわす程度」は由木・由木東・南大沢(東部地域) (48.3%) と本庁管内(中央地域) (46.1%) で5割近くと多くなっている。(図3 - 15 - 3)

## (16) 地域での交流や活動による充実感や生きがい

感じている が3割強

問27 あなたは、地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで、充実感や生きがいを感じていますか。( は1つだけ)

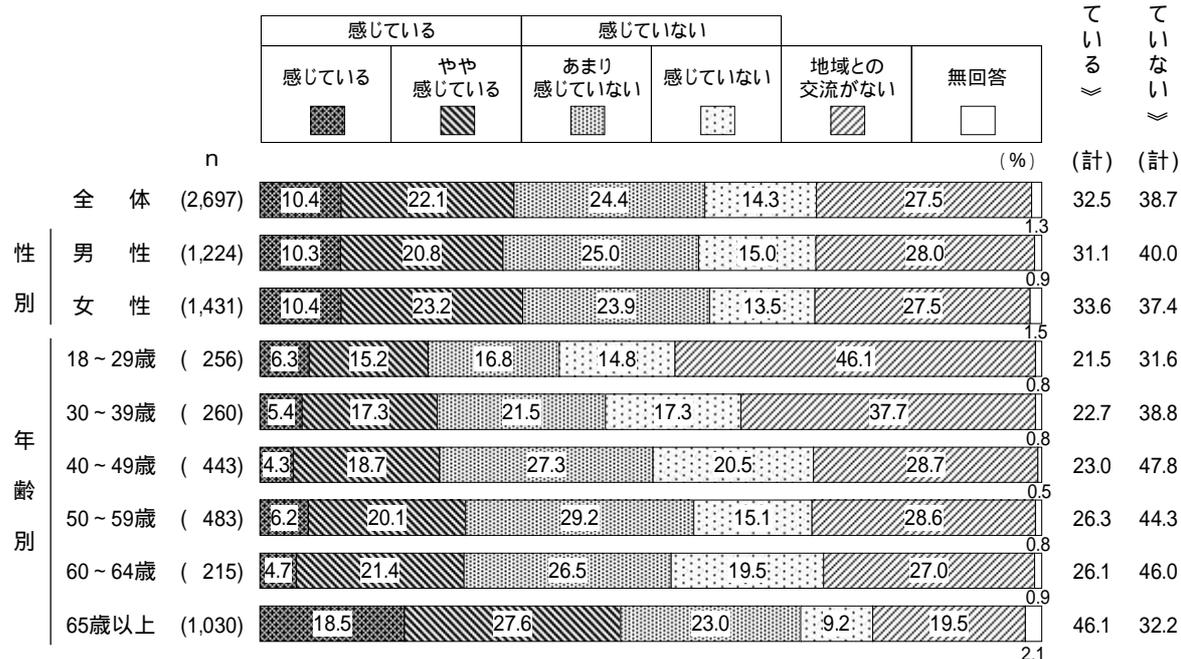
図3 - 16 - 1 地域での交流や活動による充実感や生きがい - 全体、経年比較



地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで充実感や生きがいを感じているか聞いたところ、「感じている」(10.4%)と「やや感じている」(22.1%)を合わせた 感じている (32.5%)は3割強となっている。一方、「あまり感じていない」(24.4%)と「感じていない」(14.3%)を合わせた 感じていない (38.7%)は4割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、 感じている は令和2年(2020年)(34.8%)より2.3ポイント減少している。(図3 - 16 - 1)

図3 - 16 - 2 地域での交流や活動による充実感や生きがい - 性別、年齢別

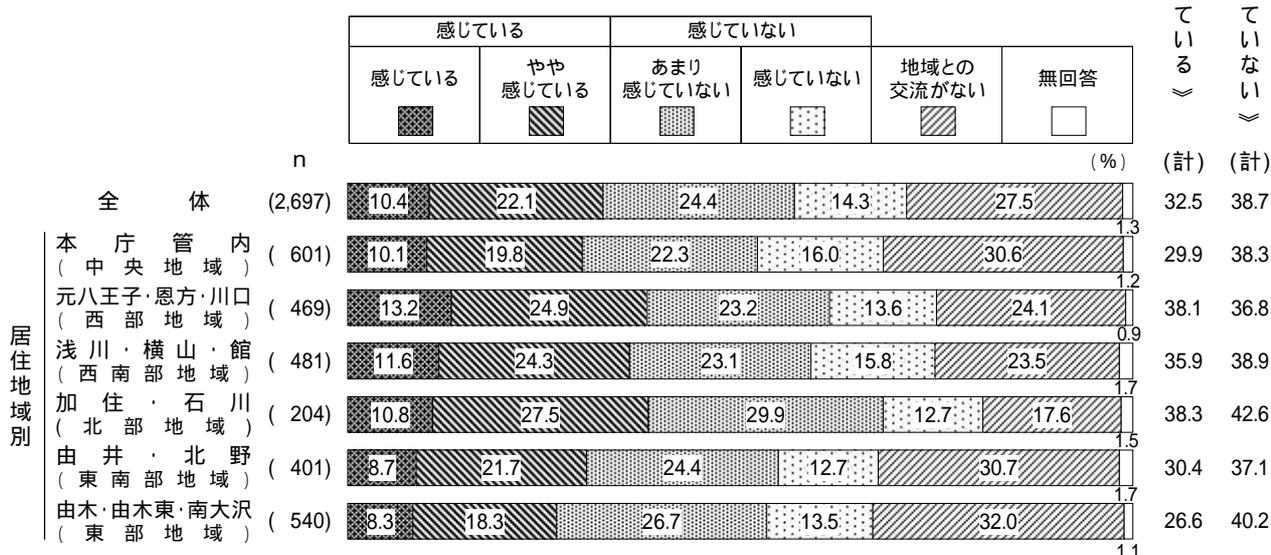


性別にみると、感じているは女性（33.6%）が男性（31.1%）より2.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、感じているは65歳以上（46.1%）で5割近くと多くなっている。一方、感じていないは40～49歳（47.8%）と60～64歳（46.0%）で5割近くと多くなっている。

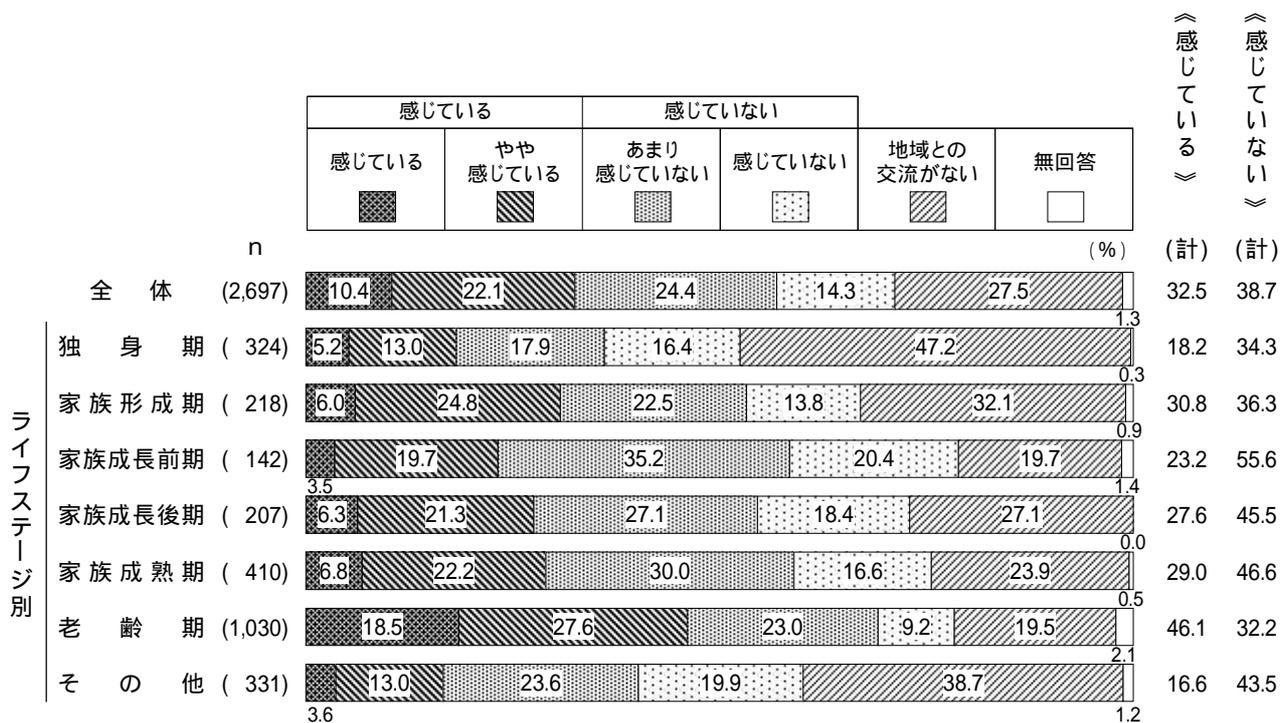
(図3 - 16 - 2)

図3 - 16 - 3 地域での交流や活動による充実感や生きがい - 居住地域別



居住地域別にみると、感じているは加住・石川(北部地域)（38.3%）と元八王子・恩方・川口(西部地域)（38.1%）で4割近くと多くなっている。一方、感じていないは加住・石川(北部地域)（42.6%）で4割強と多くなっている。(図3 - 16 - 3)

図3 - 16 - 4 地域での交流や活動による充実感や生きがい - ライフステージ別



ライフステージ別にみると、 感じている は老齢期（46.1%）で5割近くと多くなっている。一方、 感じていない は家族成長前期（55.6%）で5割台半ばと多くなっている。

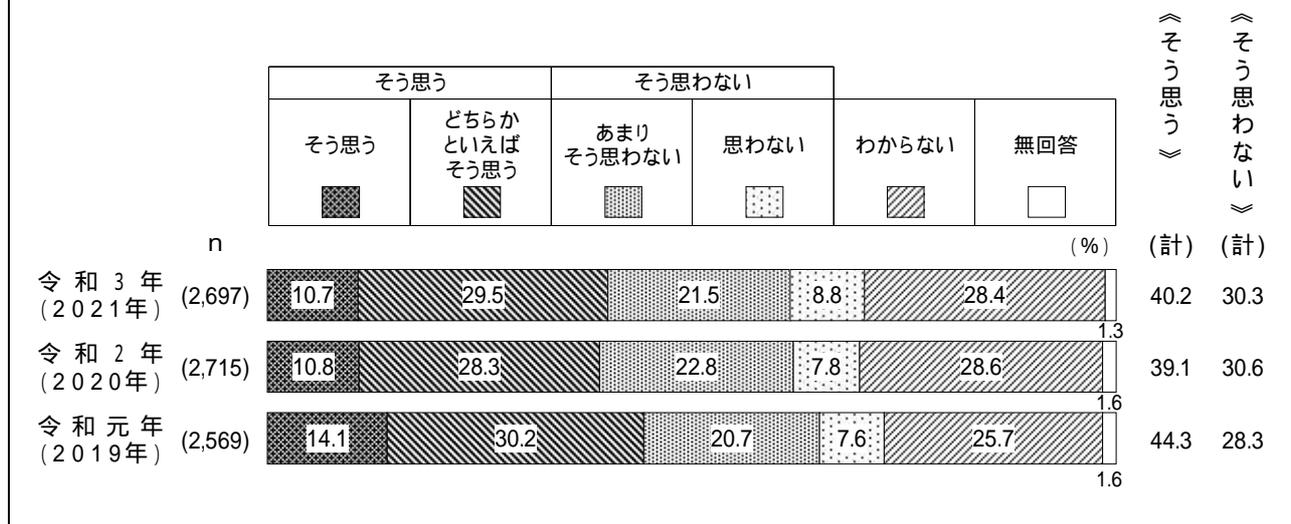
(図3 - 16 - 4)

## (17) 地域と子どもたちとのかかわりあい

そう思う が約4割

問28 あなたのお住まいの地域では、子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思いますか。( は1つだけ)

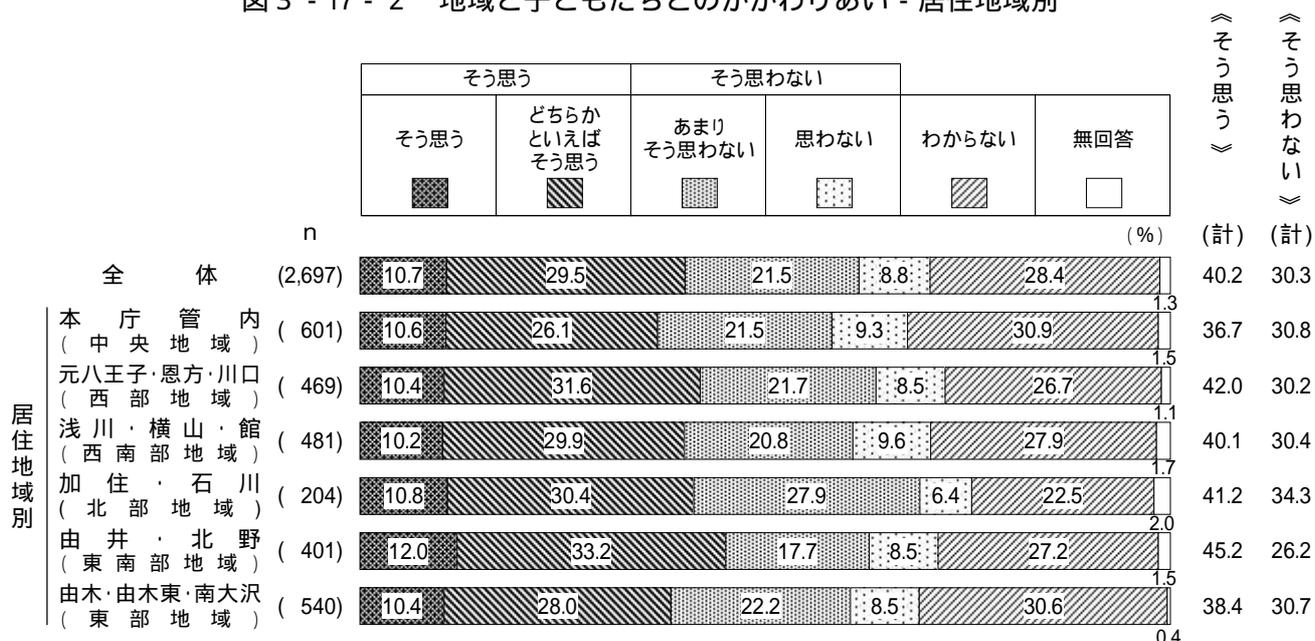
図3 - 17 - 1 地域と子どもたちとのかかわりあい - 全体、経年比較



子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思うか聞いたところ、「そう思う」(10.7%)と「どちらかといえばそう思う」(29.5%)を合わせたそう思う (40.2%)は約4割となっている。一方、「あまりそう思わない」(21.5%)と「思わない」(8.8%)を合わせた そう思わない (30.3%)は約3割となっている。

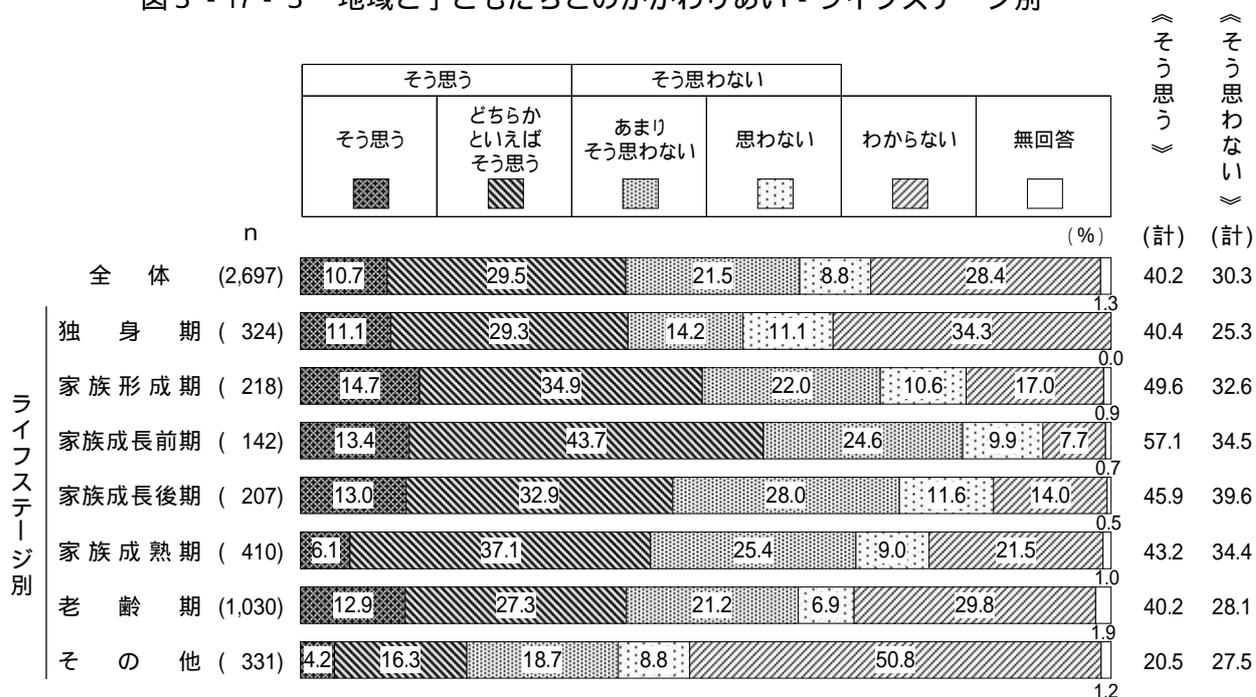
前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3 - 17 - 1)

図3 - 17 - 2 地域と子どもたちとのかかわりあい - 居住地域別



居住地域別にみると、そう思うは由井・北野(東南部地域)(45.2%)で4割台半ばと多くなっている。一方、そう思わないは加住・石川(北部地域)(34.3%)で3割台半ばと多くなっている。(図3 - 17 - 2)

図3 - 17 - 3 地域と子どもたちとのかかわりあい - ライフステージ別



ライフステージ別にみると、そう思うは家族成長前期(57.1%)で6割近くと多くなっている。一方、そう思わないは家族成長後期(39.6%)で4割弱と多くなっている。

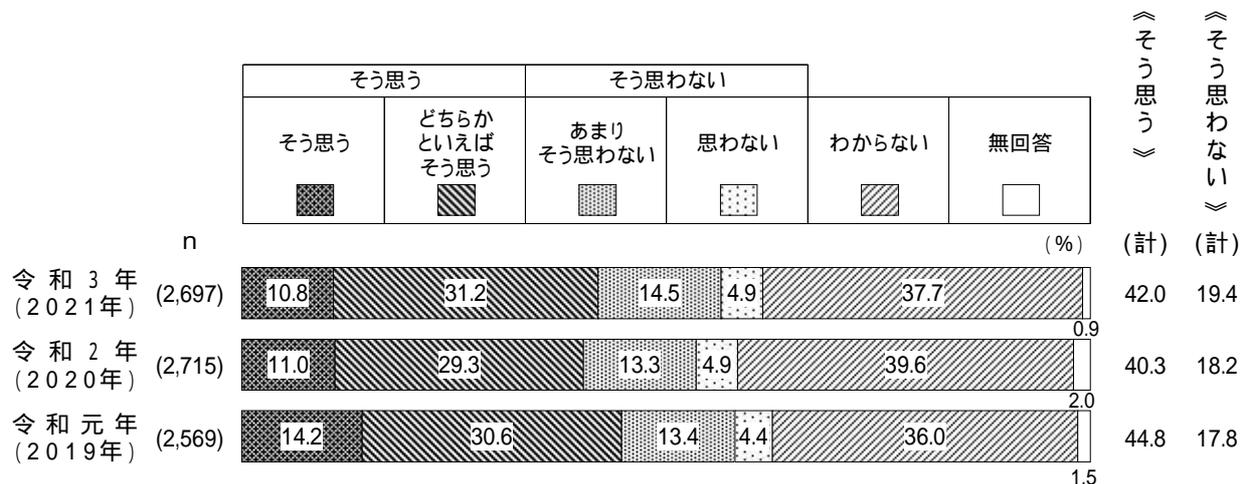
(図3 - 17 - 3)

## (18) 地域と学校の協力による子どもたちの育み

そう思う が4割強

問29 あなたのお住まいの地域では、地域と学校が、ともに協力し合っ  
て子どもたちを育んでいると思いますか。( は1つだけ)

図3 - 18 - 1 地域と学校の協力による子どもたちの育み - 全体、経年比較

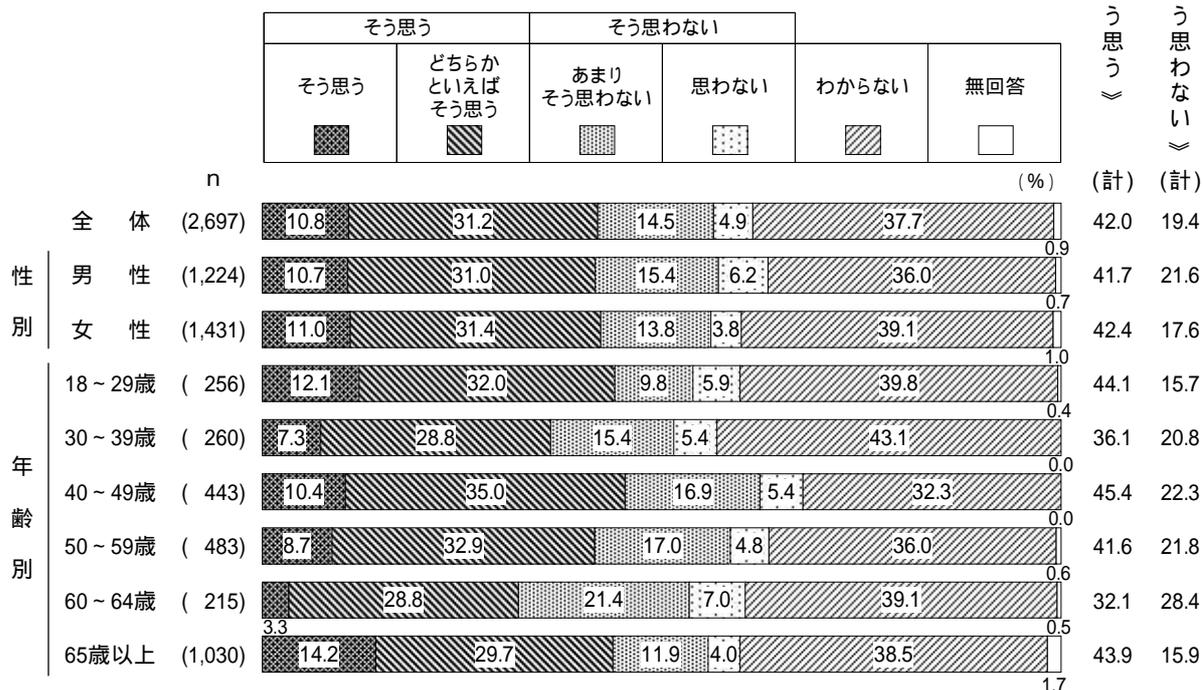


地域と学校が、ともに協力し合っ  
て子どもたちを育んでいると思うか聞いたところ、「そう思う」  
(10.8%)と「どちらかといえばそう思う」(31.2%)を合わせた そう思う (42.0%)は4割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(14.5%)と「思わない」(4.9%)を合わせた そう思わない (19.4%)は2割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 18 - 1)

図3 - 18 - 2 地域と学校の協力による子どもたちの育み - 性別、年齢別

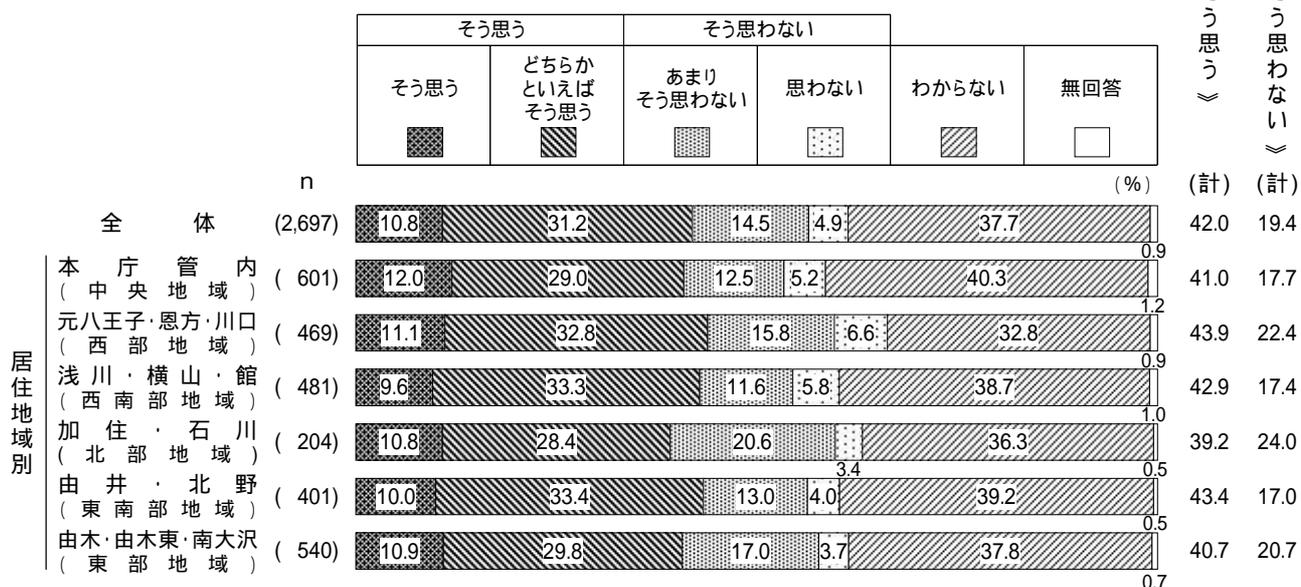


性別にみると、そう思わないは男性（21.6%）が女性（17.6%）より4.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、そう思うは18～29歳（44.1%）と40～49歳（45.4%）で4割台半ばと多くなっている。一方、そう思わないは60～64歳（28.4%）で3割近くと多くなっている。

(図3 - 18 - 2)

図3 - 18 - 3 地域と学校の協力による子どもたちの育み - 居住地域別



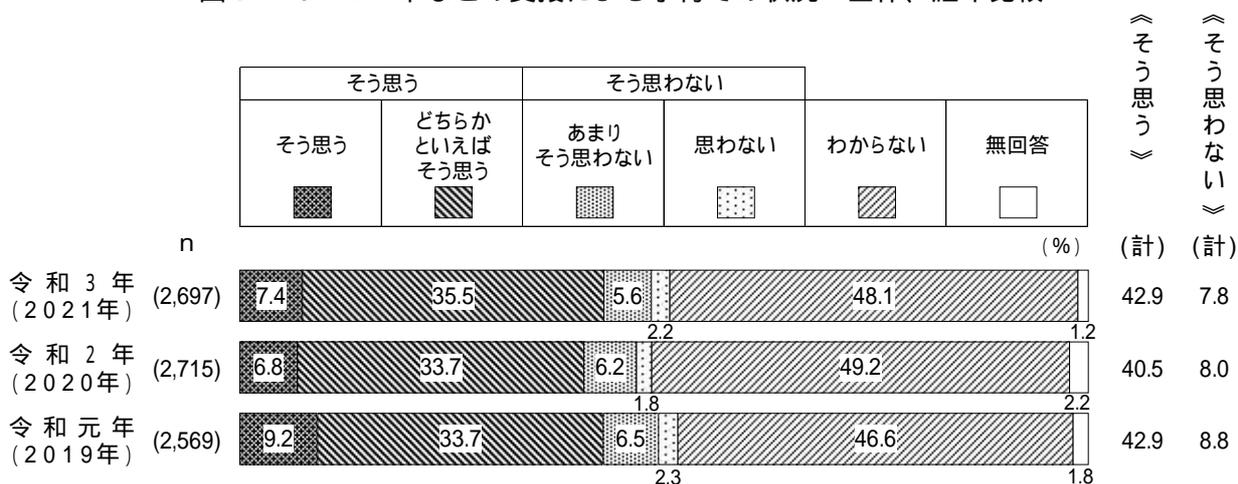
居住地域別にみると、そう思わないは加住・石川(北部地域)（24.0%）で2割台半ばと多くなっている。(図3 - 18 - 3)

## (19) 市などの支援による子育ての状況

「**そう思う**」が4割強

問30 あなたは、子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てが  
できていると思いますか。( は1つだけ)

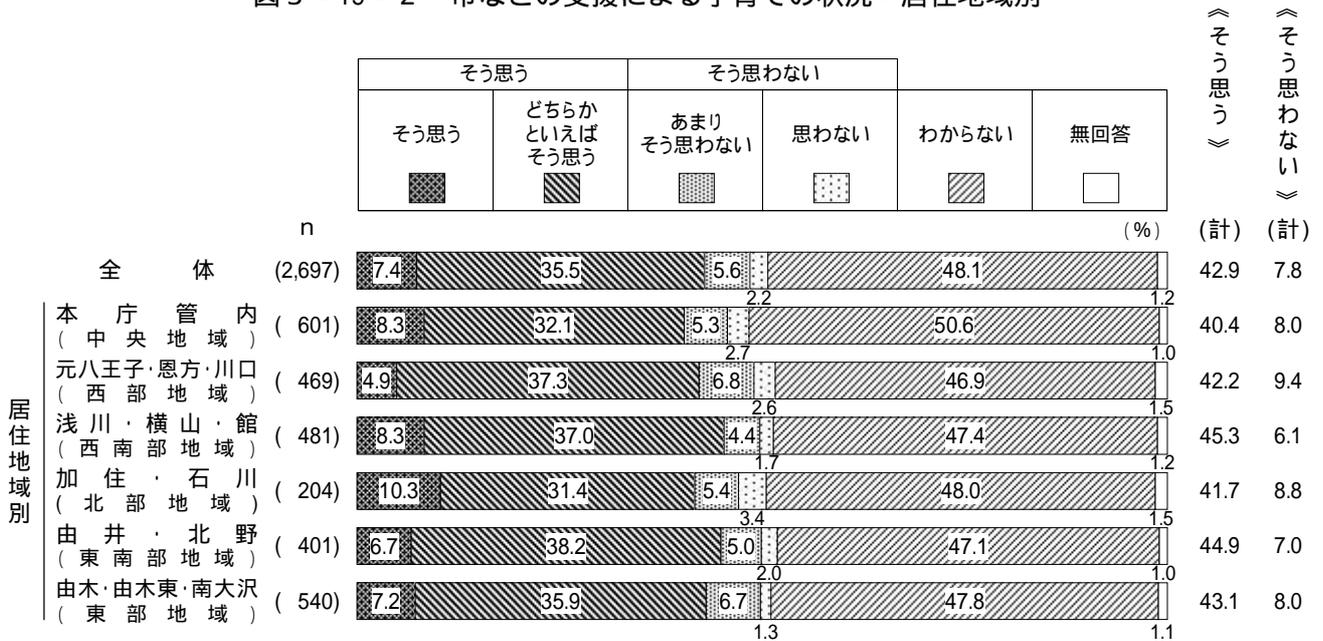
図3 - 19 - 1 市などの支援による子育ての状況 - 全体、経年比較



子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていると思うか聞いたところ、「**そう思う**」(7.4%)と「**どちらかといえばそう思う**」(35.5%)を合わせた **そう思う** (42.9%)は4割強となっている。一方、「**あまりそう思わない**」(5.6%)と「**思わない**」(2.2%)を合わせた **そう思わない** (7.8%)は1割未満となっている。

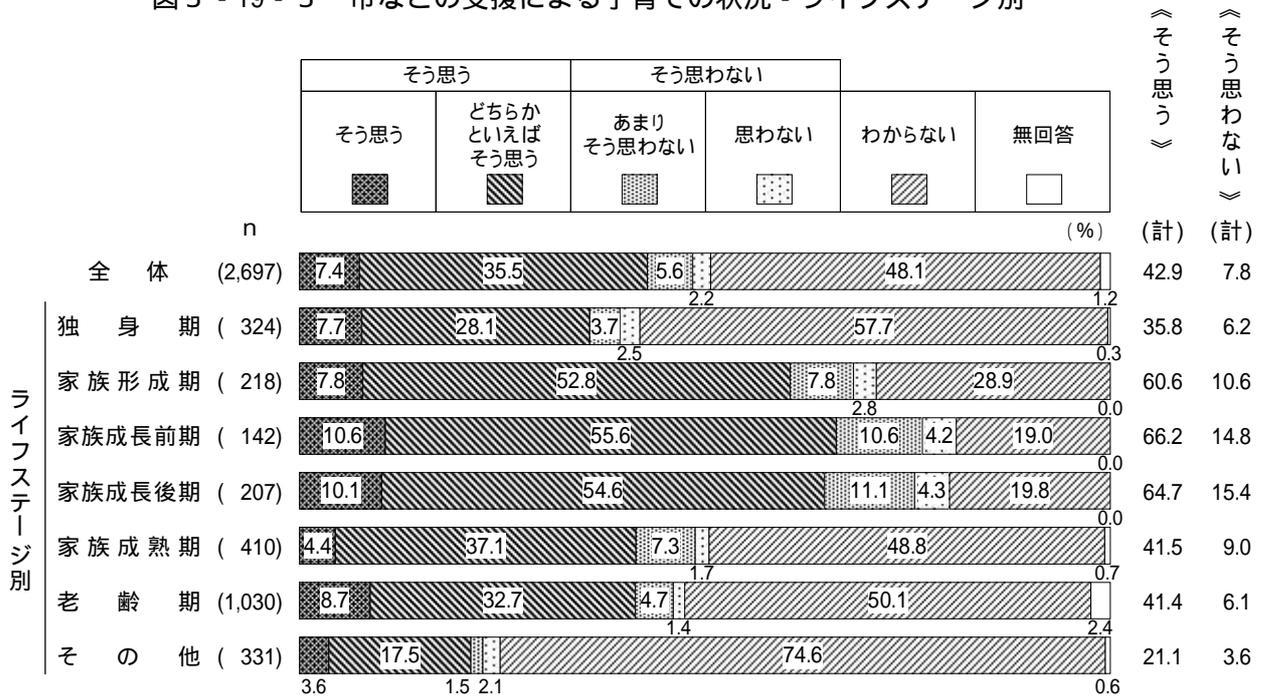
前回までの調査と比較すると、 **そう思う** は令和2年(2020年)(40.5%)より2.4ポイント増加している。(図3 - 19 - 1)

図3 - 19 - 2 市などの支援による子育ての状況 - 居住地域別



居住地域別にみると、そう思うは浅川・横山・館(西南部地域)(45.3%)と由井・北野(東南部地域)(44.9%)で4割台半ばと多くなっている。(図3 - 19 - 2)

図3 - 19 - 3 市などの支援による子育ての状況 - ライフステージ別



ライフステージ別にみると、そう思うは家族成長前期(66.2%)で7割近くと多くなっている。一方、そう思わないは家族成長後期(15.4%)と家族成長前期(14.8%)で1割台半ばとなっている。(図3 - 19 - 3)

## (20) 安心した子育てができていないと思う理由 (自由意見)

(問30で「あまりそう思わない」または「思わない」とお答えの方へ)

問30 - 1 そのように感じる理由があれば、以下の欄にご自由にお書きください。(自由記述)

子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていないかについて「あまりそう思わない」または「思わない」と答えた210人に、そのように思う理由を自由記述形式で聞いたところ、119人から回答があった。その中から抜粋した意見を掲載した。なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがある。

- 市職員の対応を見ていると、多様性もなく、「冷たく感じてつらい思いをした。」と言う知人もかなり多いので、八王子市は子育て支援に力を入れているとは思えません。内容よりも、対応をまず見直すべきです。(男性18~29歳)
- 多胎児の育児に対しての情報や支援がもう少しあるとありがたいです。(女性30~39歳)
- オムツの無料支援をしてほしい(川崎市のように)。ひとり親手当が充実しているように、子供が増えるほど出費はかさむので、ふたり親世帯も生活は苦しくなるはず、子供をたくさん産んでも充実して安心した生活ができる保障がほしい。(女性30~39歳)
- 周囲の子育ての話聞いていて、支援が少なく苦労している話をよく聞く。また、支援などがあっても条件が厳しく、(子供は1歳児からしか預けられないなど)利用できてない人も多い。本人たちは詳しく調べる時間がないほど子育てに忙しいのに、支援制度は探しにくく見つけにくい。市などに問い合わせた相談しても積極的に助けてくれないという悩みも複数回聞いた。  
(女性30~39歳)
- 低年齢のお子さんの家庭だけが優遇されていると思う。一家にお子さんが1人しかいない家庭より、3人以上いる家庭の方、高校や大学に進学した子がいる家庭を優遇して欲しい。幼稚園の時などは毎月2、3万で済むが、大学とかになるとそんな金額では済まない。(女性40~49歳)
- ワンオペで子育てをして、困っている人がたくさんいると思います。支援などの情報が行き届いていない気がします。もっと支援の情報をたくさん発信して、たくさんの子育てをされてる方々が安心して子育てできる環境を作ってほしいと思います。(女性40~49歳)
- 必要な人に必要な支援が届いていない印象があります。マンパワーが足りていないように思う。保健師の対応がよろしくない。乳幼児健診に行くと、保健師の心ない一言で私も傷ついたり、他からも「保健師に嫌なことを言われた。」という声を聞く。(女性40~49歳)
- どんな支援があるか情報が少ないので、支援について発信をもっとした方が良いと思います。  
(女性40~49歳)
- 市では子育てに関する支援をいろいろしているとは思いますが、近所のママさんから聞いて初めて知ることも多かった。地域から孤立してしまっているお母さんは情報が伝わらない場合があると思う。(女性40~49歳)
- 公園でボール遊びができないなど、子供をおおらかに見守れない、子供がのびのびできない環境だと感じる。(女性50~59歳)
- 金銭的な支援が少ない。環境は良いが、大人の見回りがなく、夜間に危ない箇所が多い。警察官は交通安全にばかり力をかけている。(女性50~59歳)
- 保育園の入園条件が色々難しいようで、女性が働きたくても乳幼児が希望通り入園できないようです。待機児童ゼロと言いながら、実際は違うそうです。(女性65歳以上)

## (21) 市民協働の進捗状況

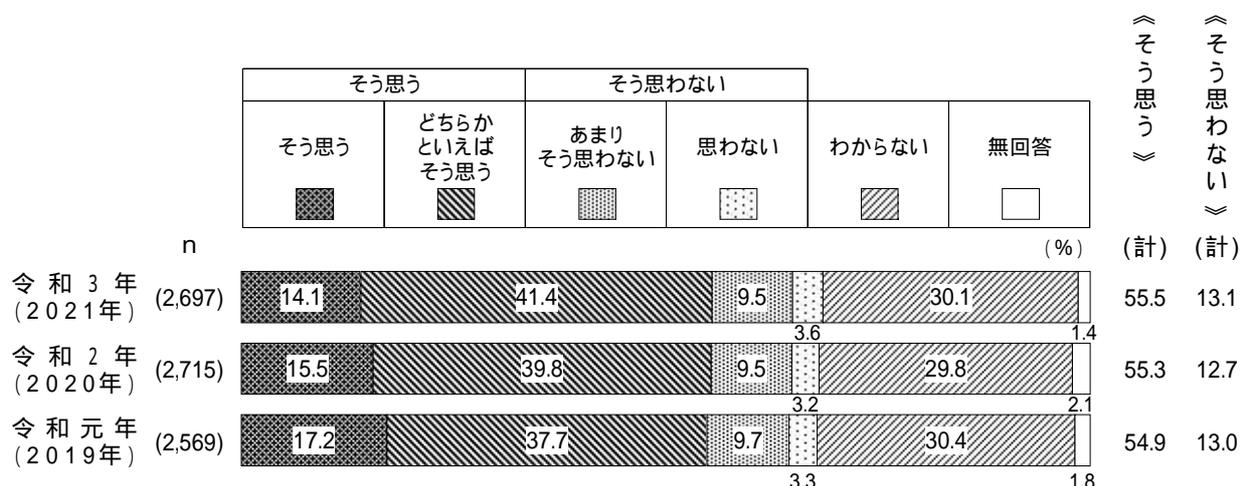
そう思う が5割台半ば

問31 あなたは、市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思いますか。( は1つだけ)

市民協働によるまちづくりとは・・・

八王子まつり、いちょう祭り、環境フェスティバルなどを市民と市が協力して開催  
 町会・自治会等が主体となって行う防犯・防災活動や環境美化活動  
 公園や道路の維持活動(清掃や除草などのボランティア活動)を地域の住民の方が担う  
 アドプト制度  
 各種審議会や市の計画策定などに参加していただく市民委員の公募  
 計画、条例等の作成過程におけるパブリックコメント(意見募集)の実施 など

図3 - 21 - 1 市民協働の進捗状況 - 全体、経年比較

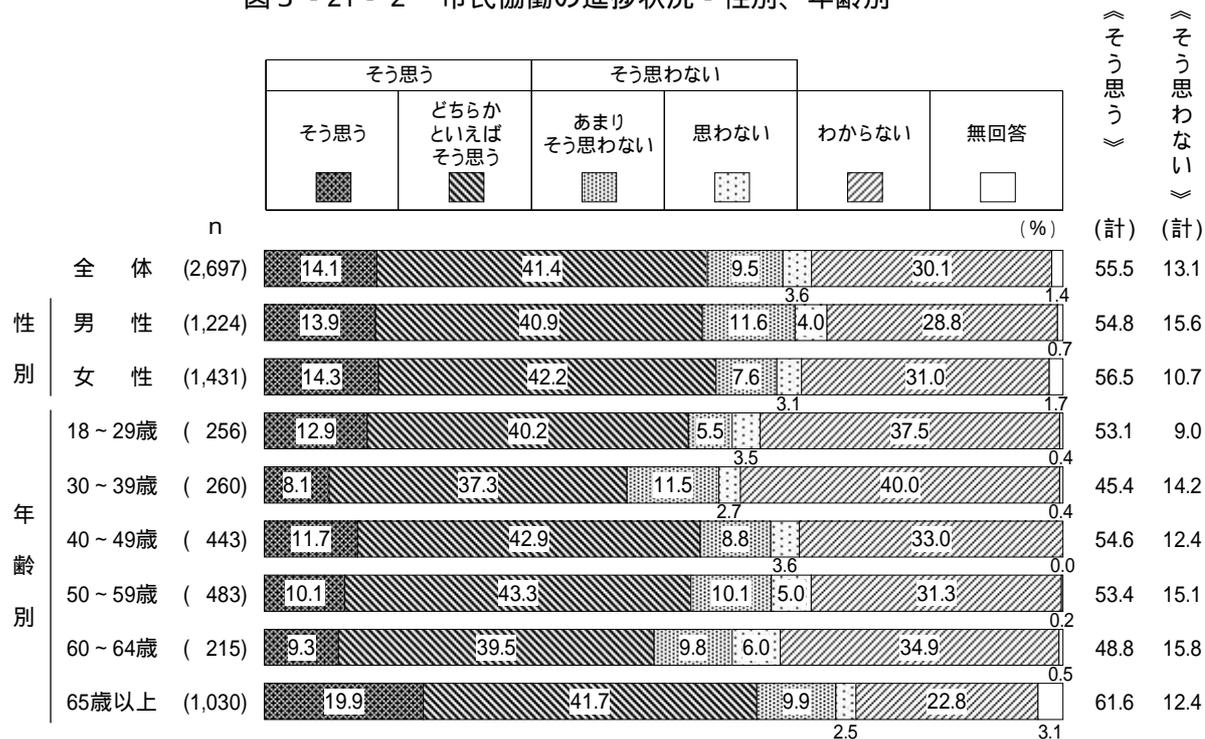


市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思うか聞いたところ、「そう思う」(14.1%)と「どちらかといえばそう思う」(41.4%)を合わせた そう思う (55.5%)は5割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(9.5%)と「思わない」(3.6%)を合わせた そう思わない (13.1%)は1割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 21 - 1)

図3 - 21 - 2 市民協働の進捗状況 - 性別、年齢別

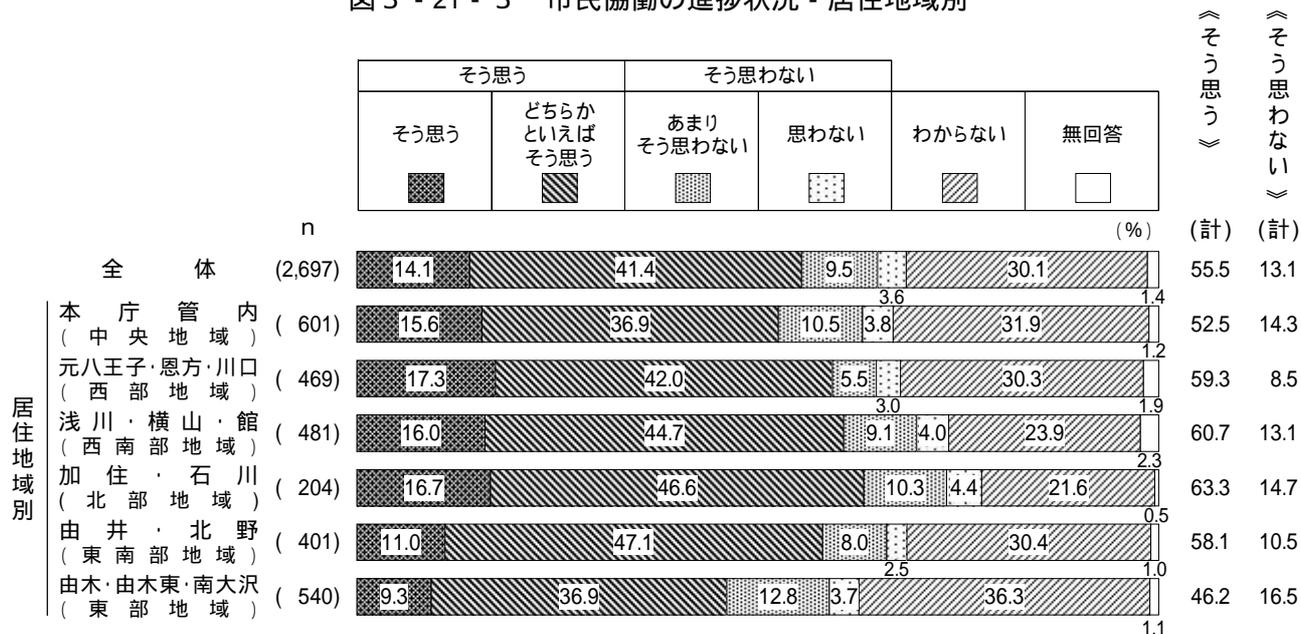


性別にみると、そう思わないは男性（15.6%）が女性（10.7%）より4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、そう思うは65歳以上（61.6%）で6割強と多くなっている。

(図3 - 21 - 2)

図3 - 21 - 3 市民協働の進捗状況 - 居住地域別



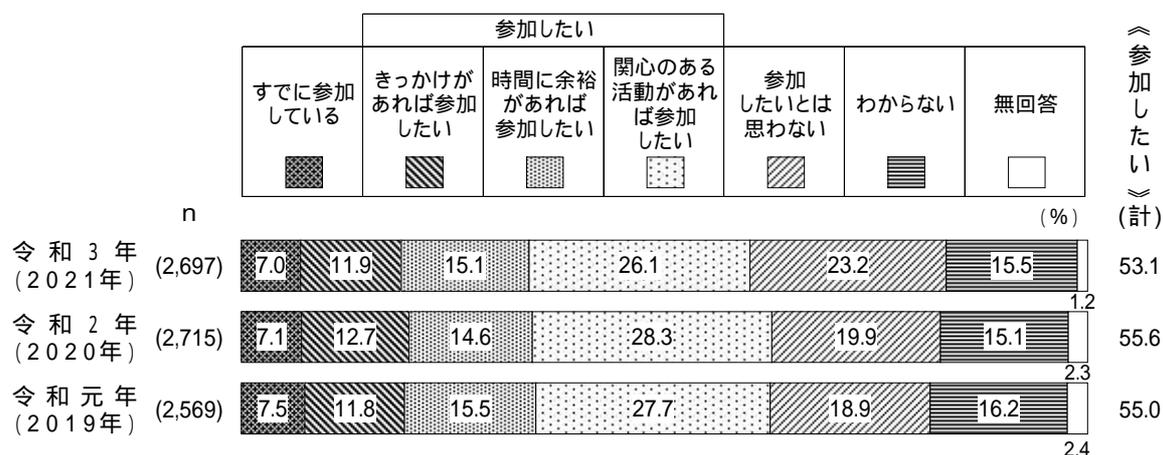
居住地域別にみると、そう思うは加住・石川(北部地域)（63.3%）で6割強と多くなっている。(図3 - 21 - 3)

## (22) 市民協働によるまちづくりへの参加意向

参加したい が5割強

問32 あなたは、問31で例示したような市民協働によるまちづくりに参加したいと思いませんか。( は1つだけ)

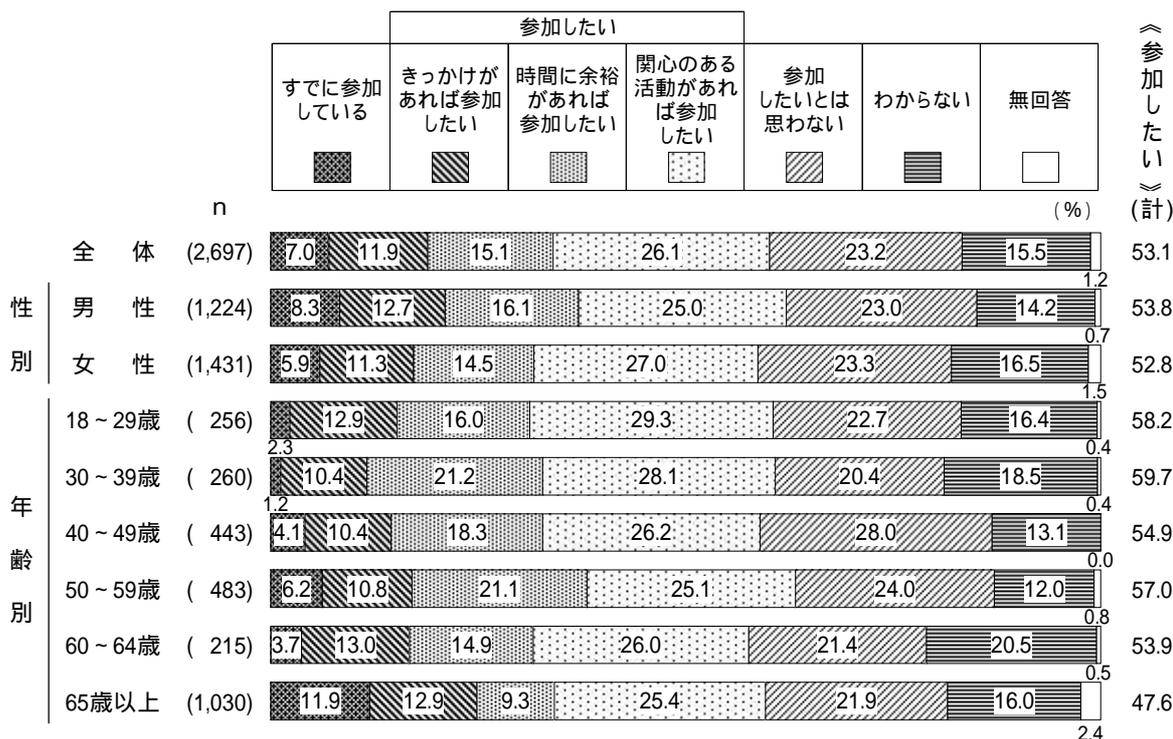
図3 - 22 - 1 市民協働によるまちづくりへの参加意向 - 全体、経年比較



市民協働によるまちづくりに参加したいと思うか聞いたところ、「すでに参加している」(7.0%)は1割未満となっている。また、「きっかけがあれば参加したい」(11.9%)、「時間に余裕があれば参加したい」(15.1%)、「関心のある活動があれば参加したい」(26.1%)の3つを合わせた「参加したい」(53.1%)は5割強となっている。一方、「参加したいとは思わない」(23.2%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「参加したいとは思わない」は令和2年(2020年)(19.9%)より3.3ポイント増加している。(図3 - 22 - 1)

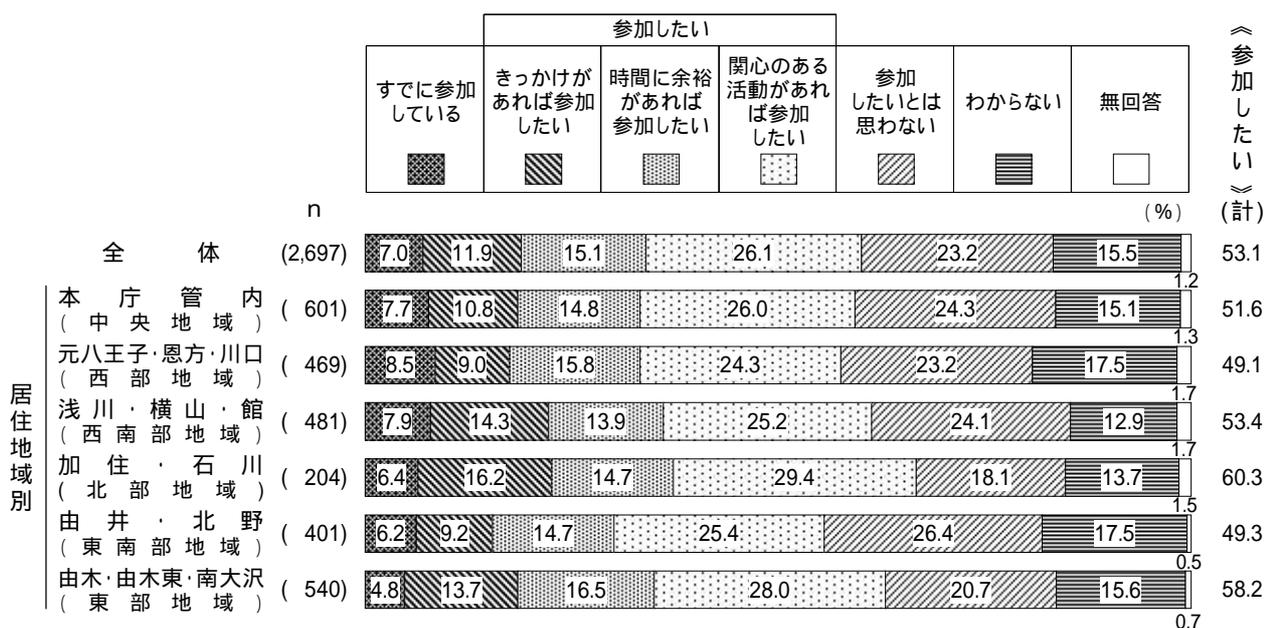
図3 - 22 - 2 市民協働によるまちづくりへの参加意向 - 性別、年齢別



性別にみると、「すでに参加している」は男性（8.3%）が女性（5.9%）より2.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、参加したいは30～39歳（59.7%）で6割弱と多くなっている。一方、「参加したいとは思わない」は40～49歳（28.0%）で3割近くと多くなっている。（図3 - 22 - 2）

図3 - 22 - 3 市民協働によるまちづくりへの参加意向 - 居住地域別



居住地域別にみると、参加したいは加住・石川(北部地域)（60.3%）で約6割と多くなっている。（図3 - 22 - 3）

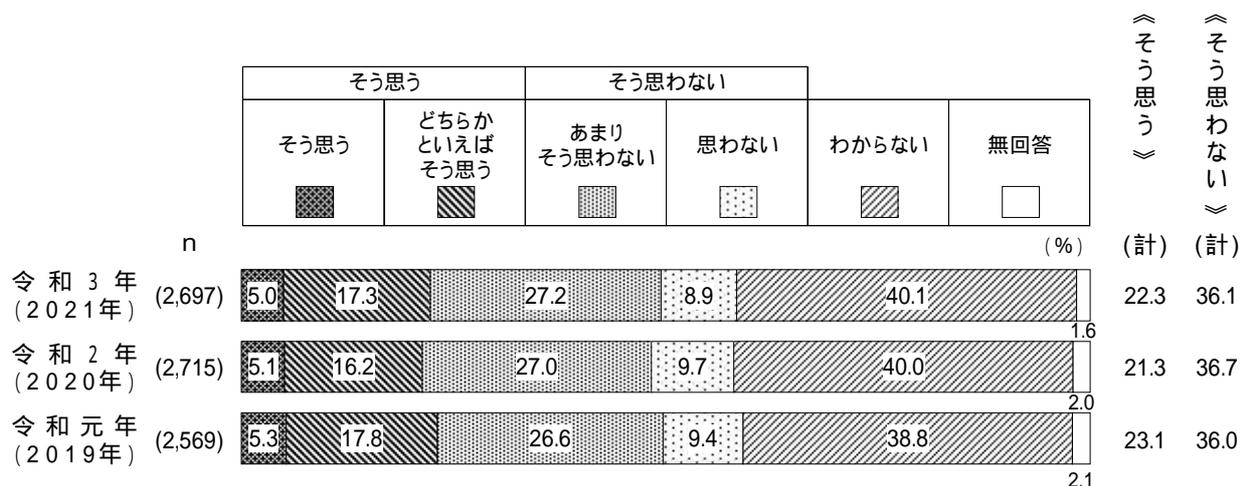
## (23) 大学等のまちづくりへの活用

そう思う が2割強

問33 あなたは、市内およびその周辺地域に立地している大学・短大・高等専門学校の高度な専門的知識や学生の活力が、まちづくりに活かされていると思いますか。

( は1つだけ)

図3 - 23 - 1 大学等のまちづくりへの活用 - 全体、経年比較

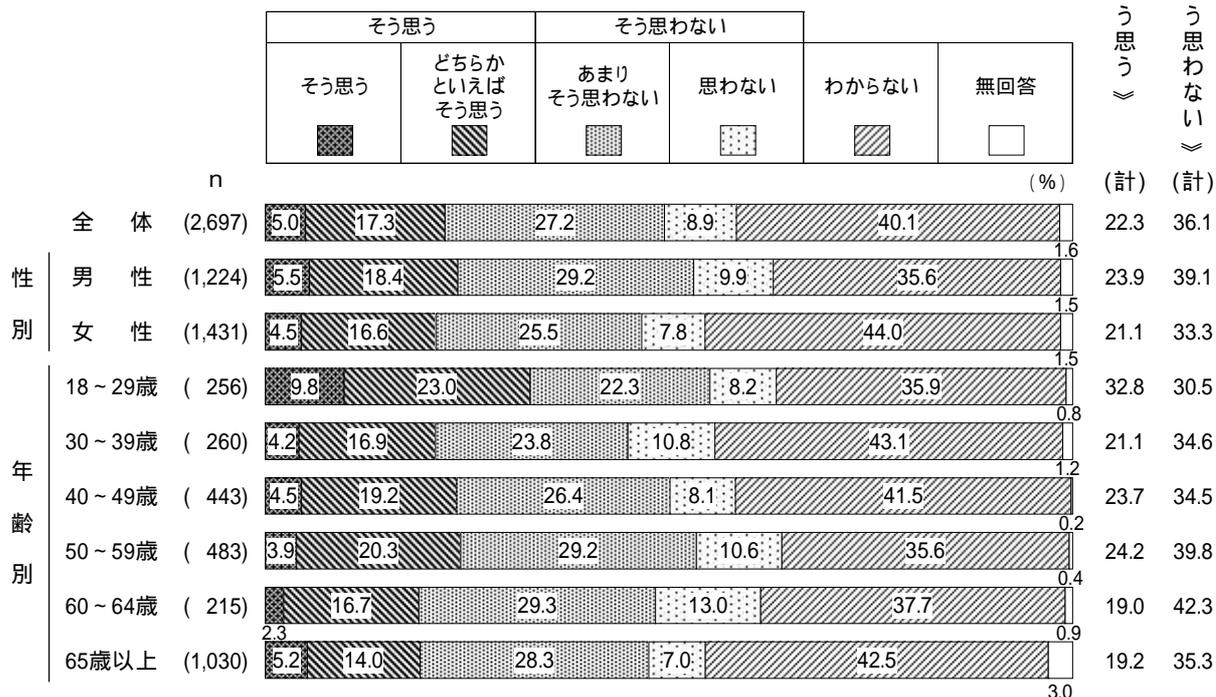


大学・短大・高等専門学校の高度な専門的知識や学生の活力がまちづくりに活かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.0%)と「どちらかといえばそう思う」(17.3%)を合わせたそう思う (22.3%)は2割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(27.2%)と「思わない」(8.9%)を合わせた そう思わない (36.1%)は4割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 23 - 1)

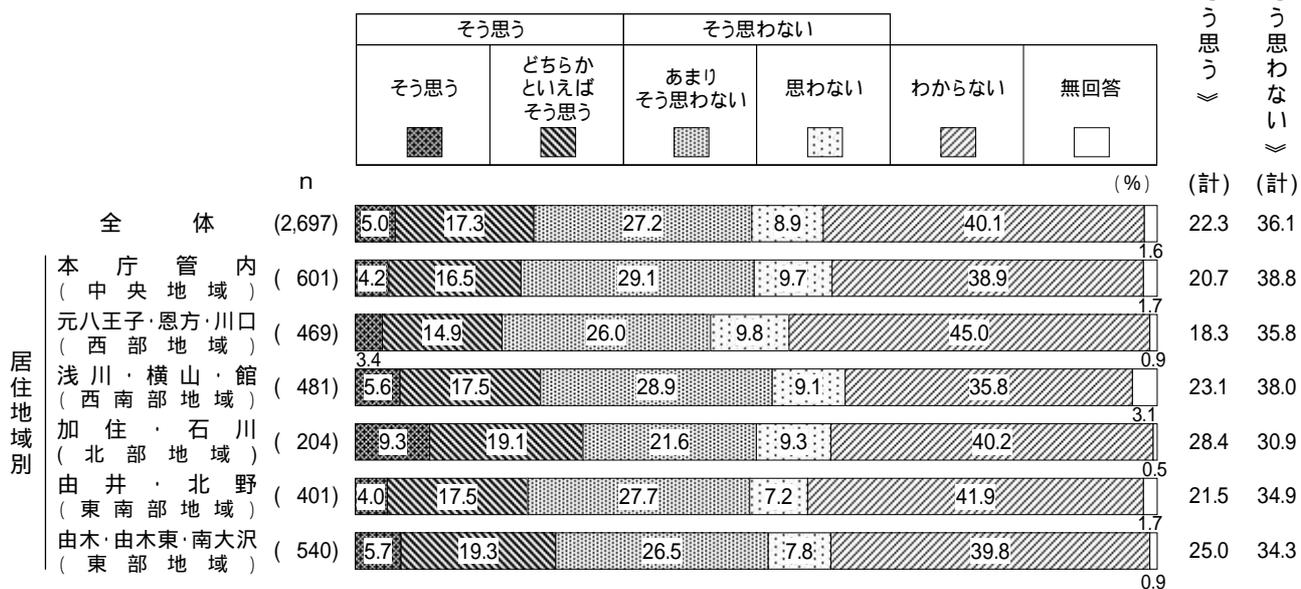
図3 - 23 - 2 大学等のまちづくりへの活用 - 性別、年齢別



性別にみると、そう思わないは男性（39.1%）が女性（33.3%）より5.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、そう思うは18～29歳（32.8%）で3割強と多くなっている。一方、そう思わないは60～64歳（42.3%）で4割強と多くなっている。（図3 - 23 - 2）

図3 - 23 - 3 大学等のまちづくりへの活用 - 居住地域別



居住地域別にみると、そう思うは加住・石川(北部地域)（28.4%）で3割近くと多くなっている。一方、そう思わないは本庁管内(中央地域)（38.8%）と浅川・横山・館(西南部地域)（38.0%）で4割近くと多くなっている。（図3 - 23 - 3）

## (24) この1年間の文化芸術活動への参加頻度

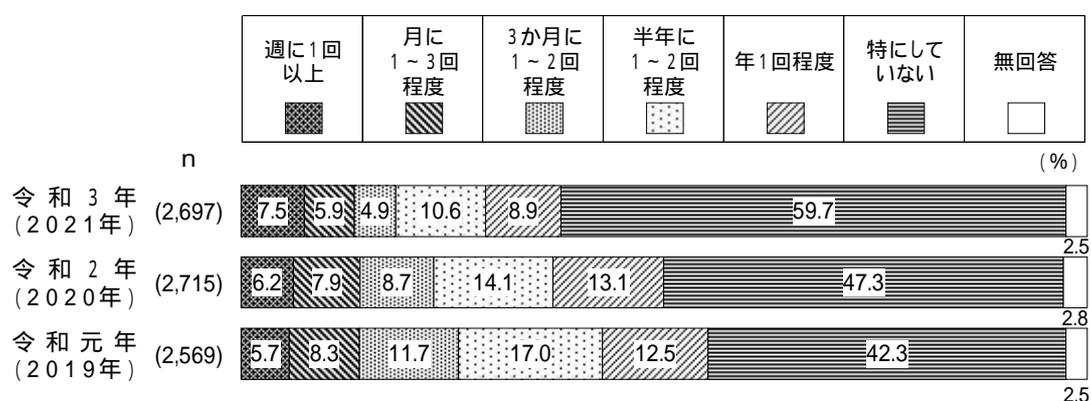
「半年に1～2回程度」が約1割

問34 あなたは、この1年間に、どのくらいの頻度で文化芸術活動に参加（観賞も含みます）しましたか。（ は1つだけ）

文化芸術活動とは・・・

音楽（オペラ、オーケストラ、合唱、吹奏楽、ジャズなど）  
 ポップス（J-POP（日本の若者向けポピュラー音楽）など）  
 美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）  
 メディア芸術（映画、マンガ、アニメーション、メディアアートなど）  
 伝統芸能（歌舞伎、落語、車人形、雅楽、能楽など）  
 歴史的な建物や遺跡（建造物、史跡、名勝など）  
 文学（小説、詩、短歌、俳句など）  
 生活文化（茶道、華道、書道、囲碁、将棋など）  
 演劇（現代演劇、ミュージカル、人形劇など）  
 舞踊（日本舞踊、バレエ、コンテンポラリーダンスなど）  
 芸能（落語、講談、浪曲、漫才など） など

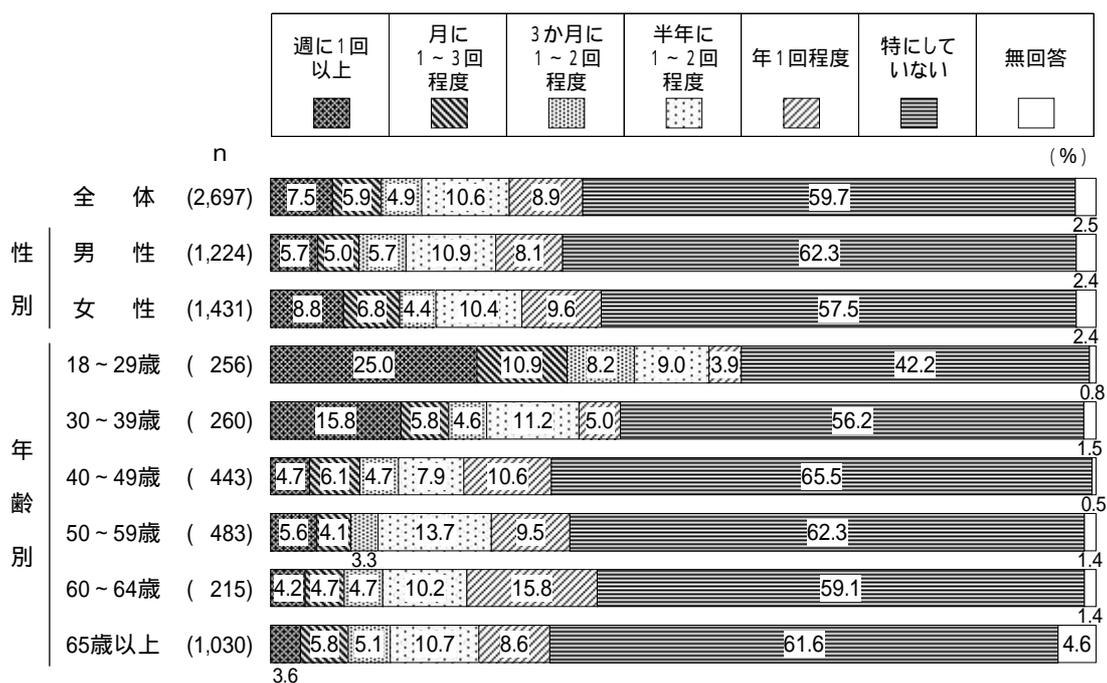
図3 - 24 - 1 この1年間の文化芸術活動への参加頻度 - 全体、経年比較



この1年間にどのくらいの頻度で文化芸術活動に参加したか聞いたところ、「半年に1～2回程度」(10.6%)が約1割となっている。一方、「特にしていない」(59.7%)は6割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、「特にしていない」は令和2年(2020年)(47.3%)より12.4ポイント増加している。一方、「年1回程度」は令和2年(2020年)(13.1%)より4.2ポイント、「3か月に1～2回程度」は令和2年(2020年)(8.7%)より3.8ポイント、「半年に1～2回程度」は令和2年(2020年)(14.1%)より3.5ポイント、それぞれ減少している。(図3 - 24 - 1)

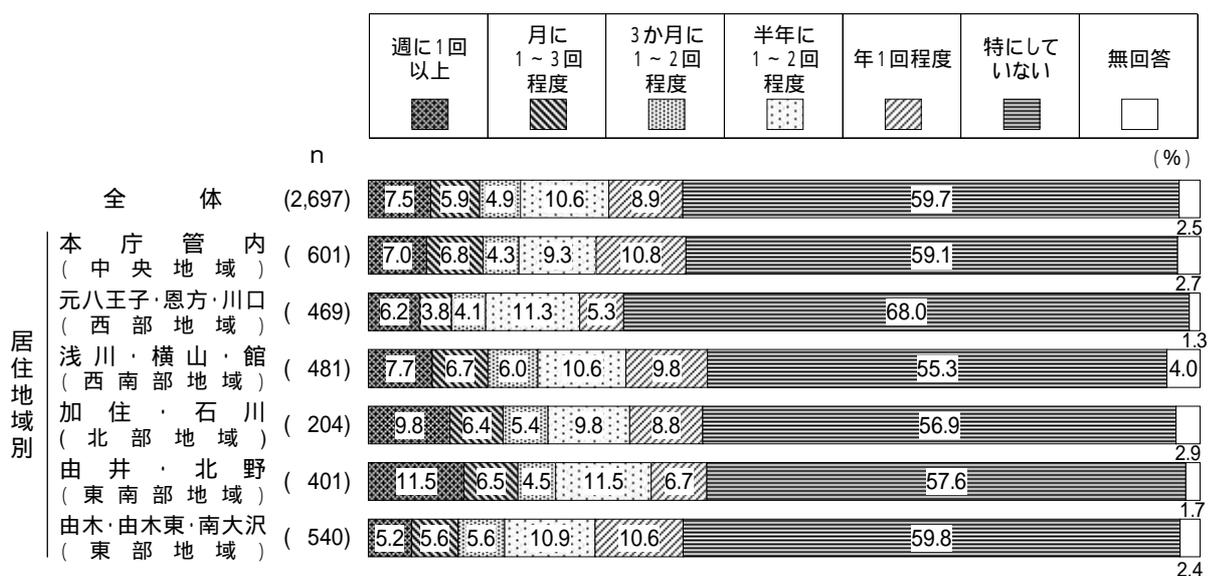
図3 - 24 - 2 この1年間の文化芸術活動への参加頻度 - 性別、年齢別



性別にみると、「特にしていない」は男性（62.3%）が女性（57.5%）より4.8ポイント高くなっている。一方、「週に1回以上」は女性（8.8%）が男性（5.7%）より3.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「週に1回以上」は18~29歳（25.0%）で2割台半ばと多くなっている。一方、「特にしていない」は40~49歳（65.5%）で6割台半ばと多くなっている。（図3 - 24 - 2）

図3 - 24 - 3 この1年間の文化芸術活動への参加頻度 - 居住地域別



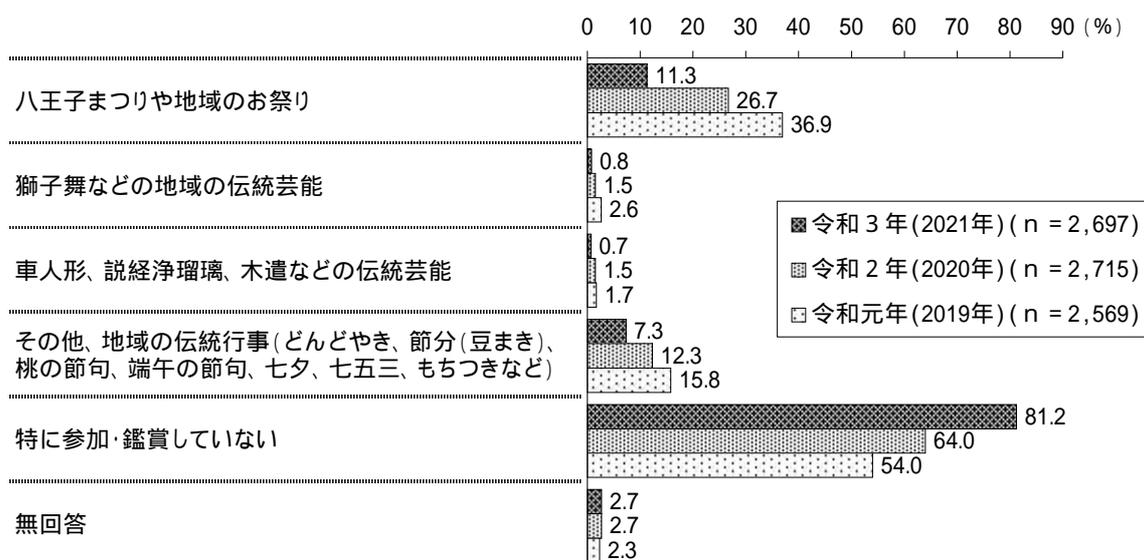
居住地域別にみると、「特にしていない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（68.0%）で7割近くと多くなっている。（図3 - 24 - 3）

## (25) この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況

「八王子まつりや地域のお祭り」が1割強

問35 あなたは、この1年間に、次のような地域の伝統行事や伝統芸能に参加（鑑賞も含みます）しましたか。（はいいくつでも）

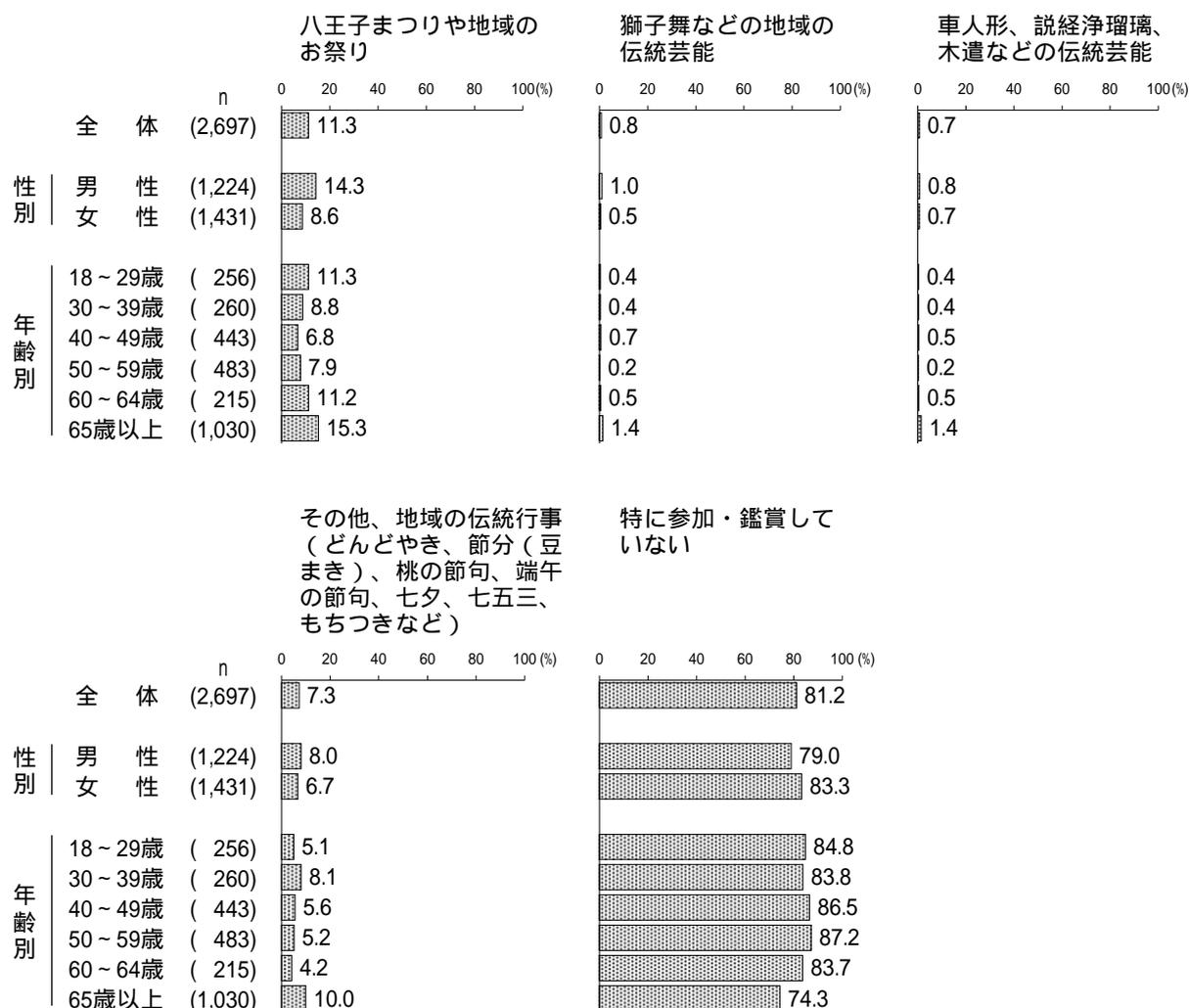
図3 - 25 - 1 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況 - 全体、経年比較



この1年間に地域の伝統行事や伝統芸能に参加したか聞いたところ、「八王子まつりや地域のお祭り」(11.3%)が1割強で最も多くなっている。次いで「その他、地域の伝統行事(どんとやき、節分(豆まき)、桃の節句、端午の節句、七夕、七五三、もちつきなど)」(7.3%)、「獅子舞などの地域の伝統芸能」(0.8%)、「車人形、説経浄瑠璃、木遣などの伝統芸能」(0.7%)の順となっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」(81.2%)は8割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「八王子まつりや地域のお祭り」は令和2年(2020年)(26.7%)より15.4ポイント、「その他、地域の伝統行事(どんとやき、節分(豆まき)、桃の節句、端午の節句、七夕、七五三、もちつきなど)」は令和2年(2020年)(12.3%)より5.0ポイント、それぞれ減少している。(図3 - 25 - 1)

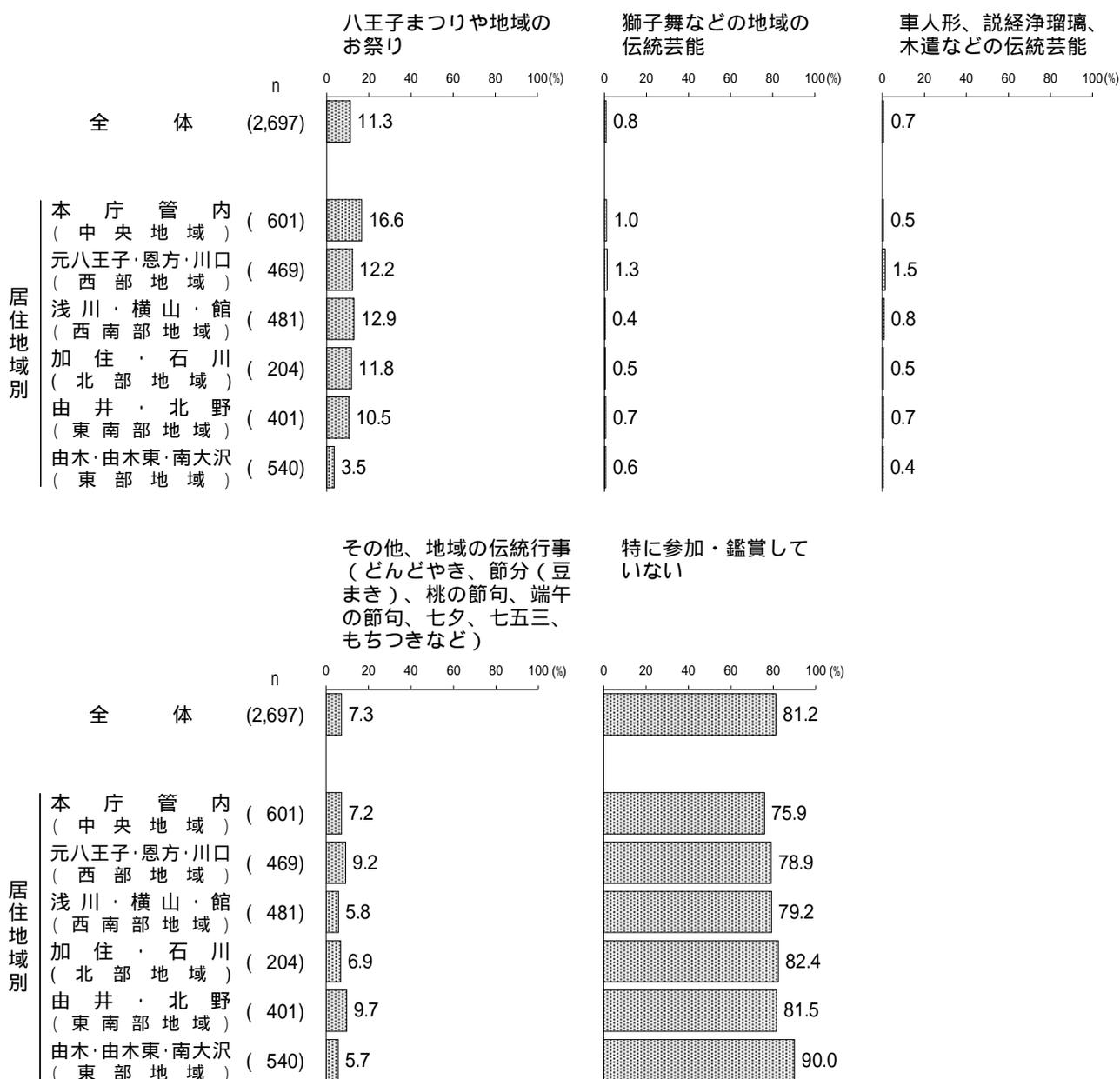
図3 - 25 - 2 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況 - 性別、年齢別



性別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は男性（14.3%）が女性（8.6%）より5.7ポイント高くなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は女性（83.3%）が男性（79.0%）より4.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は65歳以上（15.3%）で1割台半ばとなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は40~49歳（86.5%）と50~59歳（87.2%）で9割近くと多くなっている。（図3 - 25 - 2）

図3 - 25 - 3 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況 - 居住地域別



居住地域別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は本庁管内(中央地域)(16.6%)で2割近くとなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(90.0%)で9割と多くなっている。(図3 - 25 - 3)

## (26) 日本遺産認定の周知度

認定されたことを知っている が6割近く

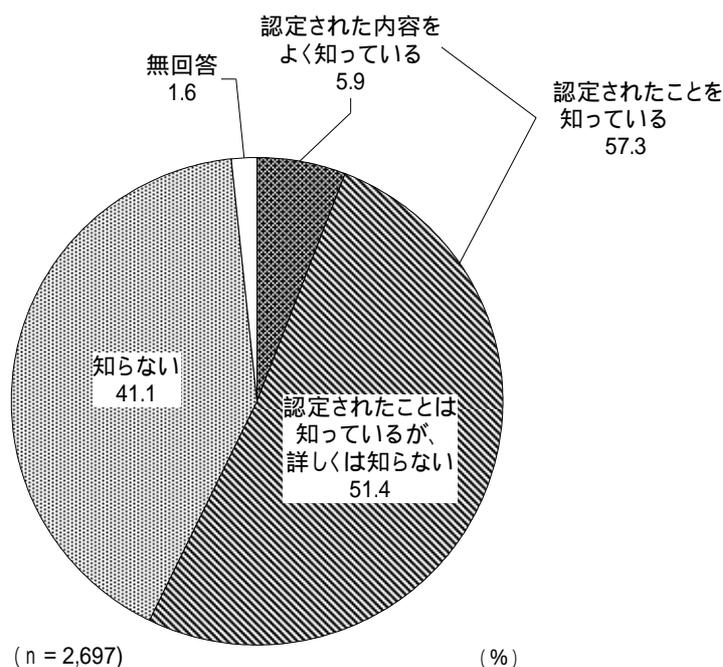
問36 八王子市の歴史文化の魅力を語るストーリーが『日本遺産』に認定されたことを知っていますか。( は1つだけ)

「日本遺産」とは・・・

地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを国が認定する制度です。日本全国で、104のストーリーが「日本遺産」に認定されており、都内で唯一認定されているのが、八王子市のストーリー『霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～』です。

このストーリーは、養蚕や織物が盛んだったことから「桑都」と称された八王子の発展の歴史を、霊山・高尾山への人々の祈りをテーマにしてつづられています。

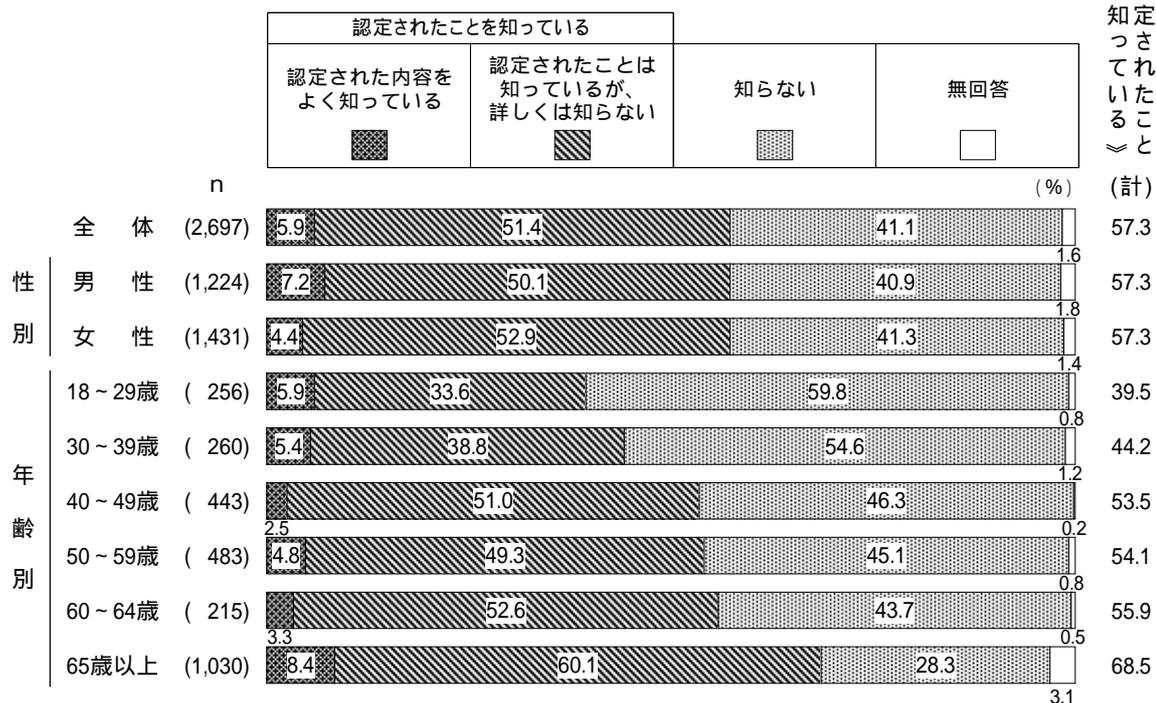
図3 - 26 - 1 日本遺産認定の周知度 - 全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

八王子市の歴史文化の魅力を語るストーリーが『日本遺産』に認定されたことを知っているか聞いたところ、「認定された内容をよく知っている」(5.9%)と「認定されたことは知っているが、詳しくは知らない」(51.4%)を合わせた 認定されたことを知っている (57.3%)は6割近くとなっている。一方、「知らない」(41.1%)は4割強となっている。(図3 - 26 - 1)

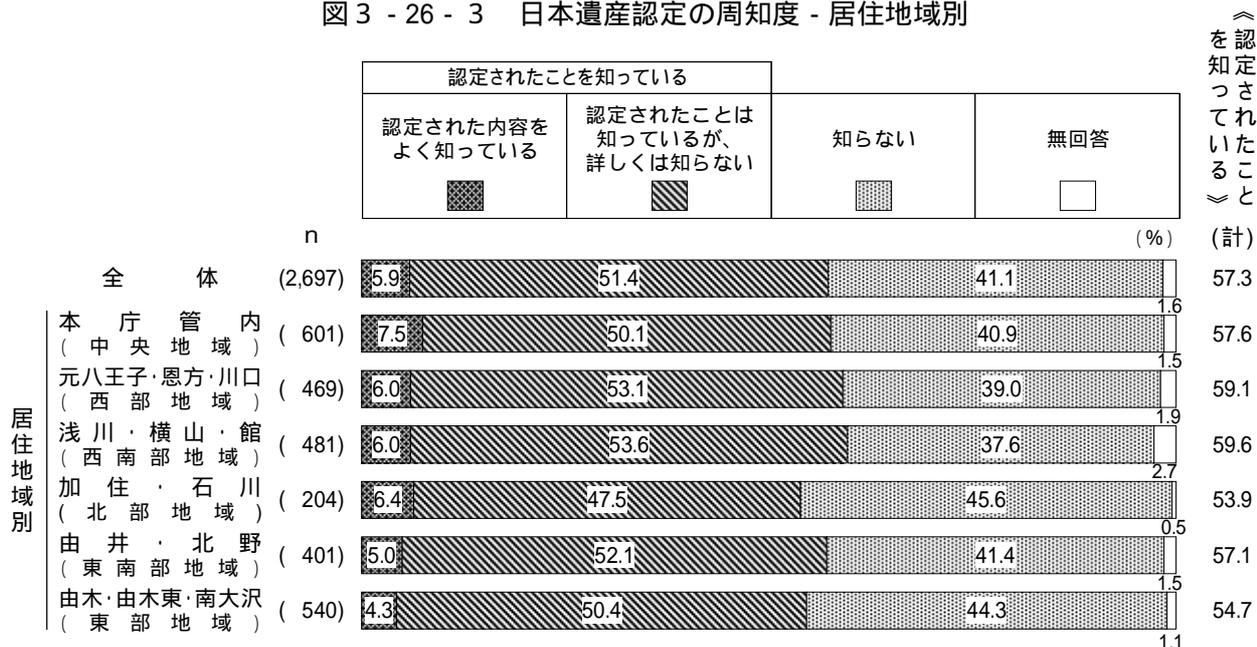
図3 - 26 - 2 日本遺産認定の周知度 - 性別、年齢別



性別にみると、「認定された内容をよく知っている」は男性（7.2%）が女性（4.4%）より2.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、認定されたことを知っている は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（68.5%）で7割近くと多くなっている。一方、「知らない」は18～29歳（59.8%）で6割弱と多くなっている。（図3 - 26 - 2）

図3 - 26 - 3 日本遺産認定の周知度 - 居住地域別



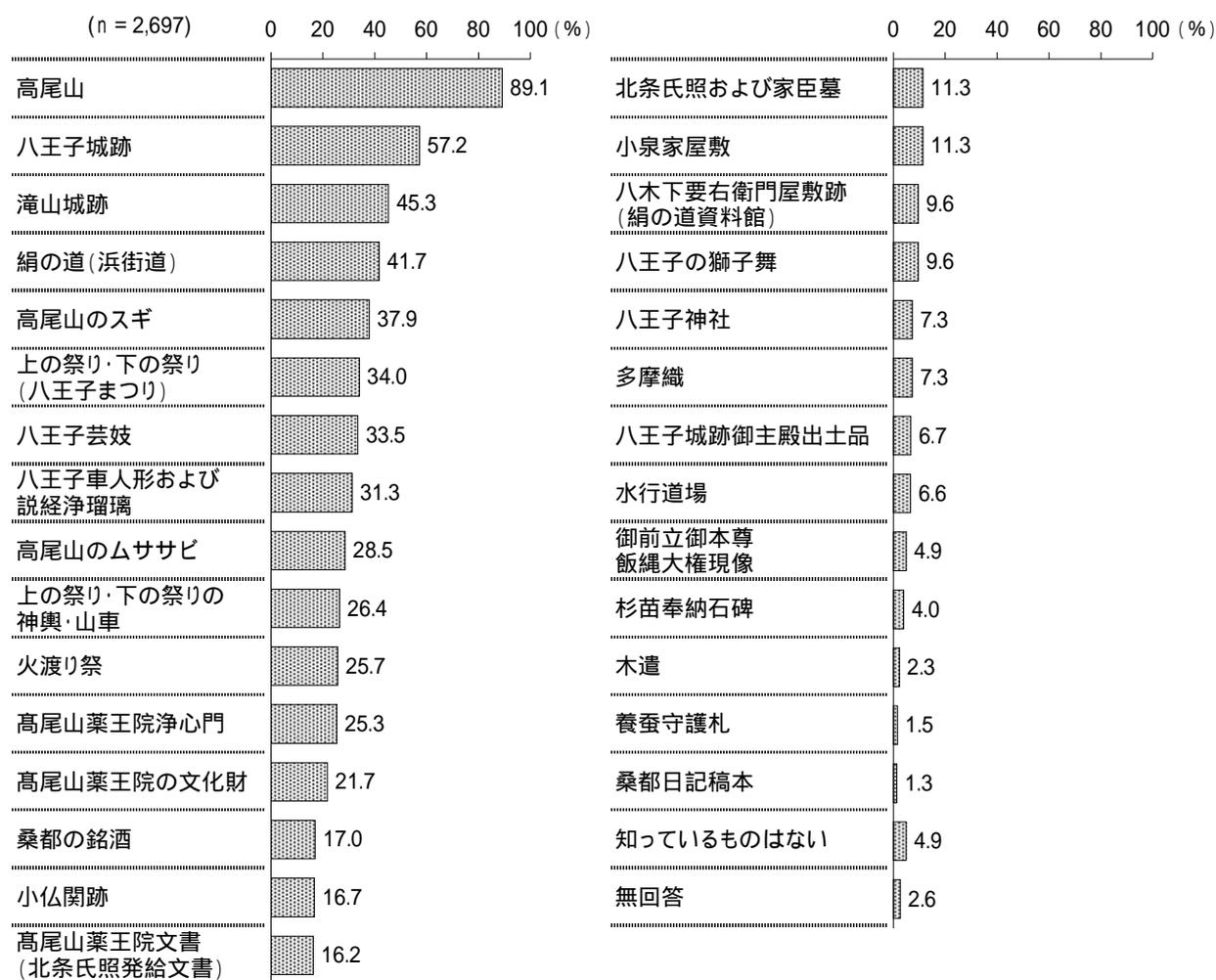
居住地域別にみると、認定されたことを知っている は浅川・横山・館（西南部地域）（59.6%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（59.1%）で6割弱と多くなっている。（図3 - 26 - 3）

## (27) 日本遺産構成文化財の周知度

「高尾山」が9割弱

問37 八王子市の『日本遺産』の構成文化財（29件）のうち、知っているものは何がありますか。（はいくつでも）

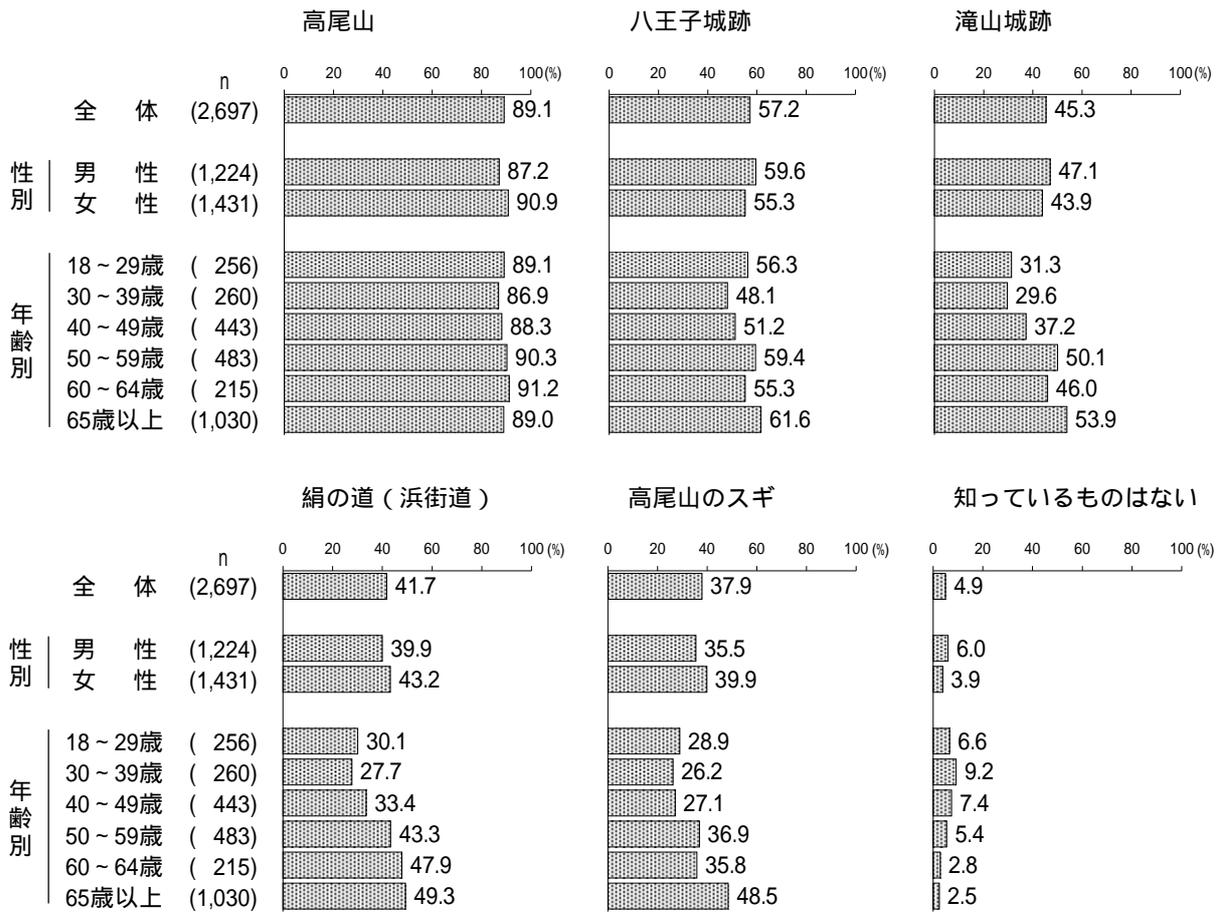
図3 - 27 - 1 日本遺産構成文化財の周知度 - 全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

八王子市の『日本遺産』の構成文化財（29件）のうち、知っているものを聞いたところ、「高尾山」(89.1%)が9割弱で最も多くなっている。次いで「八王子城跡」(57.2%)、「滝山城跡」(45.3%)、「絹の道(浜街道)」(41.7%)、「高尾山のスギ」(37.9%)などの順となっている。一方、「知っているものはない」(4.9%)は1割未満となっている。(図3 - 27 - 1)

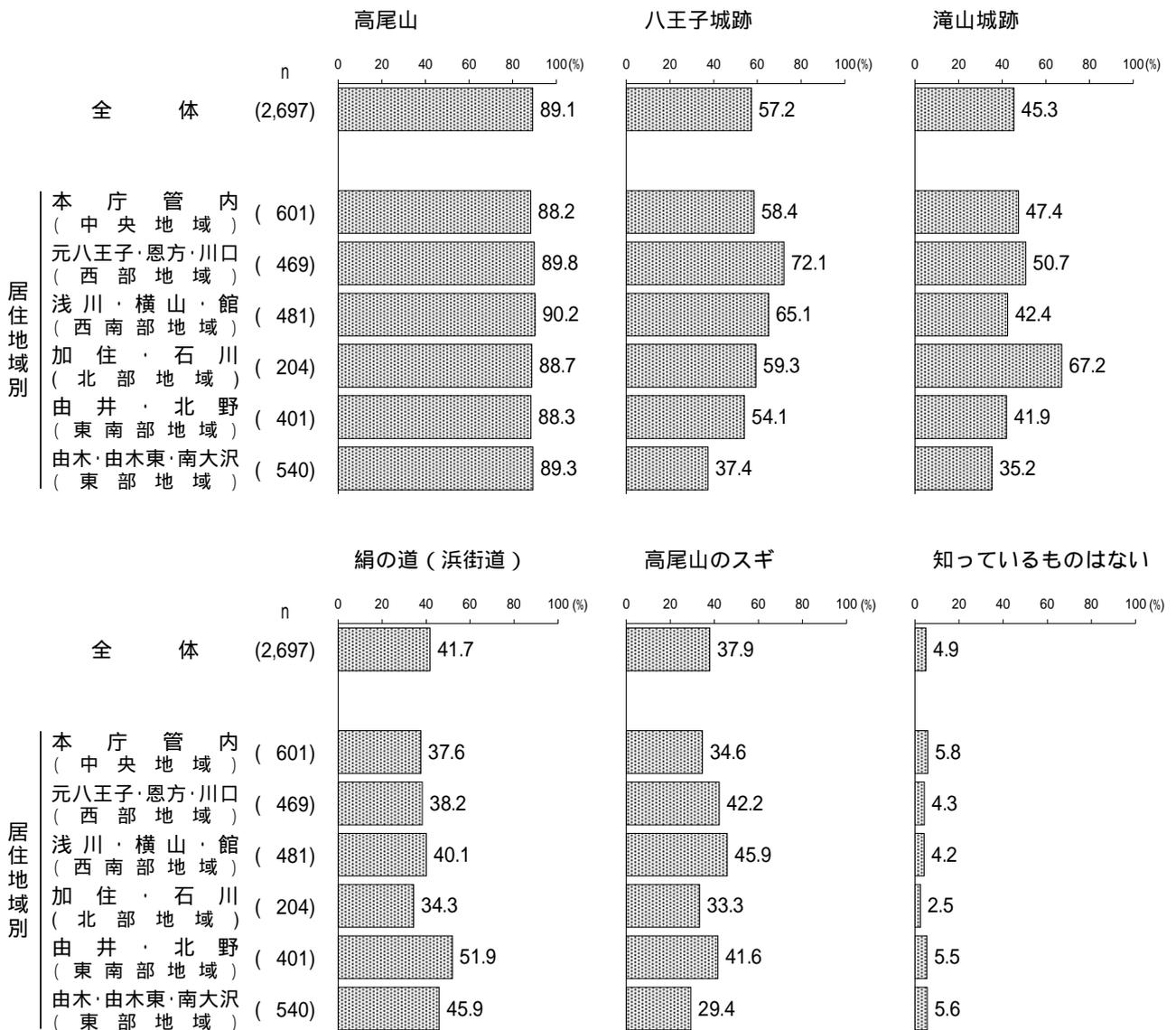
図3 - 27 - 2 日本遺産構成文化財の周知度 - 性別、年齢別（上位5位 + 「知っているものはない」）



性別にみると、「高尾山のスギ」は女性（39.9%）が男性（35.5%）より4.4ポイント、「高尾山」は女性（90.9%）が男性（87.2%）より3.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「八王子城跡」は男性（59.6%）が女性（55.3%）より4.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「八王子城跡」は65歳以上（61.6%）で6割強と多くなっている。「滝山城跡」は65歳以上（53.9%）で5割強、50~59歳（50.1%）で約5割と多くなっている。「高尾山のスギ」は65歳以上（48.5%）で5割近くと多くなっている。（図3 - 27 - 2）

図3 - 27 - 3 日本遺産構成文化財の周知度 - 居住地域別（上位5位 + 「知っているものはない」）



居住地域別にみると、「八王子城跡」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（72.1%）で7割強と多くなっている。「滝山城跡」は加住・石川（北部地域）（67.2%）で7割近くと多くなっている。「絹の道（浜街道）」は由井・北野（東南部地域）（51.9%）で5割強と多くなっている。

（図3 - 27 - 3）

## (28) 海外友好交流都市の周知度

知っている が3割強

問38 あなたは、市が海外友好交流都市との交流を進めていることを知っていますか。

( は1つだけ)

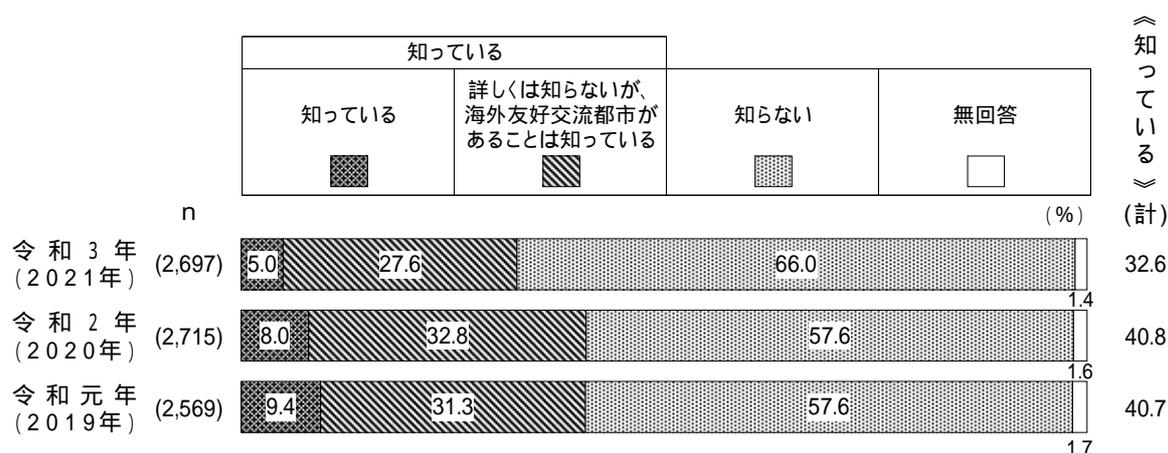
「海外友好交流都市との交流」とは・・・

平成18年(2006年)の市制施行90周年を機に、幅広い市民交流が実現できるよう、市は中国・泰安(たいあん)市、台湾・高雄(たかお)市、韓国・始興(しふん)市の3都市との間で友好交流協定を締結し、文化・教育・スポーツなど様々な面で交流を実施しています。

交流実績：海外友好交流都市写真展、八王子まつりへの出演、サッカー交流 など

また、市制100周年の節目である平成29年(2017年)に、本市中町出身の医師・肥沼 信次(こえぬまのぶつぐ)博士ゆかりのドイツ・ヴリーツェン市と新たな友好交流協定を締結しました。

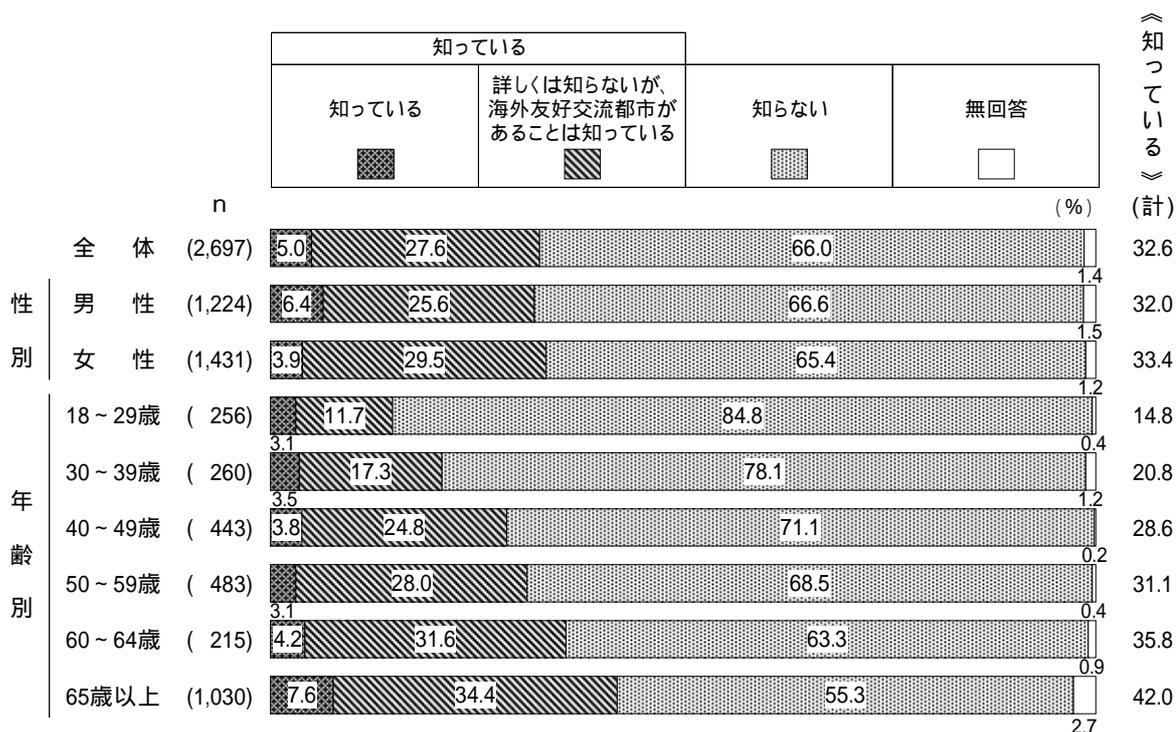
図3 - 28 - 1 海外友好交流都市の周知度 - 全体、経年比較



市が海外友好交流都市との交流を進めていることを知っているか聞いたところ、「知っている」(5.0%)と「詳しくは知らないが、海外友好交流都市があることは知っている」(27.6%)を合わせた 知っている (32.6%)は3割強となっている。一方、「知らない」(66.0%)は7割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、「知らない」は令和2年(2020年)(57.6%)より8.4ポイント増加している。(図3 - 28 - 1)

図3 - 28 - 2 海外友好交流都市の周知度 - 性別、年齢別

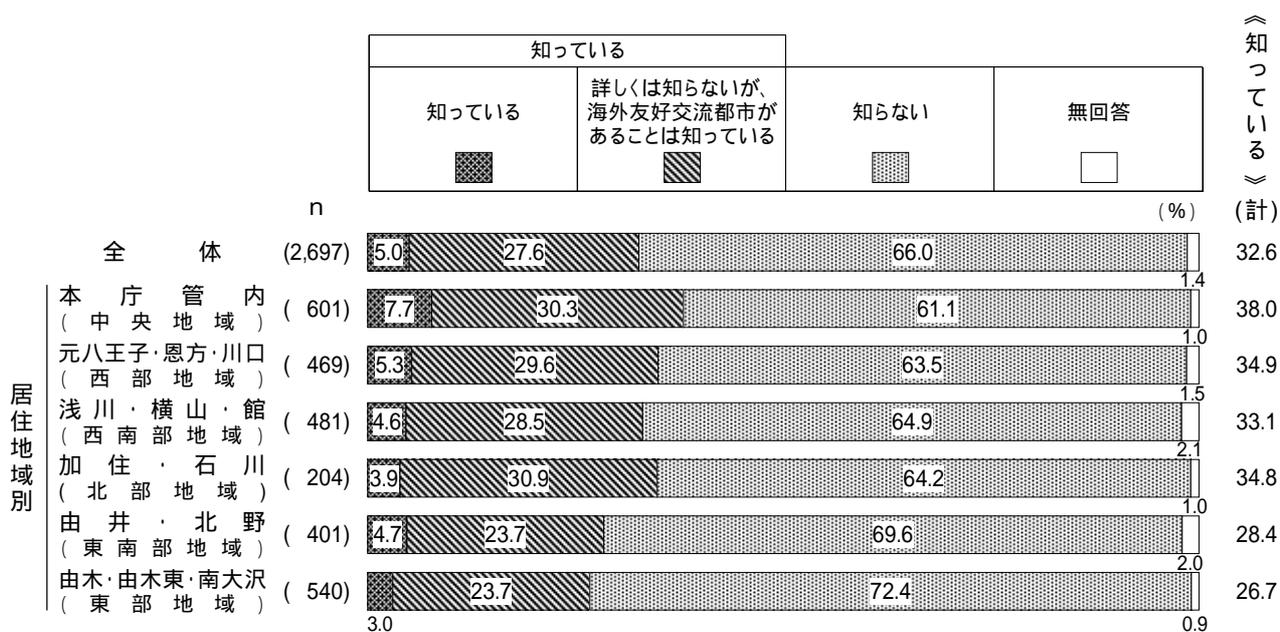


性別にみると、「知っている」は男性(6.4%)が女性(3.9%)より2.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上(42.0%)で4割強と多くなっている。一方、「知らない」は18～29歳(84.8%)で8割台半ばと多くなっている。

(図3 - 28 - 2)

図3 - 28 - 3 海外友好交流都市の周知度 - 居住地域別



居住地域別にみると、「知っている」は本庁管内(中央地域)(38.0%)で4割近くと多くなっている。一方、「知らない」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(72.4%)で7割強と多くなっている。(図3 - 28 - 3)

## (29) 障害のある方への理解や配慮

している が7割近く

問39 あなたは、日ごろ障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしていますか。

( は1つだけ)

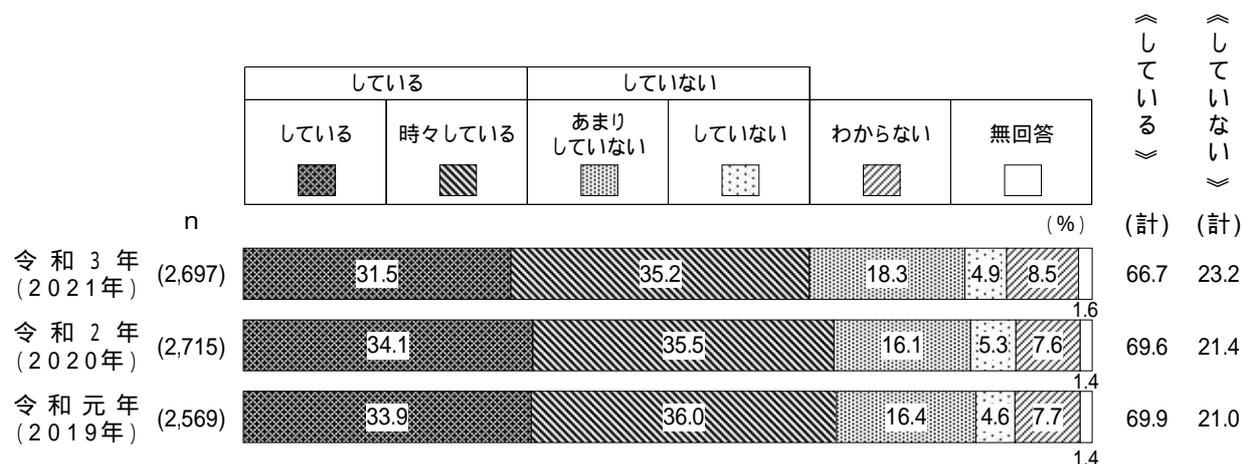
「適切な配慮」とは・・・

困っている様子の方を見かけたら、声をかける。

ゆっくりわかりやすく話すなどしたり、筆談したりするなど障害特性に応じたわかりやすいコミュニケーションの方法に心配りする。

優先席、思いやり駐車スペース、点字ブロックなどを必要としている方の妨げにならないように配慮する。(聴覚障害、内部障害、難病など、外見からは障害がわかりにくい方々もいます。) など

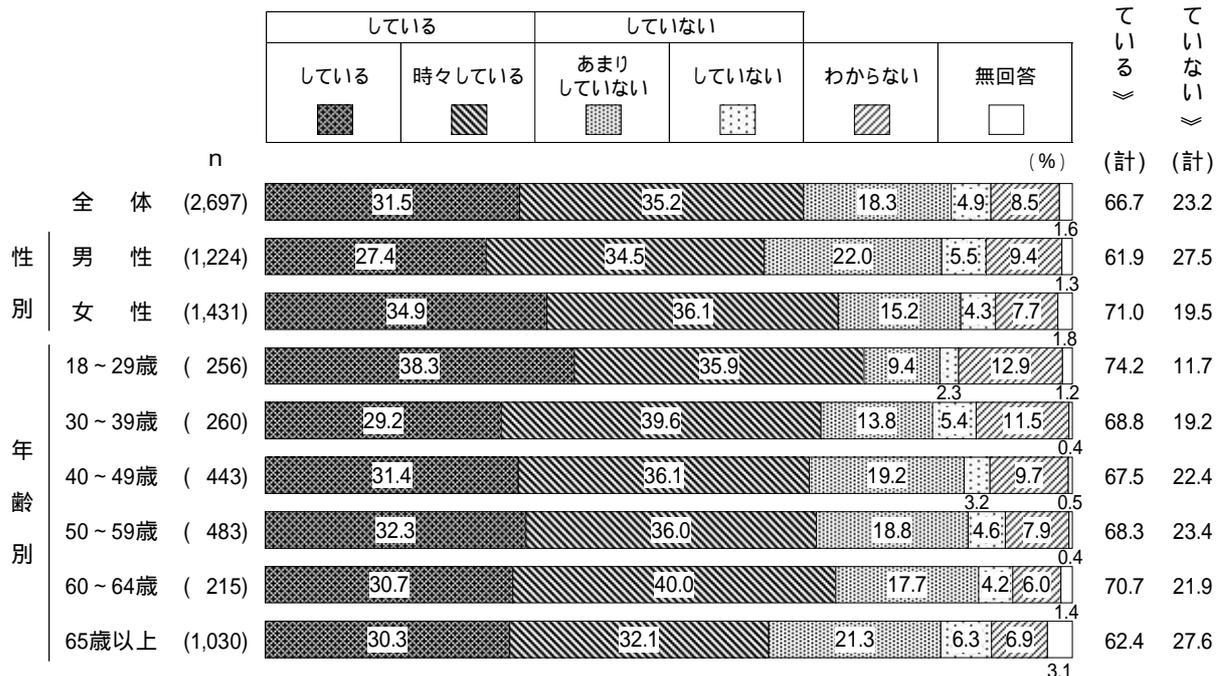
図3 - 29 - 1 障害のある方への理解や配慮 - 全体、経年比較



日ごろ、障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしているか聞いたところ、「している」(31.5%)と「時々している」(35.2%)を合わせた している (66.7%)は7割近くとなっている。一方、「あまりしていない」(18.3%)と「していない」(4.9%)を合わせた していない (23.2%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、 している は令和2年(2020年)(69.6%)より2.9ポイント減少している。(図3 - 29 - 1)

図3 - 29 - 2 障害のある方への理解や配慮 - 性別、年齢別

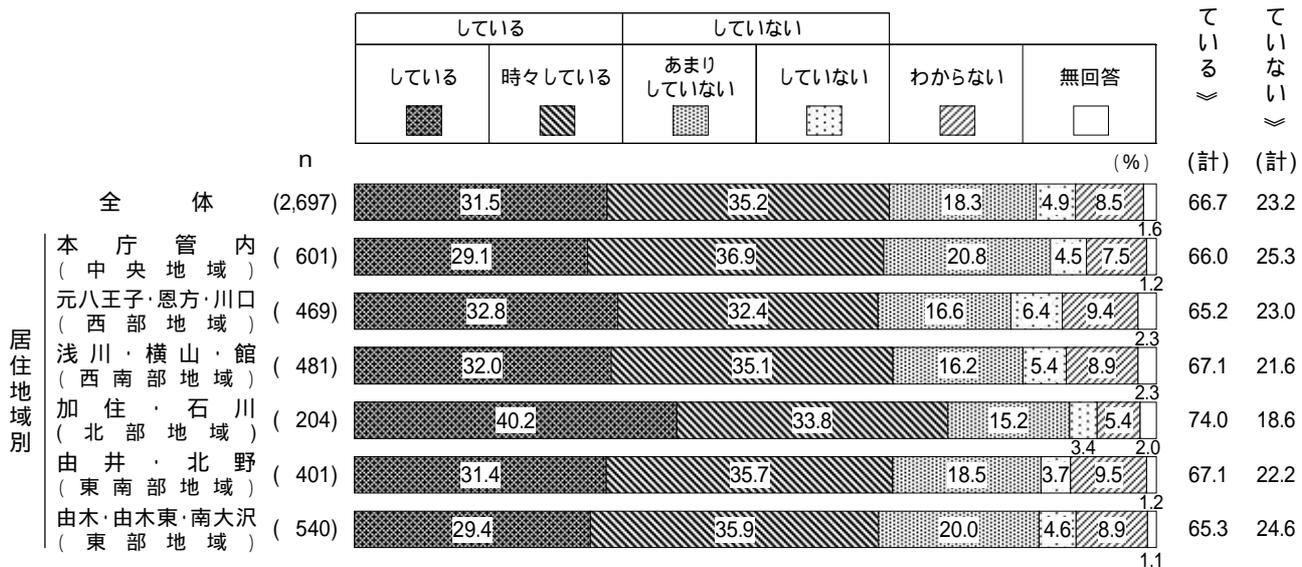


性別にみると、 している は女性（71.0%）が男性（61.9%）より9.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、 している は18～29歳（74.2%）で7割台半ばと多くなっている。

（図3 - 29 - 2）

図3 - 29 - 3 障害のある方への理解や配慮 - 居住地域別



居住地域別にみると、 している は加住・石川(北部地域)（74.0%）で7割台半ばと多くなっている。（図3 - 29 - 3）

### (30) 高齢者あんしん相談センターの周知度

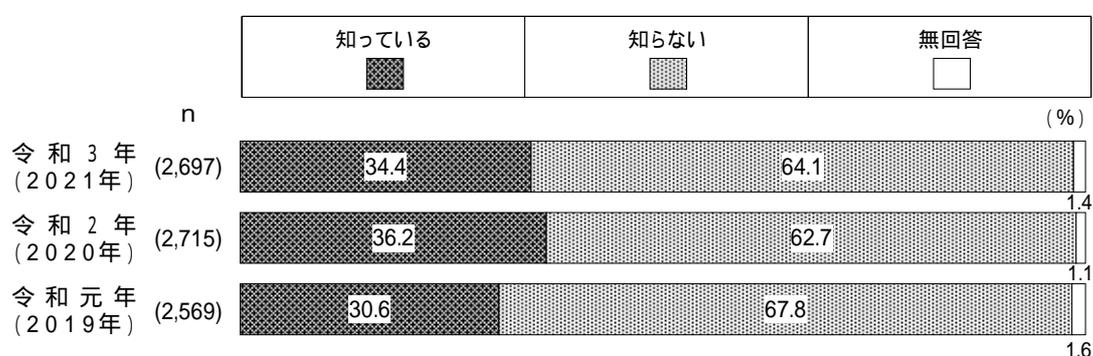
「知っている」が3割台半ば

問40 あなたは、「高齢者あんしん相談センター」を知っていますか。( は1つだけ)

高齢者あんしん相談センターとは・・・

高齢者が住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らせるよう、地域の身近な相談窓口として市内に17か所設置している施設です。介護保険法に規定された地域包括支援センターのことで、八王子市では親しみやすいようこの愛称を付けています。

図3 - 30 - 1 高齢者あんしん相談センターの周知度 - 全体、経年比較

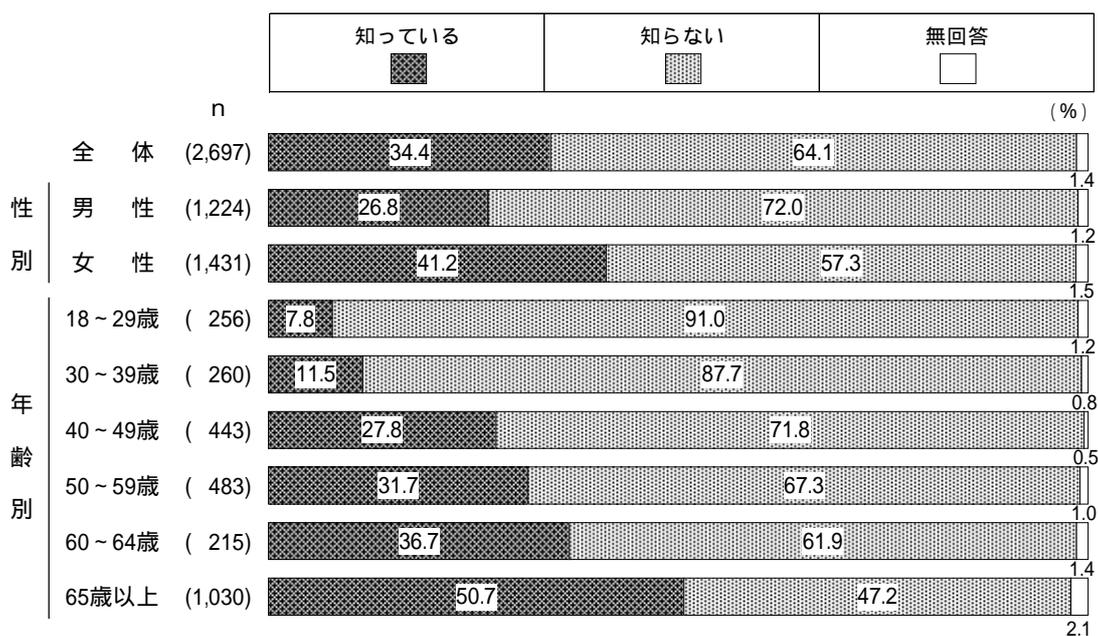


高齢者あんしん相談センターを知っているか聞いたところ、「知っている」(34.4%)が3割台半ば、「知らない」(64.1%)は6割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 30 - 1)

図3 - 30 - 2 高齢者あんしん相談センターの周知度 - 性別、年齢別

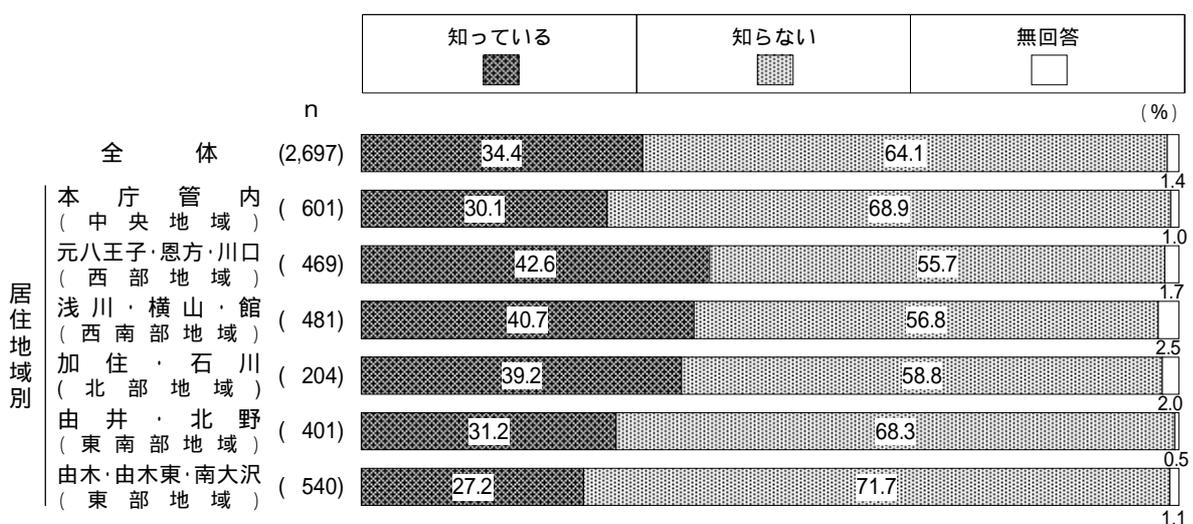


性別にみると、「知っている」は女性（41.2%）が男性（26.8%）より14.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」は年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（50.7%）で約5割と多くなっている。一方、「知らない」は18~29歳（91.0%）で9割強と多くなっている。

（図3 - 30 - 2）

図3 - 30 - 3 高齢者あんしん相談センターの周知度 - 居住地域別



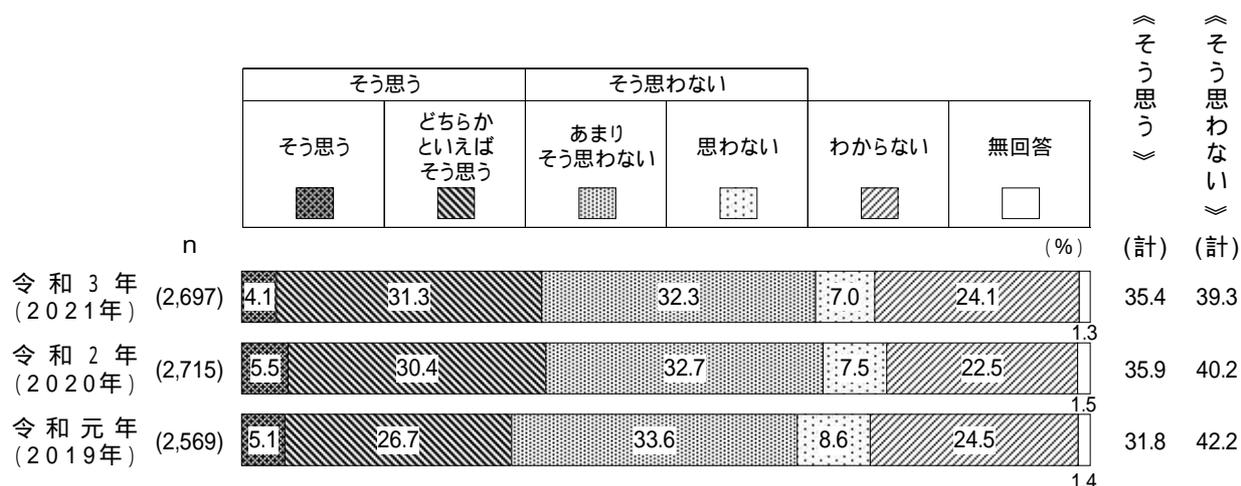
居住地域別にみると、「知っている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（42.6%）で4割強と多くなっている。一方、「知らない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（71.7%）で7割強と多くなっている。（図3 - 30 - 3）

### (31) 誰もが安全で快適に暮らせるまち

そう思う が3割台半ば

問41 あなたは、市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思いますか。( は1つだけ)

図3 - 31 - 1 誰もが安全で快適に暮らせるまち - 全体、経年比較

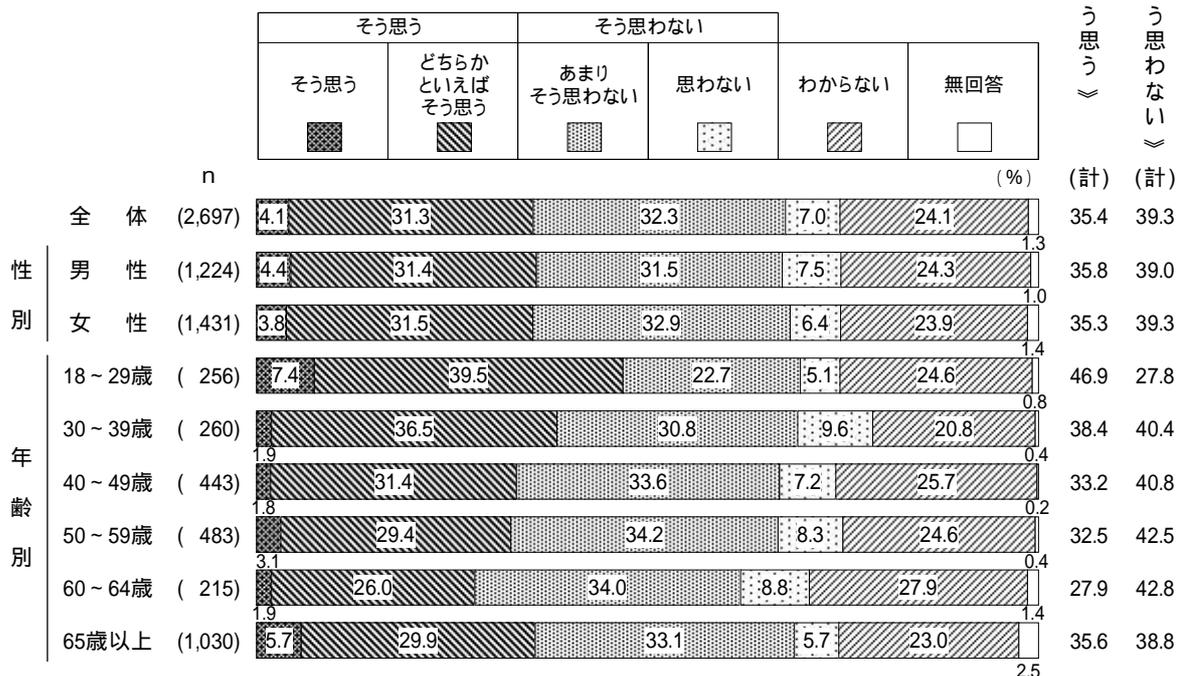


市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.1%)と「どちらかといえばそう思う」(31.3%)を合わせた そう思う (35.4%) は3割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(32.3%)と「思わない」(7.0%)を合わせた そう思わない (39.3%) は4割弱となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 31 - 1)

図3 - 31 - 2 誰もが安全で快適に暮らせるまち - 性別、年齢別

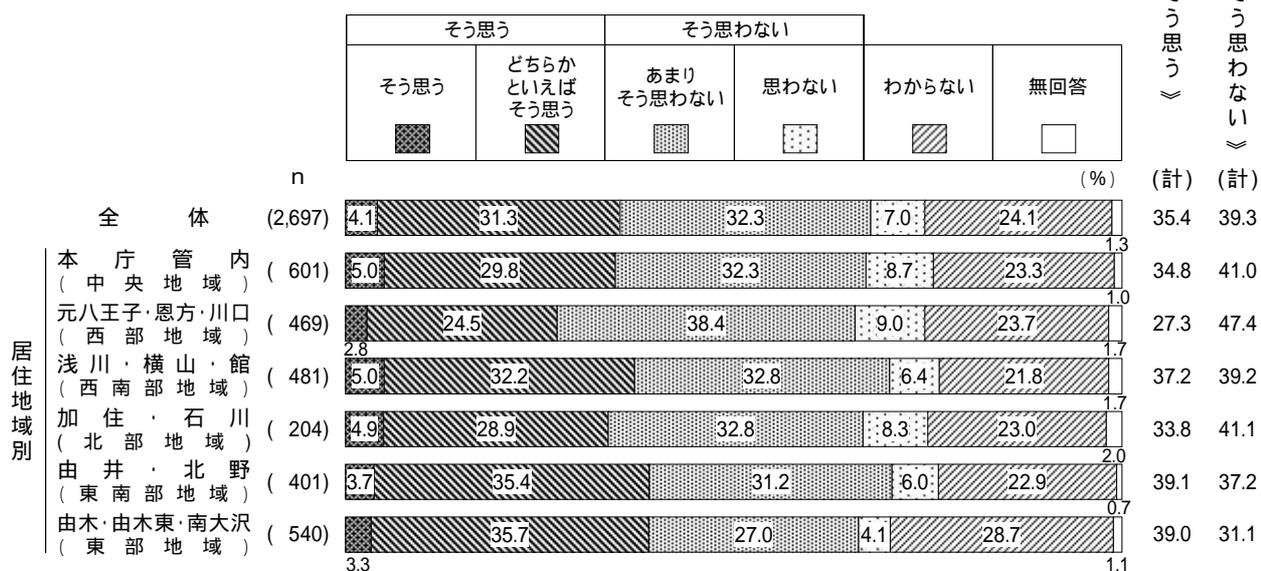


性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、そう思うは18～29歳(46.9%)で5割近くと多くなっている。一方、そう思わないは50～59歳(42.5%)と60～64歳(42.8%)で4割強と多くなっている。

(図3 - 31 - 2)

図3 - 31 - 3 誰もが安全で快適に暮らせるまち - 居住地域別



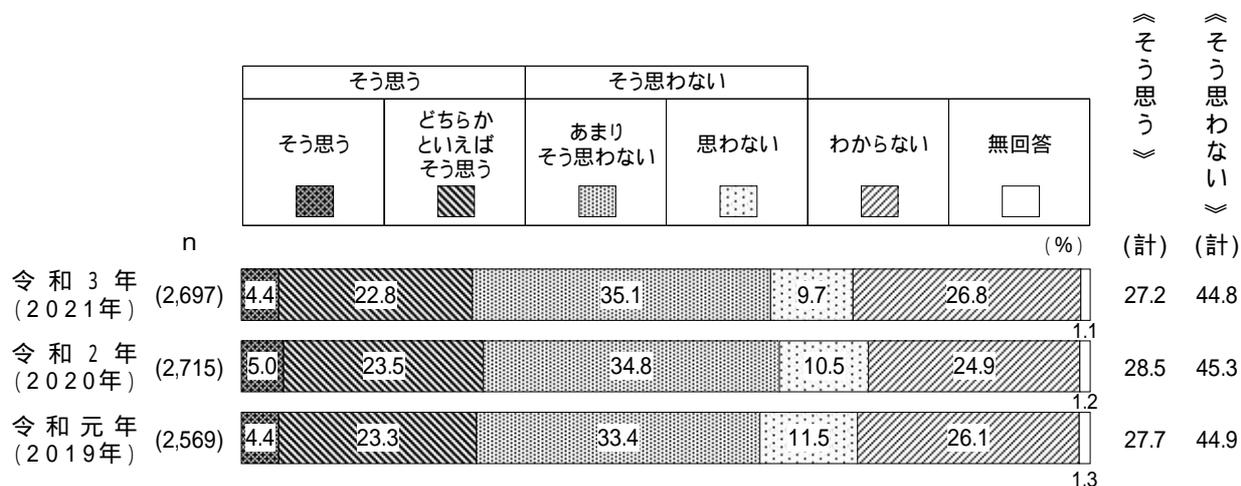
居住地域別にみると、そう思うは由井・北野(東南部地域)(39.1%)と由木・由木東・南大沢(東部地域)(39.0%)で4割弱と多くなっている。一方、そう思わないは元八王子・恩方・川口(西部地域)(47.4%)で5割近くと多くなっている。(図3 - 31 - 3)

## (32) 市内の交通渋滞緩和

そう思う が3割近く

問42 あなたは、市内の交通渋滞が緩和されていると思いますか。( は1つだけ)

図3 - 32 - 1 市内の交通渋滞緩和 - 全体、経年比較

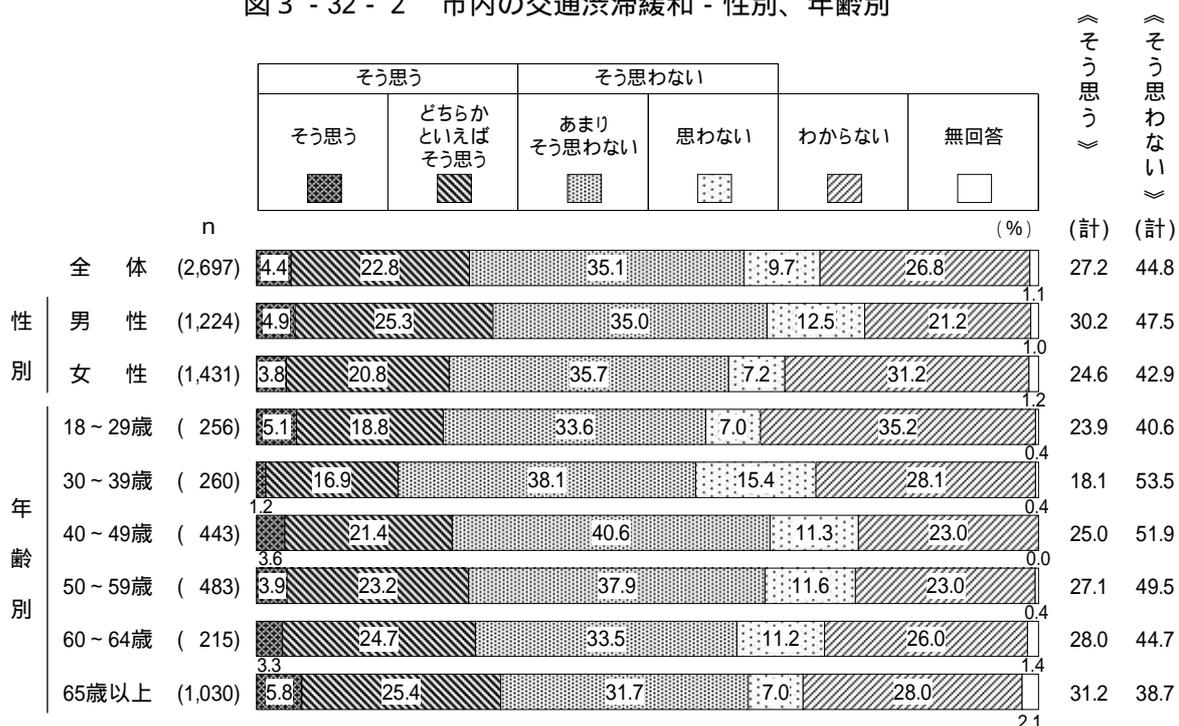


市内の交通渋滞が緩和されていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.4%)と「どちらかといえばそう思う」(22.8%)を合わせた そう思う (27.2%)は3割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(35.1%)と「思わない」(9.7%)を合わせた そう思わない (44.8%)は4割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 32 - 1)

図3 - 32 - 2 市内の交通渋滞緩和 - 性別、年齢別

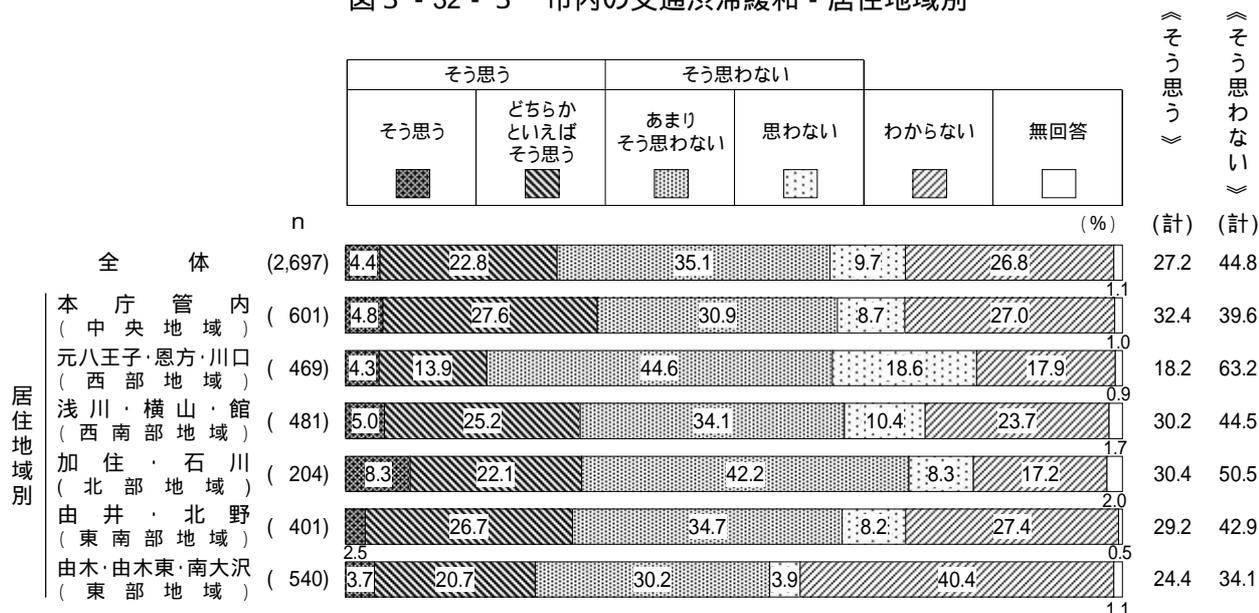


性別にみると、そう思うは男性（30.2%）が女性（24.6%）より5.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、そう思うは65歳以上（31.2%）で3割強と多くなっている。一方、そう思わないは30～39歳（53.5%）と40～49歳（51.9%）で5割強と多くなっている。

(図3 - 32 - 2)

図3 - 32 - 3 市内の交通渋滞緩和 - 居住地域別



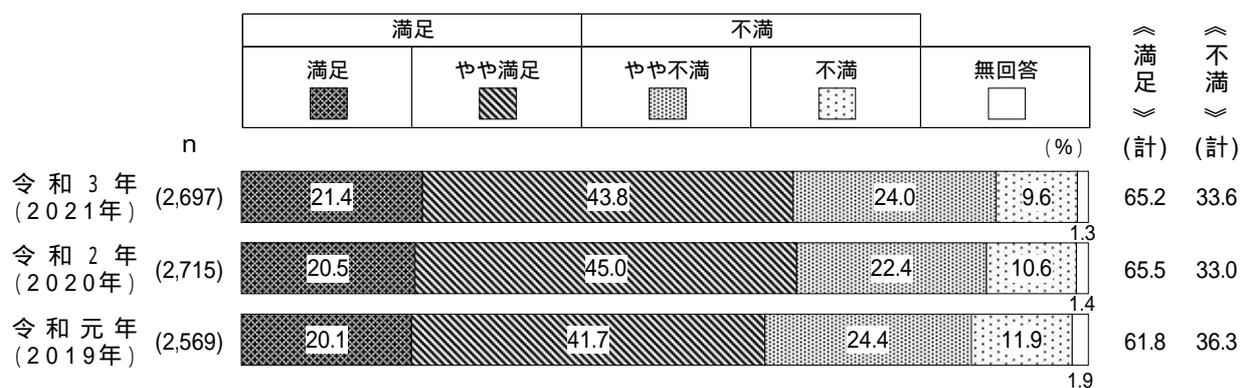
居住地域別にみると、そう思うは本庁管内（中央地域）（32.4%）で3割強と多くなっている。一方、そう思わないは元八王子・恩方・川口（西部地域）（63.2%）で6割強、加住・石川（北部地域）（50.5%）で約5割と多くなっている。（図3 - 32 - 3）

### (33) 公共交通の利便性の満足度

満足 が6割台半ば

問43 あなたは、あなたのお住まいの地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足していますか。（ は1つだけ）

図3 - 33 - 1 公共交通の利便性の満足度 - 全体、経年比較

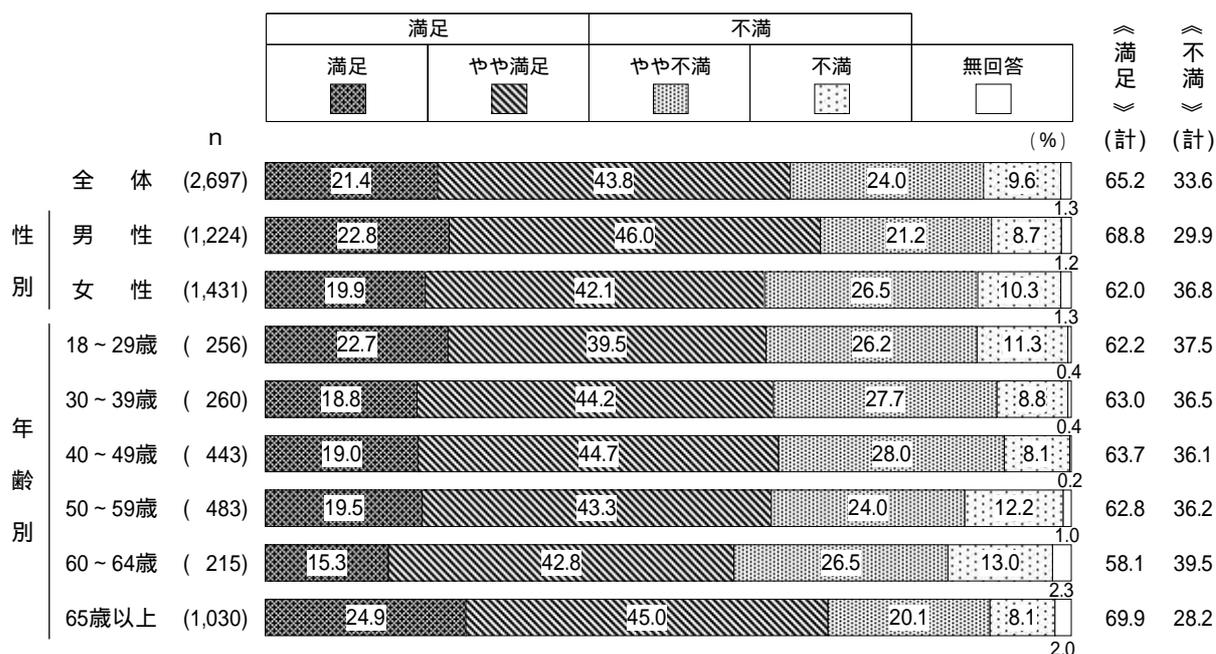


地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足しているか聞いたところ、「満足」（21.4%）と「やや満足」（43.8%）を合わせた 満足 （65.2%）は6割台半ばとなっている。一方、「やや不満」（24.0%）と「不満」（9.6%）を合わせた 不満 （33.6%）は3割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年（2020年）と大きな傾向の違いはみられない。

（図3 - 33 - 1）

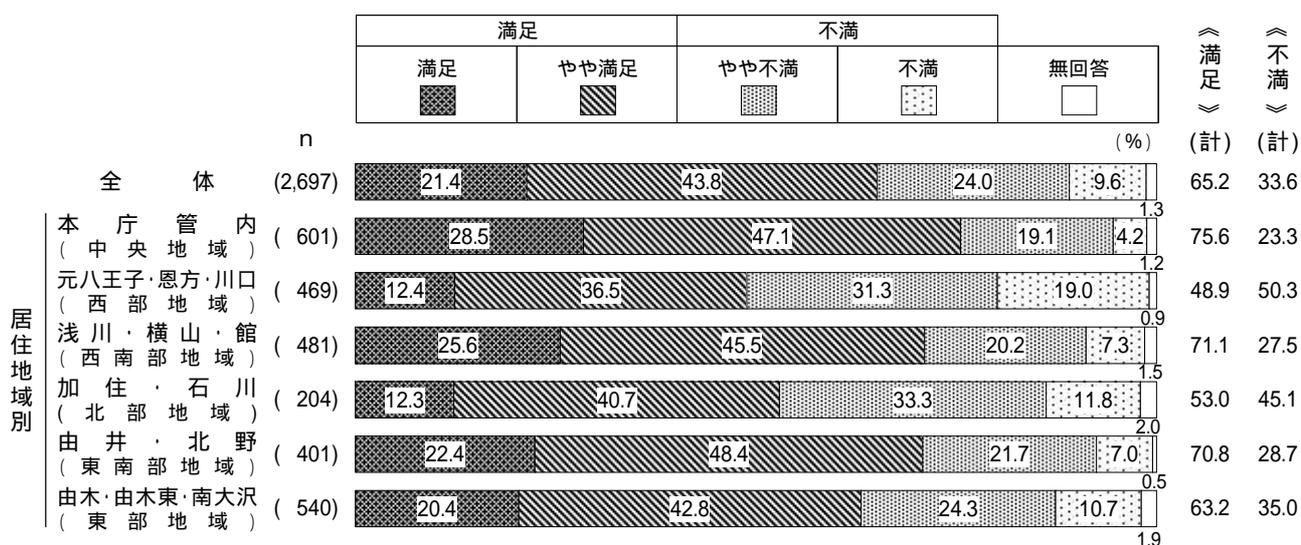
図3 - 33 - 2 公共交通の利便性の満足度 - 性別、年齢別



性別にみると、満足は男性（68.8%）が女性（62.0%）より6.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、満足は65歳以上（69.9%）で7割弱と多くなっている。一方、不満は60~64歳（39.5%）で4割弱と多くなっている。（図3 - 33 - 2）

図3 - 33 - 3 公共交通の利便性の満足度 - 居住地域別



居住地域別にみると、満足は本庁管内（中央地域）（75.6%）で7割台半ばと多くなっている。一方、不満は元八王子・恩方・川口（西部地域）（50.3%）で約5割、加住・石川（北部地域）（45.1%）で4割台半ばと多くなっている。（図3 - 33 - 3）

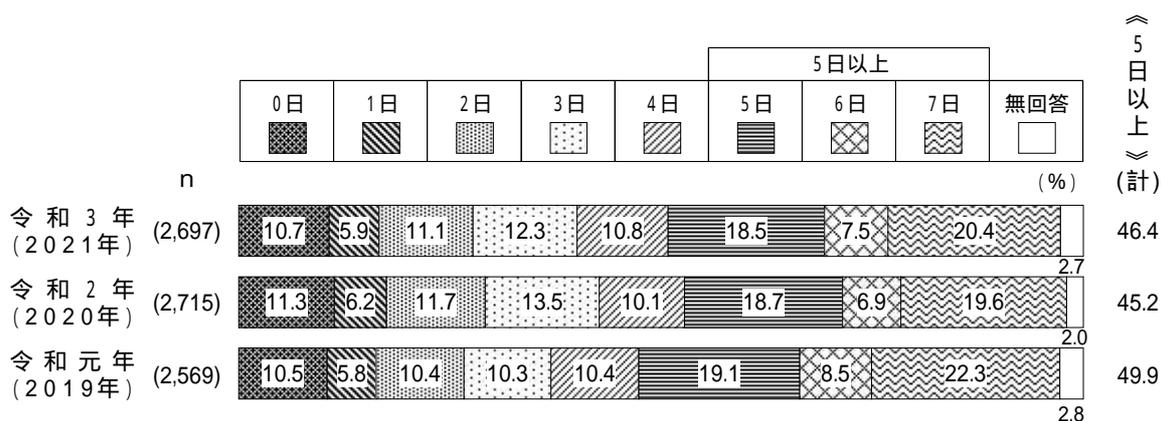
(34) 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数

5日以上 が5割近く

問44 1週間のうち、あなたが10分以上続けて歩く日は何日ありますか。( は1つだけ)

歩くとは仕事や日常生活で歩くこと、ある場所からある場所へ移動すること、あるいは趣味や運動としてのウォーキング、散歩などを含みます。

図3 - 34 - 1 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数 - 全体、経年比較

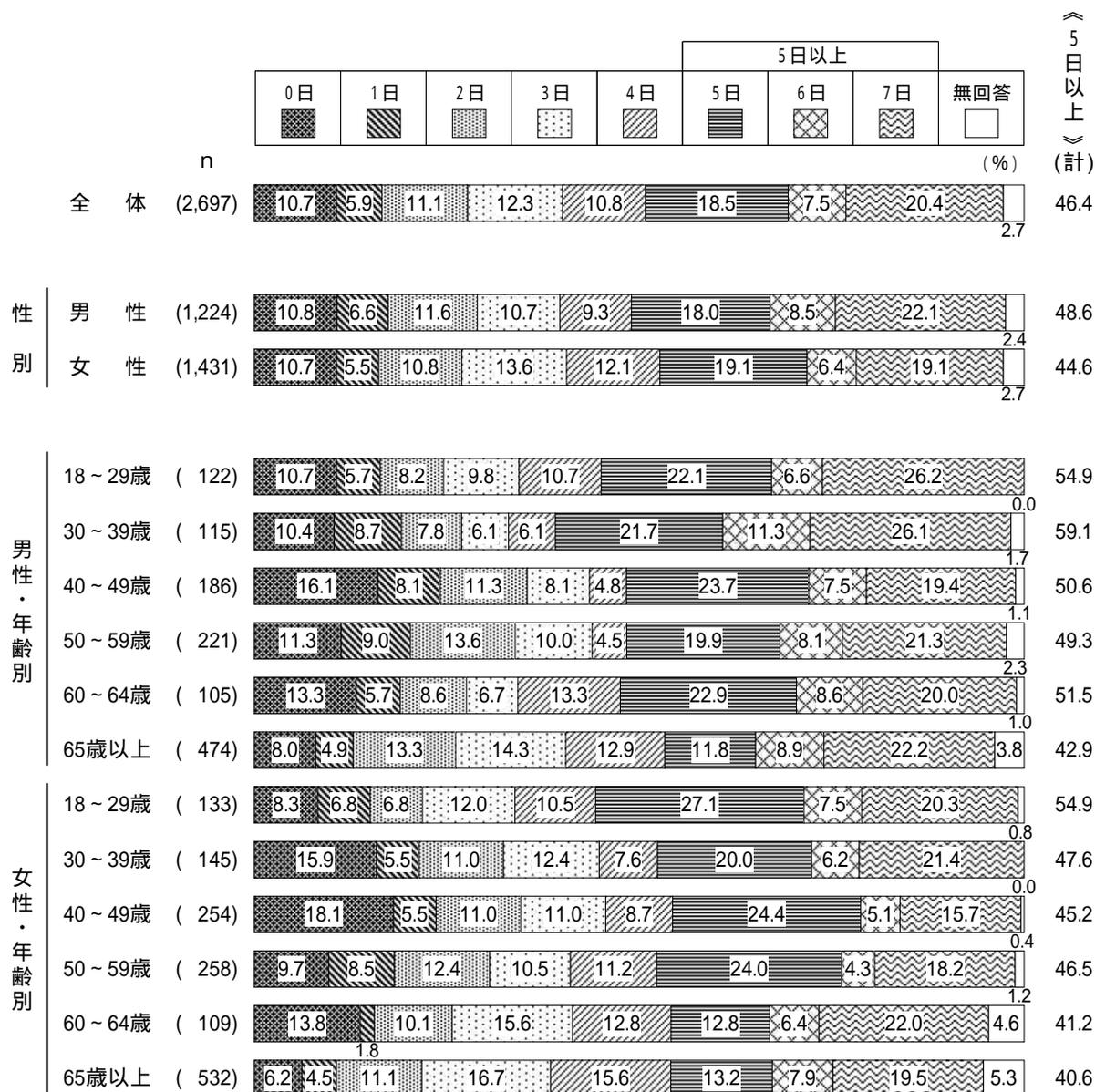


1週間のうち、10分以上続けて歩く日は何日あるか聞いたところ、「7日」(20.4%)が約2割で最も多く、これに「5日」(18.5%)と「6日」(7.5%)を合わせた5日以上(46.4%)は5割近くとなっている。一方、「0日」(10.7%)は約1割となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 34 - 1)

図3 - 34 - 2 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数 - 性別、性・年齢別

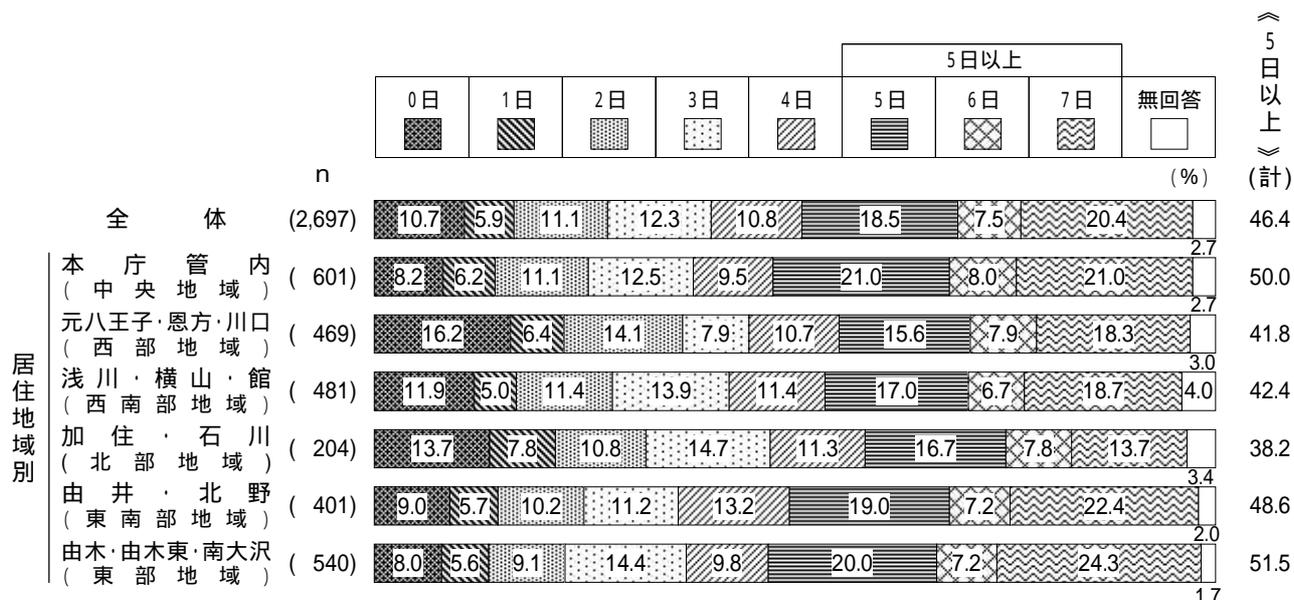


性別にみると、5日以上は男性（48.6%）が女性（44.6%）より4.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、5日以上は男性30~39歳（59.1%）で6割弱と多くなっている。一方、「0日」は女性40~49歳（18.1%）と男性40~49歳（16.1%）で2割近くとなっている。

（図3 - 34 - 2）

図3 - 34 - 3 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数 - 居住地域別



居住地域別にみると 5日以上 は由木・由木東・南大沢（東部地域）（51.5%）で5割強、本庁管内（中央地域）（50.0%）で5割と多くなっている。一方、「0日」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（16.2%）で2割近くとなっている。（図3 - 34 - 3）

## (35) 1日の平均的な歩行時間と平均歩数

30分以内 が5割強

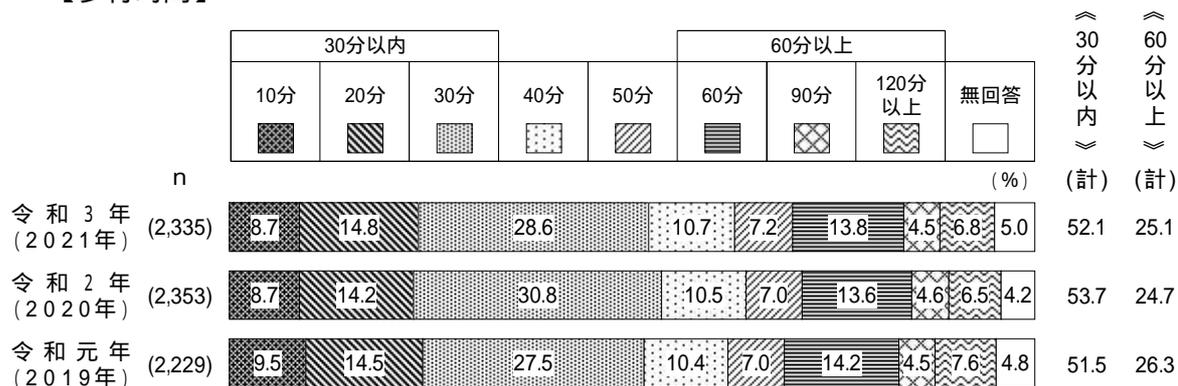
(問44で「1日」～「7日」とお答えの方へ)

問44 - 1 10分間以上続けて歩く日のうち、1日の平均的な歩行時間はどの程度ですか。

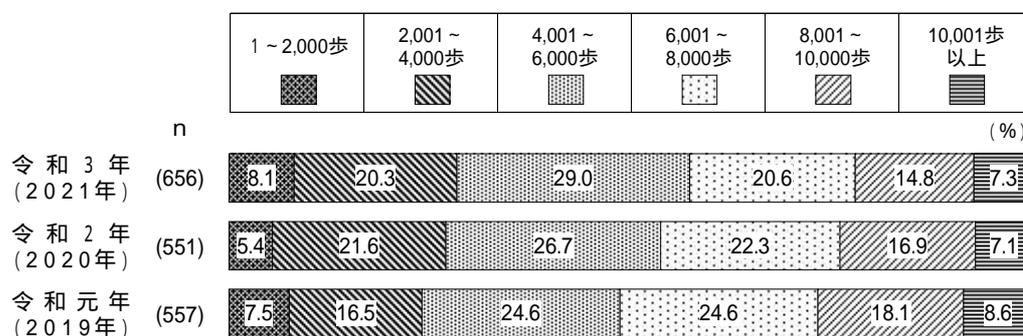
( は1つだけ) また歩数計を所持している方は歩数を記入してください。

図3 - 35 - 1 1日の平均的な歩行時間と平均歩数 - 全体、経年比較

### 【歩行時間】



### 【歩数】



10分間以上続けて歩く日のうち、1日の平均的な歩行時間はどの程度か聞いたところ、「30分」(28.6%)が3割近くで最も多く、これに「10分」(8.7%)と「20分」(14.8%)を合わせた30分以内(52.1%)は5割強となっている。また、「60分」(13.8%)、「90分」(4.5%)、「120分以上」(6.8%)の3つを合わせた60分以上(25.1%)は2割台半ばとなっている。

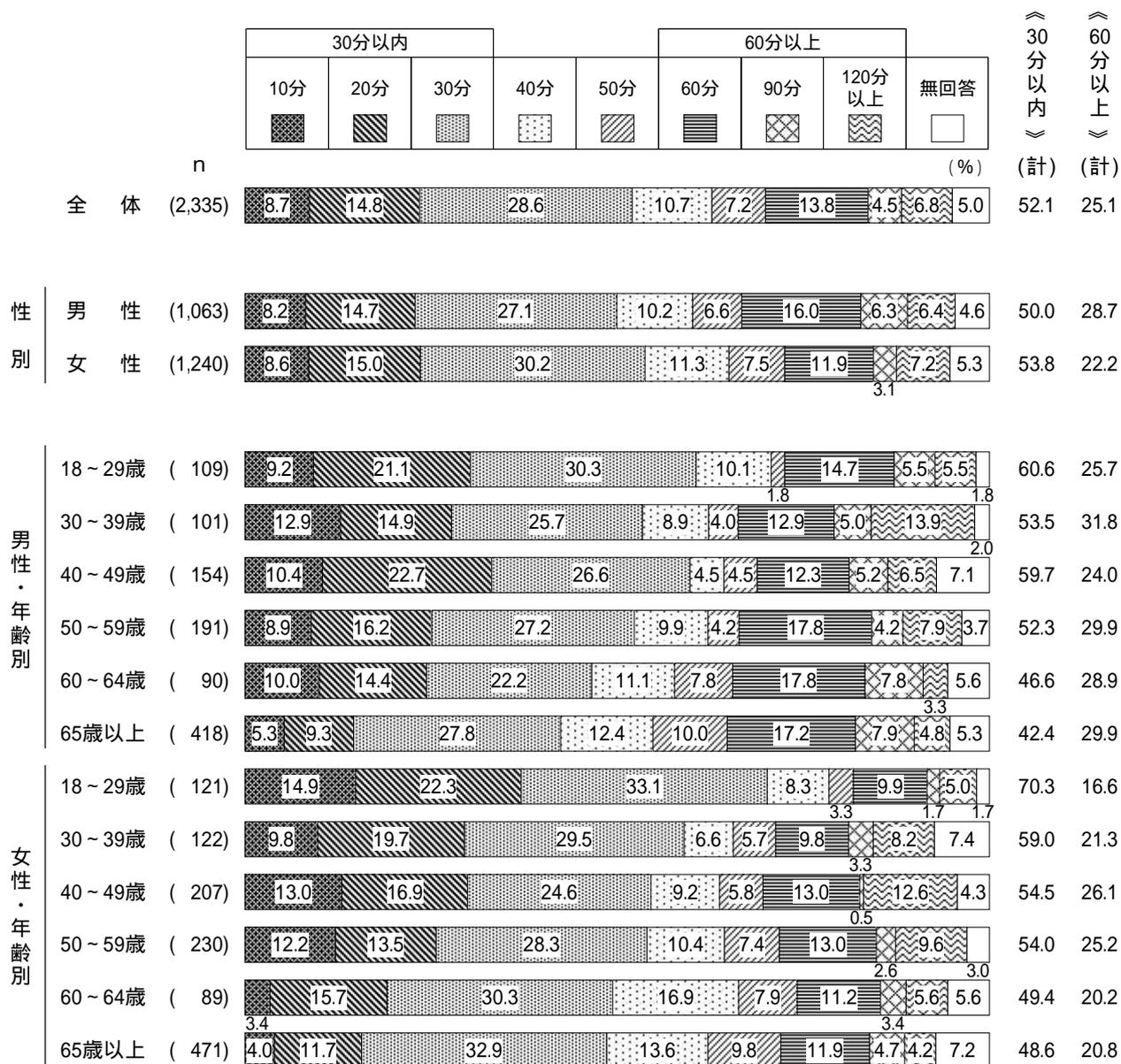
前回までの調査と比較すると、「30分」は令和2年(2020年)(30.8%)より2.2ポイント減少している。

1日の平均歩数について聞いたところ、「4,001~6,000歩」(29.0%)が3割弱で最も多く、次いで「6,001~8,000歩」(20.6%)、「2,001~4,000歩」(20.3%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「1~2,000歩」は令和2年(2020年)(5.4%)より2.7ポイント、「4,001~6,000歩」は令和2年(2020年)(26.7%)より2.3ポイント、それぞれ増加している。

(図3 - 35 - 1)

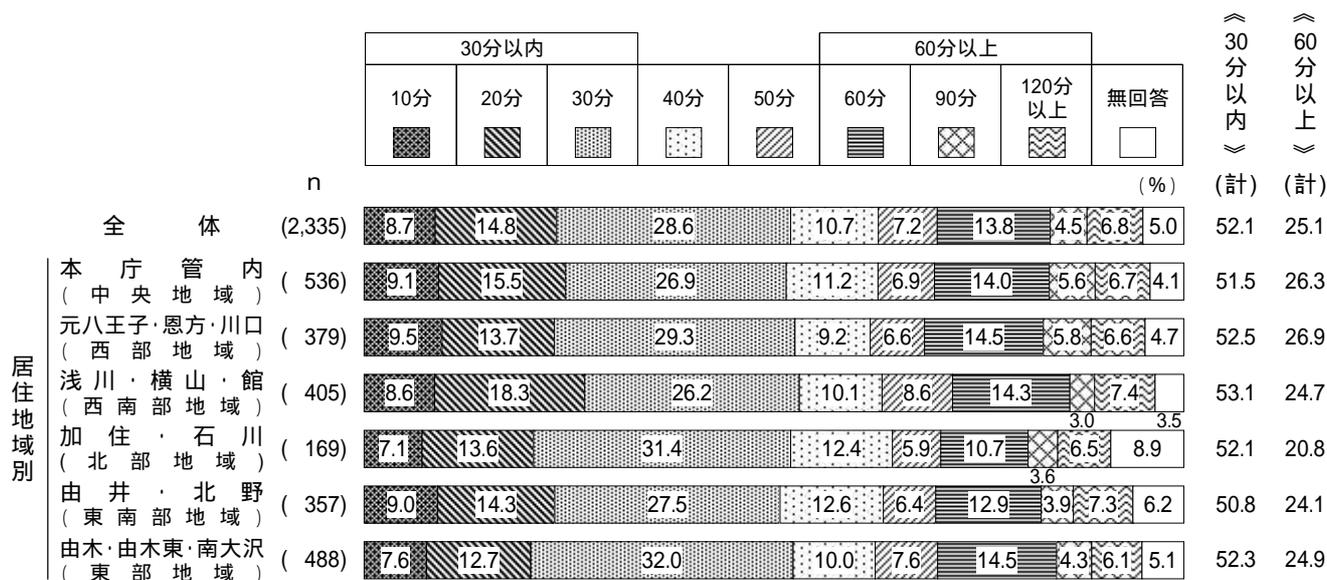
図3 - 35 - 2 1日の平均的な歩行時間 - 性別、性・年齢別



性別にみると、60分以上は男性（28.7%）が女性（22.2%）より6.5ポイント高くなっている。一方、30分以内は女性（53.8%）が男性（50.0%）より3.8ポイント高くなっている。

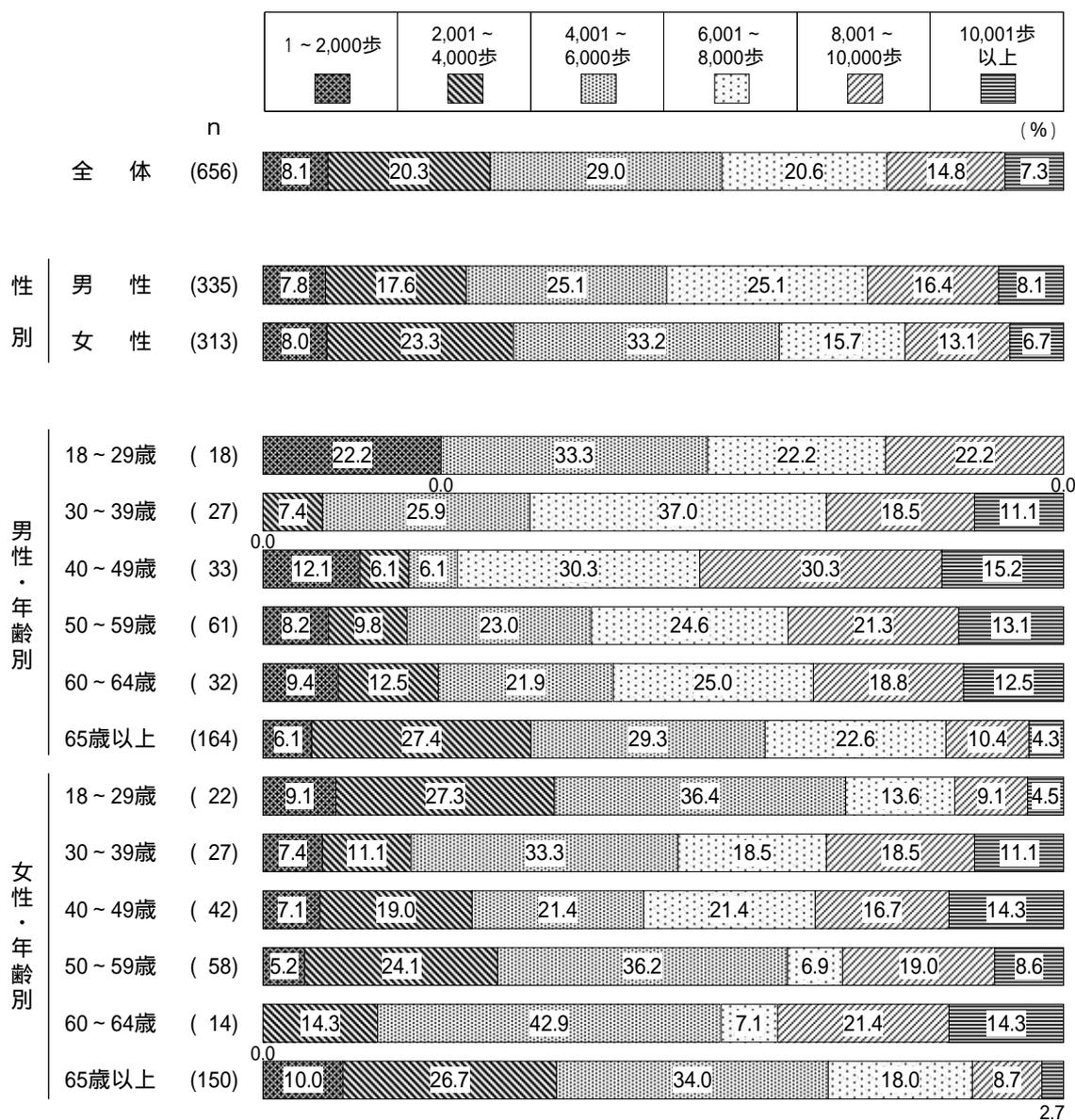
性・年齢別にみると、30分以内は女性18～29歳（70.3%）で約7割、男性18～29歳（60.6%）で約6割と多くなっている。一方、60分以上は男性30～39歳（31.8%）で3割強と多くなっている。（図3 - 35 - 2）

図3 - 35 - 3 1日の平均的な歩行時間 - 居住地域別



居住地域別にみると、60分以上は元八王子・恩方・川口（西部地域）（26.9%）と本庁管内（中央地域）（26.3%）で3割近くと多くなっている。（図3 - 35 - 3）

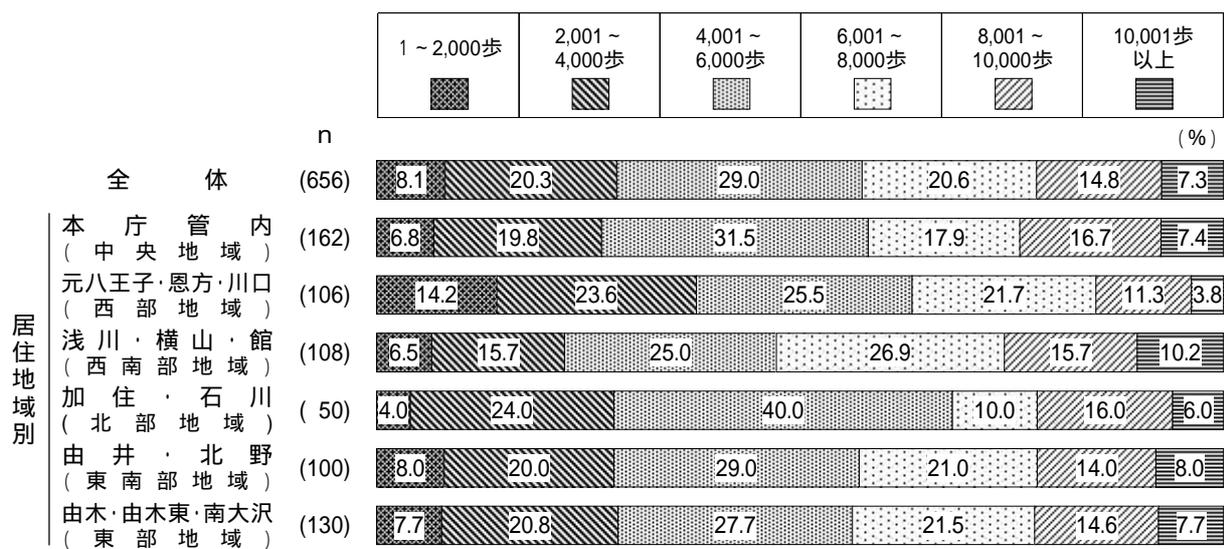
図3 - 35 - 4 1日の平均歩数 - 性別、性・年齢別



性別にみると、「6,001～8,000歩」は男性（25.1%）が女性（15.7%）より9.4ポイント高くなっている。一方、「4,001～6,000歩」は女性（33.2%）が男性（25.1%）より8.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「4,001～6,000歩」は女性50～59歳（36.2%）で4割近くと多くなっている。「6,001～8,000歩」は男性40～49歳（30.3%）で約3割と多くなっている。「8,001～10,000歩」は男性40～49歳（30.3%）で約3割と多くなっている。（図3 - 35 - 4）

図3 - 35 - 5 1日の平均歩数 - 居住地域別



居住地域別にみると、「4,001~6,000歩」は加住・石川(北部地域) (40.0%) で4割と多くなっている。「6,001~8,000歩」は浅川・横山・館(西南部地域) (26.9%) で3割近くと多くなっている。(図3 - 35 - 5)

### (36) 10分以上続けて歩く日の主な外出目的

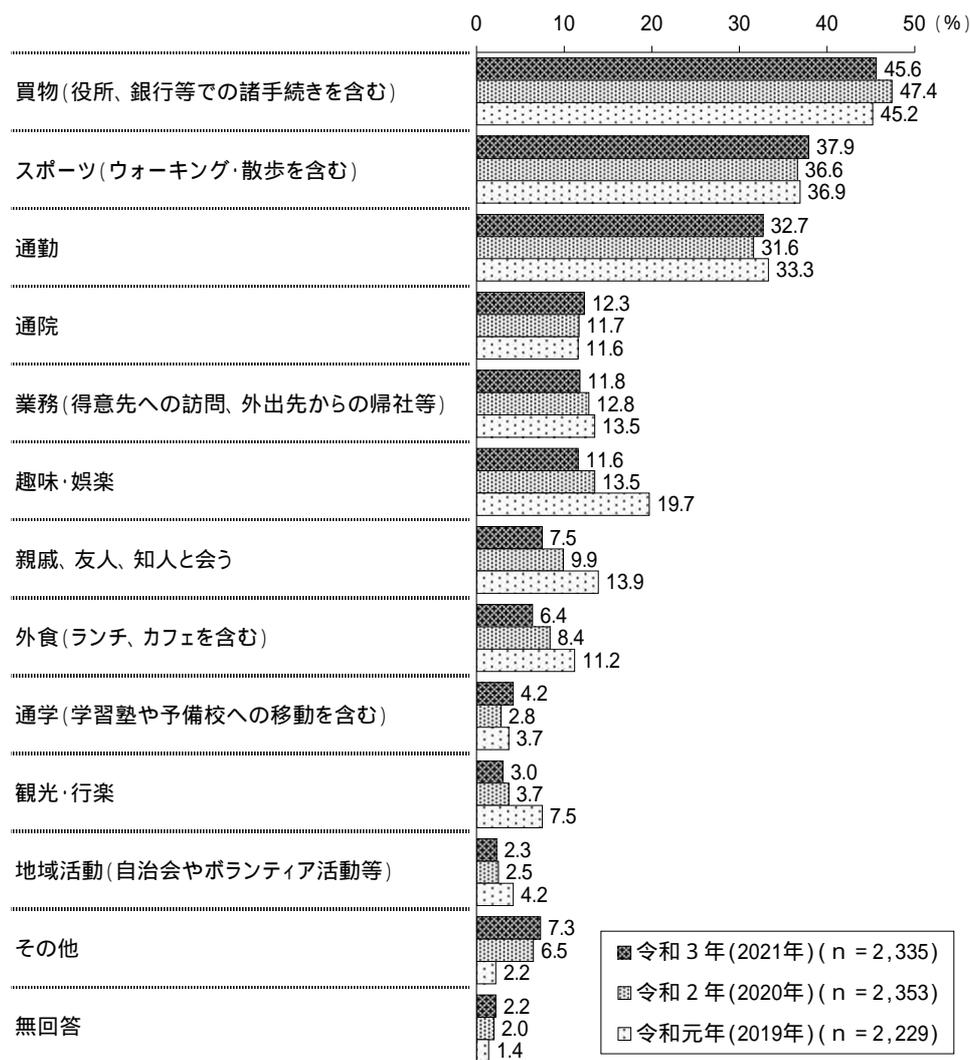
「買物(役所、銀行等での諸手続きを含む)」が4割台半ば

(問44で「1日」～「7日」とお答えの方へ)

問44 - 2 10分以上続けて歩く日の主な外出目的についてお答えください。

(はいくつでも)

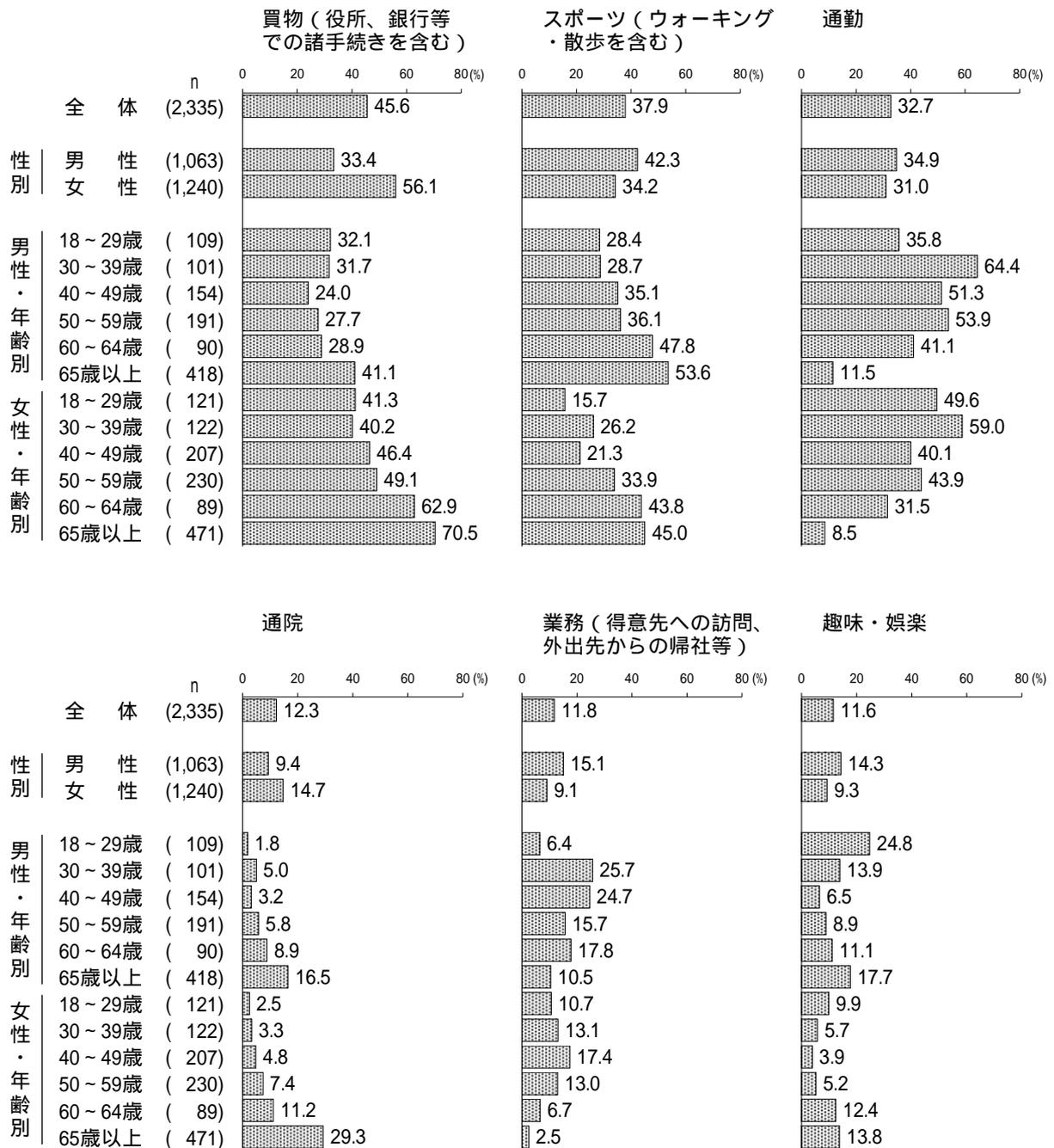
図3 - 36 - 1 10分以上続けて歩く日の主な外出目的 - 全体、経年比較



1週間のうち、10分以上続けて歩く日があると回答した2,335人に、主な外出目的について聞いたところ、「買物(役所、銀行等での諸手続きを含む)」(45.6%)が4割台半ばで最も多くなっている。次いで「スポーツ(ウォーキング・散歩を含む)」(37.9%)、「通勤」(32.7%)、「通院」(12.3%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「親戚、友人、知人と会う」は令和2年(2020年)(9.9%)より2.4ポイント、「外食(ランチ、カフェを含む)」は令和2年(2020年)(8.4%)より2.0ポイント、それぞれ減少している。(図3 - 36 - 1)

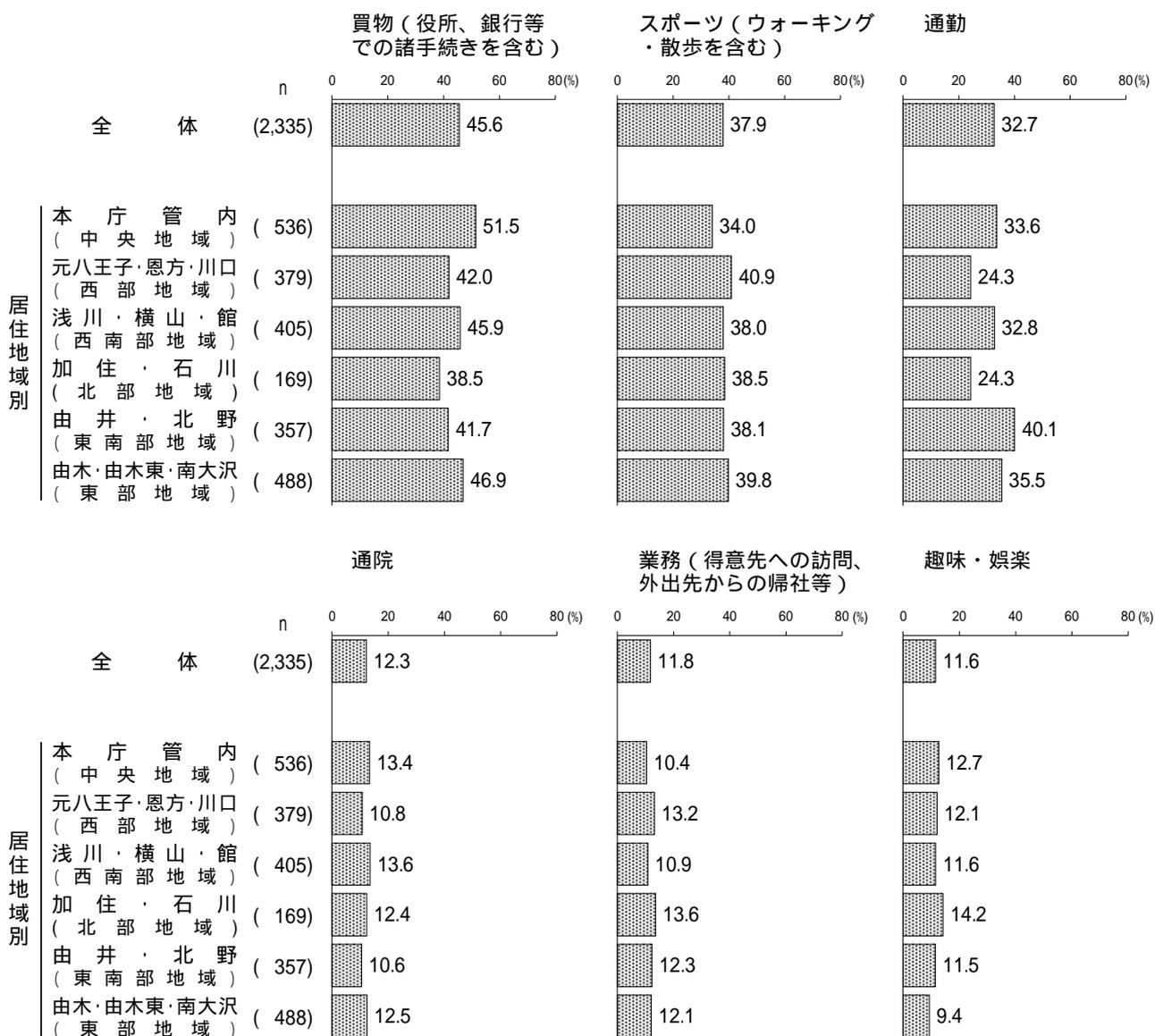
図3 - 36 - 2 10分以上続けて歩く日の主な外出目的 - 性別、性・年齢別（上位6位）



性別にみると、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」は女性（56.1%）が男性（33.4%）より22.7ポイント高くなっている。一方、「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」は男性（42.3%）が女性（34.2%）より8.1ポイント、「業務（得意先への訪問、外出先からの帰社等）」は男性（15.1%）が女性（9.1%）より6.0ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」は女性65歳以上（70.5%）で約7割と多くなっている。「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」は男性65歳以上（53.6%）で5割強と多くなっている。「通勤」は男性30~39歳（64.4%）で6割台半ば、女性30~39歳（59.0%）で6割弱と多くなっている。（図3 - 36 - 2）

図3 - 36 - 3 10分以上続けて歩く日の主な外出目的 - 居住地域別（上位6位）



居住地域別にみると、「買物(役所、銀行等での諸手続きを含む)」は本庁管内(中央地域)(51.5%)で5割強と多くなっている。「スポーツ(ウォーキング・散歩を含む)」は元八王子・恩方・川口(西部地域)(40.9%)で約4割と多くなっている。「通勤」は由井・北野(東南部地域)(40.1%)で約4割と多くなっている。(図3 - 36 - 3)

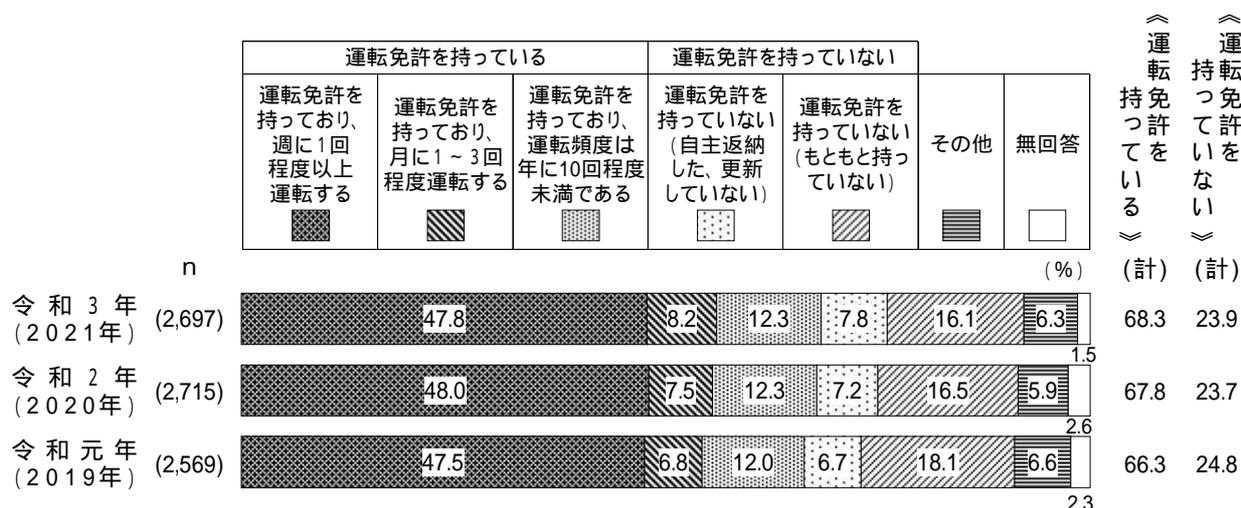
### (37) 運転免許保有状況と運転頻度

「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」が5割近く

問45 あなたの運転免許の保有状況と自動車の運転頻度についてお答えください。

( は1つだけ )

図3 - 37 - 1 運転免許保有状況と運転頻度 - 全体、経年比較

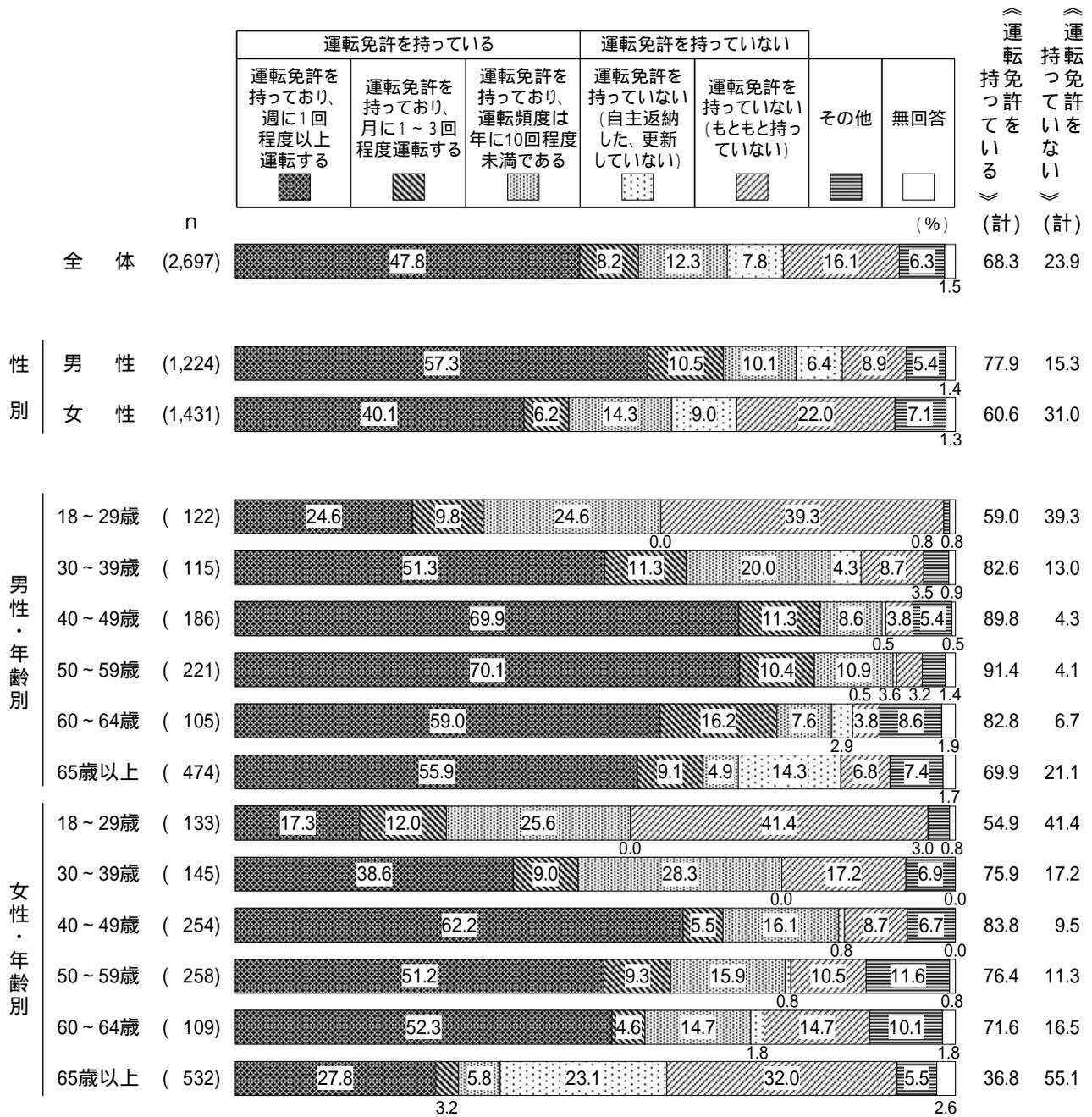


運転免許の保有状況と自動車の運転頻度について聞いたところ、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」(47.8%)が5割近くで最も多く、これに「運転免許を持っており、月に1~3回程度運転する」(8.2%)と「運転免許を持っており、運転頻度は年に10回程度未満である」(12.3%)を合わせた 運転免許を持っている (68.3%)は7割近くとなっている。一方、「運転免許を持っていない(自主返納した、更新していない)」(7.8%)と「運転免許を持っていない(もともと持っていない)」(16.1%)を合わせた 運転免許を持っていない (23.9%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 37 - 1)

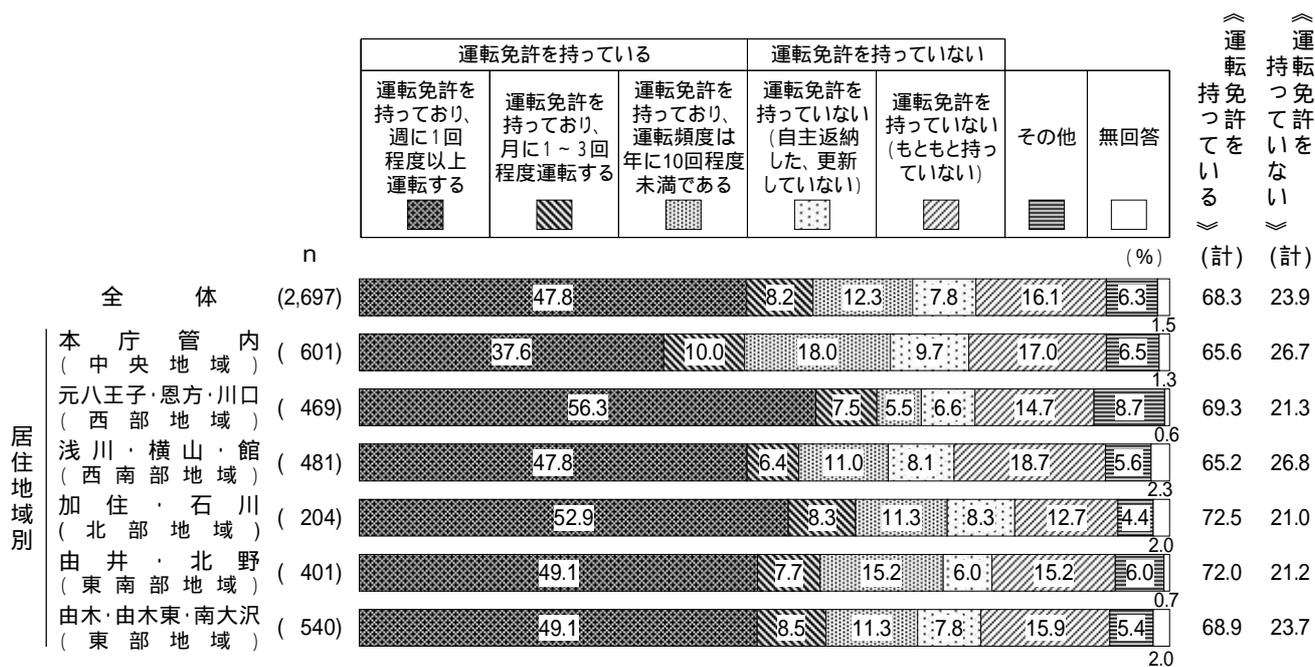
図3 - 37 - 2 運転免許保有状況と運転頻度 - 性別、性・年齢別



性別にみると、運転免許を持っているは男性(77.9%)が女性(60.6%)より17.3ポイント、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」は男性(57.3%)が女性(40.1%)より17.2ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」は男性50~59歳(70.1%)で約7割と多くなっている。運転免許を持っているは男性50~59歳(91.4%)で9割強と多くなっている。一方、運転免許を持っていないは女性65歳以上(55.1%)で5割台半ば、女性18~29歳(41.4%)で4割強と多くなっている。(図3 - 37 - 2)

図3 - 37 - 3 運転免許保有状況と運転頻度 - 居住地域別



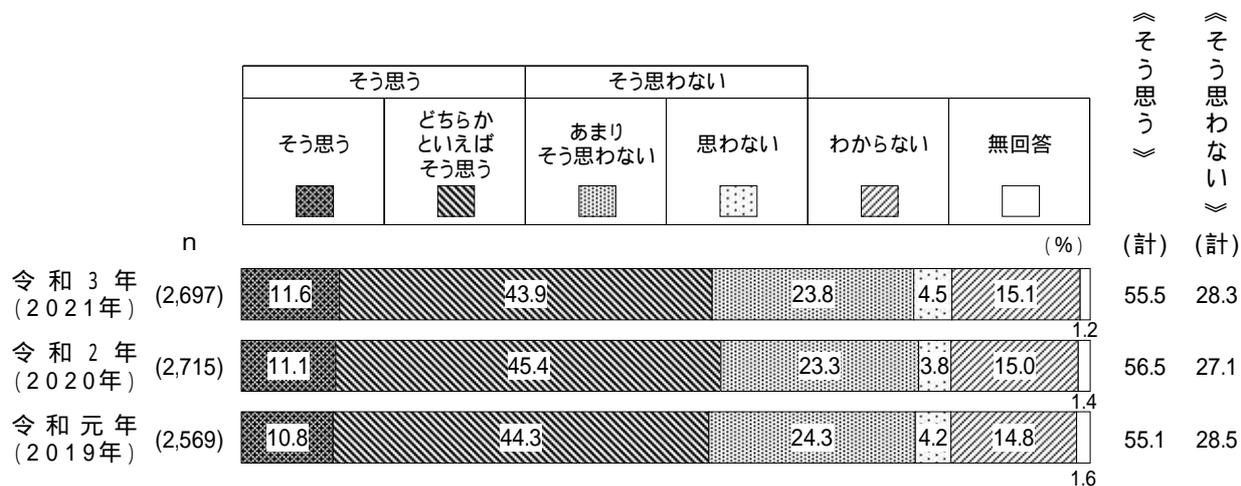
居住地域別にみると、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」は元八王子・恩方・川口(西部地域)(56.3%)で6割近くと多くなっている。運転免許を持っているは加住・石川(北部地域)(72.5%)と由井・北野(東南部地域)(72.0%)で7割強と多くなっている。一方、運転免許を持っていないは浅川・横山・館(西南部地域)(26.8%)と本庁管内(中央地域)(26.7%)で3割近くと多くなっている。(図3 - 37 - 3)

### (38) 都市の美観が保持されたまち

そう思う が5割台半ば

問46 本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。( は1つだけ)

図3 - 38 - 1 都市の美観が保持されたまち - 全体、経年比較

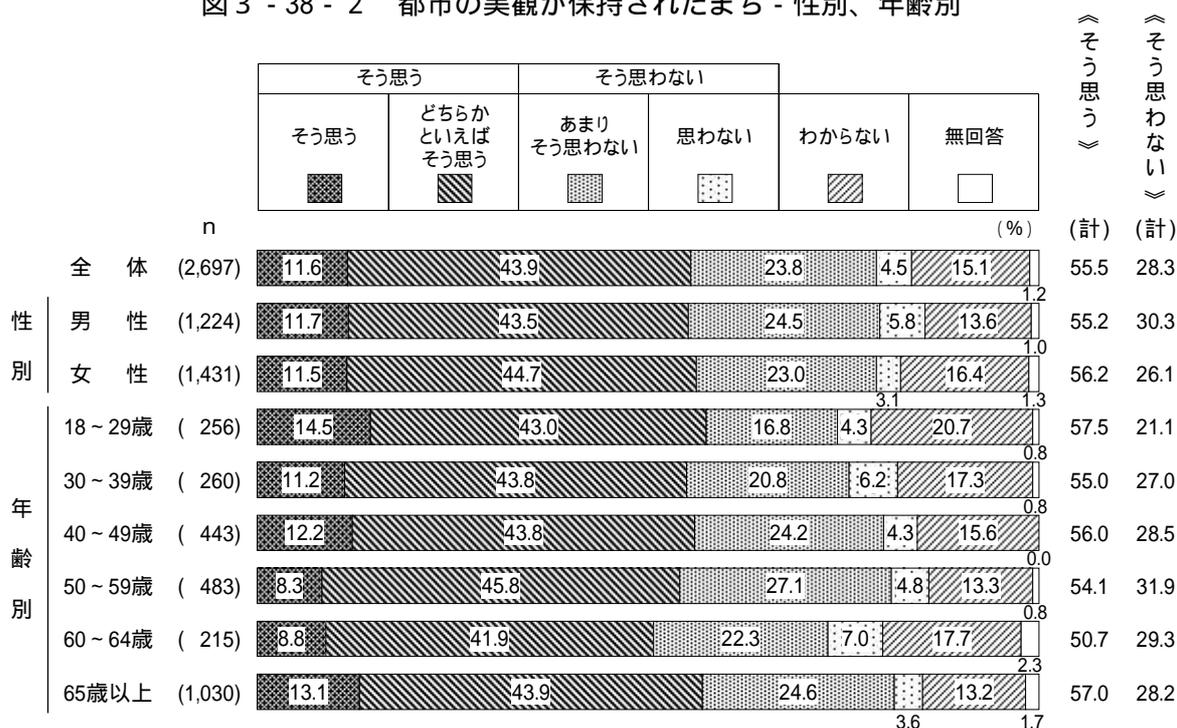


都市の美観が保持されているまちであると思うか聞いたところ、「そう思う」(11.6%)と「どちらかといえばそう思う」(43.9%)を合わせた そう思う (55.5%)は5割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(23.8%)と「思わない」(4.5%)を合わせた そう思わない (28.3%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 38 - 1)

図3 - 38 - 2 都市の美観が保持されたまち - 性別、年齢別

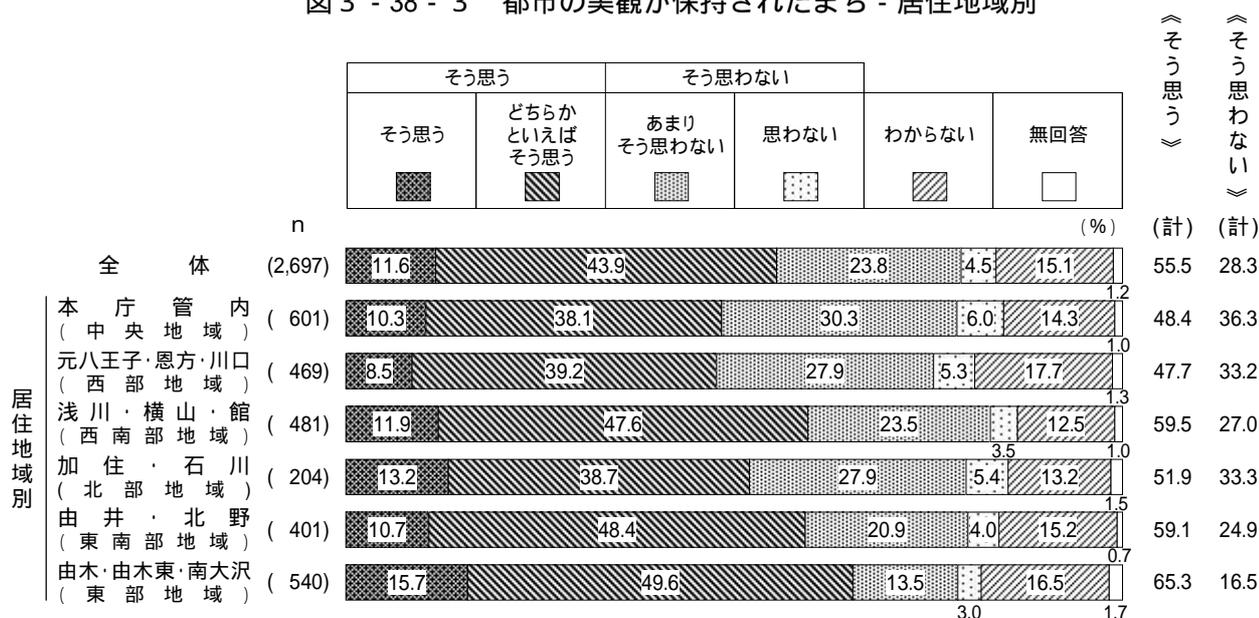


性別にみると、 思う ない は男性（30.3%）が女性（26.1%）より4.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、 思う ない は50～59歳（31.9%）で3割強と多くなっている。

（図3 - 38 - 2）

図3 - 38 - 3 都市の美観が保持されたまち - 居住地域別



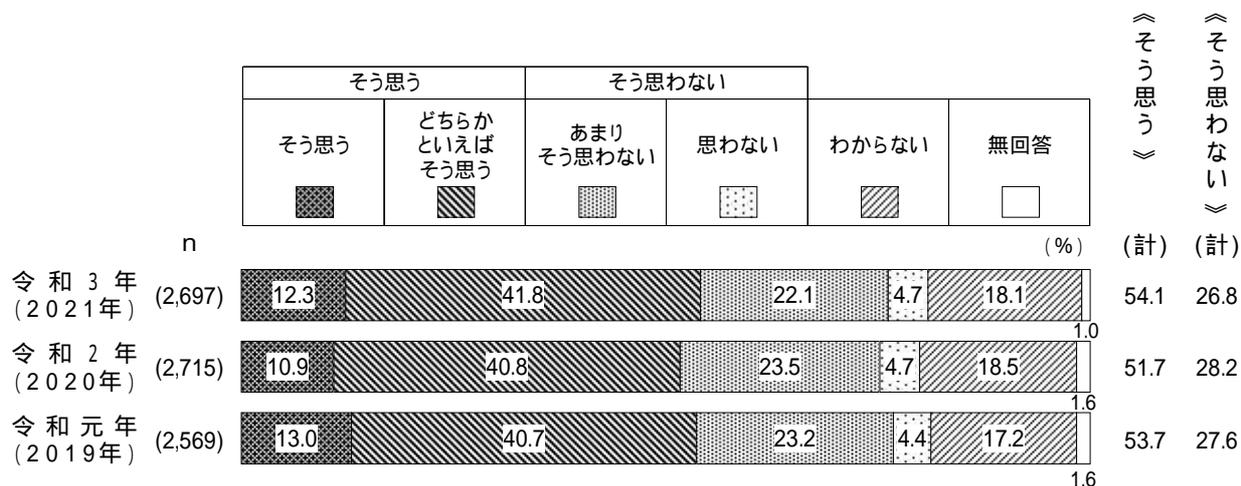
居住地域別にみると、 思う は由木・由木東・南大沢（東部地域）（65.3%）で6割台半ばと多くなっている。一方、 思う ない は本庁管内（中央地域）（36.3%）で4割近くと多くなっている。（図3 - 38 - 3）

### (39) 自然、歴史、文化が活かされた景観

そう思う が5割台半ば

問47 あなたは、市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に活かされていると思いますか。( は1つだけ)

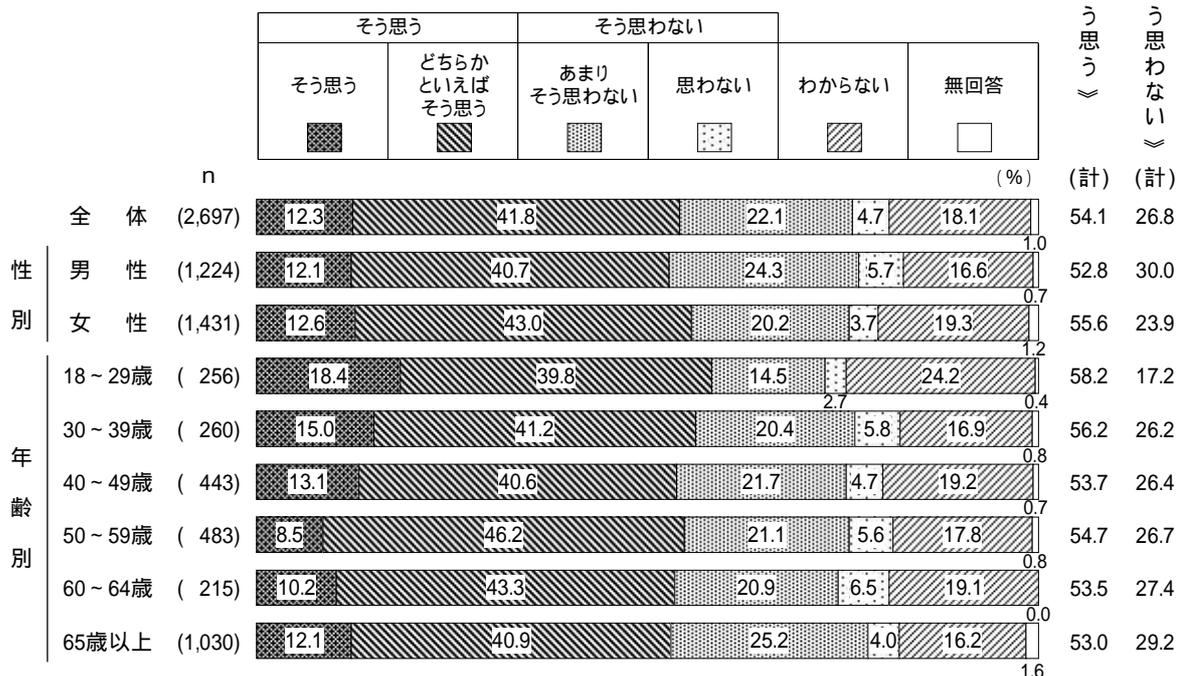
図3 - 39 - 1 自然、歴史、文化が活かされた景観 - 全体、経年比較



市の豊かな自然、歴史、文化などが、住んでいる地域やまちの景観に活かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」(12.3%)と「どちらかといえばそう思う」(41.8%)を合わせた そう思う (54.1%)は5割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(22.1%)と「思わない」(4.7%)を合わせた そう思わない (26.8%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、 そう思う は令和2年(2020年)(51.7%)より2.4ポイント増加している。(図3 - 39 - 1)

図3 - 39 - 2 自然、歴史、文化が活かされた景観 - 性別、年齢別

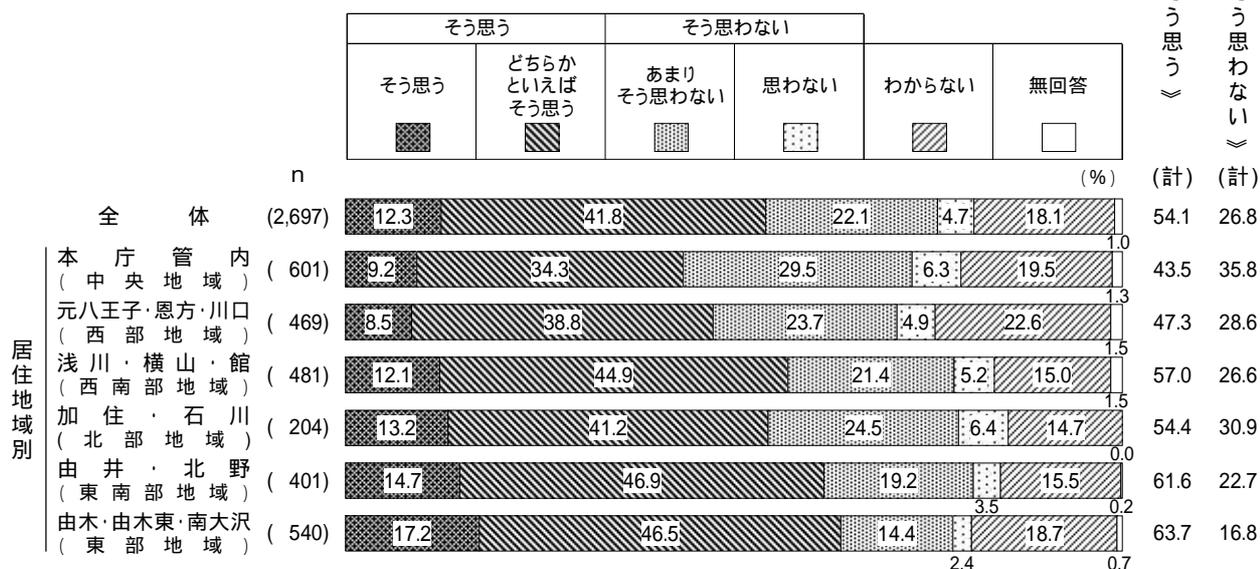


性別にみると、そう思わないは男性(30.0%)が女性(23.9%)より6.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、そう思うは18~29歳(58.2%)と30~39歳(56.2%)で6割近くと多くなっている。一方、そう思わないは65歳以上(29.2%)で3割弱と多くなっている。

(図3 - 39 - 2)

図3 - 39 - 3 自然、歴史、文化が活かされた景観 - 居住地域別



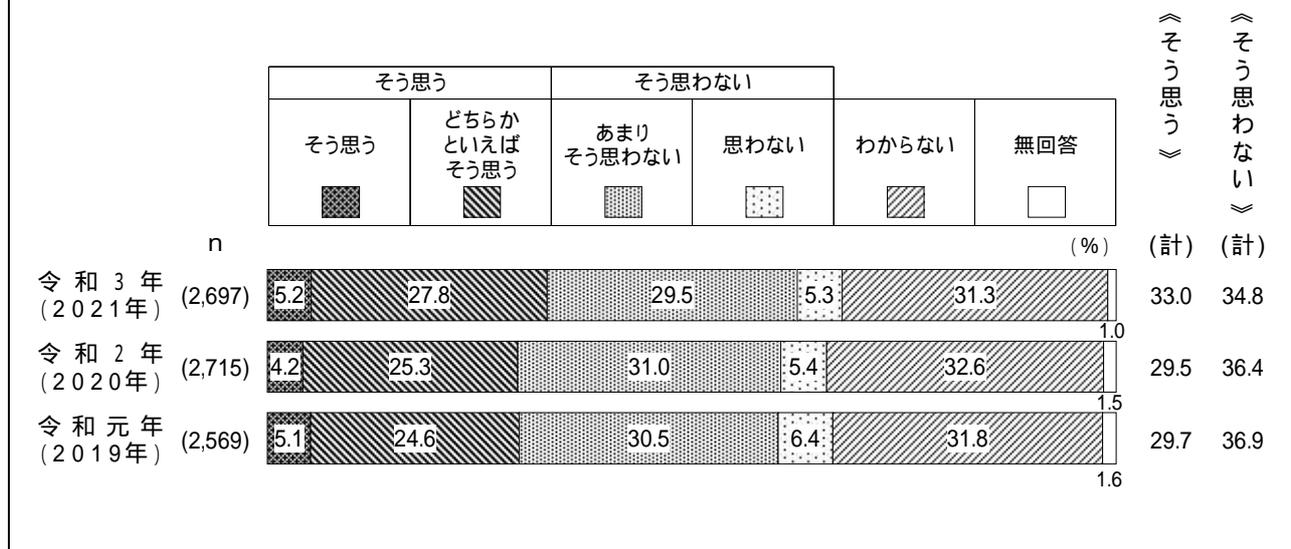
居住地域別にみると、そう思うは由木・由木東・南大沢(東部地域)(63.7%)と由井・北野(東南部地域)(61.6%)で6割強と多くなっている。一方、そう思わないは本庁管内(中央地域)(35.8%)で3割台半ばと多くなっている。(図3 - 39 - 3)

## (40) 市内の産業活動

そう思う が3割強

問48 あなたは、商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思いますか。( は1つだけ)

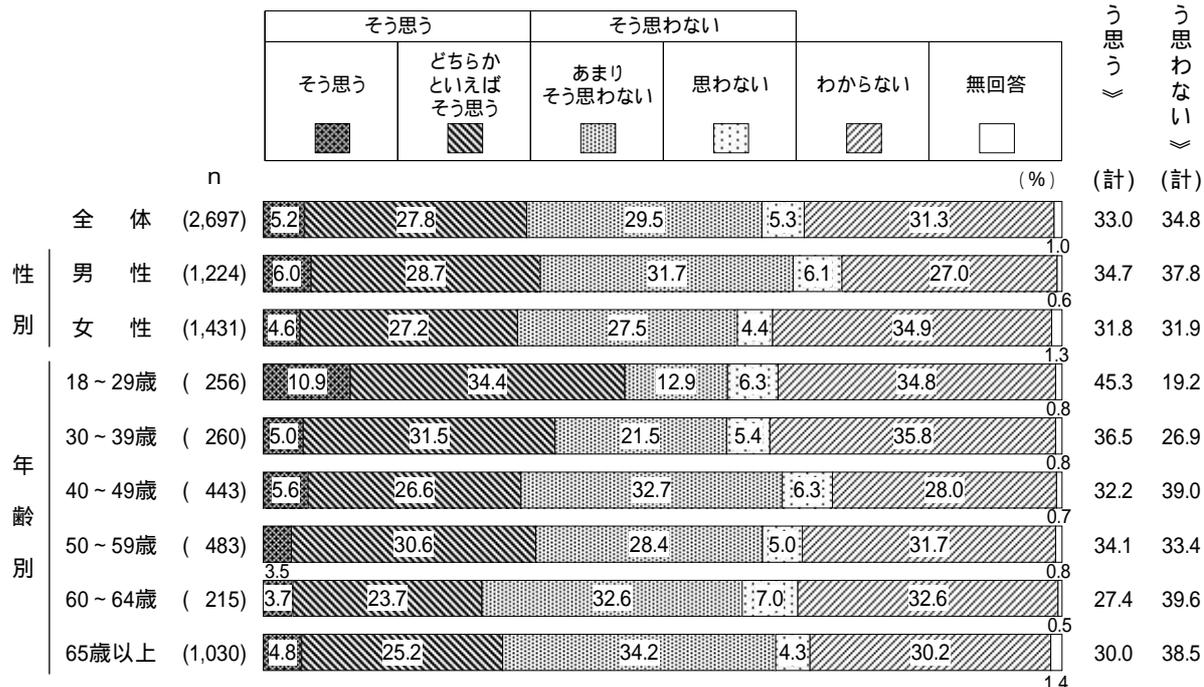
図3 - 40 - 1 市内の産業活動 - 全体、経年比較



商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.2%)と「どちらかといえばそう思う」(27.8%)を合わせた そう思う (33.0%) は3割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(29.5%)と「思わない」(5.3%)を合わせた そう思わない (34.8%) は3割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、 そう思う は令和2年(2020年)(29.5%)より3.5ポイント増加している。(図3 - 40 - 1)

図3 - 40 - 2 市内の産業活動 - 性別、年齢別

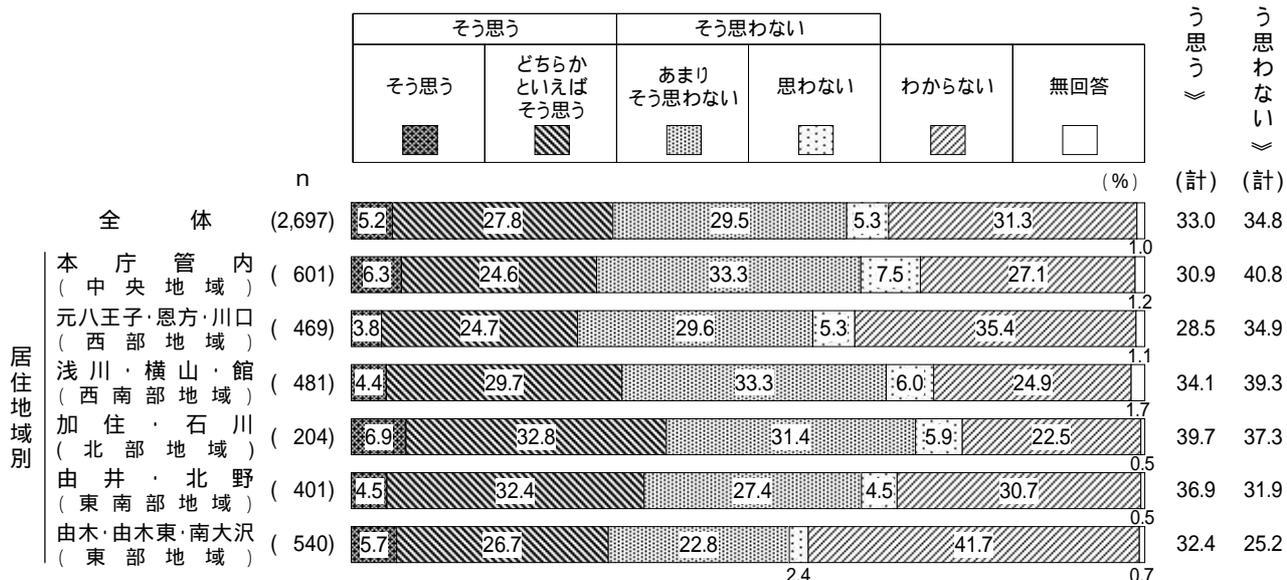


性別にみると、そう思わないは男性（37.8%）が女性（31.9%）より5.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、そう思うは18～29歳（45.3%）で4割台半ばと多くなっている。一方、そう思わないは40～49歳（39.0%）と60～64歳（39.6%）で4割弱と多くなっている。

(図3 - 40 - 2)

図3 - 40 - 3 市内の産業活動 - 居住地域別



居住地域別にみると、そう思うは加住・石川(北部地域)（39.7%）で4割弱と多くなっている。一方、そう思わないは本庁管内(中央地域)（40.8%）で約4割と多くなっている。

(図3 - 40 - 3)

## (41) 地球環境への配慮

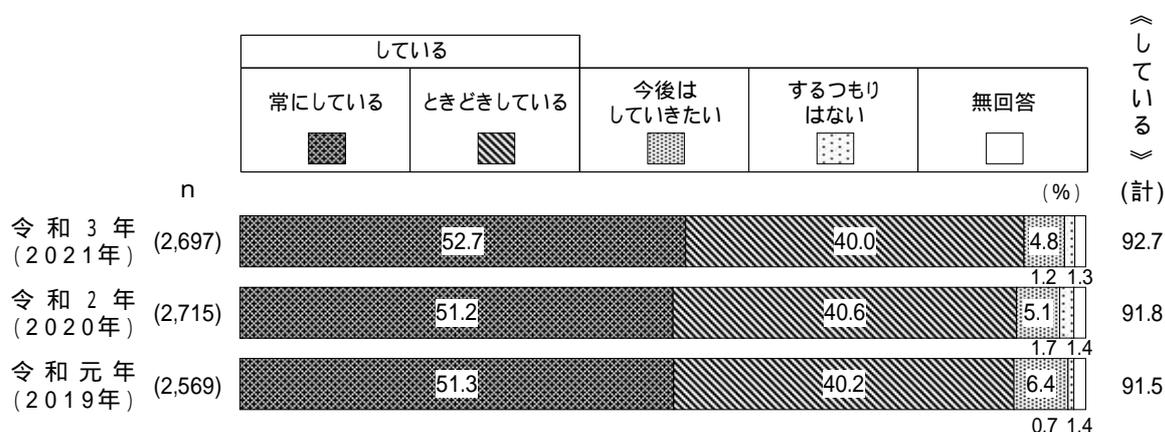
している が9割強

問49 あなたは、ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしていますか。( は1つだけ)

ふだんの暮らしの中で地球環境のためにできる取り組みとは・・・

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 過度な冷暖房の使用を控える      | マイカーの使用を控える        |
| 電気をこまめに消す          | 省エネ製品を利用する         |
| 冷蔵庫の開閉に気を使う        | 買物用のバッグを持参して買い物に行く |
| ごみと資源物を分別し、適正に排出する | など                 |

図3 - 41 - 1 地球環境への配慮 - 全体、経年比較

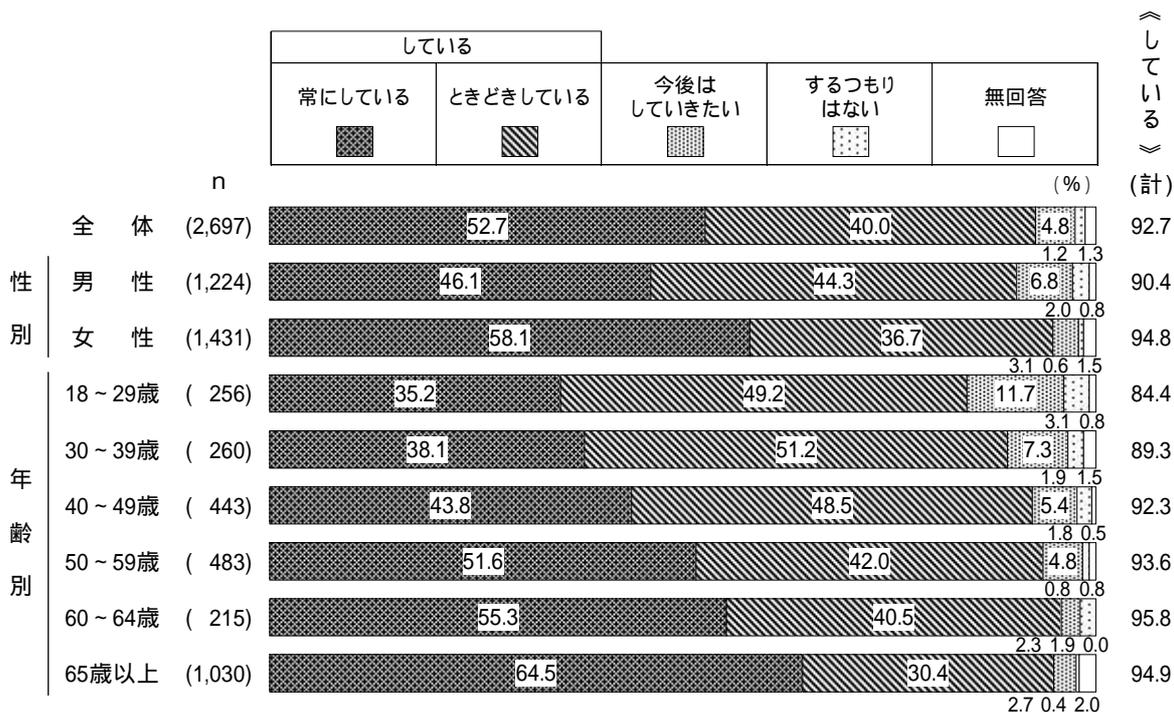


ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしているか聞いたところ、「常にしている」(52.7%)と「ときどきしている」(40.0%)を合わせた している (92.7%)は9割強となっている。また、「今後はしていきたい」(4.8%)と「するつもりはない」(1.2%)はともに1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 41 - 1)

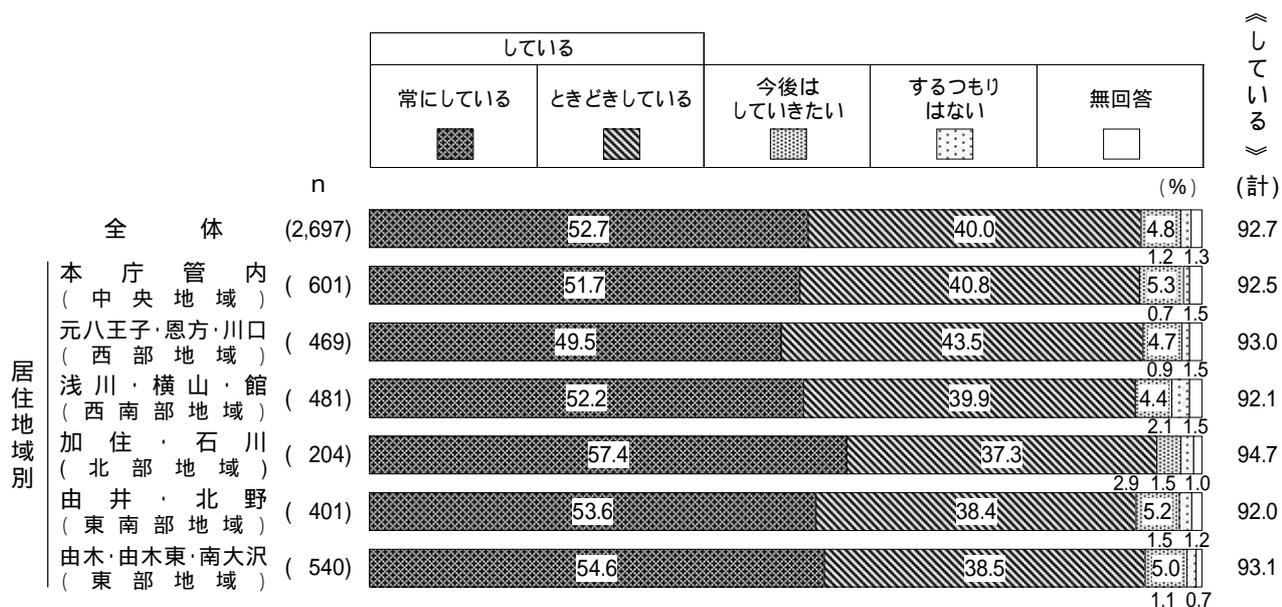
図3 - 41 - 2 地球環境への配慮 - 性別、年齢別



性別にみると、 している は女性（94.8%）が男性（90.4%）より4.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、 している は60～64歳（95.8%）と65歳以上（94.9%）で9割台半ばと多くなっている。（図3 - 41 - 2）

図3 - 41 - 3 地球環境への配慮 - 居住地域別



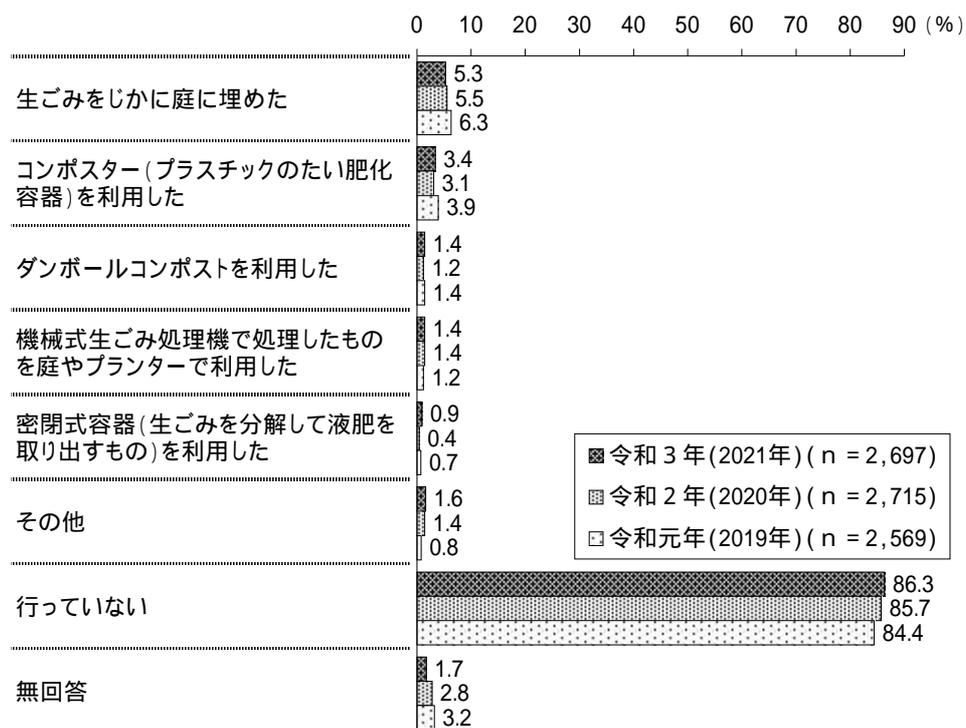
居住地域別にみると、 している は加住・石川(北部地域)（94.7%）で9割台半ばと多くなっている。（図3 - 41 - 3）

## (42) この1年間に行った生ごみのたい肥化

「行っていない」が9割近く

問50 あなたの世帯は、この1年間に、何らかの方法により生ごみのたい肥化を行いましたか。(はいいくつでも)

図3 - 42 - 1 この1年間に行った生ごみのたい肥化 - 全体、経年比較

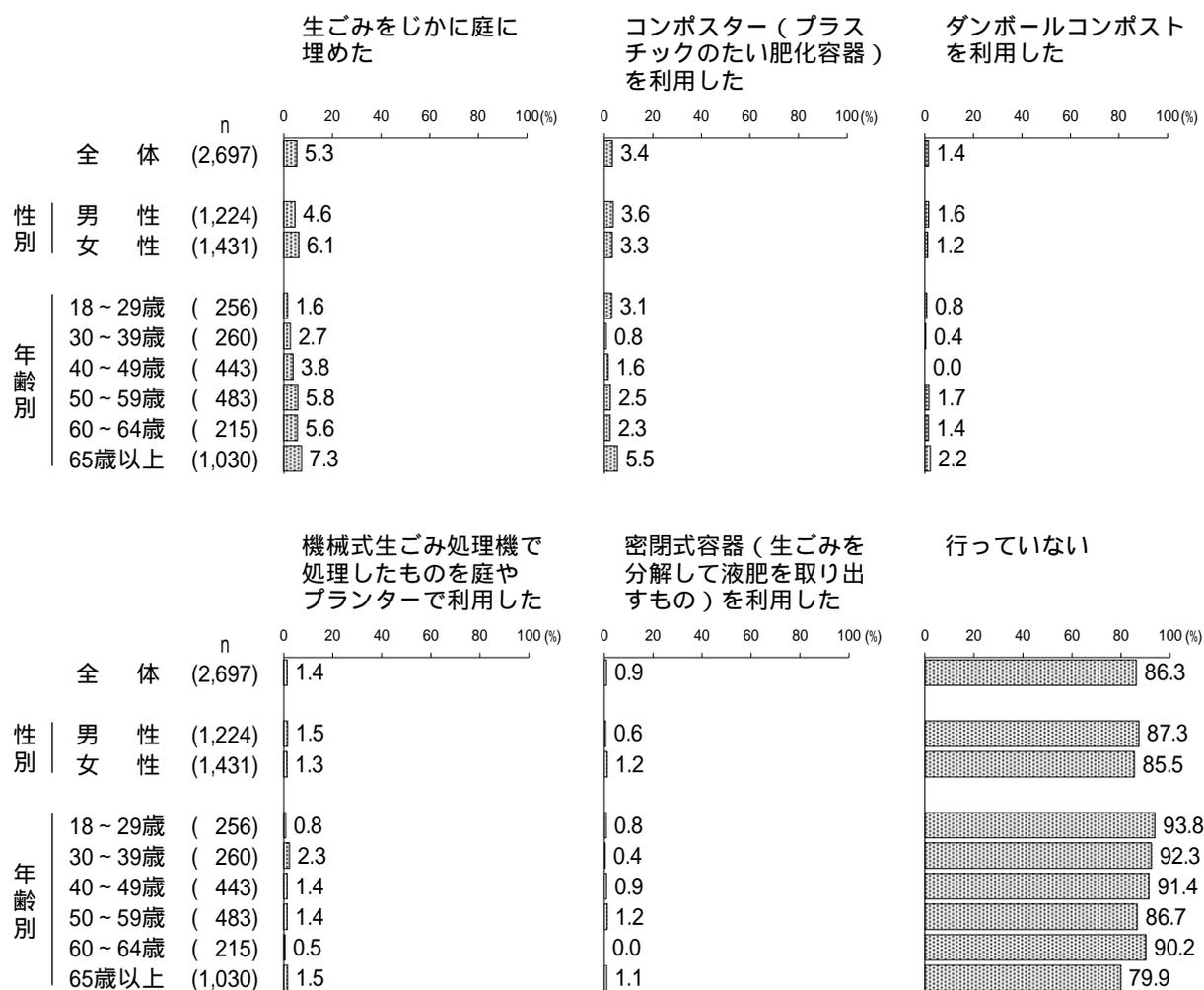


この1年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行ったか聞いたところ、「行っていない」(86.3%)が9割近くとなっている。行った中では、「生ごみをじかに庭に埋めた」(5.3%)、「コンポスター(プラスチックのたい肥化容器)を利用した」(3.4%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 42 - 1)

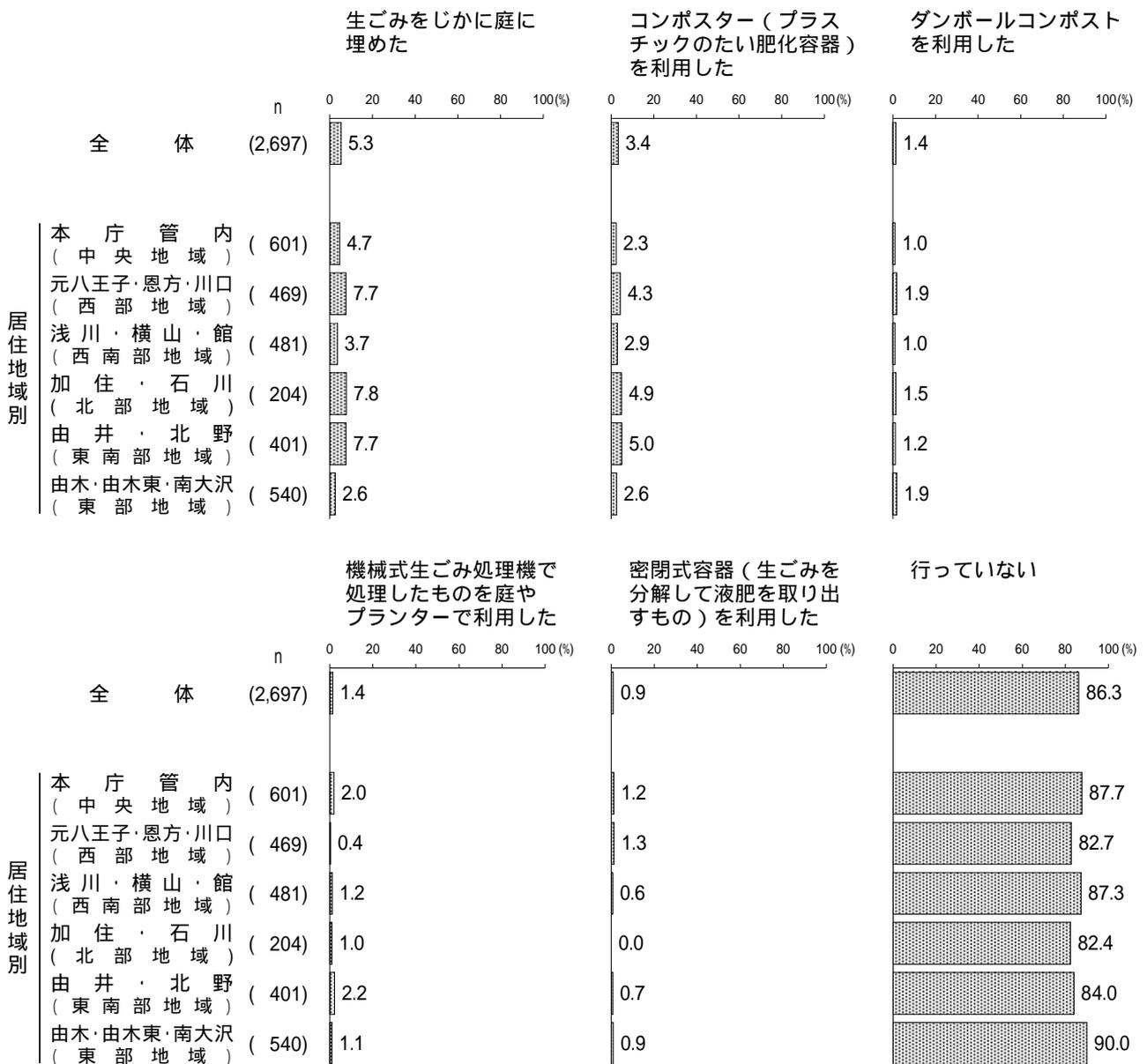
図3 - 42 - 2 この1年間に行った生ごみのたい肥化 - 性別、年齢別（「その他」を除く）



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「行っていない」は18～29歳（93.8%）、30～39歳（92.3%）、40～49歳（91.4%）で9割強と多くなっている。（図3 - 42 - 2）

図3 - 42 - 3 この1年間に行った生ごみのたい肥化 - 居住地域別（「その他」を除く）



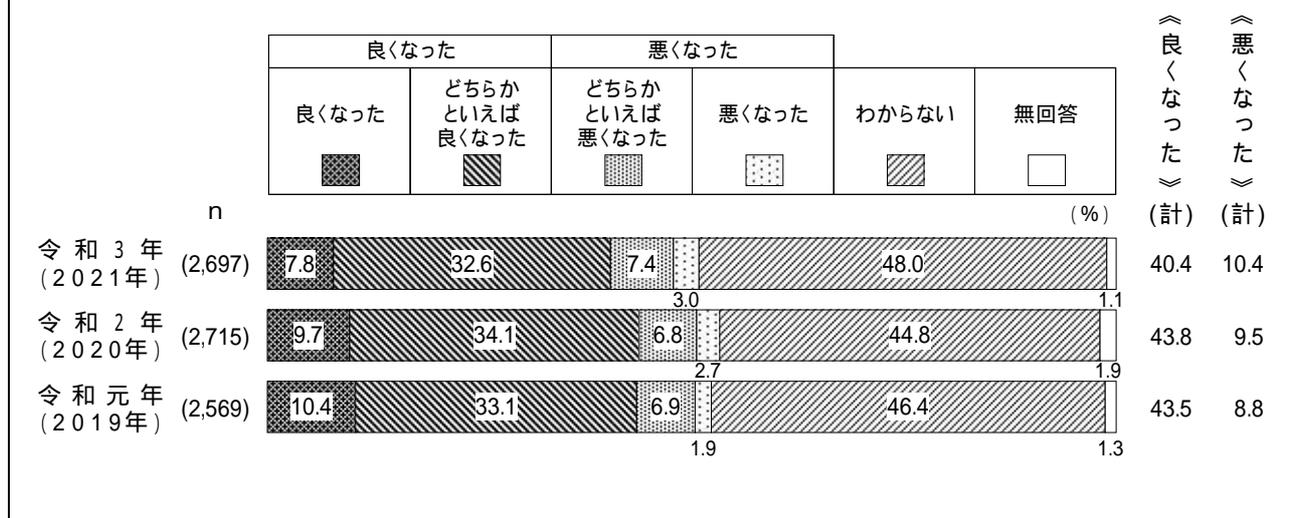
居住地域別にみると、「行っていない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（90.0%）で9割と多くなっている。（図3 - 42 - 3）

## (43) 市の生活環境

良くなった が約4割

問51 あなたは、市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が、以前と比べてどうなったと思いますか。（ は1つだけ）

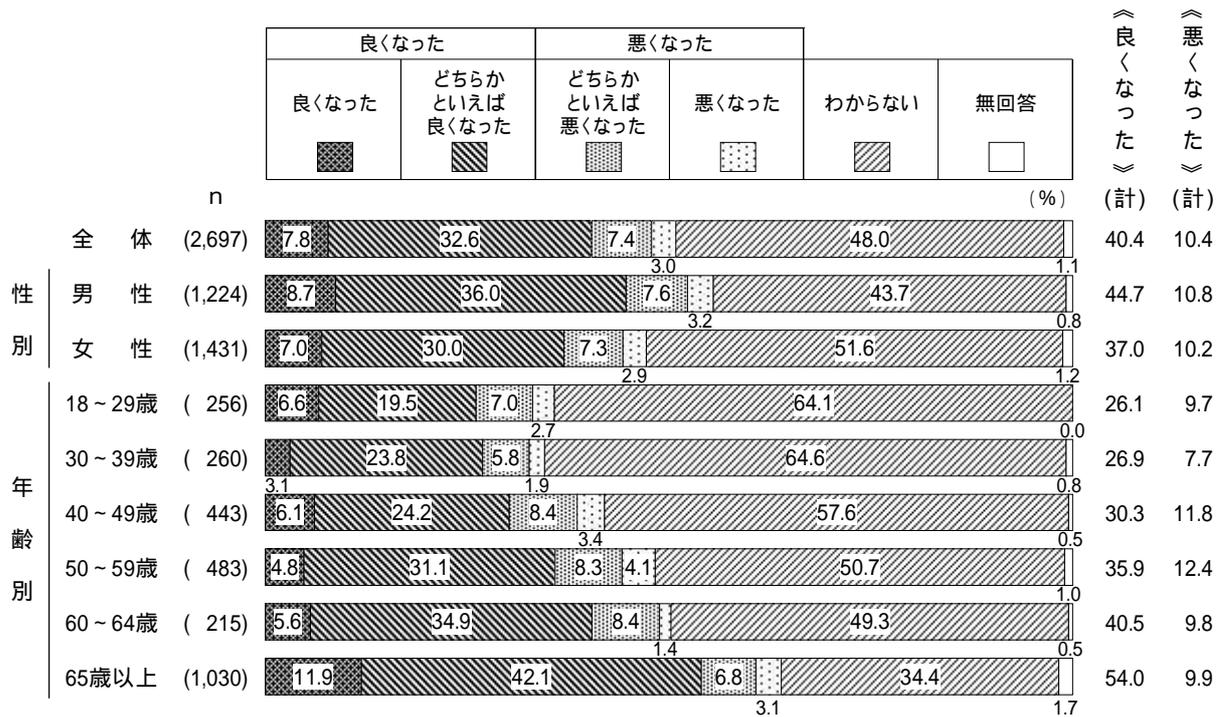
図3 - 43 - 1 市の生活環境 - 全体、経年比較



市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べてどうなったと思うか聞いたところ、「良くなった」（7.8%）と「どちらかといえば良くなった」（32.6%）を合わせた良くなった（40.4%）は約4割となっている。一方、「どちらかといえば悪くなった」（7.4%）と「悪くなった」（3.0%）を合わせた悪くなった（10.4%）は約1割となっている。

前回までの調査と比較すると、良くなったは令和2年（2020年）（43.8%）より3.4ポイント減少している。（図3 - 43 - 1）

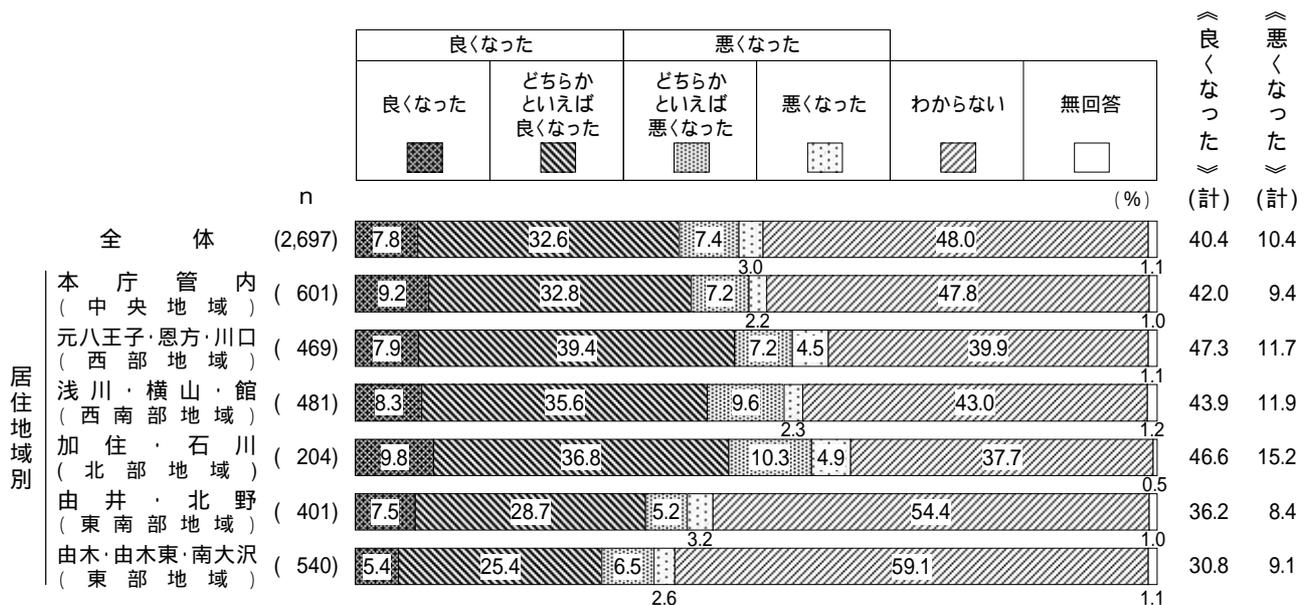
図3 - 43 - 2 市の生活環境 - 性別、年齢別



性別にみると、良くなったは男性（44.7%）が女性（37.0%）より7.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、良くなったは年代が高くなるほど割合が高く、65歳以上（54.0%）で5割台半ばと多くなっている。（図3 - 43 - 2）

図3 - 43 - 3 市の生活環境 - 居住地域別



居住地域別にみると、良くなったは元八王子・恩方・川口（西部地域）（47.3%）と加住・石川（北部地域）（46.6%）で5割近くと多くなっている。一方、悪くなったは加住・石川（北部地域）（15.2%）で1割半ばとなっている。（図3 - 43 - 3）

## (44)「生物多様性」の周知度

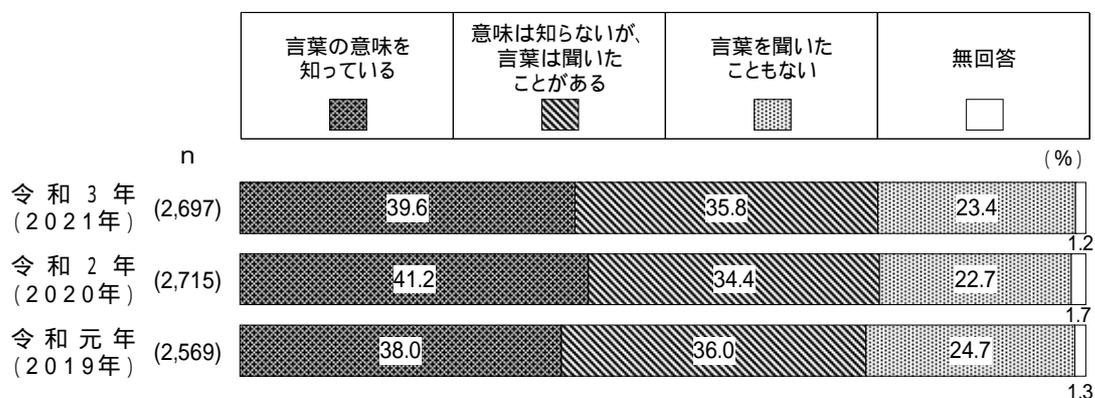
「言葉の意味を知っている」が4割弱

問52 あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていますか。( は1つだけ)

生物多様性とは・・・

動物や植物、昆虫などのいろいろな生きものがいて、それらがつながり合っていることをいいます。この生きものたちのつながりにより、地球では豊かな生態系が保たれています。生物多様性は、衣・食・住だけでなく、きれいな水や空気、薬の原料、文化の源泉など、様々な恵みをもたらしてくれます。

図3 - 44 - 1 「生物多様性」の周知度 - 全体、経年比較

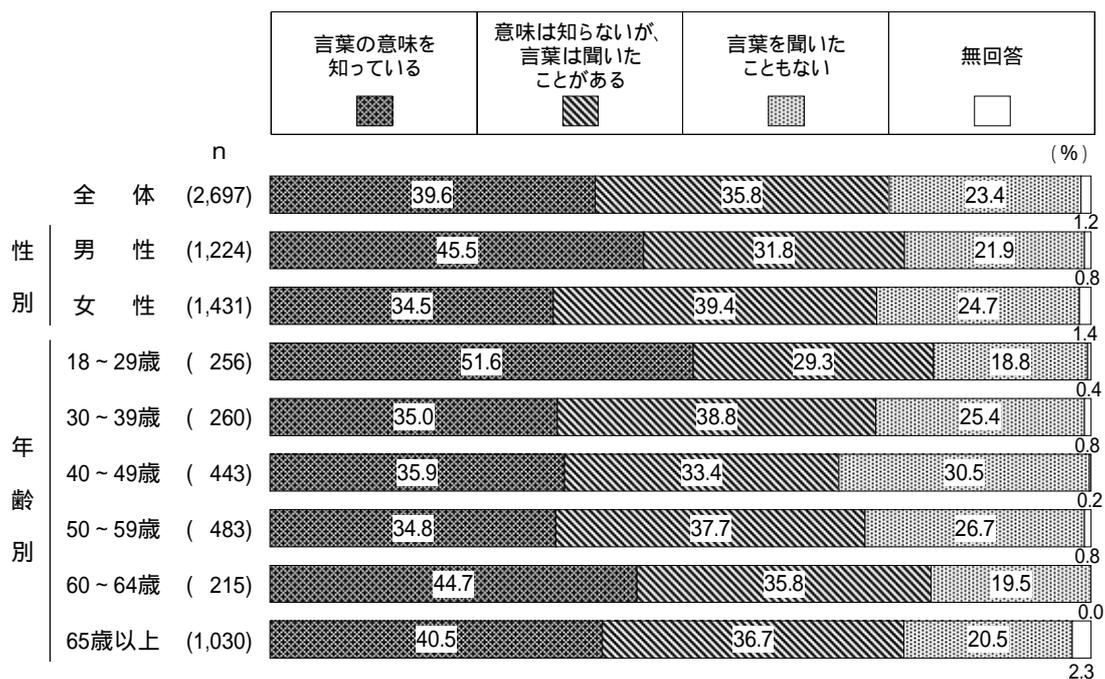


「生物多様性」という言葉を知っているか聞いたところ、「言葉の意味を知っている」(39.6%)が4割弱、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」(35.8%)は3割台半ばとなっている。一方、「言葉を聞いたこともない」(23.4%)は2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 44 - 1)

図3 - 44 - 2 「生物多様性」の周知度 - 性別、年齢別

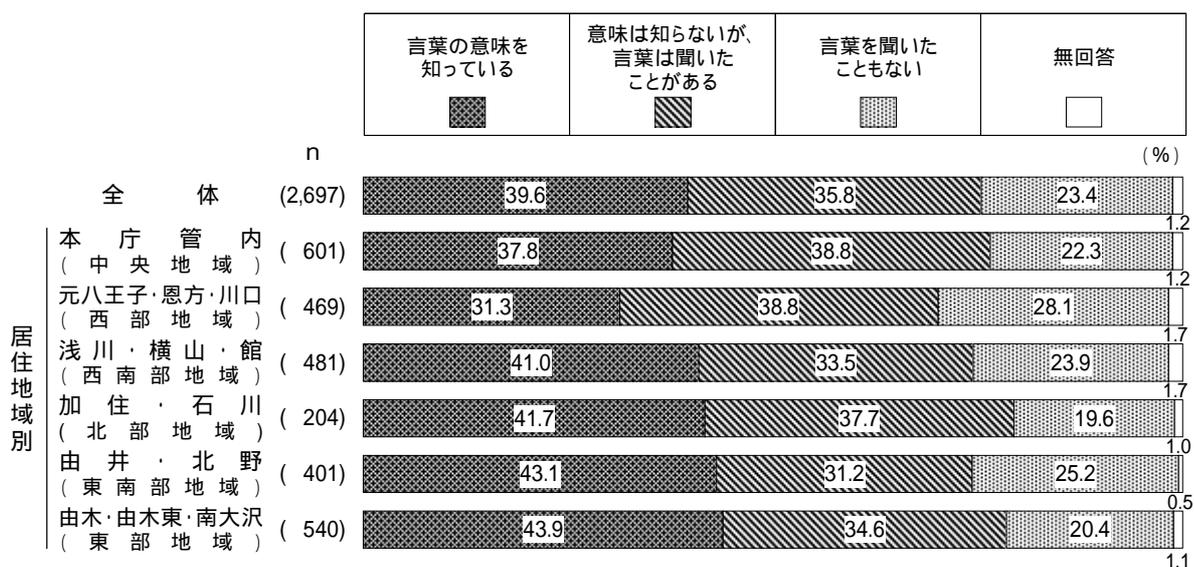


性別にみると、「言葉の意味を知っている」は男性（45.5%）が女性（34.5%）より11.0ポイント高くなっている。一方、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」は女性（39.4%）が男性（31.8%）より7.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「言葉の意味を知っている」は18～29歳（51.6%）で5割強と多くなっている。一方、「言葉を聞いたこともない」は40～49歳（30.5%）で約3割と多くなっている。

（図3 - 44 - 2）

図3 - 44 - 3 「生物多様性」の周知度 - 居住地域別



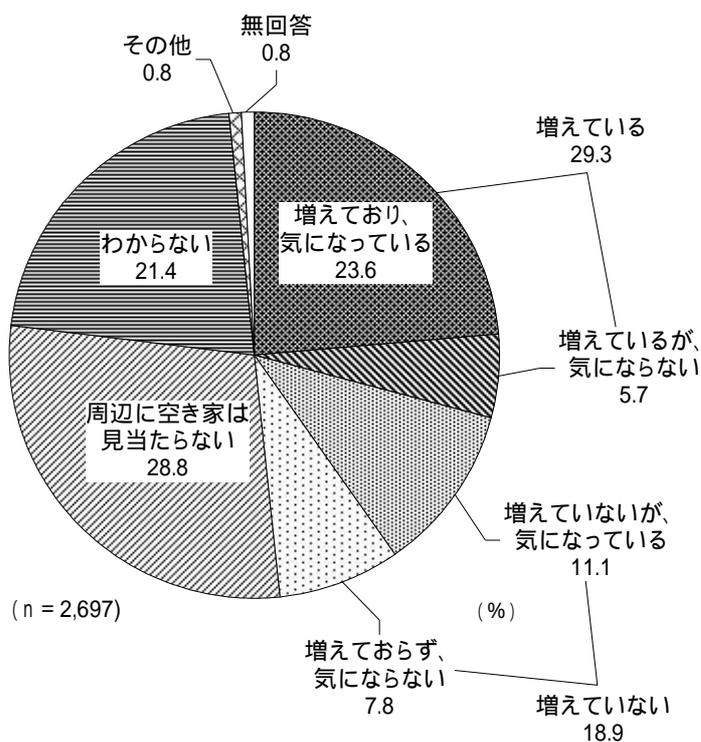
居住地域別にみると、「言葉を聞いたこともない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（28.1%）で3割近くと多くなっている。（図3 - 44 - 3）

## (45) 居住地域での空き家の状況

「増えており、気になっている」が2割強

問53 あなたのお住まいの地域での空き家（販売中の住宅を除く）の状況について、どのように感じていますか。（は1つだけ）

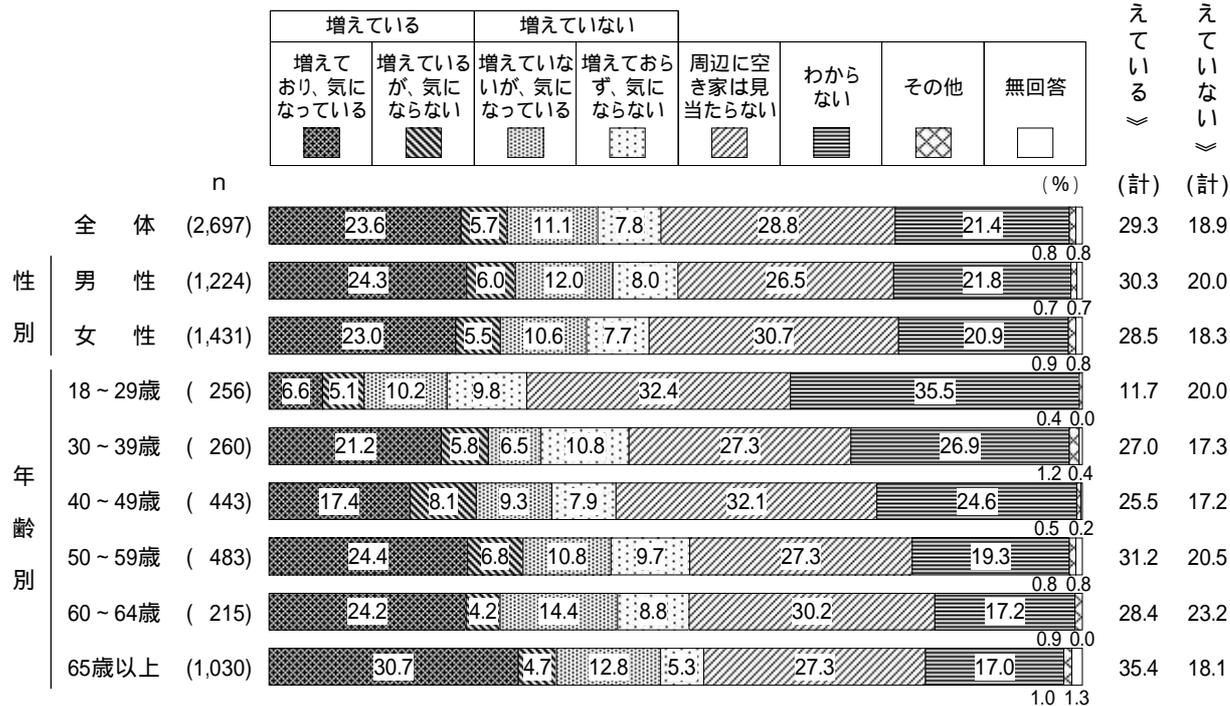
図3 - 45 - 1 居住地域での空き家の状況 - 全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

居住地域での空き家の状況について聞いたところ、「増えており、気になっている」(23.6%)と「増えているが、気にならない」(5.7%)を合わせた 増えている (29.3%)は3割弱となっている。一方、「増えていないが、気になっている」(11.1%)と「増えておらず、気にならない」(7.8%)を合わせた 増えていない (18.9%)は2割近くとなっている。また、「周辺に空き家は見当たらない」(28.8%)は3割近くとなっている。(図3 - 45 - 1)

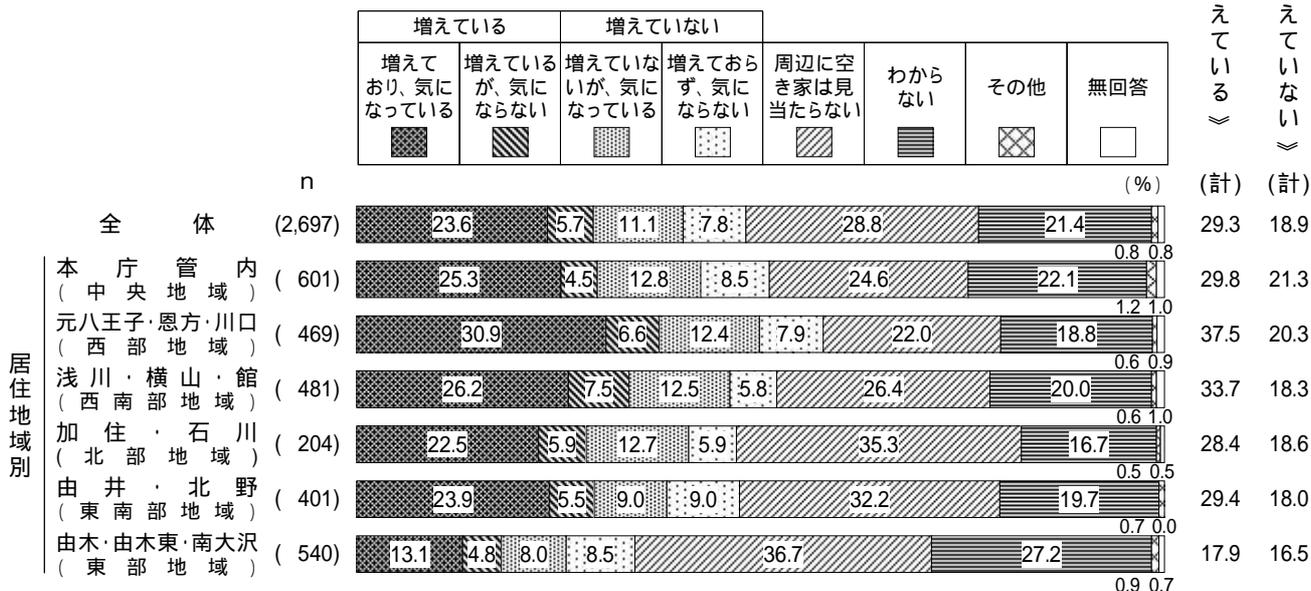
図3 - 45 - 2 居住地域での空き家の状況 - 性別、年齢別



性別にみると、「周辺に空き家は見当たらない」は女性（30.7%）が男性（26.5%）より4.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「増えており、気になっている」は65歳以上（30.7%）で約3割と多くなっている。 増えている は65歳以上（35.4%）で3割台半ばと多くなっている。（図3 - 45 - 2）

図3 - 45 - 3 居住地域での空き家の状況 - 居住地域別



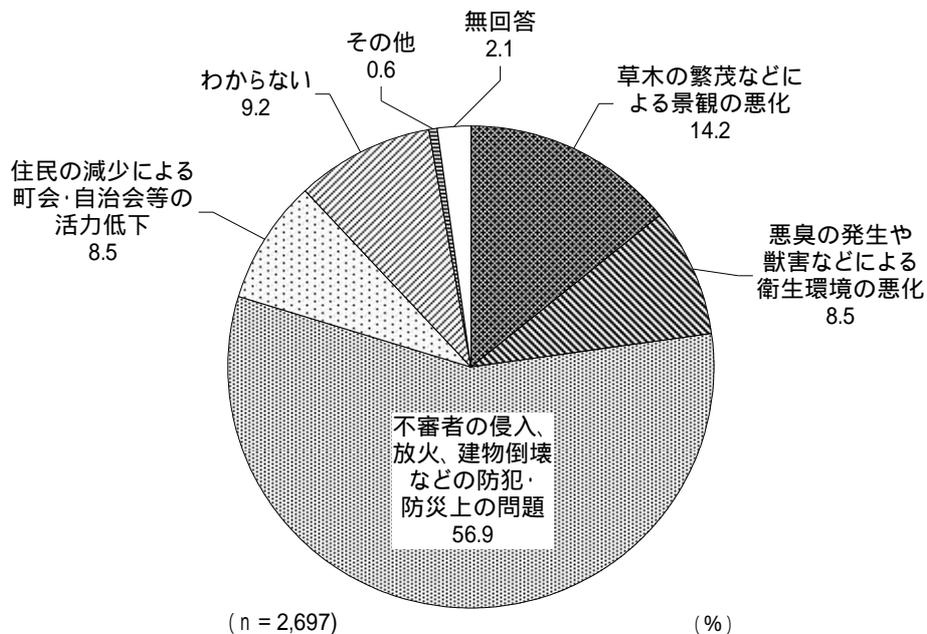
居住地域別にみると、 増えている は元八王子・恩方・川口（西部地域）（37.5%）で4割近くと多くなっている。（図3 - 45 - 3）

## (46) 空き家が増えることでの心配事

「不審者の侵入、放火、建物倒壊などの防犯・防災上の問題」が6割近く

問54 あなたのお住まいの地域に空き家が増えることによって、一番心配なことは何ですか。  
(は1つだけ)

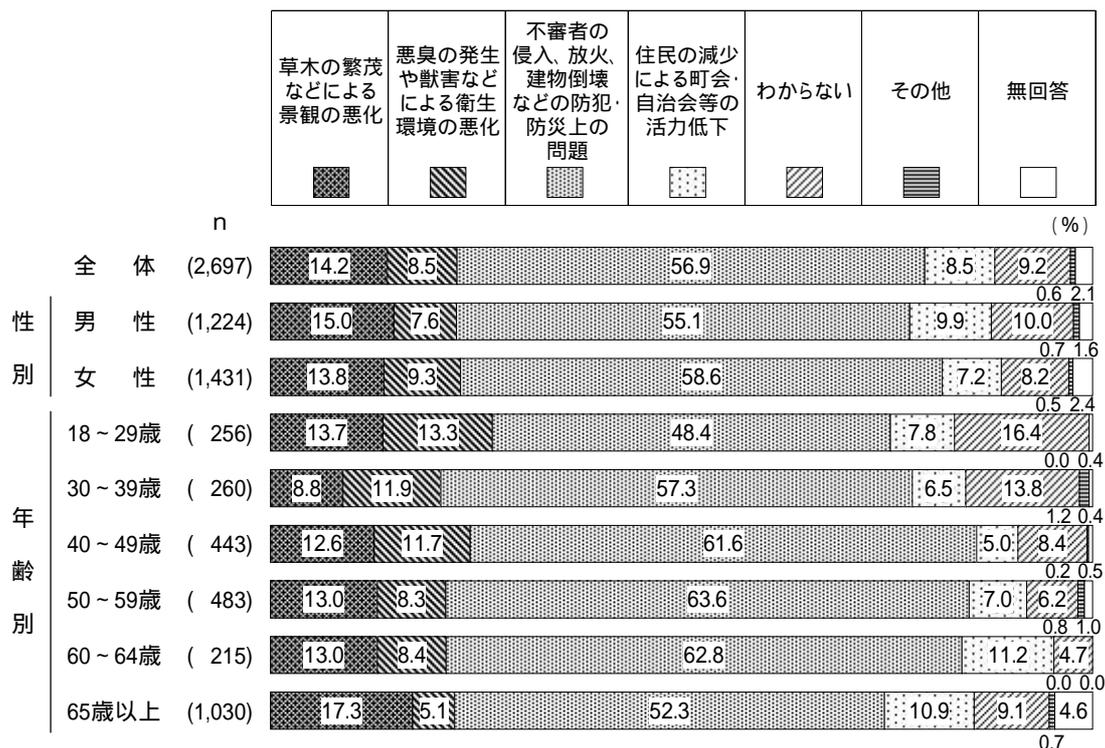
図3 - 46 - 1 空き家が増えることでの心配事 - 全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

居住地域に空き家が増えることによって、一番心配なことを聞いたところ、「不審者の侵入、放火、建物倒壊などの防犯・防災上の問題」(56.9%)が6割近くで最も多くなっている。次いで「草木の繁茂などによる景観の悪化」(14.2%)、「悪臭の発生や獣害などによる衛生環境の悪化」と「住民の減少による町会・自治会等の活力低下」(ともに8.5%)の順となっている。(図3 - 46 - 1)

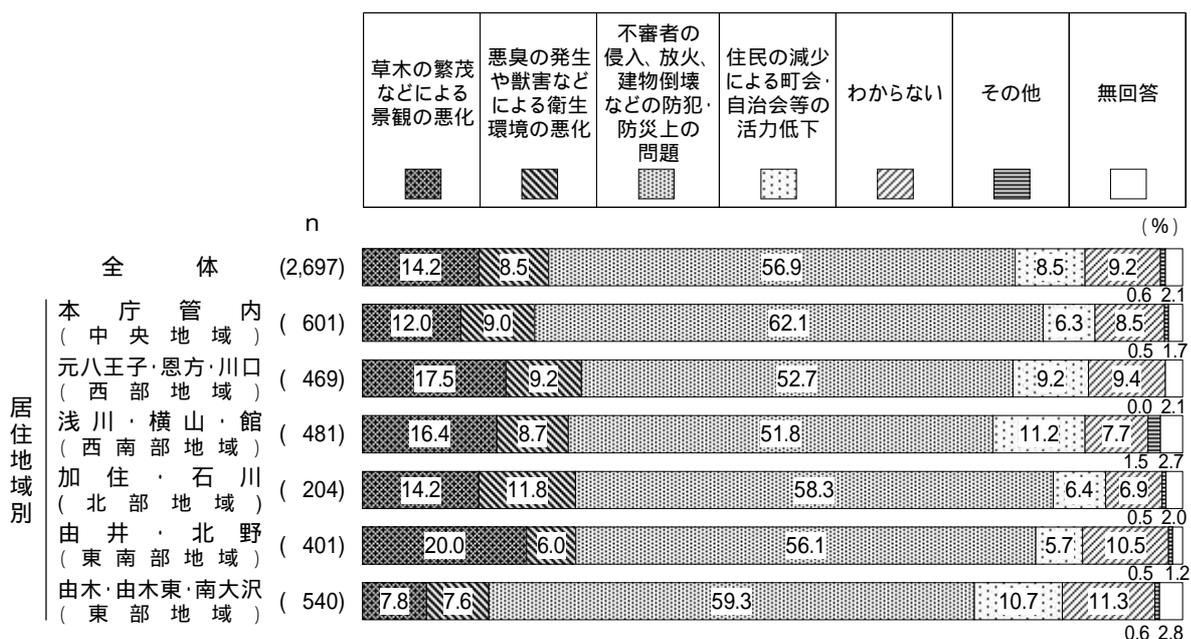
図3 - 46 - 2 空き家が増えることでの心配事 - 性別、年齢別



性別にみると、「不審者の侵入、放火、建物倒壊などの防犯・防災上の問題」は女性（58.6%）が男性（55.1%）より3.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「不審者の侵入、放火、建物倒壊などの防犯・防災上の問題」は40～49歳（61.6%）、50～59歳（63.6%）、60～69歳（62.8%）で6割強と多くなっている。（図3 - 46 - 2）

図3 - 46 - 3 空き家が増えることでの心配事 - 居住地域別



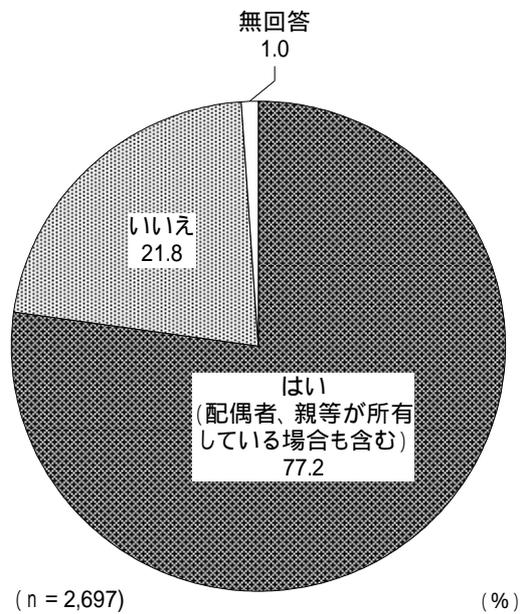
居住地域別にみると、「草木の繁茂などによる景観の悪化」は由井・北野（東南部地域）（20.0%）で2割と多くなっている。「不審者の侵入、放火、建物倒壊などの防犯・防災上の問題」は本庁管内（中央地域）（62.1%）で6割強と多くなっている。（図3 - 46 - 3）

## (47) 持ち家の有無

「はい(配偶者、親等が所有している場合も含む)」が8割近く

問55 あなたのお住まいは持ち家ですか。( は1つだけ)

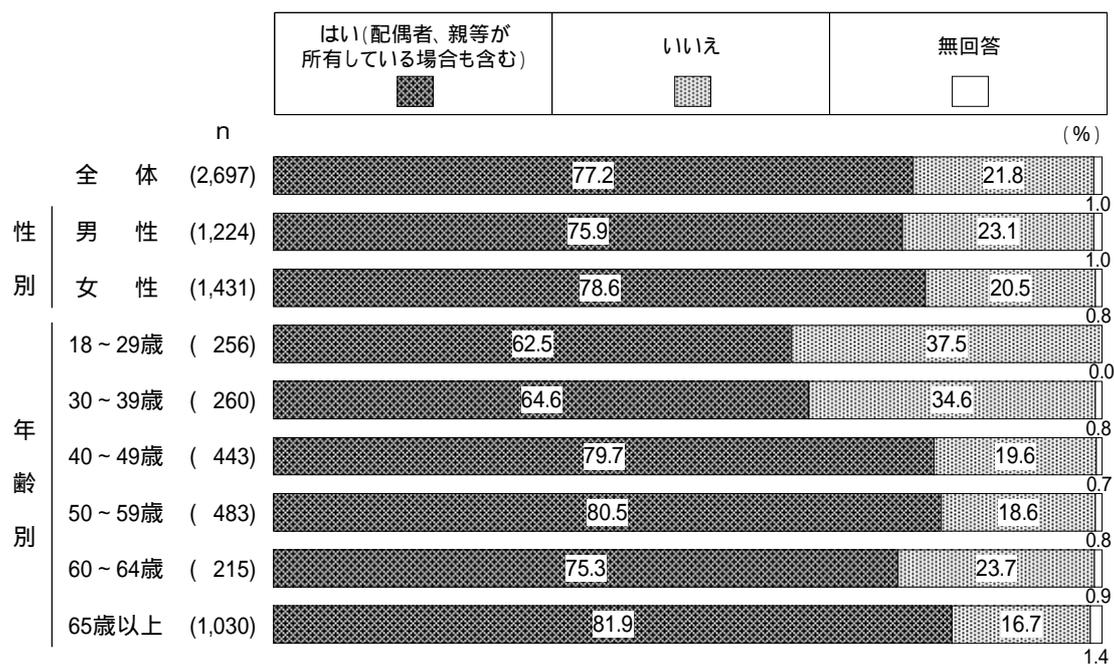
図3 - 47 - 1 持ち家の有無 - 全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

持ち家の有無を聞いたところ、「はい(配偶者、親等が所有している場合も含む)」(77.2%)が8割近く、「いいえ」(21.8%)は2割強となっている。(図3 - 47 - 1)

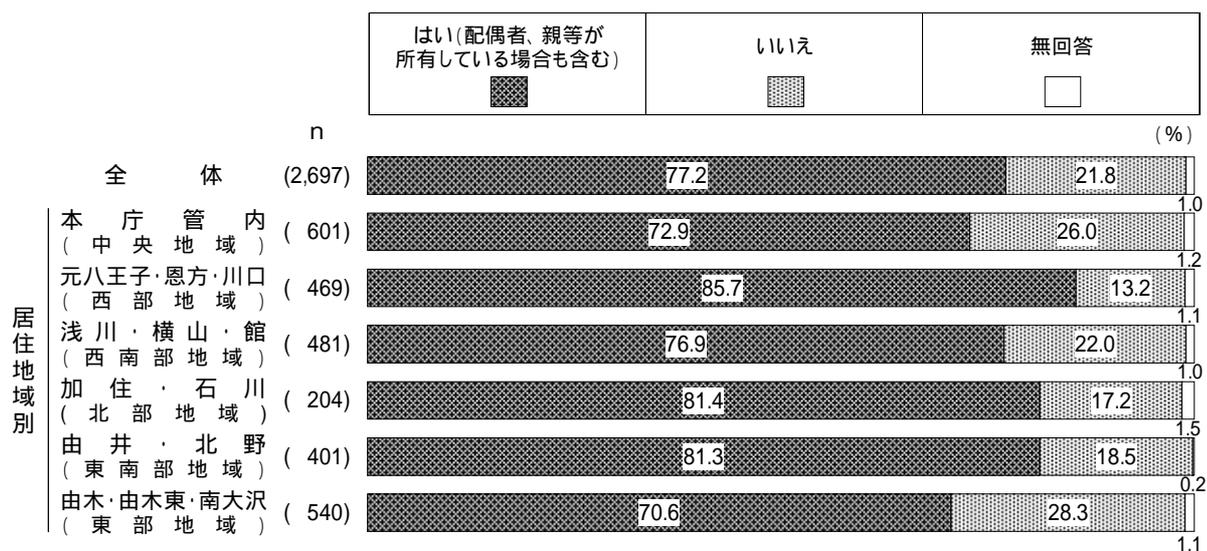
図3 - 47 - 2 持ち家の有無 - 性別、年齢別



性別にみると、「はい(配偶者、親等が所有している場合も含む)」は女性(78.6%)が男性(75.9%)より2.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「はい(配偶者、親等が所有している場合も含む)」は65歳以上(81.9%)で8割強、50～59歳(80.5%)で約8割と多くなっている。(図3 - 47 - 2)

図3 - 47 - 3 持ち家の有無 - 居住地域別



居住地域別にみると、「はい(配偶者、親等が所有している場合も含む)」は元八王子・恩方・川口(西部地域)(85.7%)で8割台半ばと多くなっている。一方、「いいえ」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(28.3%)と本庁管内(中央地域)(26.0%)で3割近くと多くなっている。

(図3 - 47 - 3)

## (48) 住まいの相続・継承の見通し

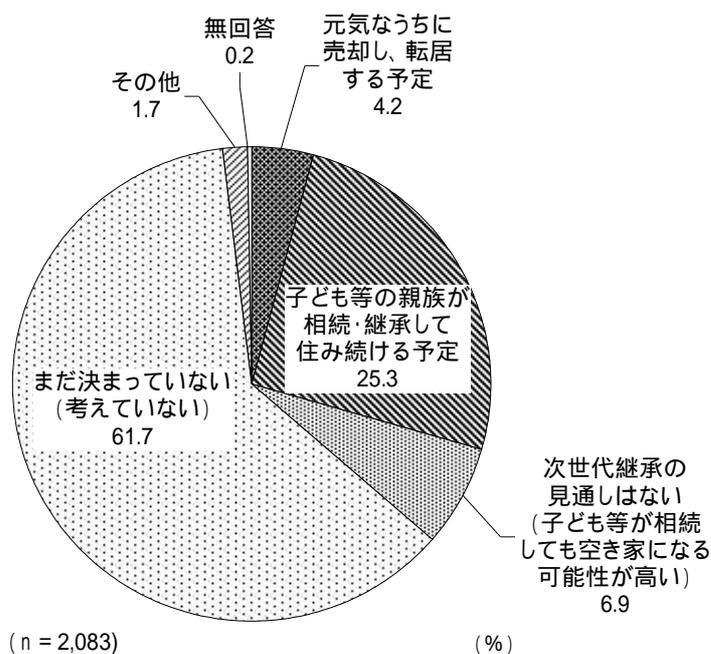
「まだ決まっていない(考えていない)」が6割強

(問55で「はい(配偶者、親等が所有している場合も含む)」とお答えの方へ)

問55 - 1 あなたのお住まいについて、相続・継承の見通しはどうなっていますか。

( は1つだけ)

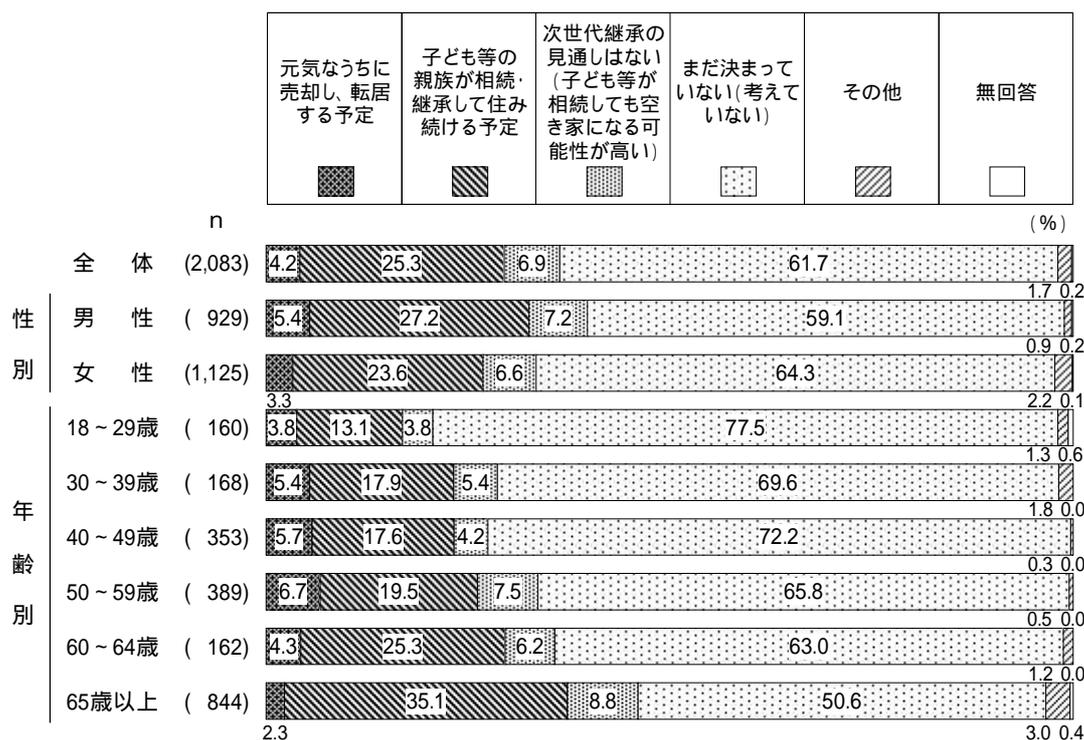
図3 - 48 - 1 住まいの相続・継承の見通し - 全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

持ち家の有無で、「はい(配偶者、親等が所有している場合も含む)」と回答した2,083人に、相続・継承の見通しを聞いたところ、「まだ決まっていない(考えていない)」(61.7%)が6割強で最も多くなっている。次いで「子ども等の親族が相続・継承して住み続ける予定」(25.3%)、「次世代継承の見通しはない(子ども等が相続しても空き家になる可能性が高い)」(6.9%)、「元気なうちに売却し、転居する予定」(4.2%)の順となっている。(図3 - 48 - 1)

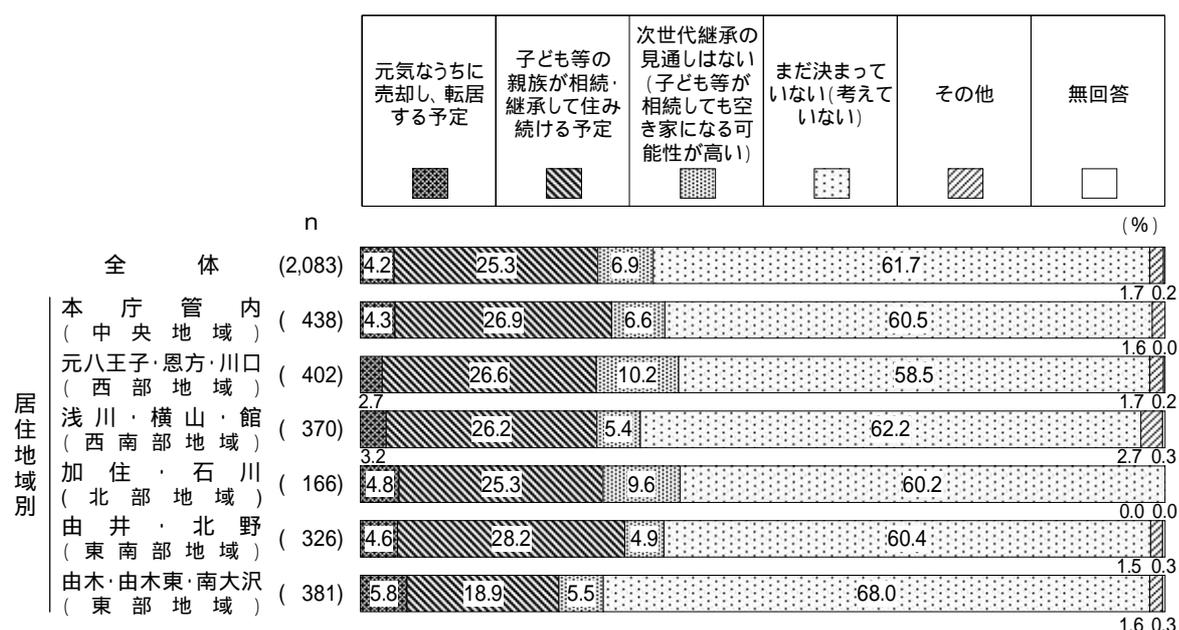
図3 - 48 - 2 住まいの相続・継承の見通し - 性別、年齢別



性別にみると、「まだ決まっていない(考えていない)」は女性(64.3%)が男性(59.1%)より5.2ポイント高くなっている。一方、「子ども等の親族が相続・継承して住み続ける予定」は男性(27.2%)が女性(23.6%)より3.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「子ども等の親族が相続・継承して住み続ける予定」は65歳以上(35.1%)で3割台半ばと多くなっている。「まだ決まっていない(考えていない)」は18~29歳(77.5%)で8割近くと多くなっている。(図3 - 48 - 2)

図3 - 48 - 3 住まいの相続・継承の見通し - 居住地域別



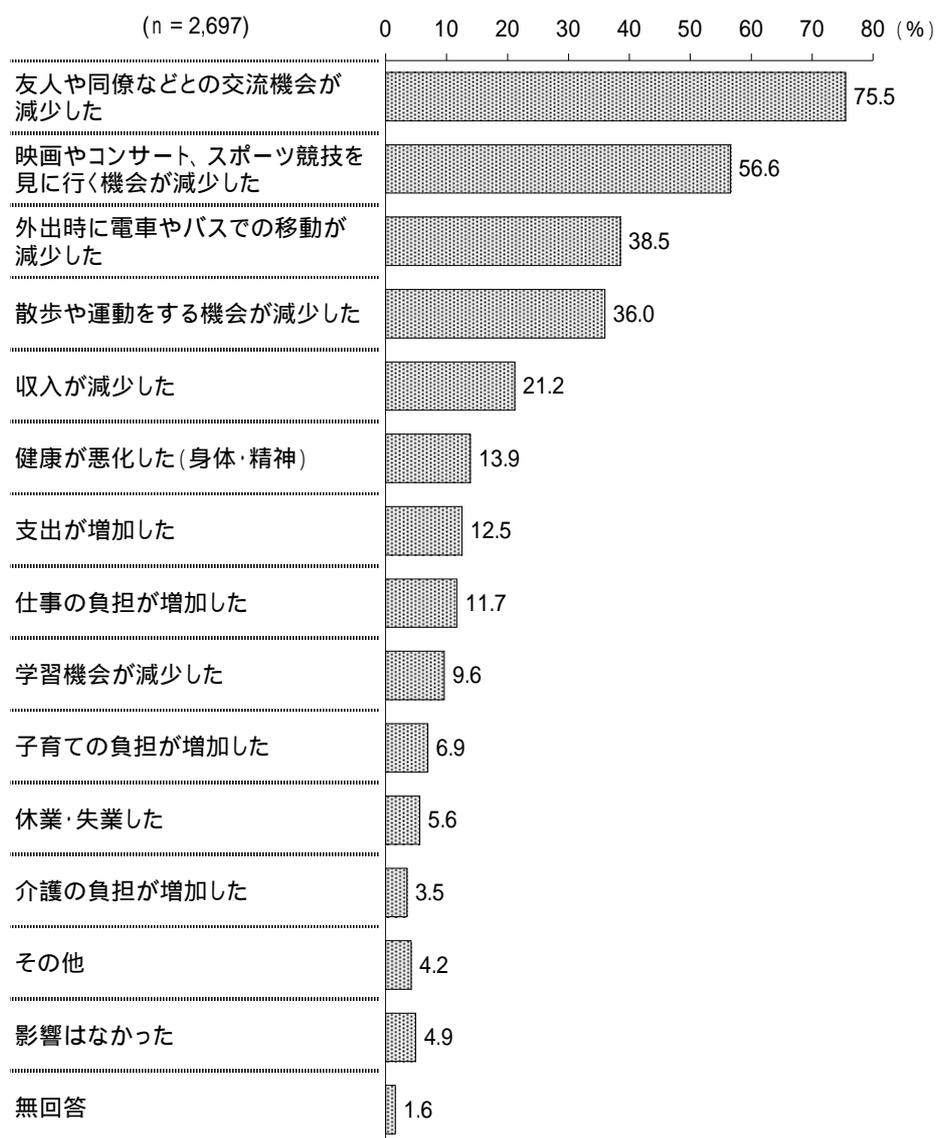
居住地域別にみると、「まだ決まっていない(考えていない)」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(68.0%)で7割近くと多くなっている。(図3 - 48 - 3)

## (49) 新型コロナウイルス感染症による生活への影響

「友人や同僚などとの交流機会が減少した」が7割台半ば

問56 国内で新型コロナウイルス感染症の感染が起きてから（2020年1月以降）、あなたの生活にどのような影響がありましたか。（はいくつでも）

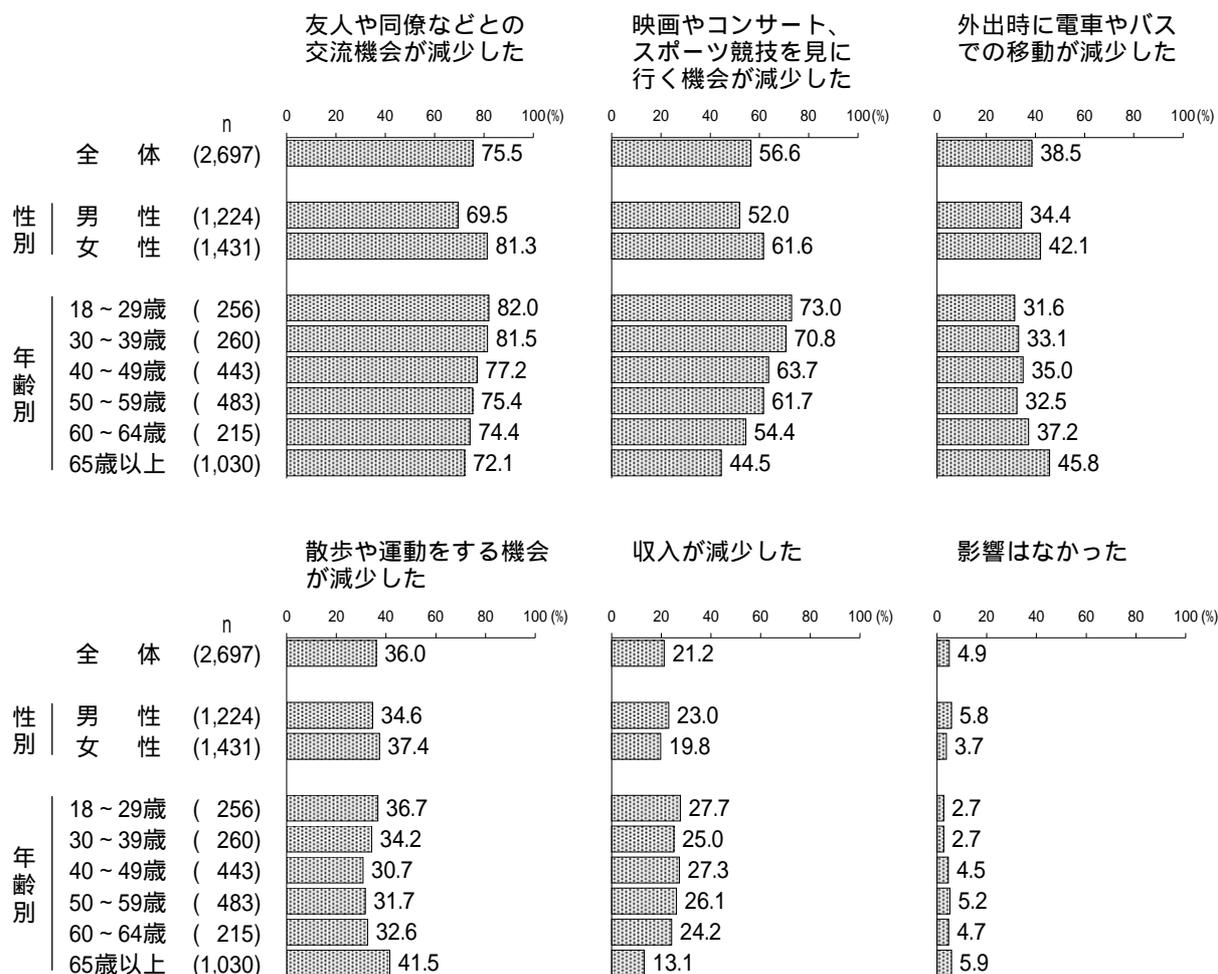
図3 - 49 - 1 新型コロナウイルス感染症による生活への影響 - 全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

新型コロナウイルス感染症による生活への影響を聞いたところ、「友人や同僚などとの交流機会が減少した」(75.5%)が7割台半ばで最も多くなっている。次いで「映画やコンサート、スポーツ競技を見に行く機会が減少した」(56.6%)、「外出時に電車やバスでの移動が減少した」(38.5%)、「散歩や運動をする機会が減少した」(36.0%)などの順となっている。一方、「影響はなかった」(4.9%)は1割未満となっている。(図3 - 49 - 1)

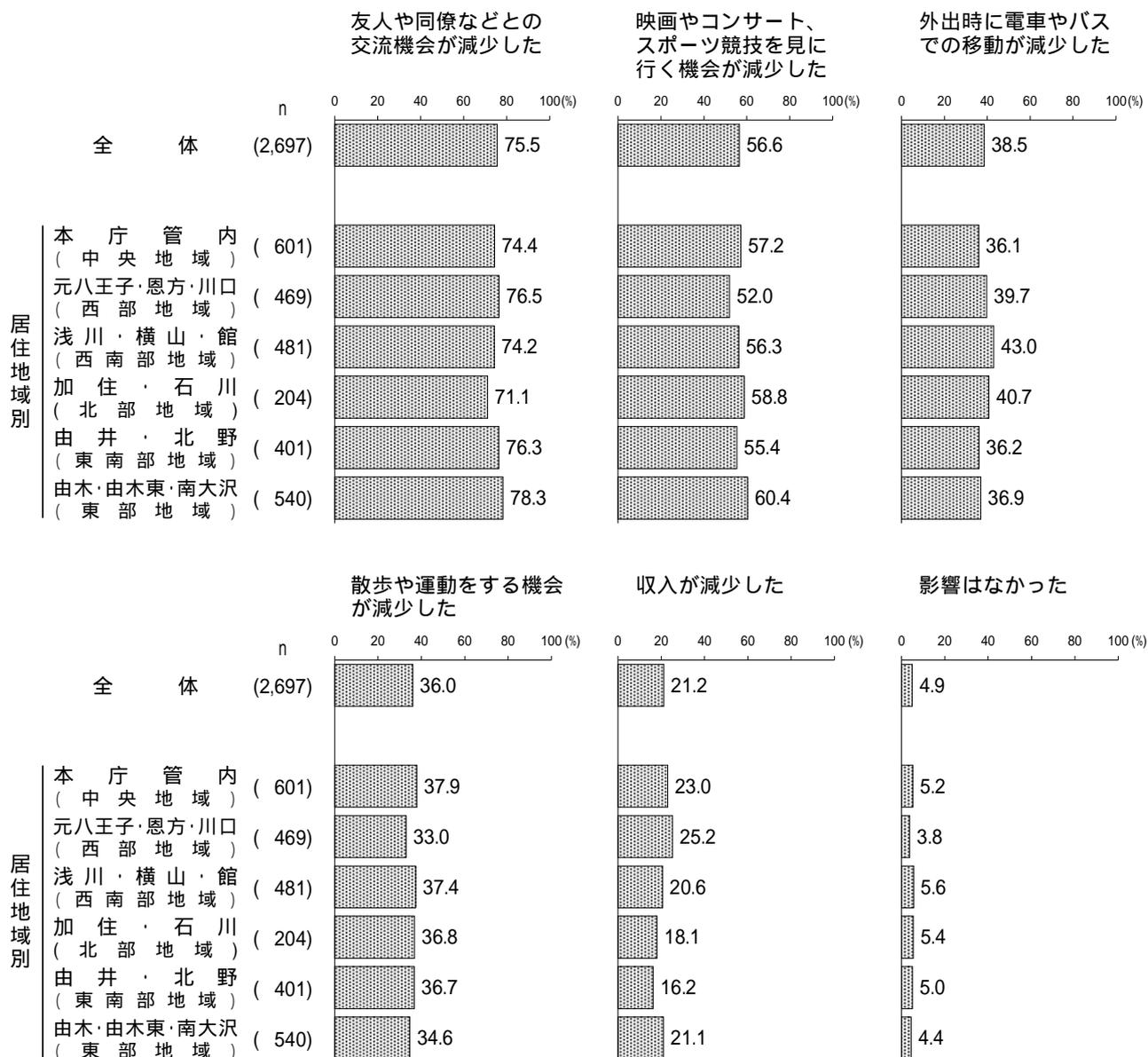
図3 - 49 - 2 新型コロナウイルス感染症による生活への影響 - 性別、年齢別  
(上位5位 + 「影響はなかった」)



性別にみると、「友人や同僚などとの交流機会が減少した」は女性（81.3%）が男性（69.5%）より11.8ポイント、「映画やコンサート、スポーツ競技を見に行く機会が減少した」は女性（61.6%）が男性（52.0%）より9.6ポイント、「外出時に電車やバスでの移動が減少した」は女性（42.1%）が男性（34.4%）より7.7ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「友人や同僚などとの交流機会が減少した」は年代が低くなるほど割合が高く、18～29歳（82.0%）と30～39歳（81.5%）で8割強と多くなっている。「映画やコンサート、スポーツ競技を見に行く機会が減少した」は年代が低くなるほど割合が高く、18～29歳（73.0%）で7割強と多くなっている。「外出時に電車やバスでの移動が減少した」は65歳以上（45.8%）で4割台半ばと多くなっている。（図3 - 49 - 2）

図3 - 49 - 3 新型コロナウイルス感染症による生活への影響 - 居住地域別  
(上位5位 + 「影響はなかった」)



居住地域別にみると、「映画やコンサート、スポーツ競技を見に行く機会が減少した」は由木・由木東・南大沢(東部地域)(60.4%)で約6割と多くなっている。「外出時に電車やバスでの移動が減少した」は浅川・横山・館(西南部地域)(43.0%)で4割強と多くなっている。

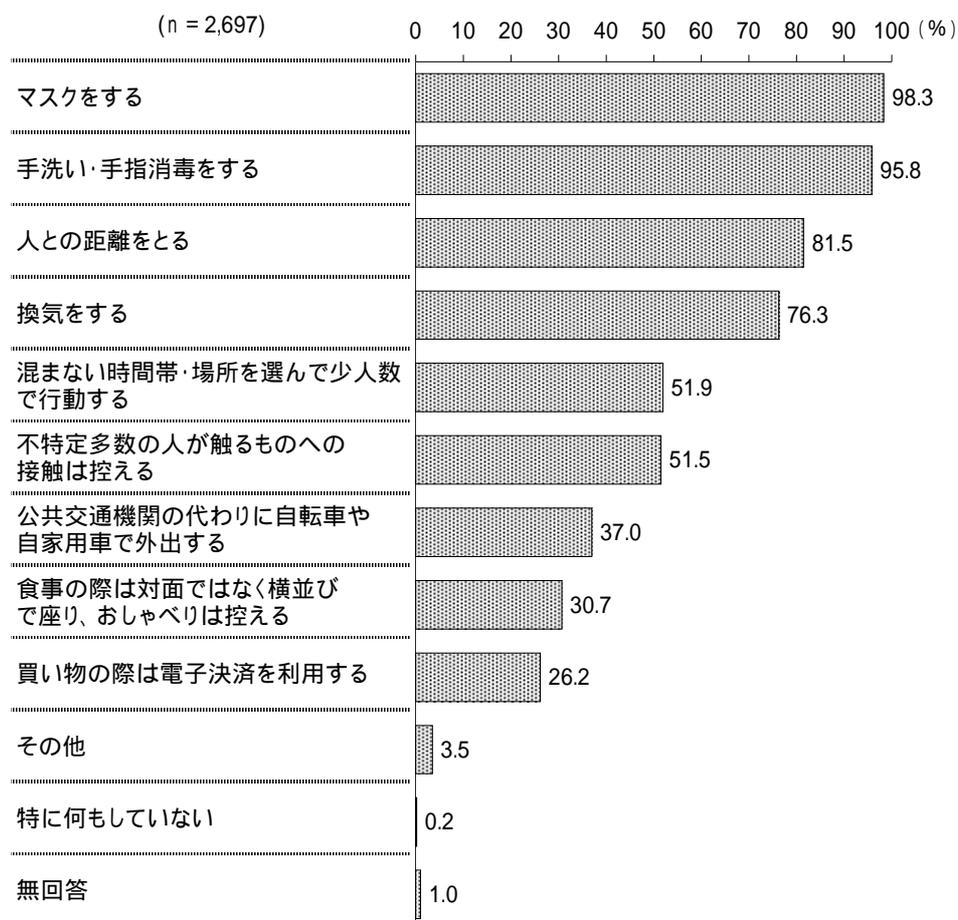
(図3 - 49 - 3)

## (50) 新型コロナウイルス感染症の対策

「マスクをする」が10割近く

問57 新型コロナウイルス感染症対策として、あなたが日常生活の中で心掛けるようになったことはありますか。( はいいくつでも )

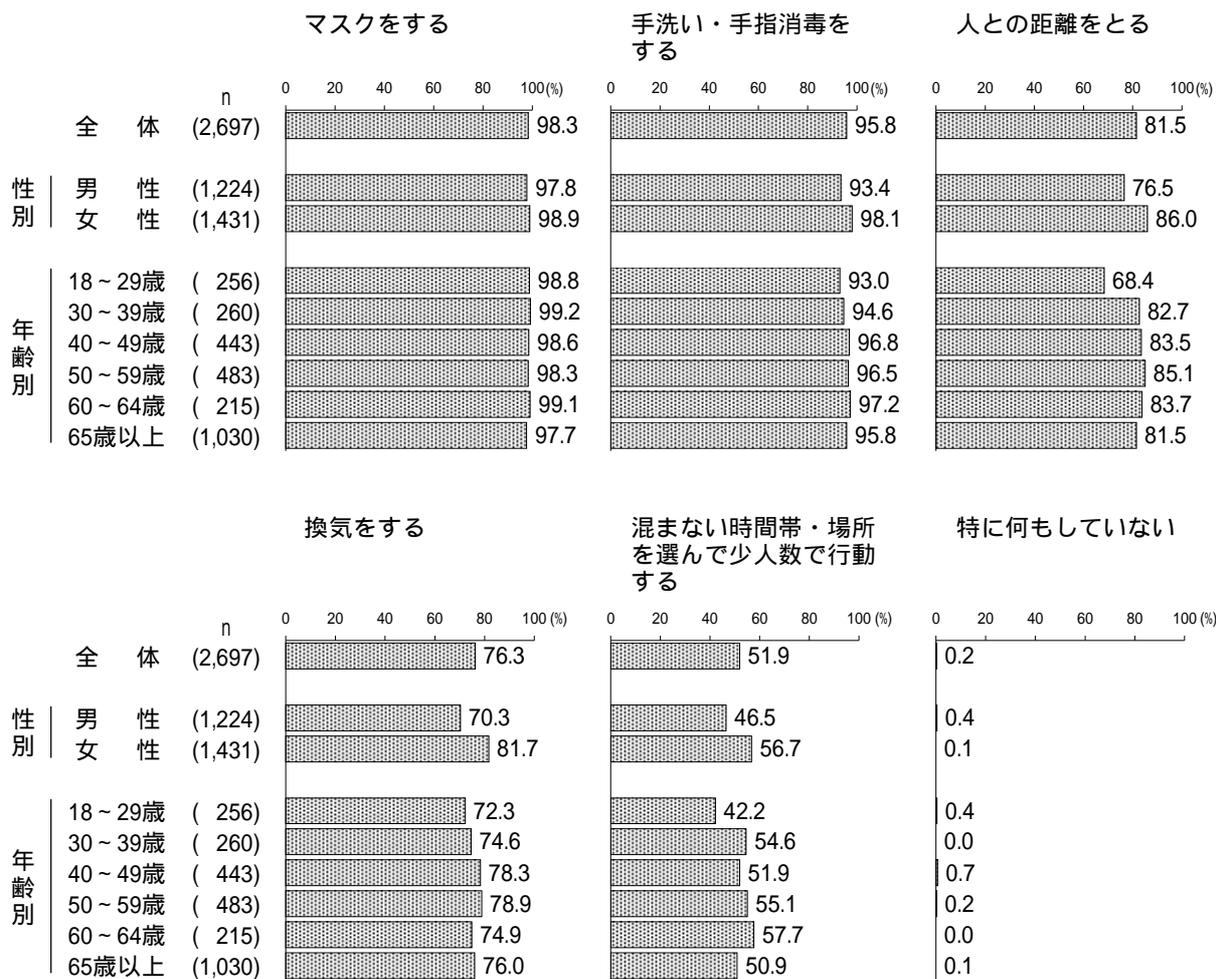
図3 - 50 - 1 新型コロナウイルス感染症の対策 - 全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

新型コロナウイルス感染症対策として、日常生活の中で心掛けるようになったことを聞いたところ、「マスクをする」(98.3%)が10割近くで最も多くなっている。次いで「手洗い・手指消毒をする」(95.8%)、「人との距離をとる」(81.5%)、「換気をする」(76.3%)、「混まない時間帯・場所を選んで少人数で行動する」(51.9%)などの順となっている。(図3 - 50 - 1)

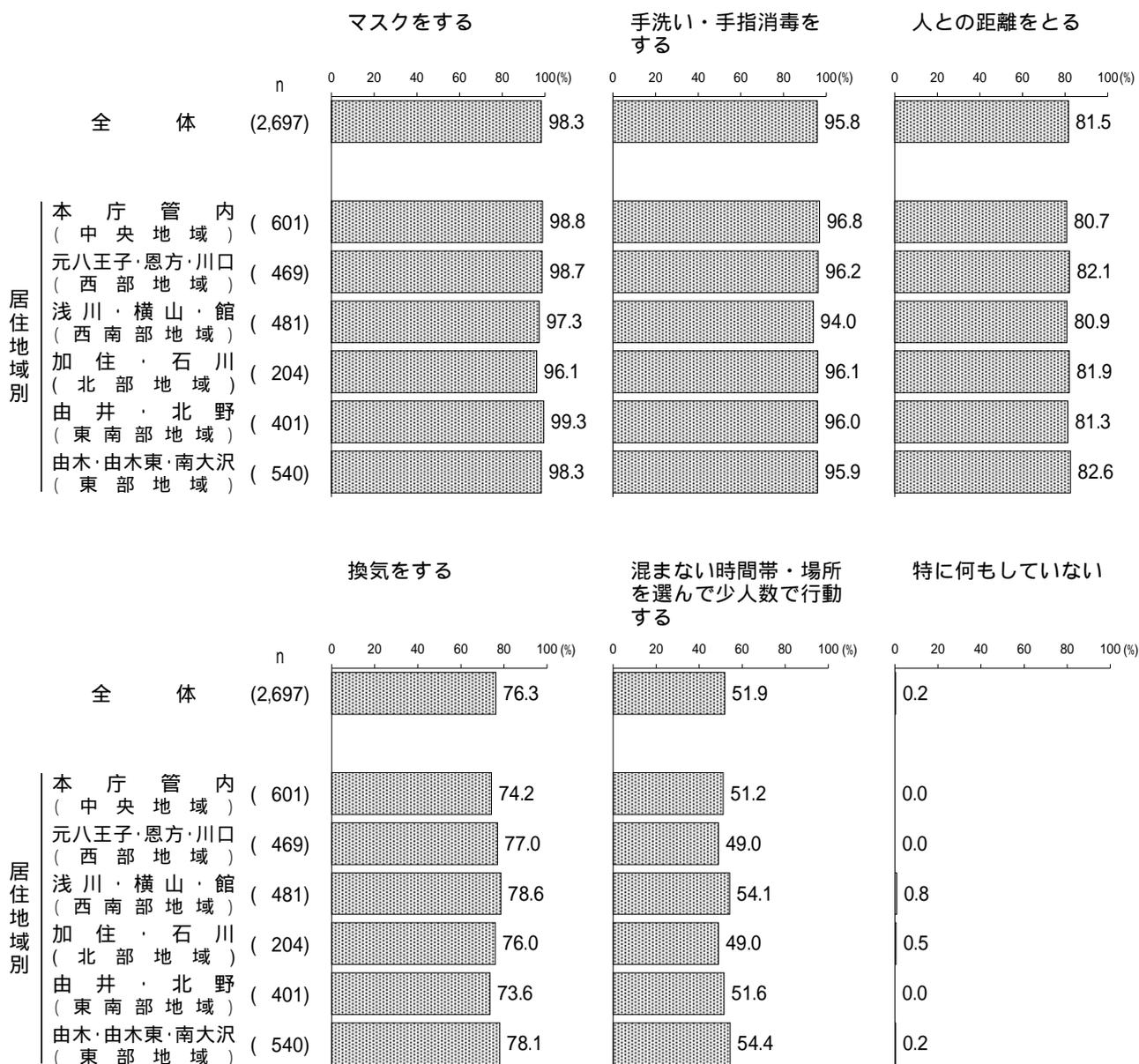
図3 - 50 - 2 新型コロナウイルス感染症の対策 - 性別、年齢別(上位5位 + 「特に何もしていない」)



性別にみると、「換気をする」は女性（81.7%）が男性（70.3%）より11.4ポイント、「混まない時間帯・場所を選んで少人数で行動する」は女性（56.7%）が男性（46.5%）より10.2ポイント、「人との距離をとる」は女性（86.0%）が男性（76.5%）より9.5ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「人との距離をとる」は18~29歳（68.4%）を除く全ての年代で8割台と多くなっている。（図3 - 50 - 2）

図3 - 50 - 3 新型コロナウイルス感染症の対策 - 居住地域別 (上位5位 + 「特に何もしていない」)



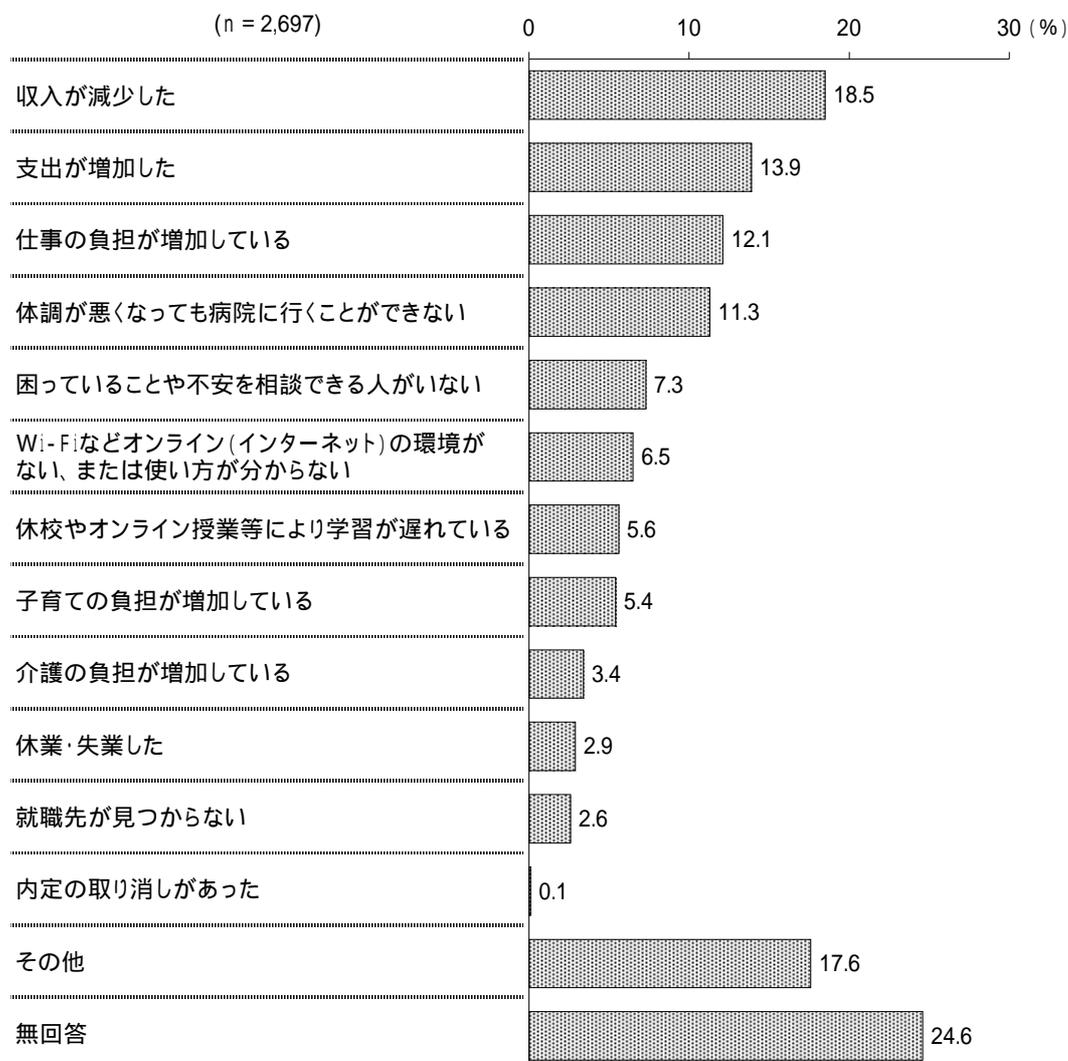
居住地域別にみると、「混まない時間帯・場所を選んで少人数で行動する」は由木・由木東・南大沢 (東部地域)(54.4%)と浅川・横山・館 (西南部地域)(54.1%)で5割台半ばと多くなっている。(図3 - 50 - 3)

## (51) 新型コロナウイルス感染症に関連して困っていること

「収入が減少した」が2割近く

問58 あなたが現在、コロナ禍において困っていることを教えてください。( はいくつでも )

図3 - 51 - 1 新型コロナウイルス感染症に関連して困っていること - 全体

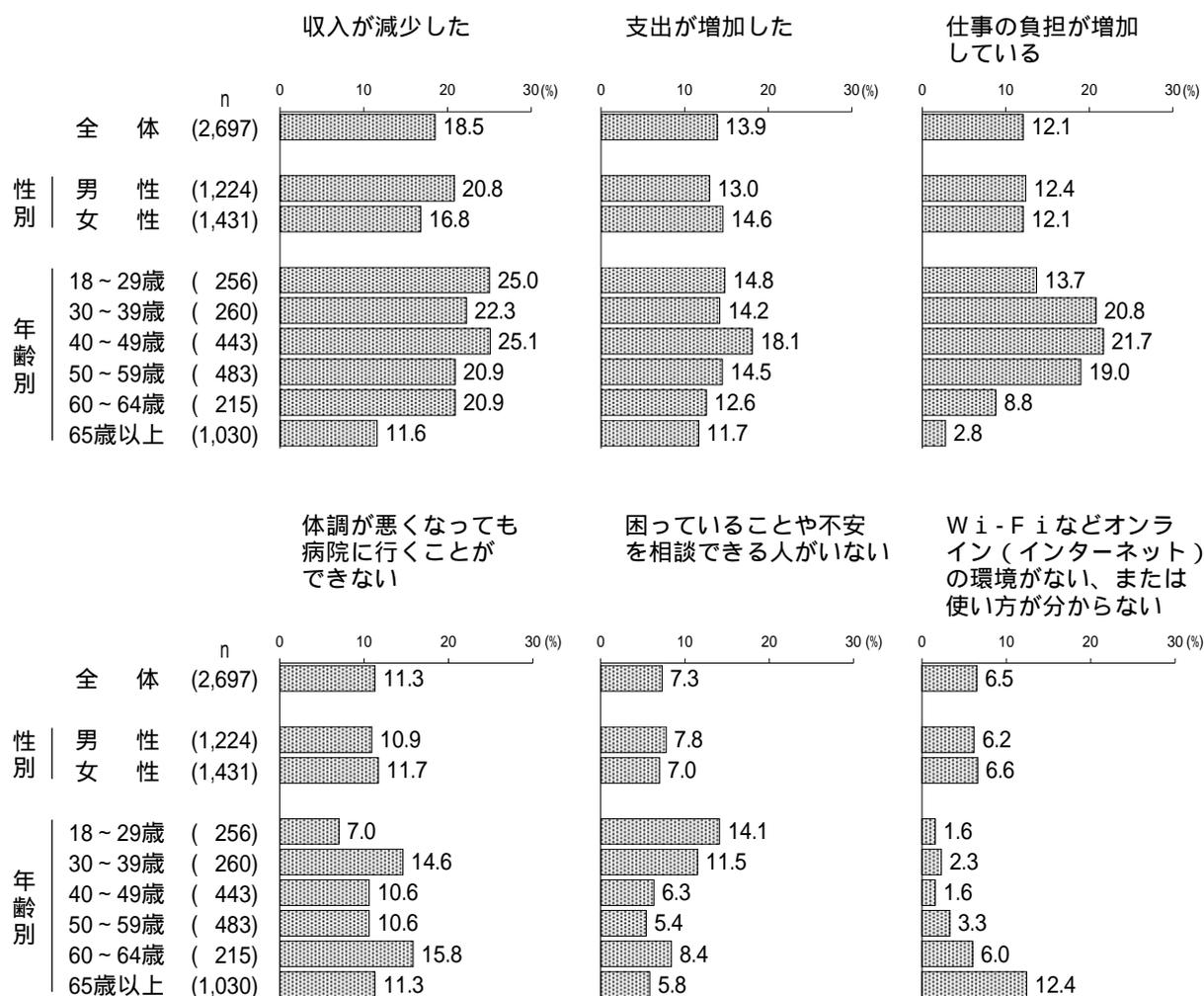


(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

コロナ禍において困っていることを聞いたところ、「収入が減少した」(18.5%)が2割近くで最も多くなっている。次いで「支出が増加した」(13.9%)、「仕事の負担が増加している」(12.1%)、「体調が悪くても病院に行くことができない」(11.3%)などの順となっている。

(図3 - 51 - 1)

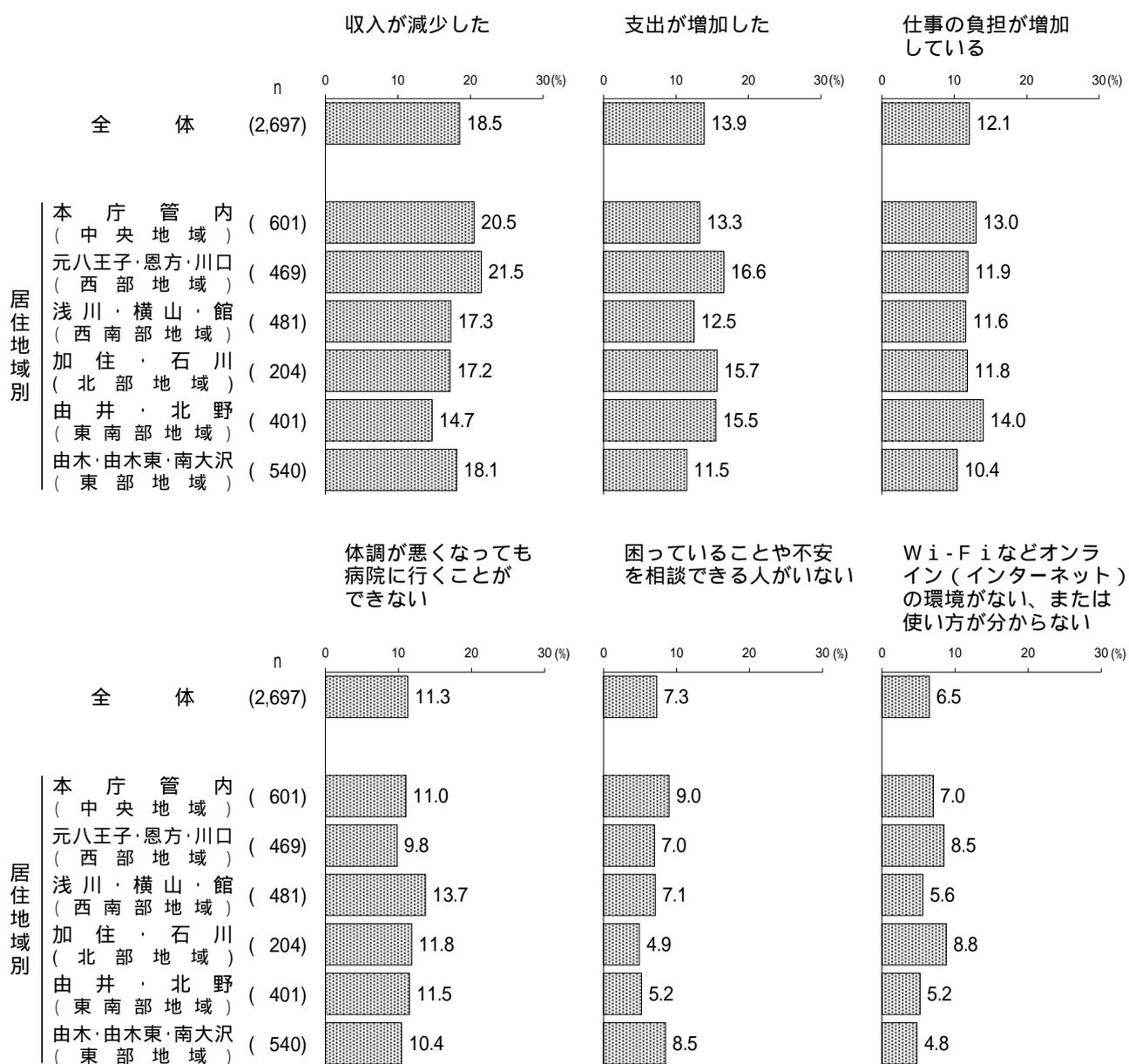
図3 - 51 - 2 新型コロナウイルス感染症に関連して困っていること - 性別、年齢別（上位6位）



性別にみると、「収入が減少した」は男性（20.8%）が女性（16.8%）より4.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「収入が減少した」は18~29歳（25.0%）と40~49歳（25.1%）で2割台半ばと多くなっている。「仕事の負担が増加している」は40~49歳（21.7%）で2割強、30~39歳（20.8%）で約2割と多くなっている。（図3 - 51 - 2）

図3 - 51 - 3 新型コロナウイルス感染症に関連して困っていること - 居住地域別（上位6位）



居住地域別にみると、「収入が減少した」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（21.5%）で2割強、本庁管内（中央地域）（20.5%）で約2割と多くなっている。「支出が増加した」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（16.6%）で2割近くとなっている。（図3 - 51 - 3）

## (52) ワークライフバランスの実現 あなたの望む優先度

希望する優先度は「『家庭生活』を優先」が3割強

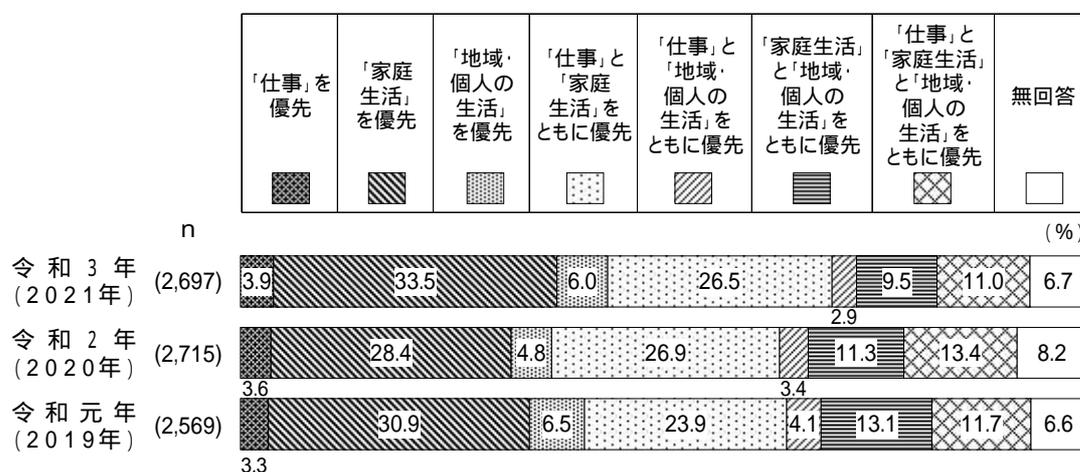
問59 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、それぞれあてはまるものにをつけてください。

（ はそれぞれ1ずつ）

仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・

人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

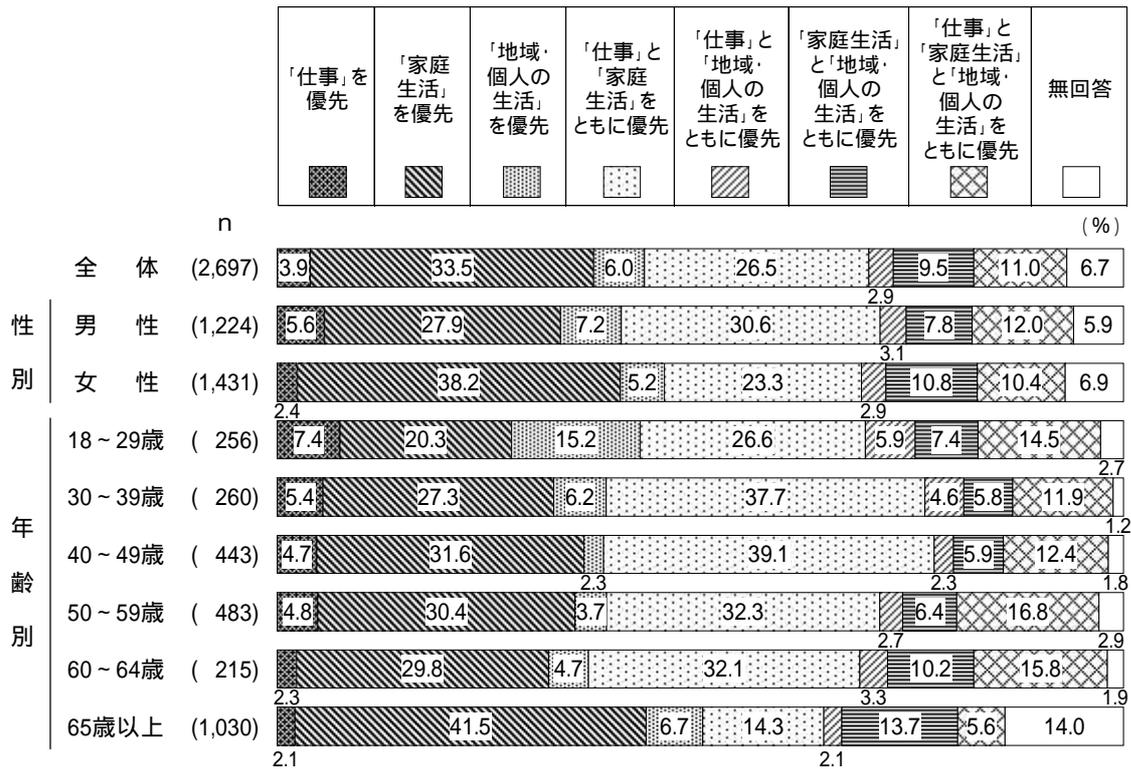
図3 - 52 - 1 ワークライフバランスの実現 あなたの望む優先度 - 全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、希望する優先度を聞いたところ、「『家庭生活』を優先」（33.5%）が3割強で最も多くなっている。次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（26.5%）、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」（11.0%）、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」（9.5%）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「『家庭生活』を優先」は令和2年（2020年）（28.4%）より5.1ポイント増加している。（図3 - 52 - 1）

図3 - 52 - 2 ワークライフバランスの実現 あなたの望む優先度 - 性別、年齢別

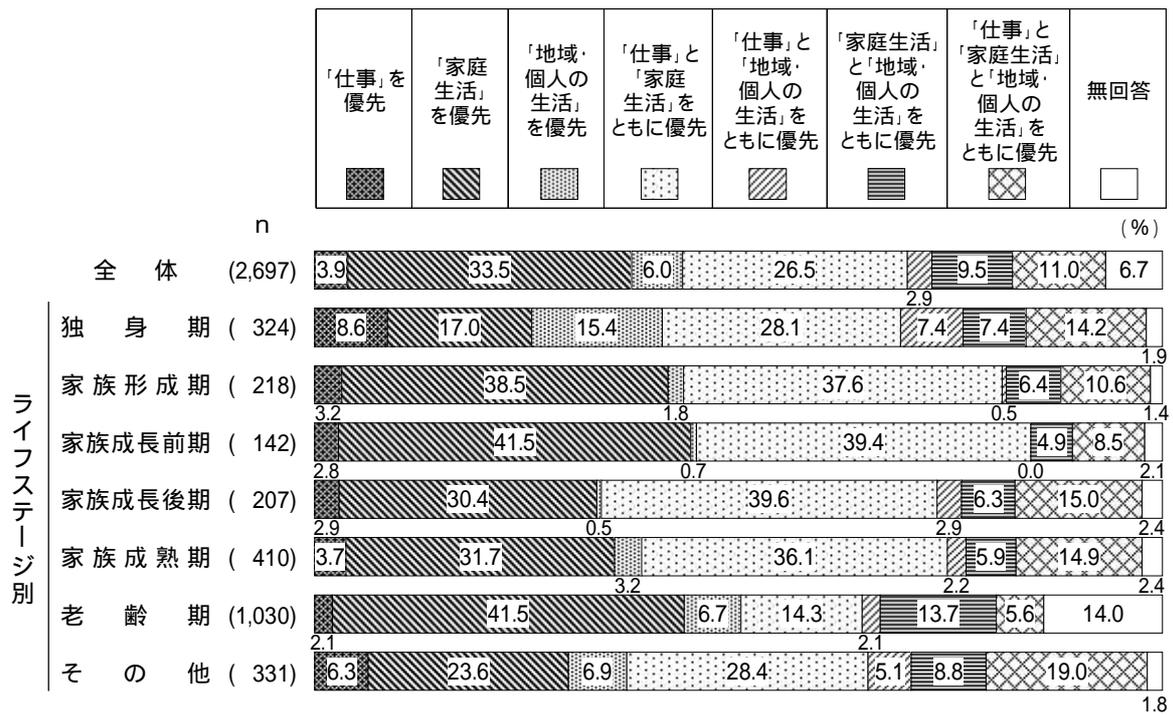


性別にみると、「『家庭生活』を優先」は女性（38.2%）が男性（27.9%）より10.3ポイント高くなっている。一方、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は男性（30.6%）が女性（23.3%）より7.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「『家庭生活』を優先」は65歳以上（41.5%）で4割強と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は40～49歳（39.1%）で4割弱と多くなっている。

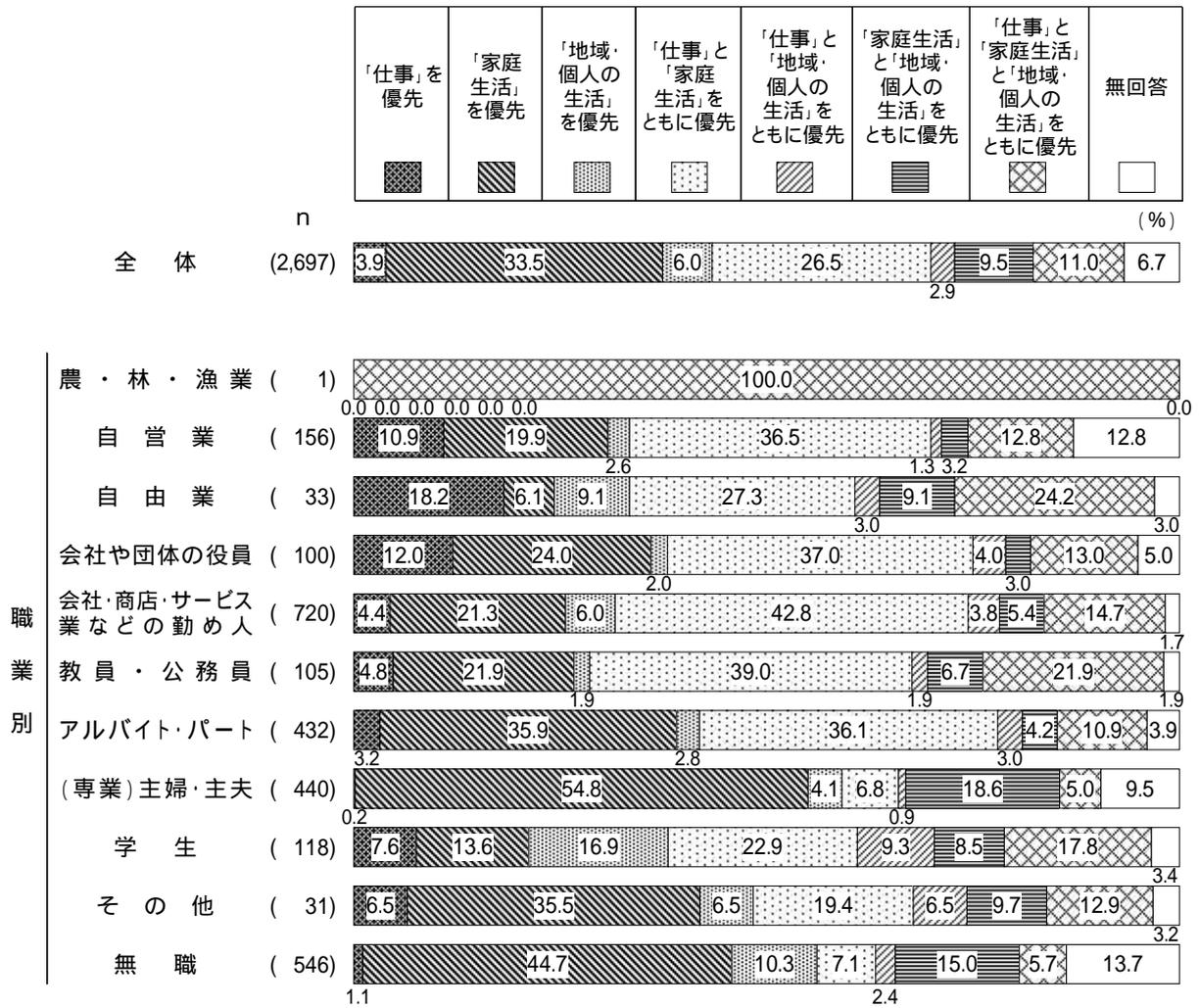
(図3 - 52 - 2)

図3 - 52 - 3 ワークライフバランスの実現 あなたの望む優先度 - ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「『家庭生活』を優先」は家族成長前期と老齢期（ともに41.5%）で4割強と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は家族成長後期（39.6%）と家族成長前期（39.4%）で4割弱と多くなっている。（図3 - 52 - 3）

図3 - 52 - 4 ワークライフバランスの実現 あなたの望む優先度 - 職業別



職業別にみると、「『家庭生活』を優先」は(専業)主婦・主夫(54.8%)で5割台半ばと多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は会社・商店・サービス業などの勤め人(42.8%)で4割強と多くなっている。(図3 - 52 - 4)

## (53) ワークライフバランスの実現 実際の優先度

実際の優先度は「『家庭生活』を優先」が4割近く

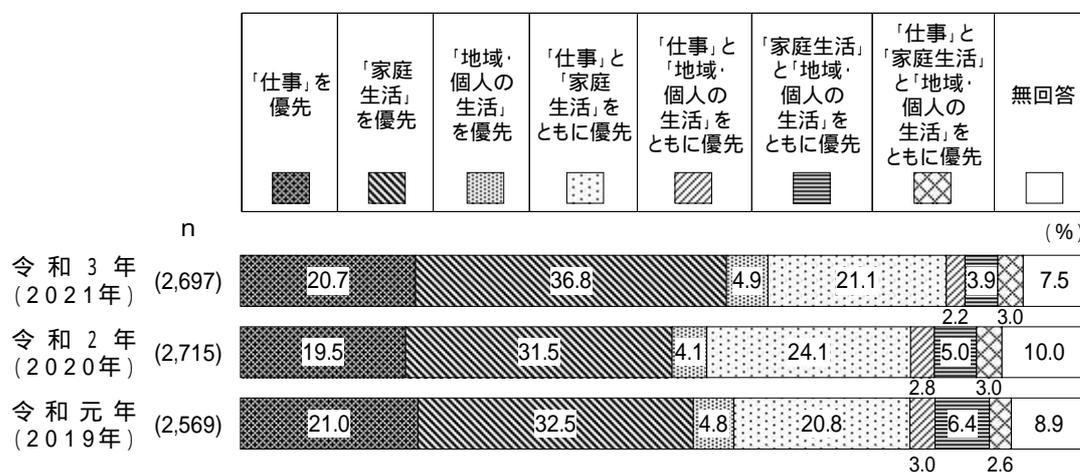
問59 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、それぞれあてはまるものに をつけてください。

（ はそれぞれ1つずつ）

仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・

人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

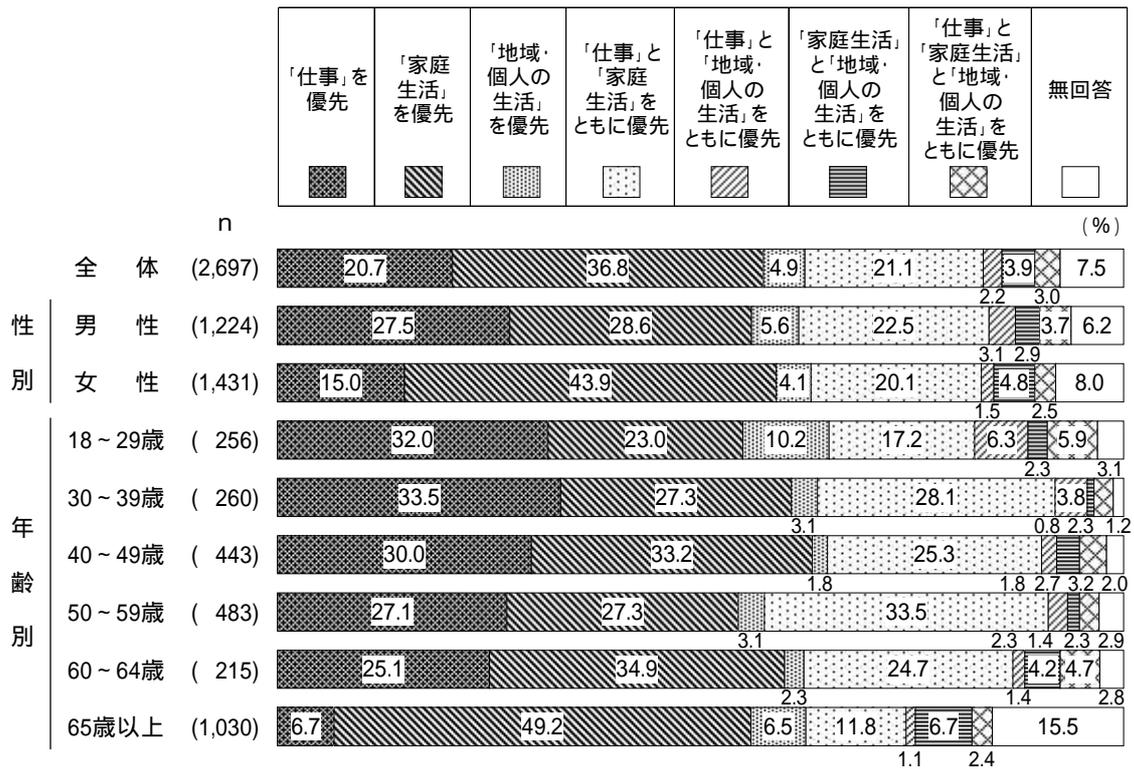
図3 - 53 - 1 ワークライフバランスの実現 実際の優先度 - 全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、実際の優先度を聞いたところ、「『家庭生活』を優先」（36.8%）が4割近くで最も多くなっている。次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（21.1%）、「『仕事』を優先」（20.7%）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「『家庭生活』を優先」は令和2年（2020年）（31.5%）より5.3ポイント増加している。一方、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は令和2年（2020年）（24.1%）より3.0ポイント減少している。（図3 - 53 - 1）

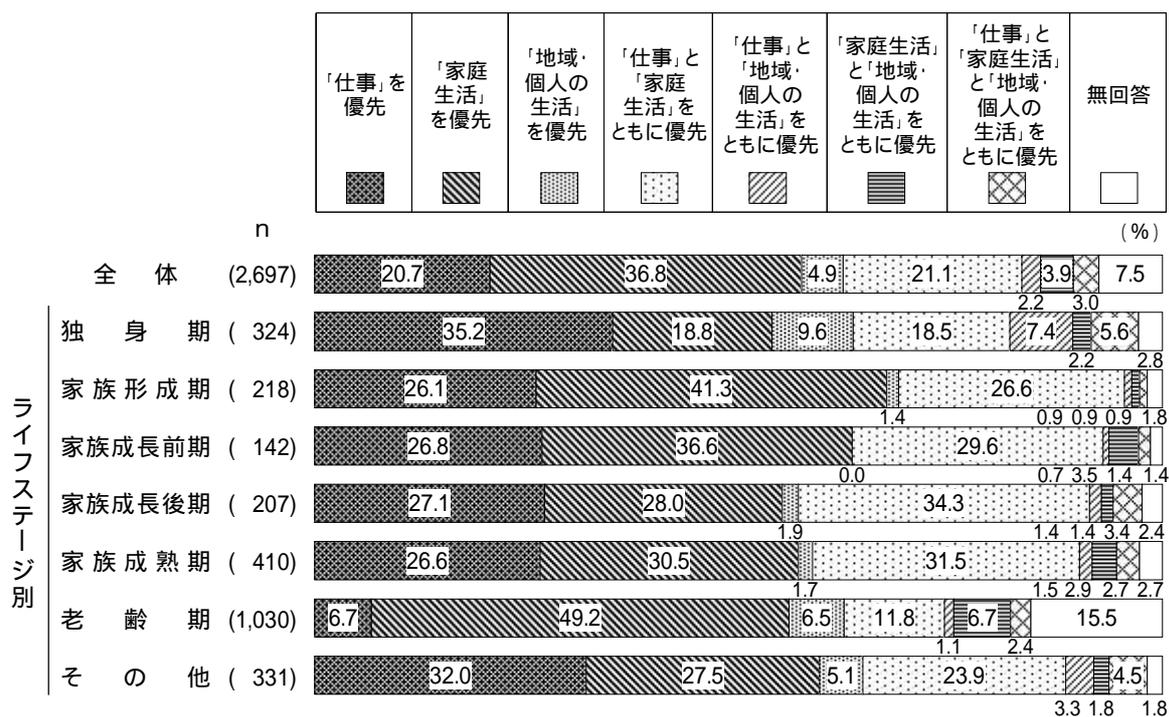
図3 - 53 - 2 ワークライフバランスの実現 実際の優先度 - 性別、年齢別



性別にみると、「『家庭生活』を優先」は女性（43.9%）が男性（28.6%）より15.3ポイント高くなっている。一方、「『仕事』を優先」は男性（27.5%）が女性（15.0%）より12.5ポイント高くなっている。

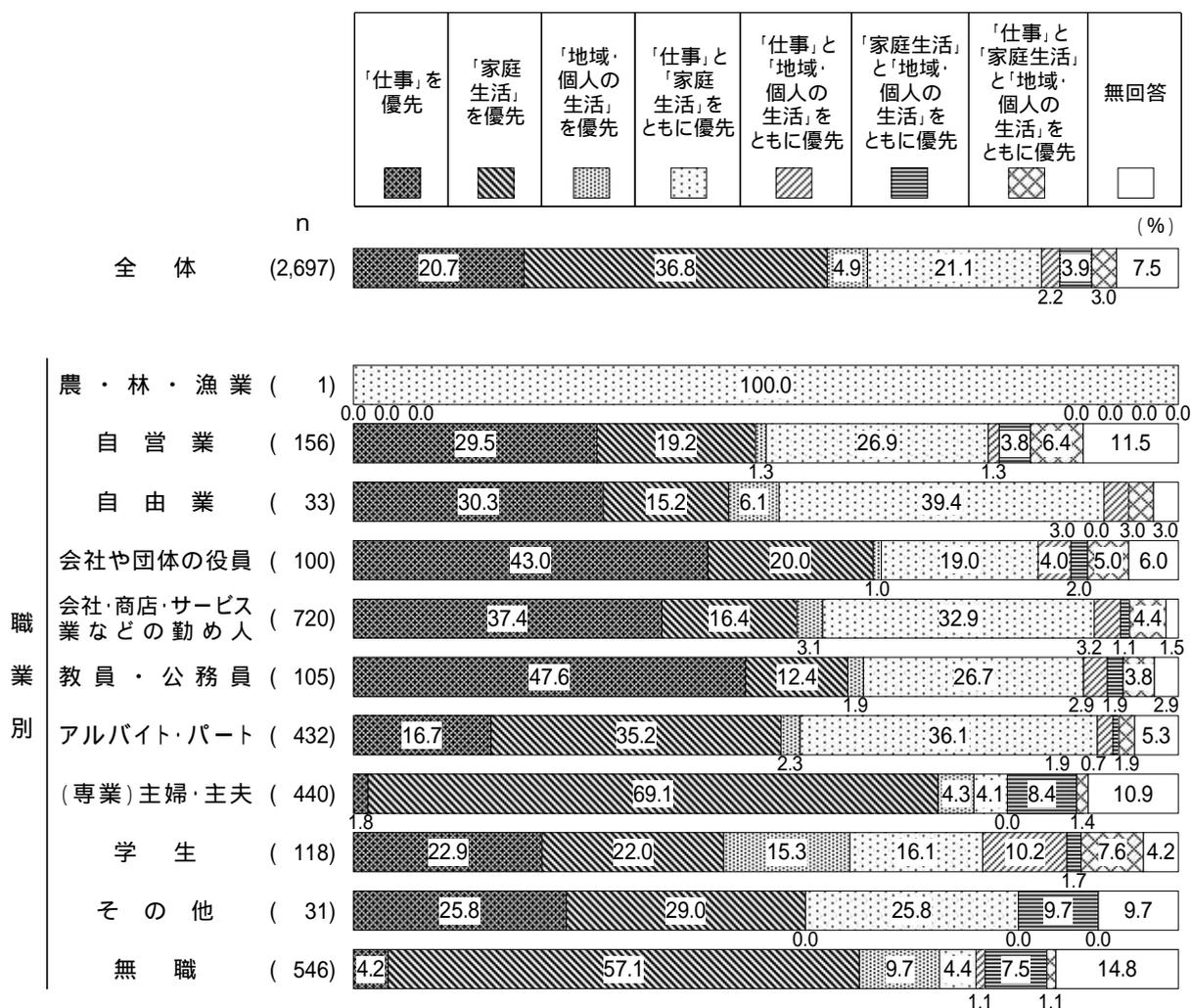
年齢別にみると、「『仕事』を優先」は18～29歳（32.0%）と30～39歳（33.5%）で3割強と多くなっている。「『家庭生活』を優先」は65歳以上（49.2%）で5割弱と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は50～59歳（33.5%）で3割強と多くなっている。（図3 - 53 - 2）

図3 - 53 - 3 ワークライフバランスの実現 実際の優先度 - ライフステージ別



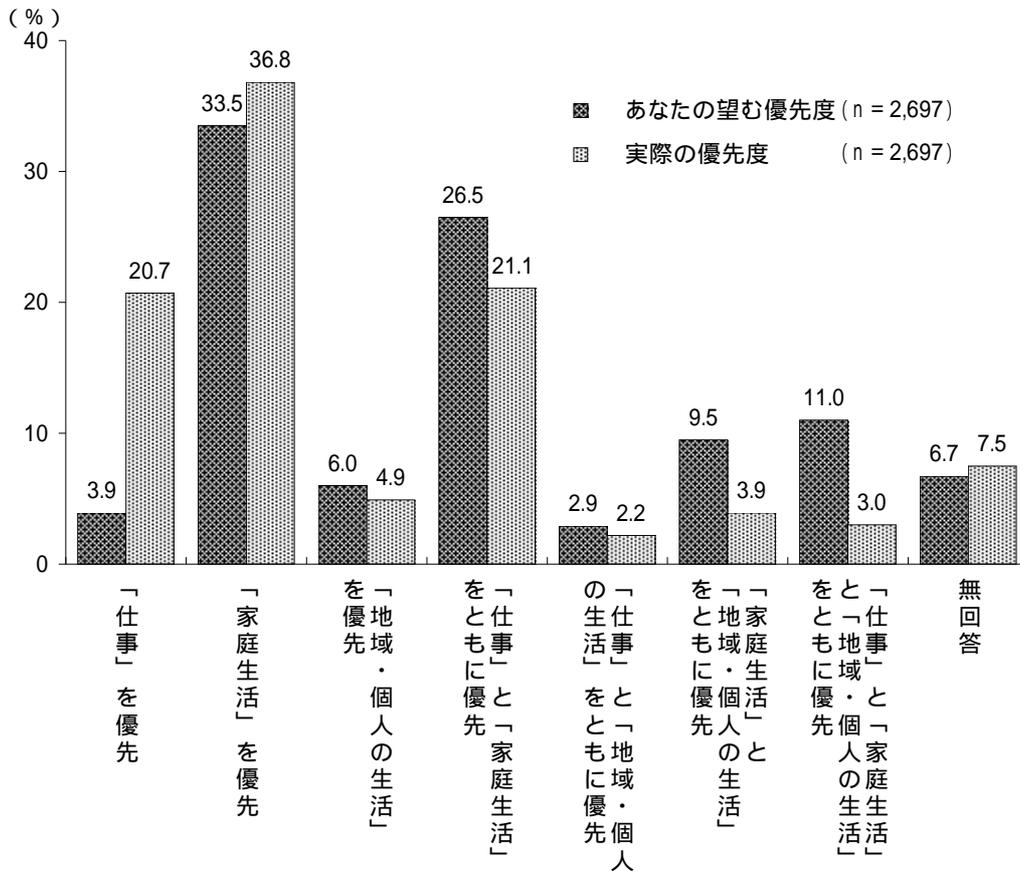
ライフステージ別にみると、「『仕事』を優先」は独身期（35.2%）で3割台半ばと多くなっている。「『家庭生活』を優先」は老齢期（49.2%）で5割弱と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は家族成長後期（34.3%）で3割台半ばと多くなっている。（図3 - 53 - 3）

図3 - 53 - 4 ワークライフバランスの実現 実際の優先度 - 職業別



職業別にみると、「『仕事』を優先」は教員・公務員(47.6%)で5割近くと多くなっている。「『家庭生活』を優先」は(専業)主婦・主夫(69.1%)で7割弱と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は自由業(開業医、弁護士、司法書士など)(39.4%)で4割弱となっている。(図3 - 53 - 4)

図3 - 53 - 5 ワークライフバランスの実現 あなたの望む優先度と 実際の優先度



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味等)の優先度における、希望する優先度と 実際の優先度について比較したところ、「『仕事』を優先」は 実際の優先度(20.7%)が 希望する優先度(3.9%)を16.8ポイント上回っており、全7項目の中で最も両者の比率の差が大きくなっている。次いで比率の差の大きい「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」は 実際の優先度(3.0%)が 希望する優先度(11.0%)を8.0ポイント下回っている。3番目に比率の差が大きい「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」も 実際の優先度(3.9%)が 希望する優先度(9.5%)を5.6ポイント下回っている。

一方、全7項目の中で最も比率の差が小さいのは「『仕事』と『地域・個人の生活』をともに優先」で 実際の優先度(2.2%)と 希望する優先度(2.9%)の比率の差が0.7ポイントとなっている。(図3 - 53 - 5)

図3 - 53 - 6 ワークライフバランスの実現 あなたの望む優先度 - 実際の優先度別

(%)

		n	あなたの望む優先度						無回答	
			「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	優先「地域・個人の生活」を	を「仕事」と「家庭生活」をともに優先	の「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	を「地域・個人の生活」と「家庭生活」をともに優先		を「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
全 体		2,697	3.9	33.5	6.0	26.5	2.9	9.5	11.0	6.7
実際の優先度	「仕事」を優先	558	13.6	17.0	5.6	40.9	4.7	4.5	12.0	1.8
	「家庭生活」を優先	992	1.4	65.4	3.5	12.6	0.4	11.0	4.3	1.3
	「地域・個人の生活」を優先	131	1.5	11.5	50.4	6.1	6.1	10.7	11.5	2.3
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	568	0.5	18.3	0.9	57.9	2.1	4.0	16.0	0.2
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	59	3.4	3.4	20.3	8.5	35.6	6.8	22.0	-
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	106	-	13.2	6.6	4.7	2.8	62.3	9.4	0.9
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	81	2.5	3.7	3.7	4.9	2.5	12.3	67.9	2.5
無回答		202	2.5	10.4	2.0	5.4	1.5	2.0	1.0	75.2

(注)  は項目内での最高値

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味等)の優先度における、希望する優先度と実際の優先度の相関をみると、実際に「『仕事』を優先」している人(558名)においては、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」することを希望する人(40.9%)が約4割で最も多くなっており、「『仕事』を優先」することを希望する人(13.6%)は1割強となっている。一方、実際の優先度で「『仕事』を優先」以外の項目を回答した人たちにおいては、希望する優先度と実際の優先度が一致している人の割合がそれぞれ最も多くなっている。(図3 - 53 - 6)

図3 - 53 - 7 ワークライフバランスの実現 あなたの望む優先度と 実際の優先度の一致

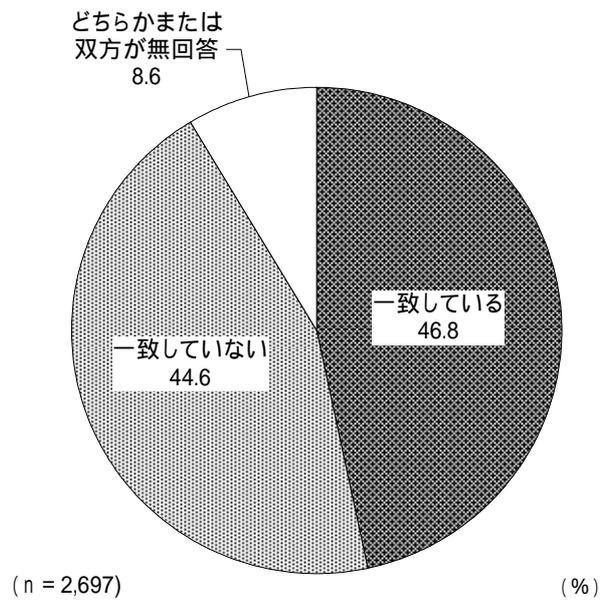


図3 - 53 - 6に示した、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味等)の優先度における、希望する優先度と実際の優先度の相関をもとに、希望と実際の2つの回答が一致した人、すなわち希望する優先度のとおり実際の優先度が実現できている人の割合(46.8%)は5割近くとなっている。

一方、2つの回答が一致しない人、すなわち希望する優先度のとおり実際の優先度が実現できていない人の割合(44.6%)は4割台半ばとなっている。(図3 - 53 - 7)

## (54) 市の相談体制の充実度

そう思う が4割近く

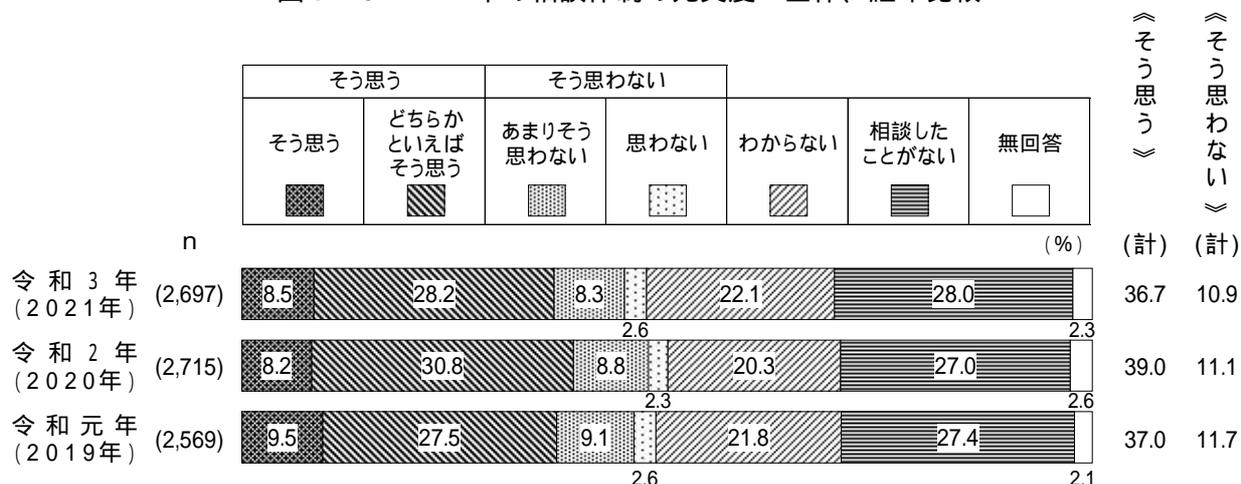
問60 あなたは、市が実施する相談体制は充実していると思いますか。( は1つだけ)

市では、専門機関・専門家と連携し、次のような相談を行っています。

人権、女性福祉、女性のための相談	高齢者の福祉と介護、高齢者総合
生活にお困りの方の自立相談	専門家による成年後見制度・権利擁護相談
法律、司法書士法律、不動産、登記、	ひとり親家庭、子ども家庭総合、
相続・遺言等暮らしの手續	専門家による子育て相談
年金・雇用保険・労働条件	総合教育相談、こども電話相談
交通事故 税金 行政 消費生活	あなたの心の相談室、こころの健康相談
外国人のための生活相談、行政書士相談	H I Vに関する相談・検査
地域活動への参加 起業 就職	保健福祉・栄養・歯科
住まいのなんでも相談、	理学療法士による健康相談
住宅の増改築に関する相談	医療に関する電話相談
	など

これらの相談の「日時・会場・問い合わせ先」については、広報はちおうじの「相談まどぐち」(毎月1日号に掲載)や、市ホームページをご覧ください。

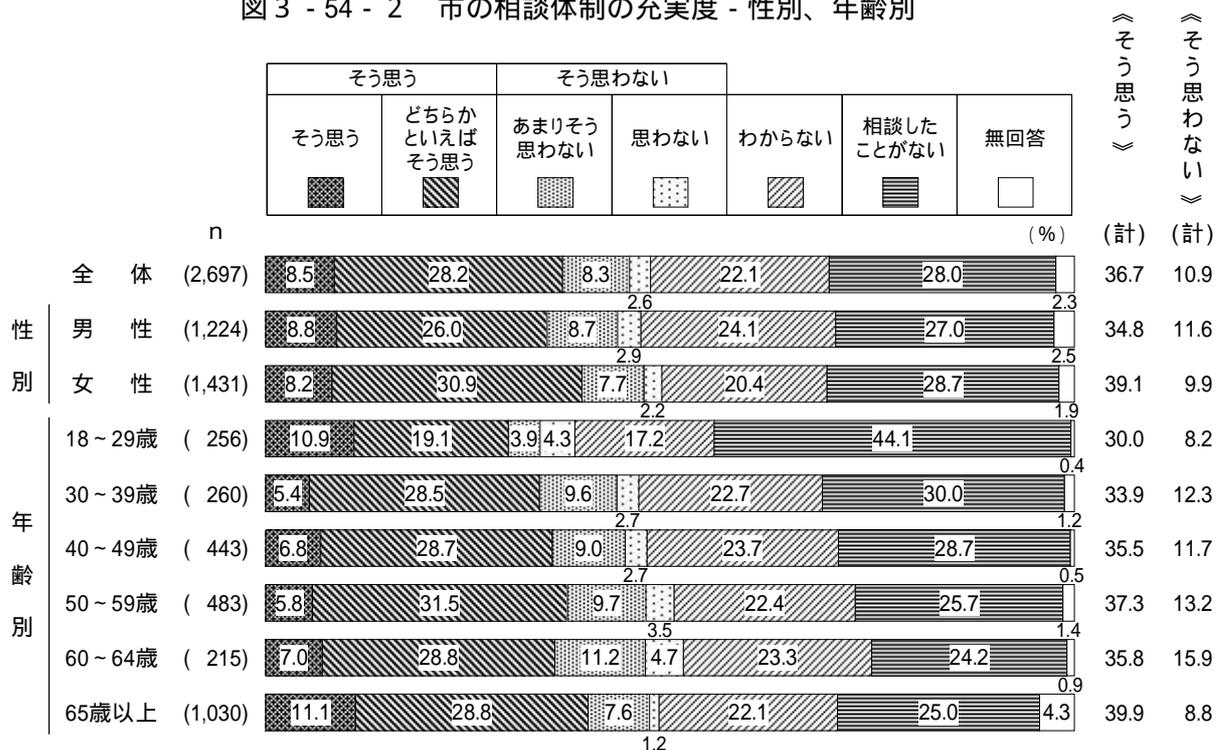
図3 - 54 - 1 市の相談体制の充実度 - 全体、経年比較



市が実施する相談体制は充実していると思うか聞いたところ、「そう思う」(8.5%)と「どちらかといえばそう思う」(28.2%)を合わせた そう思う (36.7%)は4割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(8.3%)と「思わない」(2.6%)を合わせた そう思わない (10.9%)は約1割となっている。また、「相談したことがない」(28.0%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、 そう思う は令和2年(2020年)(39.0%)より2.3ポイント減少している。(図3 - 54 - 1)

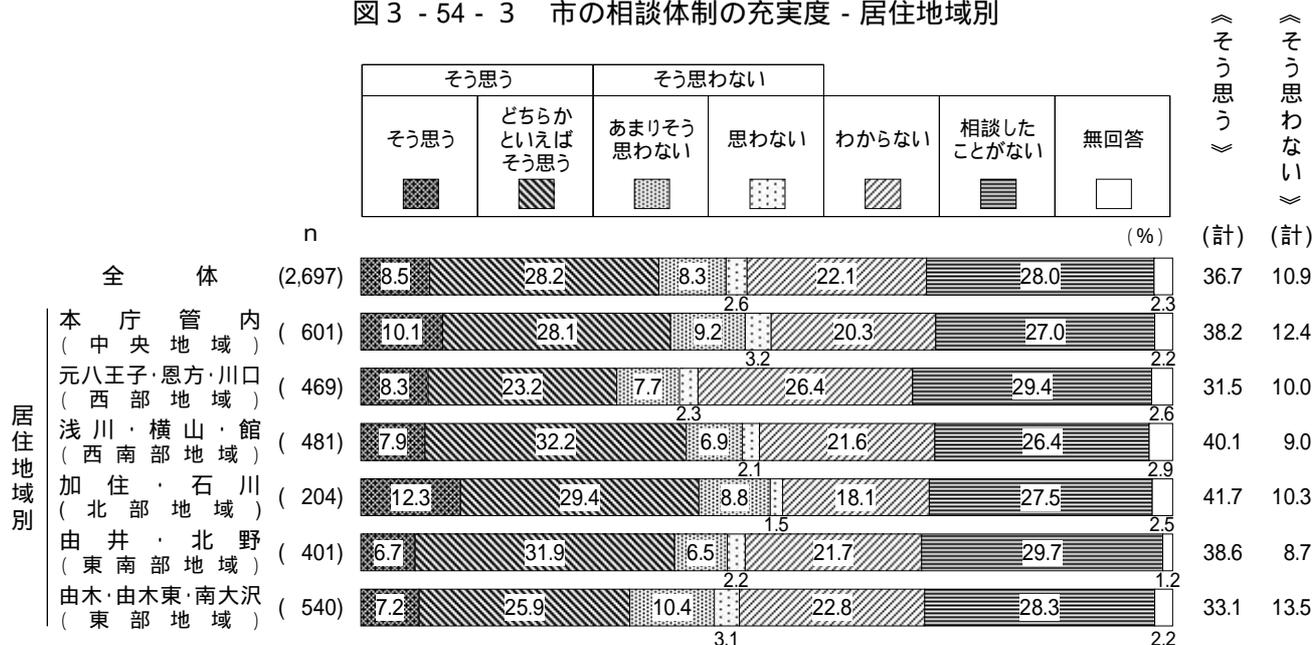
図3 - 54 - 2 市の相談体制の充実度 - 性別、年齢別



性別にみると、そう思うは女性（39.1%）が男性（34.8%）より4.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、そう思うは65歳以上（39.9%）で4割弱と多くなっている。「相談したことがない」は18～29歳（44.1%）で4割台半ばと多くなっている。（図3 - 54 - 2）

図3 - 54 - 3 市の相談体制の充実度 - 居住地域別



居住地域別にみると、そう思うは加住・石川(北部地域)（41.7%）で4割強と多くなっている。（図3 - 54 - 3）

## (55) 行財政運営

### 評価する が5割強

問61 市は、下欄のような取り組みにより、効果・効率的な行政運営を図ることで、健全な財政運営の維持に努めています。

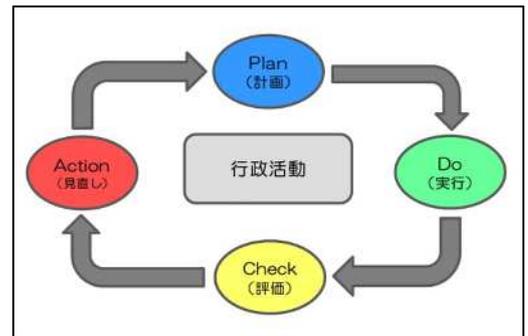
このような市の取り組みに対するあなたの評価をお選びください。( は1つだけ)

#### (1) 計画行政の推進

市の基本構想・基本計画である「八王子ビジョン2022」に掲げた49の施策の実現に向け、向こう3か年に実施する主な事業を示した「アクションプラン(実施計画)」を策定し、計画的な行政運営を行っています。

安定的・継続的な市民サービスを提供するために、計画・実行・評価・見直しのPDCAサイクルによる行政運営をしています。

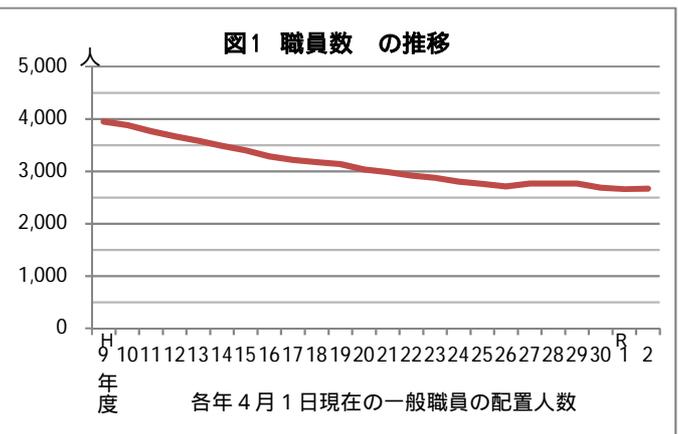
PDCAサイクル



#### (2) 行政運営の効果・効率性を高める取り組み

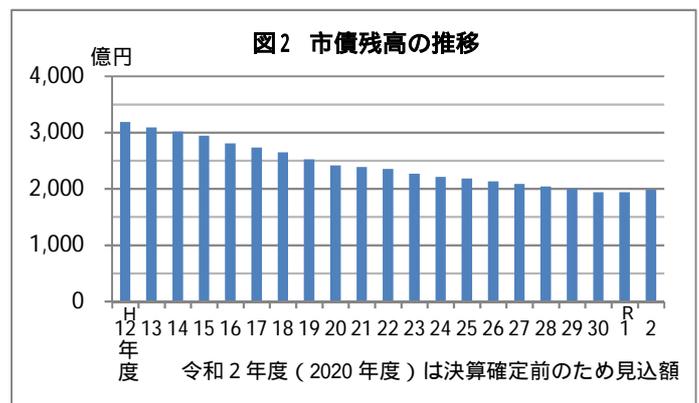
公共施設の管理・運営などにおいて、市が実施するよりも効果・効率的で質の高いサービスを提供できるものについては、民間事業者のノウハウを積極的に活用しています。

職員が担うべき役割を明確化し適正な定員管理を行うことにより、平成9年度(1997年度)の3,950人をピークに職員数は減少し、令和2年度(2020年度)には、2,670人になりました。(図1)



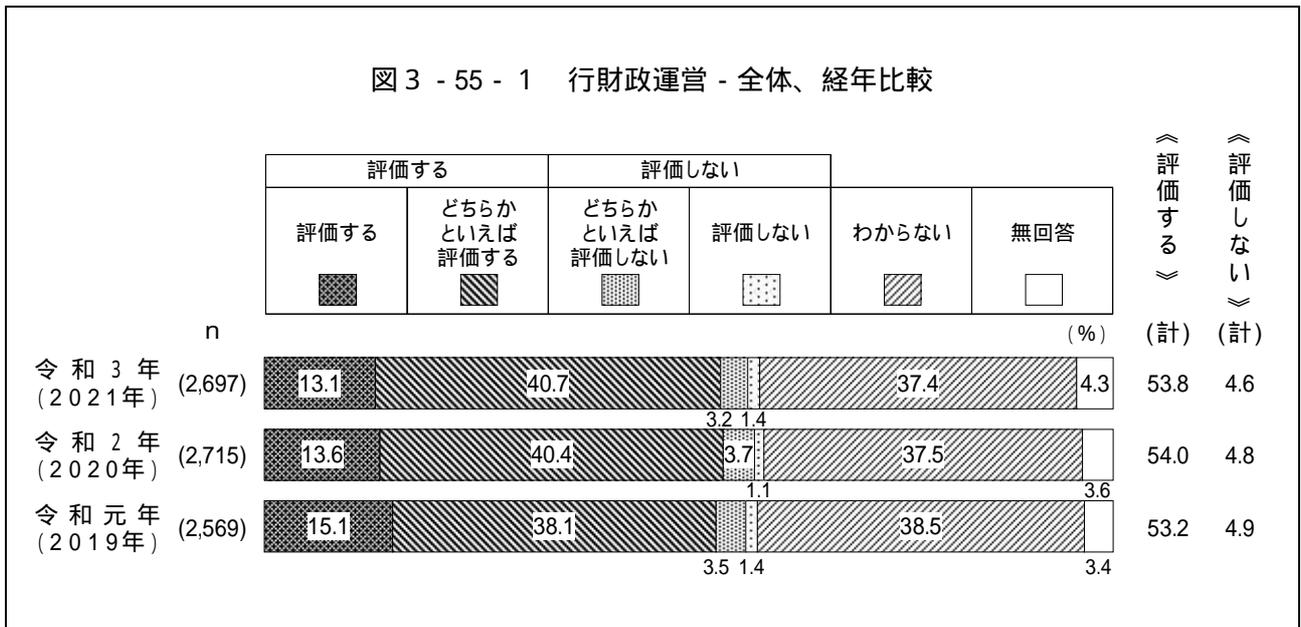
#### (3) 健全な財政運営

市の借金である市債の残高をピーク時の約3,184億円(平成12年度(2000年度)末)から約1,982億円(令和2年度(2020年度)末決算見込)に削減し(図2)、市の貯金である基金の残高は、約112億円(平成12年度(2000年度)末)から約247億円(令和2年度(2020年度)末決算見込)に増やしました。



市の支出のうち、児童福祉や障害者福祉など社会保障制度に基づき支出する「扶助費」が継続して増加する中、職員が担う役割の明確化による適正な定員管理など、行政運営の効果・効率性を高める取り組みを行うことにより、適切な市民サービスを維持するとともに、災害に強いまちづくりや地域の実情にあわせた地域づくり、子どもを産み育てやすい環境づくりなどに向けた対応を図っています。

図3 - 55 - 1 行財政運営 - 全体、経年比較

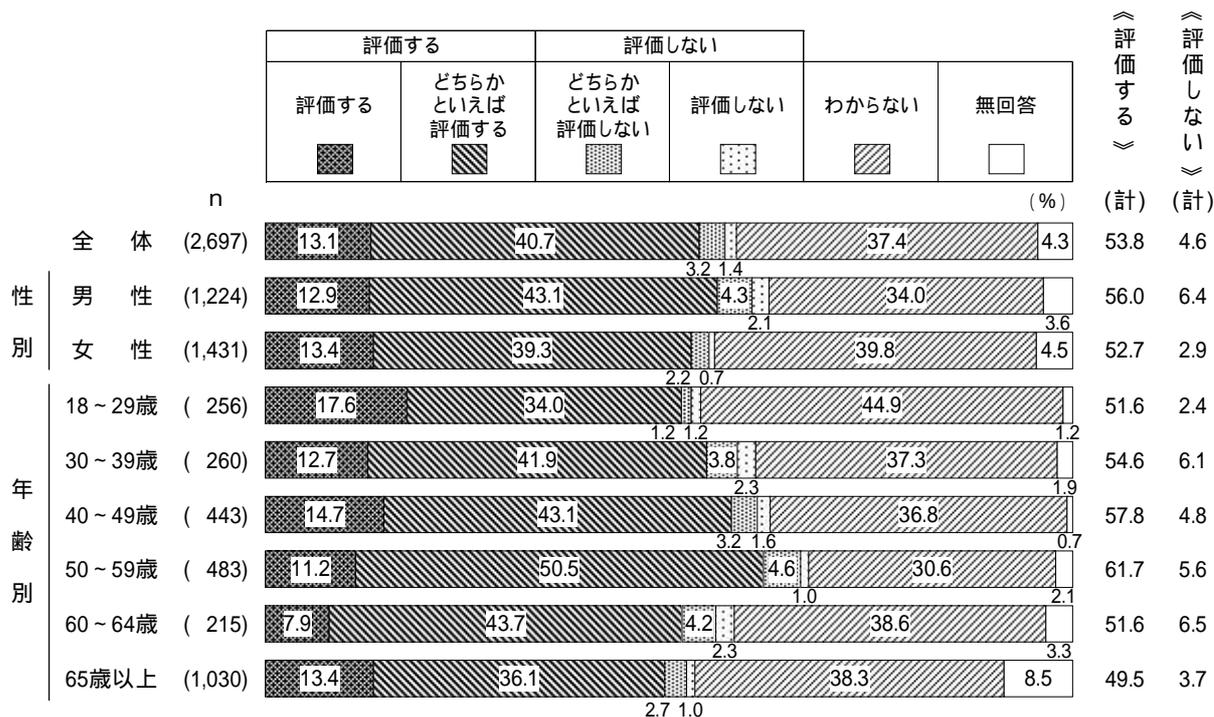


効果・効率的な行政運営を図ることで、健全な財政運営の維持に努める市の取り組みに対して評価するか聞いたところ、「評価する」(13.1%)と「どちらかといえば評価する」(40.7%)を合わせた 評価する (53.8%)は5割強となっている。一方、「どちらかといえば評価しない」(3.2%)と「評価しない」(1.4%)を合わせた 評価しない (4.6%)は1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、令和2年(2020年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図3 - 55 - 1)

図3 - 55 - 2 行財政運営 - 性別、年齢別

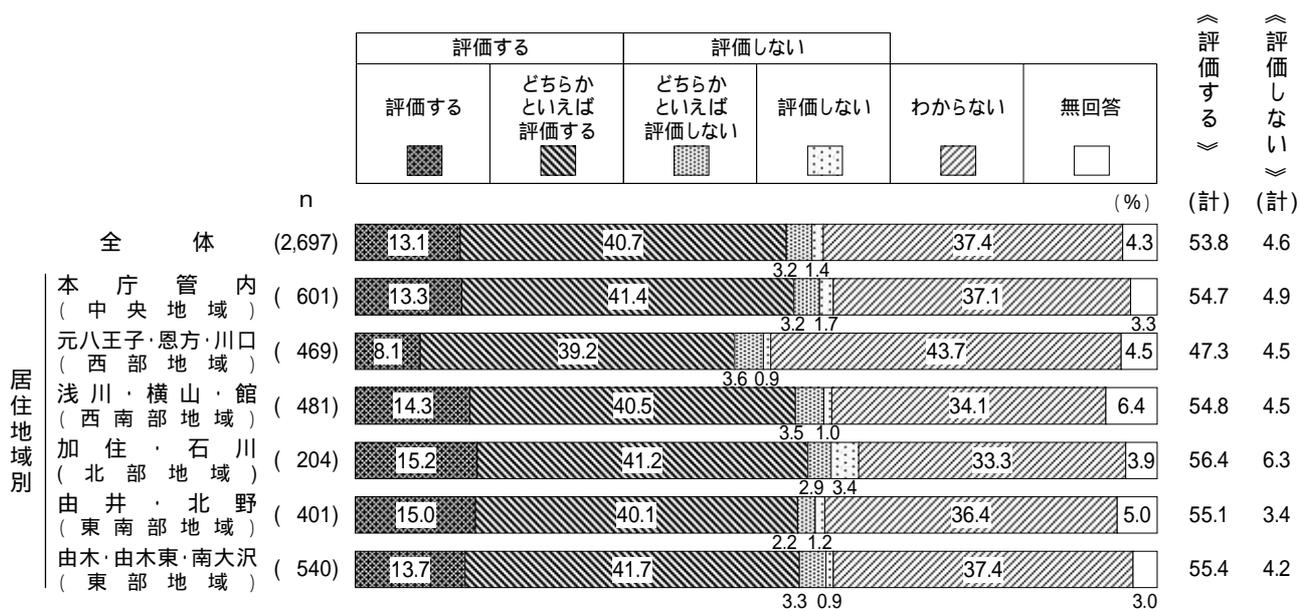


性別にみると、評価するは男性(56.0%)が女性(52.7%)より3.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、評価するは50～59歳(61.7%)で6割強と多くなっている。

(図3 - 55 - 2)

図3 - 55 - 3 行財政運営 - 居住地域別



居住地域別にみると、評価するは加住・石川(北部地域)(56.4%)で6割近くと多くなっている。(図3 - 55 - 3)

## (56) 市の行財政運営を評価しない理由(自由意見)

(問61で「どちらかといえば評価しない」または「評価しない」とお答えの方へ)

問61 - 1 評価しない理由があれば、お書きください。(自由記述)

効果・効率的な行政運営を図ることで、健全な財政運営の維持に努める市の取り組みに対して、「どちらかといえば評価しない」または「評価しない」と答えた123人に、評価しない理由を自由記述形式で聞いたところ、89人から回答があった。その中から抜粋した意見を掲載する。なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがあ

○市の収入を増やす方法についても深掘りした方が良いのではないかと一読して感じた。

(男性18~29歳)

○住んでいて、ここ10年ほど「便利になった」と感じた記憶がない。仕方のないことだが、そごうや東急スクウェア、ニュー八王子シネマ等が撤退して街としてはかなり不便になったと思うし、その撤退に際し、市の方策としてやれるべきことは沢山あったように感じる。現在では立川・橋本・町田などの近隣の都市に出向かないと完結しない活動が以前に比べて大幅に増えた。

(女性30~39歳)

○職員を減らすことが良いことなのか？公務員の非正規職員化は良くないと思う。(男性30~39歳)

○取り組み自体は評価したいが、実際はただの理想論で市民全体の満足度にはつながっていない気がする。誰かを助けて誰かが困るような行政運営にしないでほしい。障害者や高齢者だけが市民じゃない。結婚して子供がいる人だけが家族じゃない。若者だけが助ける未来じゃない。金持ちもいれば、貧しい人もいる。市政に連絡してくる人だけが市民じゃない。誰にも相談しなくても困っている人はたくさんいる。市民を裏切り続けたら、話なんか聞いてもらえませんよ。

(男性30~39歳)

○職員数を減らすことで、仕事量が増えてサービスレベルが低下してしまうのではないかと。サービスを受ける立場からすると職員数はむやみに減らすべきではないと思う。(男性30~39歳)

○過去10年と比べてもサービスが改善しているようには思えないため、人員削減や財政運営は評価出来ない。(男性30~39歳)

○「八王子ビジョン2022」があること自体知らなかった。地域のスーパーや、コンビニ等にこの取り組みがあることを流すとか、SNS等で発信していることを、スマホで通知するなどしないと若い世代は知らないで過ごしてしまう。自ら積極的に情報入手をしに行かないので、キャッチできる何かがないと意味がない。(女性40~49歳)

○生活レベルで全く実感がわからない。(男性50~59歳)

○人口の減少、コロナの影響など考えた行政をスピーディーに行ってほしい。時代の変化は速いです。子供や若者が未来に向かって頑張れる行政をお願い致します。大学も大切ですが働いて自立する喜びを教育できたらと思います。(女性65歳以上)

○PDCAサイクルを廻すのは当然です。Plan・Do・Check・Actionのそれぞれの中身をいかに充実させるかが問題です。北口前のペDESTリアンデッキ(マルベリーブリッジ)バス停等、駅前広場の不便さを考えると中身の検討が不十分と言わざるを得ない!

(男性65歳以上)

○現実的な成果が確認できない。(男性65歳以上)